

整理番号

D-2-1

422

標 題 名

桑樹試験成績 第二報

著 者 名

発行者名

長野縣立農事試験場 松本分場

発 行 年

明治 4 5 年（1912年）

製作年月

令和 5 年 6 月

明治四十五年三月

桑樹試驗成績 第二報

長野縣立農事試驗場松本分場



緒言

本報ニハ第一報ニ載セタル試験ヲ繼續シタルモノノ本年度ノ成績ト明治四十二年度ヨリ行ヘル剪根長短試験砧木ノ接穗ニ及ホス關係試験及ヒ本年新タニ施行シタル苗木優劣試験植付深淺試験仕立法試験綠肥作物播種試験植付株數ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試験仕立法ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試験燒岳噴出灰ノ附着シタル桑葉給與試験苗木消毒試験寒枯病ニ對スル藥劑豫防試験桑樹ノ線蟲調査枝尺蠖ノ斃死ニ關スル調査ト第三回凍害善後策試験ノ成績トヲ登載ス

明治四十五年一月

長野縣立農事試驗場松本分場

桑樹試驗成績第二報

目次

栽桑試驗	一頁
------	----

苗木ノ部	一
------	---

耕種概要	一
------	---

第一 大豆粕適量試験	三
------------	---

第二 施肥回数試験	六
-----------	---

第三 苗木ノ大小輕重カ生育ニ及ホス關係試験	九
-----------------------	---

第四 剪根長短試験	一一
-----------	----

第五 砧木ノ接穗ニ及ホス關係試験	一五
------------------	----

栽植ノ部	二三
------	----

耕種概要	二三
------	----

第一 種類試験附見本園ニ於ケル種類調査	二五
---------------------	----

一、種類試験	二五
--------	----

二、見本園ニ於ケル種類調査	三六
---------------	----

第二	密植種類試驗.....	五九
第三	苗木優劣試驗.....	六三
第四	植付深淺試驗.....	六五
第五	仕立方試驗.....	六七
第六	植付株數試驗.....	七一
第七	耕耘方法試驗.....	七九
第八	施肥ノ時期回數試驗.....	八一
第九	肥料効驗試驗.....	八八
第一〇	三要素適量試驗.....	九六
第一一	蠶糞貯藏法試驗.....	一〇四
第一二	綠肥試驗.....	一〇六
	一、綠肥間作試驗.....	一〇七
	二、綠肥作物播種量試驗.....	一一〇
第一三	伐採收葉若クハ摘葉時期回數試驗.....	一二二
第一四	夏秋蠶期摘葉程度試驗.....	一一九
葉質試驗.....		一二五

病蟲害調査及試験

第一	桑樹ノ葉質試験	一二五
第二	密植桑樹ノ葉質試験	一三七
第三	仕立方ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試験	一五二
第四	植付株數ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試験	一五八
第五	施肥ノ時期ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試験	一六二
第六	肥料ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試験	一七五
第七	燒岳噴出灰ノ附着シタル桑葉給與試験	一八六
病蟲害調査及試験		二〇九
第一	桑樹ノ芽枯病調査	二〇九
第二	苗木ノ消毒試験	二一七
第三	桑樹ノ線蟲調査	二二三
第四	枝尺變ノ斃死ニ關スル調査	二三〇
第五	寒枯病ニ對スル藥劑注射豫防囑託試験	二三二
第六	寒枯病豫防囑託試験	二三三

一、種類試験	二三四
--------	-----

二、仕立方ト寒枯病トノ關係試験	二四〇
-----------------	-----

三、磷肥ノ寒枯病ニ對スル効力試験……………	二四二
四、寒枯病豫防試験……………	二四四
五、採葉回数ト寒枯病トノ關係試験……………	二四七
六、施肥ト寒枯病トノ關係試験……………	二四八
第七 凍害善後策囑託試験……………	二五三

一、凍害後ニ於ケル施肥ト生育トノ關係試験……………	二五四
二、凍害後耕耘ノ得失試験……………	二五六
三、凍害後被害芽除去得失試験……………	二五八
四、梢頭剪除得失試験……………	二五九
五、凍害後梢條刈取試験……………	二六一

附 錄

一、肥料價格及成分表……………	二六五
二、明治四十四年度氣象表……………	二六六

圖

四十二年鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ

四十二年小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ

四十二年鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ

四十二年小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ

四十四年鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ

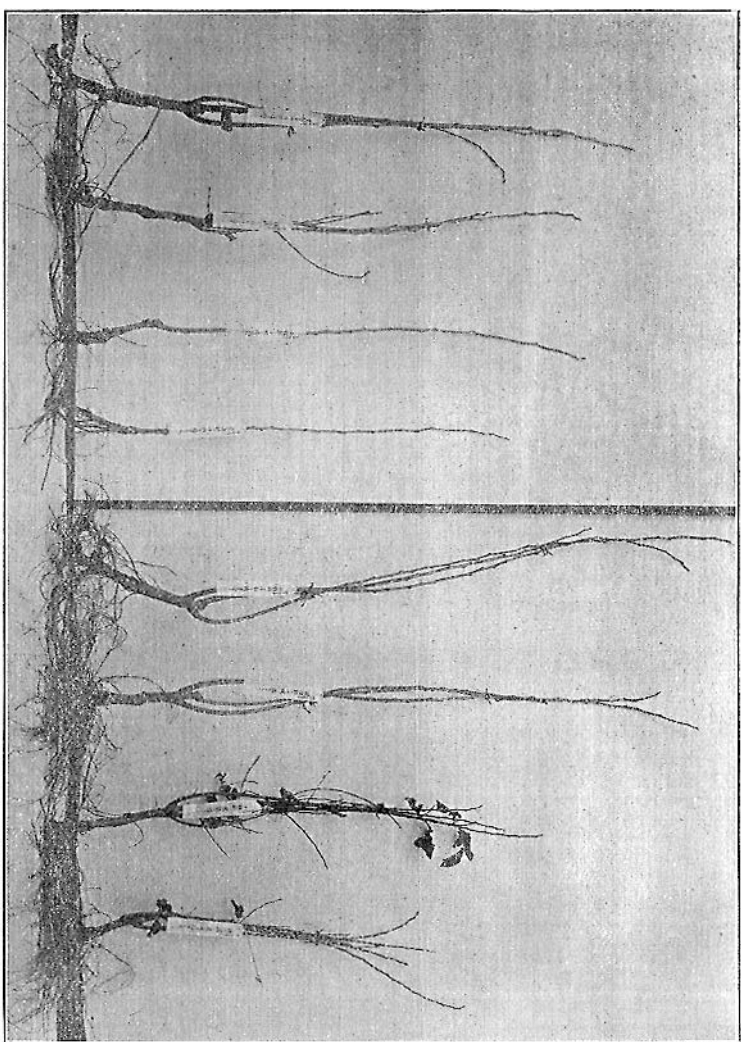
四十四年小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ

四十四年鼠返砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ

四十四年多胡早生砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ

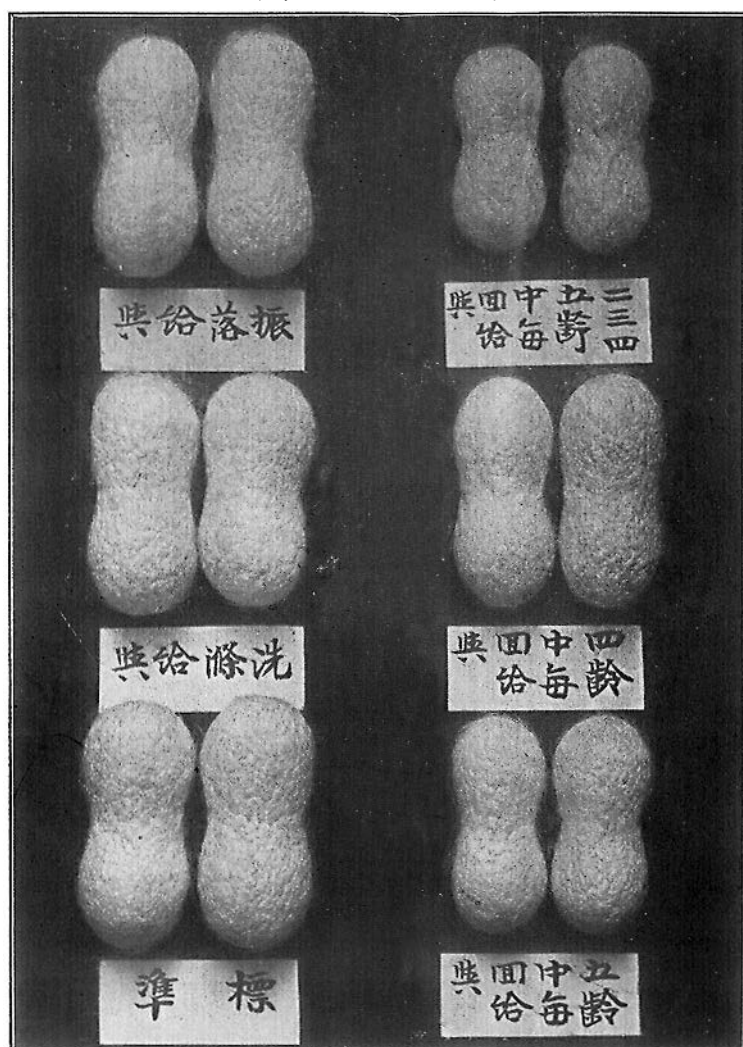
解

第一圖



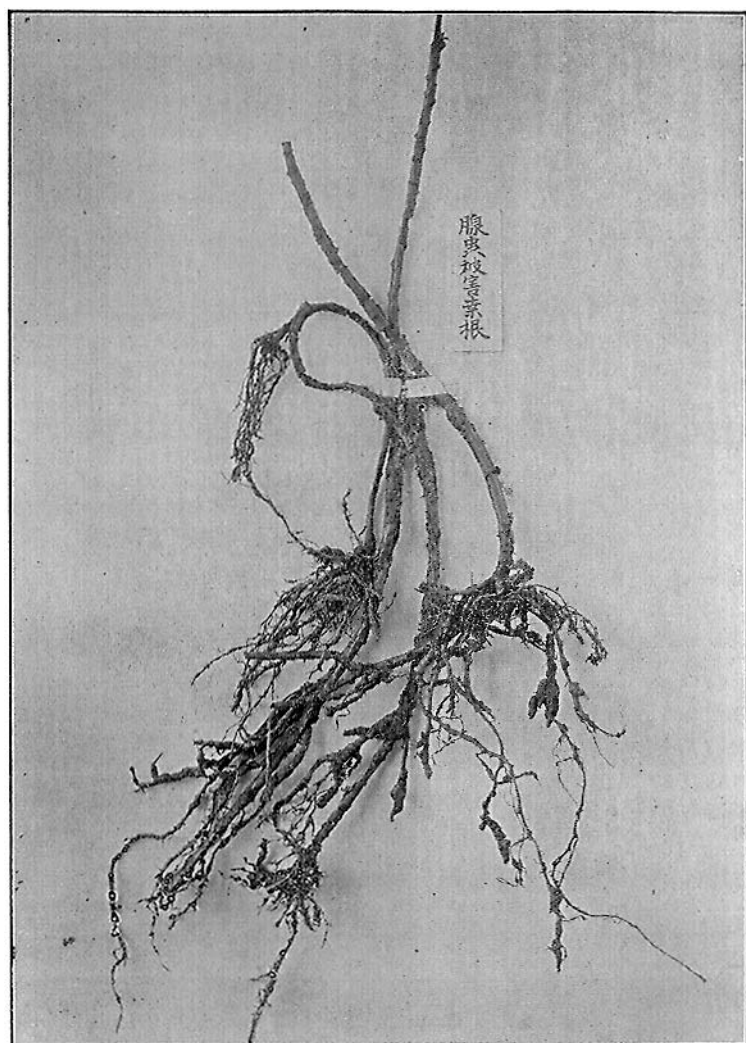
砧木ノ接穗ニ及ボス關係試驗

圖 二 第

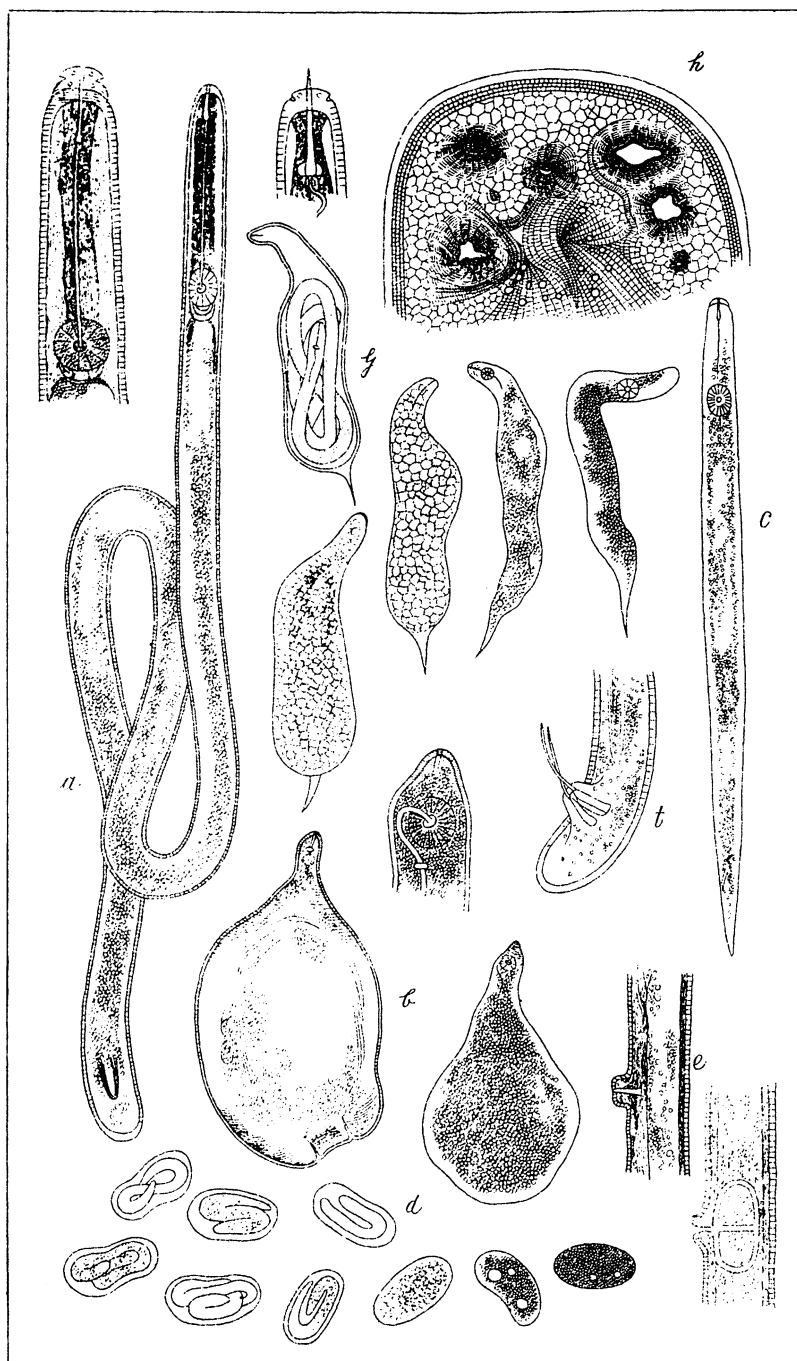


燒岳噴出灰ノ附着ル桑葉給興試驗

第 三 圖



第 四 圖 線 蟲 ノ 形 態



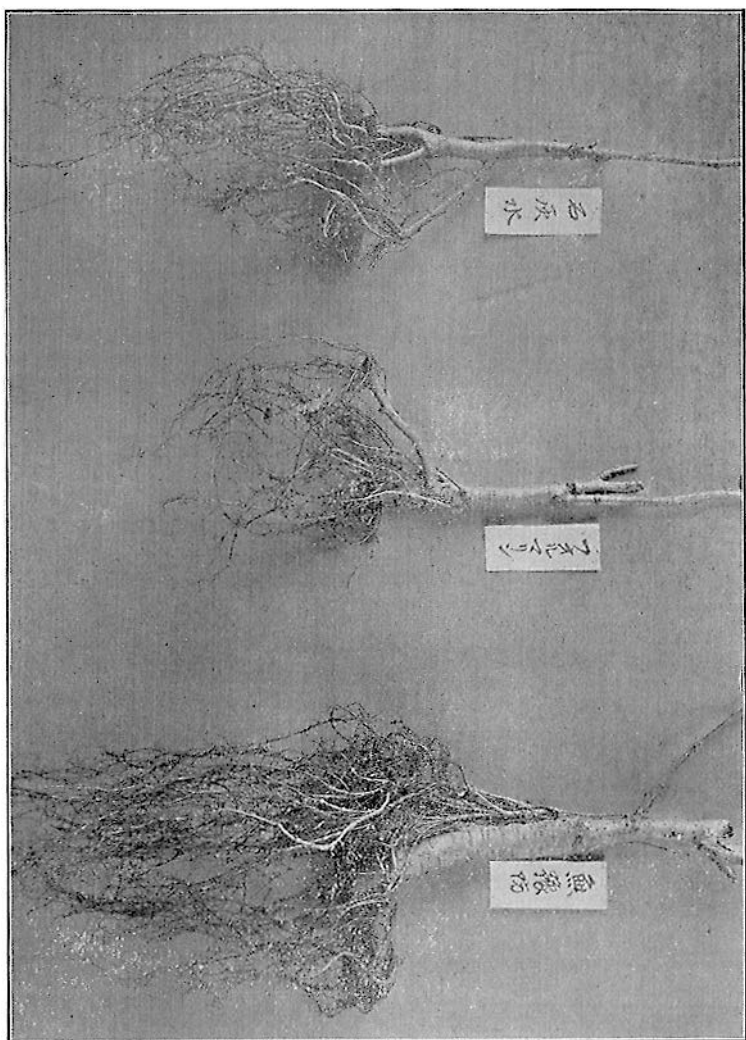
第五圖

石灰水
實物ニ於テハ線蟲ノ寄生シタル根瘤ヲ認メ得タリ

フラルマリン
實物ニ於テハ線蟲ノ寄生シタル根瘤ヲ認メズ

無豫防
實物ニ於テハ線蟲ノ寄生シタル根瘤ヲ認メ得タリ

第五圖



桑樹線蟲防禦試驗其一

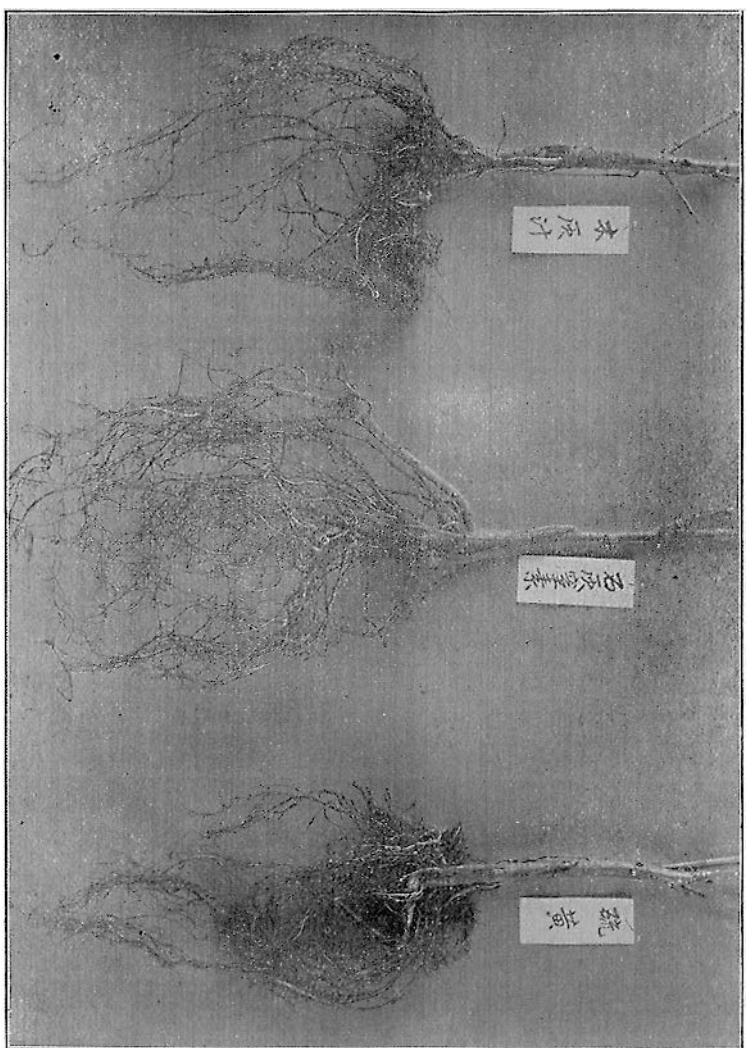
第六圖

木灰汁
實物ニ於テハ線蟲ノ寄生シタル根瘤ヲ認メ得タリ

石灰窒素
實物ニ於テハ線蟲ノ寄生シタル根瘤ヲ認メズ

硫黃
實物ニ於テハ線蟲ノ寄生シタル根瘤ヲ認メ得タリ

圖 六 第



二ノ其驗試防豫蟲線樹桑

栽桑試驗

苗木ノ部

耕種概要

苗木養成上ノ耕種概要ハ各試驗ヲ通シテ左ノ如シ

但シ特殊ノモノハ各試驗ノ條下ニ記ス

甲 實生ノ部

一、整地

苗床ハ播種期前全圃ヲ五寸内外ニ打チ起シ土塊ヲ碎キ巾二尺二寸長サ二間ノ短冊形苗床ヲ作り其ノ間ニ巾八寸ノ淺キ溝ヲ存シ床面ヲ均ラシ板ニテ鎮

壓ス

但シ周圍ハ少シク高クス

二、種子

高知縣産洗種壹升ノ重量二百十匁

三、播種法

撒播

四、播種量

壹歩ニツキ一匁

五、施肥期

基肥 整地當日

第一回追肥

幼苗ノ二寸ニ成長シタル時

第二回追肥 幼苗ノ四寸ニ成長シタル時

六、間引期

苗木ノ二寸ニ成長シタル時

苗木ノ三寸ニ成長シタル時

苗木ノ五寸ニ成長シタル時

七、除草期

五月中旬、六月上旬、七月上旬、八月中旬、九月上旬

八、堀取期

十一月十一日

九、假植期

十一月十二日

乙

接木ノ部

一、整地

四月八日圃場ヲ五寸内外ニ打チ起シ土塊ヲ碎キ畦立ヲナス

二、植付距離

畦巾二尺二寸株間八寸

三、植付法

苗ヲ直立セシメ穂ノ先端マテ両側ヨリ土ヲ寄ス

四、肥料

一反歩ニ付堆肥四百五十ℓ、廂糞灰二十ℓ、廂ヲ基肥トシテ植付當日ニ施ス

五、除草期

五月中旬、六月上旬、七月中旬、八月上旬、八月下旬

六、堀取期

十一月十一日

七、假植期

十一月十二日

第一 大豆粕適量試験

本試験ノ目的ハ實生苗ヲ養成スルニ當リ大豆粕ヲ用ヒテ窒素ヲ施スニハ一反歩何程ヲ適量トスルヤヲ知ラントスルニアリ其試験ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	大豆粕十七貫三百匁
第二區	大豆粕卅四貫五百匁
第三區	大豆粕五十一貫八百匁
第四區	大豆粕六十九貫匁
第五區	大豆粕八十六貫三百匁
第六區	無肥料

本試験ハ明治四十一年度ヨリ本年度ニ至ルマデ三ケ年間繼續施行シタリ

各區ノ作付步數ハ三步宛トシ大豆粕ハ全量ノ五分ノ三ヲ基肥トシ残り五分ノ二ハ豫メ一定量ノ水ヲ加ヘ腐熟セシメ置キ七月三十日ト八月十三日ノ二回ニ追肥トシテ施シタリ又無肥料區ヲ除クノ外各區ニハ過磷酸石灰ヲ一反歩當リ二十五貫匁宛基肥中ニ混シ施シタリ

各區ニ於ケル施肥期別用量及ヒ大豆粕中ニ含有スル假定窒素量ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗		別	基	肥	追	肥	同	窒	素	量
一	大豆粕	十七貫三百匁	一〇 ^貫 三五〇			六 ^貫 九〇〇			一 ^貫 三三二	
二	大豆粕	卅四貫五百匁	二〇、七〇〇			一三、八〇〇			二、六四六	
三	大豆粕	五十一貫八百匁	三一、〇五〇			二〇、七〇〇			三、九七〇	
四	大豆粕	六十九貫匁	四一、四〇〇			二七、六〇〇			五、二九二	
五	大豆粕	八十六貫三百匁	五一、七五〇			三四、五〇〇			六、六一五	

各區ニ於ケル發芽期開葉期及ヒ生育狀況ハ左ノ如シ

試 驗		別	發芽期	開葉期	生 育 狀 況						落葉期
一	大豆粕	十七貫三百匁	六月廿三日	同三十日	立秋(八月八日)	二草目(九月二日)	秋分(九月廿四日)	霜降(十月廿四日)			七月四日
二	大豆粕	卅四貫五百匁	同	同	苗丈ケ葉數	苗丈ケ葉數	苗丈ケ葉數	苗丈ケ葉數			
三	大豆粕	五十一貫八百匁	同	同	一、二	五、二	三、七	一、二	九、六	一、六	三
四	大豆粕	六十九貫匁	同	同	一、一	五、四	五、〇	二、〇	一〇、二	一八、〇	一〇、二
五	大豆粕	八十六貫三百匁	同	同	一、五	五、八	五、〇	二、〇	一一、一	一八、九	二一、一
六	無 肥	料同	同	同	一、七	六、四	七、一	一四、〇	一二、五	一九、〇	二一、五
七	無 肥	料同	同	同	一、二	五、二	五、八	一一、〇	一〇、八	一七、三	二〇、八
八	無 肥	料同	同	同	一、七	五、〇	一、八	九、〇	三、六	一一、〇	四、〇
九	無 肥	料同	同	同	一、二	五、二	五、八	一一、〇	一〇、八	一七、三	二〇、八
十	無 肥	料同	同	同	一、七	六、四	七、一	一四、〇	一二、五	一九、〇	二一、五
十一	無 肥	料同	同	同	一、五	五、八	五、〇	二、〇	一一、一	一八、九	二一、一
十二	無 肥	料同	同	同	一、二	五、二	三、七	一、二	九、六	一、六	三

播種期ハ六月十日トス

播種後ハ適度ノ降雨ナキ爲メ土地漸ク乾燥ニ失シ發生不良ナルノミナラス爾後ノ生育亦十分ナラサリキ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

收穫調査 (十一月十一日)

試 驗 別	收穫本數(實數)	苗 丈 ケ	根 廻 リ	重 量	根ノ良否	苗ノ品位
一 大豆粕 十七貫三百匁	六三〇 _本	八、〇 ₊	四五 ₊	一七〇 _匁	四	四
二 大豆粕 三十四貫五百匁	七三〇	九、五	四六	一九〇	二	二
三 大豆粕 五十一貫八百匁	五八五	八、八	四六	一五八	五	五
四 大豆粕 六十九貫匁	六八四	一一、一	五三	二五〇	一	一
五 大豆粕 八十六貫三百匁	二七七	八、三	四六	一八四	三	三
六 無 肥 料	六二五	五、二	三〇	七二	六	六

尙三ヶ年間ノ成績ヲ平均シタル結果ハ左ノ如シ

試 驗 別	苗 丈	根 廻	重 量
一 大豆粕 十七貫三百匁	一一、四 _寸	五五 _寸	二、一五 _匁
二 大豆粕 卅四貫五百匁	一二、八	六二	二、二五
	平均	平均	平均
	五	五	五
	四	四	四

三	四	五	六
大豆粕五十一貫八百匁	大豆粕六十九貫匁	大豆粕八十六貫三百匁	無肥料
一五、〇	一六、八	一五、二	五、二
三	一	二	六
六、四	七、一	六、六	三、七
三	一	二	六
二、八九	三、三〇	三、二五	六、六四
三	一	二	六

右試験ノ成績ニ據リ實生苗養成上大豆粕施用量ニツキ結論スルトキハ左ノ如シ

當場ノ如キ風土ニ於テ實生苗ヲ養成スルニ當リ大豆粕ヲ肥料トスルニハ一反歩約七十貫匁ヲ適量トス

第二 施肥回数試験

本試験ノ目的ハ當場ノ如キ風土ニ於テ實生苗ヲ養成スルニハ肥料ハ幾回ニ施スヲ可トスルヤヲ知ラントスルニアリ作付歩數ハ三步宛ニシテ其試験區別ハ左ノ如シ

第一區 肥料ノ全量ヲ基肥トシテ一回ニ施ス

第二區 窒素肥料三分ノ二ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ一回ニ施ス

第三區 窒素肥料三分ノ一ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ二回ニ施ス

本試験ハ明治四十二年度ヨリ本年度ニ至ルマデ三ケ年間繼續施行セルモノニシテ各區共六月十日ニ播種シタリ

各區ニ於ケル肥料ノ用量ハ一反步當リ大豆粕六十貫匁過磷酸石灰二十貫匁宛ニシテ其期節別用量左ノ如シ

但シ大豆粕ヲ追肥トシテ用ユルニハ豫メ一定量ノ水ヲ加ヘ腐熟セシメタリ

試 驗 別		基 肥(六月十日)		第一回追肥(七月卅日)		第二回追肥(八月廿六日)	
一	肥料ノ全量ヲ基肥トシテ一回ニ施ス	大豆 粕六十貫匁 過磷酸石灰二十貫匁					
二	窒素肥料三分ノ二ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ一回ニ施ス	大豆 粕四十貫匁 過磷酸石灰二十貫匁	二十貫匁				
三	窒素肥料三分一ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ二回ニ施ス	大豆 粕二十貫匁 過磷酸石灰二十貫匁	二十貫匁				二十貫匁

各區ニ於ケル發芽期開葉期及ヒ生育狀況ハ左ノ如シ

試 驗 別		發芽期		開葉期		生 育 狀 況										落葉期
一	肥料ノ全量ヲ基肥トシテ一回ニ施ス	六月廿三日	六月卅日	立秋(八月八日)	二喜日(九月一日)	秋分(九月廿四日)	霜降(十月廿四日)									十月五日
二	窒素肥料三分ノ二ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ一回ニ施ス	同	同	一、三	六、二	五、二	二、〇	九、八	一七、二	一〇、八	二〇、〇	同				
三	窒素肥料三分一ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ二回ニ施ス	同	同	一、一	五、四	三、八	二、〇	七、五	一五、〇	八、〇	一七、〇	同				四日

七八月ノ交旱天打續キタル爲メ土地ハ乾燥ニ失シ各區ノ生育良好ナラス殊ニ第三區ハ常ニ他區ニ劣レリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

收穫調査 (十一月十一日)

試 驗 別	收穫本數(實數)		苗 丈 ケ	根 廻 リ	重 量	根ノ良否	苗ノ品位
	一	二					
一	肥料ノ全量ヲ基肥トシテ一回ニ施ス	三三八 _本 六	七 _寸 九五	四 _寸 七	一 _匁 九六	一	一
二	窒素肥料三分ノ二ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ一回ニ施ス	三六八	八、〇二	四四	一、六六	二	二
三	肥素肥料三分ノ一ヲ基肥トシ其殘余ヲ追トシテ二回ニ施ス	四八三	六、〇二	四〇	一、一八	三	三

尙ホ三ケ年間ノ成績ヲ平均シタル結果ハ左ノ如シ

試 驗 別	苗 丈		根 廻 リ	重 量
	平均	等		
一	肥料ノ全量ヲ基肥トシテ一回ニ施ス	一三、三 _寸	一	二、三二 _匁
二	窒素肥料三分ノ二ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ一回ニ施ス	一三、三	一	二、四二
三	窒素肥料三分ノ一ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ二回ニ施ス	一二、八	二	二、三九

右試験ノ成績ニ據リ結論スルハ左ノ如シ

肥料ノ全量ヲ基肥トシ一回ニ施スハ苗丈ケ根廻リ共ニ第一位ヲ占ムト雖モ重量ハ却テ

他ノ二區ニ劣リ窒素肥料三分ノ一ヲ基肥トシ其殘余ヲ追肥トシテ二回ニ施スルハ苗ノ重量
稍第一區ヲ凌クモ其他ニアリテハ總テ劣レリ

第三 苗木ノ大小輕重カ生育ニ及ホス關係試驗

本試驗ハ一昨四十二年ヨリ繼續施行シ來レルモノニシテ其目的ハ苗木ノ大小輕重ニヨリ其
生育ニ及ホス結果ヲ知ラントスルニアリ供試材料ハ各區魯桑實生一年苗十本宛ニシテ其試
驗區別ハ左ノ如シ

但シ栽植當年一ケ年間ノ生育ニ就テ調査ス

第一區 苗木ノ太クシテ重キモノ

第二區 苗木ノ太サ重サ中庸ナルモノ

第三區 苗木ノ細クシテ輕キモノ

各區共前二ケ年ト同シク苗木ノ太サハ根際ヲ測リ重サハ直根ト支根トヲ盡ク五寸ノ長サニ
切斷シ且ツ莖幹ハ土際ヨリ五寸ノ長サニ切斷シテ秤量シ又發根ノ工合ハ殆ント同一ノモノ
ヲ撰擇シ四月二十九日之ヲ植付ケタリ

各區ニ於ケル苗木ノ太サ重サハ左ノ如シ

試 驗 別	供 試									
	太サ 重サ	一	二	三	四	五	六	七	八	九
		苗	番	號						
		最重	最輕	平均						

一	苗木ノ太クシテ重キモノ	太サ 重サ	十									
			六〇、 ^八 _ノ	一一、 ^一 _ノ	一〇、 ^一 _ノ	七、 ^三 _ノ	一〇、 ^一 _ノ	一〇、 ^一 _ノ	一〇、 ^一 _ノ	一〇、 ^一 _ノ	一〇、 ^一 _ノ	一〇、 ^一 _ノ
二	苗木ノ太サ重サ中 庸ナルモノ	太サ 重サ	四一、 ^九 _ノ	三、 ^九 _ノ	四〇、 ^九 _ノ	四、 ^九 _ノ	三八、 ^八 _ノ	三、 ^九 _ノ	三八、 ^八 _ノ	四〇、 ^九 _ノ	四、 ^九 _ノ	三八、 ^八 _ノ
			六〇、 ^八 _ノ	七、 ^三 _ノ	五、 ^二 _ノ	七、 ^三 _ノ	五、 ^四 _ノ	五、 ^七 _ノ	六、 ^三 _ノ	六、 ^二 _ノ	七、 ^三 _ノ	五、 ^二 _ノ
三	苗木ノ細クシテ輕キモノ	太サ 重サ	二、 ^六 _ノ	二、 ^五 _ノ	二、 ^六 _ノ	二、 ^四 _ノ	二、 ^四 _ノ	二、 ^六 _ノ	二、 ^四 _ノ	二、 ^六 _ノ	二、 ^五 _ノ	二、 ^四 _ノ
			二、 ^六 _ノ	二、 ^五 _ノ	二、 ^六 _ノ	二、 ^四 _ノ	二、 ^四 _ノ	二、 ^六 _ノ	二、 ^四 _ノ	二、 ^六 _ノ	二、 ^五 _ノ	二、 ^四 _ノ

各區ノ生育狀況ハ左ノ如シ

試 驗 別	發芽期	生 育 狀 況									
		小暑(七月七日)	立秋(八月八日)	二喜日(九月一日)	秋分(九月二十四日)	落葉期					
一 苗木ノ太クシテ重キモノ	五月廿三日	梢長葉數稍	長葉數稍	長葉數稍	長葉數稍	長葉數稍					
		七、 ^五 _ノ	一一、 ^七 _ノ	二〇、 ^〇 _ノ	二二、 ^六 _ノ	二九、 ^六 _ノ	三三、 ^〇 _ノ	三三、 ^六 _ノ	三六、 ^〇 _ノ	十一月五日	
二 苗木ノ太サ重サ中庸ナルモノ	五月六日	六、 ^八 _ノ	一〇、 ^四 _ノ	一四、 ^六 _ノ	二〇、 ^〇 _ノ	二五、 ^〇 _ノ	二八、 ^〇 _ノ	二八、 ^〇 _ノ	三二、 ^八 _ノ	十一月四日	
		六、 ^四 _ノ	九、 ^八 _ノ	一三、 ^九 _ノ	一八、 ^〇 _ノ	二三、 ^八 _ノ	二五、 ^〇 _ノ	二六、 ^〇 _ノ	二九、 ^〇 _ノ		
三 苗木ノ細クシテ輕キモノ	五月七日	六、 ^四 _ノ	九、 ^八 _ノ	一三、 ^九 _ノ	一八、 ^〇 _ノ	二三、 ^八 _ノ	二五、 ^〇 _ノ	二六、 ^〇 _ノ	二九、 ^〇 _ノ	同	
		六、 ^四 _ノ	九、 ^八 _ノ	一三、 ^九 _ノ	一八、 ^〇 _ノ	二三、 ^八 _ノ	二五、 ^〇 _ノ	二六、 ^〇 _ノ	二九、 ^〇 _ノ	同	

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別	丈 ケ 根 廻 リ 重 量 等位									
	最長	最短	平均	最大	最小	平均	最重	最輕	平均	等位
一 苗木ノ太クシテ重キモノ	四一、 ^〇 _ノ	二二、 ^〇 _ノ	三〇、 ^四 _ノ	四一、 ^五 _ノ	七一、 ^七 _ノ	七一、 ^四 _ノ	四八七、 ^〇 _ノ	二六、 ^〇 _ノ	四八、 ^二 _ノ	一
二 苗木ノ太サ重サ中庸ナルモノ	二八、 ^〇 _ノ	一八、 ^〇 _ノ	二三、 ^三 _ノ	三一、 ^三 _ノ	七、 ^七 _ノ	九八四、 ^九 _ノ	〇一一、 ^〇 _ノ	三三、 ^九 _ノ	二	二
三 苗木ノ細クシテ輕キモノ	三六、 ^〇 _ノ	一七、 ^〇 _ノ	二六、 ^九 _ノ	三一、 ^三 _ノ	六、 ^六 _ノ	九七五、 ^七 _ノ	〇七、 ^〇 _ノ	二五、 ^一 _ノ	三	三

本試驗ハ明治四十二年度ヨリ本年度ニ至ルマテ三ケ年間繼續シテ施行シタリ
供試材料ハ各區小枚代出苗十本宛ニシテ根廻リ苗丈同一ノモノヲ採リ根ハ細太共ニ七寸ニ
切斷シ莖幹ハ根際ヨリ一尺ノ部位ニテ切斷シ其重量ヲ秤定シテ同重量ノモノヲ用ヒタリ
各區ノ發芽期落葉期及ヒ生育狀況ハ左ノ如シ

明治四十三年度生育狀況

[illegible]

明治四十四年度生育狀況

試 驗 別	發芽期	生 育 狀 況					落葉期
		小暑(七月八日)	立秋(八月九日)	二番(九月二日)	秋分(九月廿四日)	霜降(十月廿四日)	
一 一寸ニ切斷セルモノ	五月廿一日	梢長葉數 四、三 ⁺	梢長一葉數 一七、四 ⁺	梢長一葉數 二六、六 ⁺	梢長一葉數 二九、五 ⁺	梢長一葉數 二九、六 ⁺	三、四 ⁺ 十一月四日
二 三寸ニ切斷セルモノ	同	六、五	二〇、三	二八、〇	三一、八	三三、〇	同
三 六寸ニ切斷セルモノ	五月廿日	八、一	二二、八	二五、八	三三、〇	三九、四	同

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

明治四十二年度成績

試 驗 別	活 着 數	苗 丈					重	量	苗木ノ品位
		本數	最長	最短	平均	最大	最小	平均	
一 一寸ニ切斷セルモノ	100 ^本 100%	二四、〇 ⁺	七、五 ⁺	一三、二 ⁺	一、〇 ⁺	六、六 ⁺	二二、〇 ⁺	九、〇 ⁺	一四、〇 ⁺
二 三寸ニ切斷セルモノ	100 ^本 100%	一九、七	九、〇	一三、〇	一、九	六、六	二一、〇	一〇、〇	一四、八
三 六寸ニ切斷セルモノ	100 ^本 100%	二五、二	七、〇	一四、八	一、一	六、八	二二、〇	九、〇	一五、二

明治四十三年度成績

試 驗 別	活 着 數	苗 丈					重	量	苗木ノ品位
		本數	最長	最短	平均	最大	最小	平均	
一 一寸ニ切斷セルモノ	100 ^本 100%	四、〇 ⁺	一一、〇 ⁺	三、三 ⁺	一、八 ⁺	七、一 ⁺	七、五 ⁺	二二、〇 ⁺	五、〇 ⁺

試 驗 別	活 着 數		苗 丈		根 廻		重 量		苗木ノ 品 位
	本數	一歩合	最長	最短	平均	最大	最小	平均	
一 一寸ニ切斷セルモノ	100	100%	三、〇 _寸	二、〇 _寸	二、七 _寸	一、二 _寸	九、 _寸	一、〇 _寸	三
二 三寸ニ切斷セルモノ	100	100%	三、七 _寸	二、三 _寸	二、八 _寸	一、五 _寸	九、 _寸	一、〇 _寸	二
三 六寸ニ切斷セルモノ	100	100%	四、〇 _寸	三、〇 _寸	三、〇 _寸	一、四 _寸	九、 _寸	一、〇 _寸	一

明治四十四年度成績

試 驗 別	活 着 數		苗 丈		根 廻		重 量		苗木ノ 品 位
	本數	一歩合	最長	最短	平均	最大	最小	平均	
一 一寸ニ切斷セルモノ	100	100%	三、〇 _寸	二、〇 _寸	二、七 _寸	一、二 _寸	九、 _寸	一、〇 _寸	三
二 三寸ニ切斷セルモノ	100	100%	三、七 _寸	二、三 _寸	二、八 _寸	一、五 _寸	九、 _寸	一、〇 _寸	二
三 六寸ニ切斷セルモノ	100	100%	四、〇 _寸	三、〇 _寸	三、〇 _寸	一、四 _寸	九、 _寸	一、〇 _寸	一

右三ヶ年ノ成績ヲ平均シ各項ニ等位ヲ付スルハ左ノ如シ

試 驗 別	苗 丈		根 廻		重 量	
	平 均	等 位	平 均	等 位	平 均	等 位
一 一寸ニ切斷セルモノ	二、四 _寸	三	一、〇 _寸	三	三、六 _克	三
二 三寸ニ切斷セルモノ	二、六 _寸	二	一、一 _寸	二	四、五 _克	二
三 六寸ニ切斷セルモノ	三、〇 _寸	一	一、二 _寸	一	五、七 _克	一

以上試験ノ成績ニ據リ代出苗木ヲ植付クルニ當リ剪根ノ長短ニヨリ栽植當年ノ生育ニ及ホス關係ヲ概論スルハ左ノ如シ

苗木ヲ植付クルニ當リ根ヲ切斷スルニハ細太共ニ短キヨリモ稍ヤ長クスルヲ可トス

第五 砧木ノ接穂ニ及ホス關係試驗

本試驗ノ目的ハ桑樹ヲ接木スルニ當リ異種ノ砧木ヲ用ユルハ砧木ノ性質ニヨリ其生育ニ如何ナル關係ヲ及ホスヤヲ知ラントスルニアリ

本試驗ハ明治四十二年接木シタルモノ、本年度迄ニ於ケル生育狀態ト成績トヲ調査シ尙本年接木シタルモノニ就キ同様ノ事項ヲ調査シタリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

(其 一) 明治四十二年度接木シタルモノ

- 第一區 小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ
- 第二區 鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ
- 第三區 多胡早生砧ニ小牧ヲ接キタルモノ
- 第四區 小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ
- 第五區 鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ
- 第六區 多胡早生砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ
- 第七區 小牧砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ
- 第八區 鼠返砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ
- 第九區 多胡早生砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ

(其 二) 明治四十四年度接木シタルモノ

- 第一區 小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ
第二區 鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ
第三區 小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ
第四區 鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ

供試本數ハ四十二年四十四年度共ニ各區十本宛ニシテ砧木ハ傘取又ハ代出苗ノ同大ナルモノヲ選ヒ接穂ハ砧木ヨリ稍ヤ細ク根刈仕立ノ地上同一部分ニ於ケル太サ殆ント同シキモノヲ用ヒタリ今各區ニ於ケル發芽期落葉期及ヒ生育狀況ヲ舉クレハ左ノ如シ

(其 一) 明治四十二年度接木シタルモノ

明治四十二年度生育狀況(接木一年目)

試 驗 別		發芽期		生 育 狀 況		落葉期	
一	小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	六月十日	五、四 ^寸	小暑(七月七日)立秋(八月八日)三寸目(九月一日)	秋分(九月廿四日)霜降(十月廿四日)	十月廿一日	十月廿一日
二	鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	六月八日	三、七	梢長葉數 九、八	梢長葉數 九、八	十月廿一日	十月廿一日
三	多胡早生砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	六月四日	三、七	梢長葉數 一〇、二	梢長葉數 九、〇	十月廿一日	十月廿一日
四	小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	六月七日	五、〇	梢長葉數 一三、三	梢長葉數 一三、三	十月廿一日	十月廿一日
五	鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	六月八日	六、九	梢長葉數 一七、六	梢長葉數 一七、六	十月廿一日	十月廿一日

六	多胡早生砧ニ鼠返ヲ接ギタルモノ	六月一日	五、三	一四、八	二〇、一	一二、五	二、五	一三、六	二五、〇	一四、一	二七、〇	十二月二日
七	小牧砧ニ多胡早生ヲ接ギタルモノ	六月十二日	五、一	九、一〇	二、九	一四、六	一六、〇	一五、〇	二二、〇	一六、四	二三、五	十一月一日
八	鼠返砧ニ多胡早生ヲ接ギタルモノ	六月九日	六、九	一三、四	一、六	一五、三	一六、〇	一八、三	一九、〇	一九、二	二〇、六	十一月五日
九	多胡早生砧ニ多胡早生ヲ接ギタルモノ	六月三日	五、四	一一、五	一、五	一八、〇	一四、七	一九、〇	一五、〇	一九、〇	二〇、〇	十一月一日

明治四十三年度生育状況(接木二年目)

試験別	發芽期	楢			長			霜降當時ノ葉數	落葉期
		小暑(七月八日)	立秋(八月八日)	三寶(九月十日)	秋分(九月廿四日)	霜降(十月廿四日)	霜降當時ノ葉數		
一	小牧砧ニ小牧ヲ接ギタルモノ	五月廿四日	一〇、六	三二、一	三七、八	四〇、五	四〇、八	三五	十二月十二日
二	鼠返砧ニ小牧ヲ接ギタルモノ	五月廿一日	一二、七	三〇、四	三五、八	四〇、〇	四〇、八	三六	十二月十三日
三	多胡早生砧ニ小牧ヲ接ギタルモノ	五月廿一日	一五、八	三六、〇	四〇、〇	四五、〇	四七、〇	四〇	十二月十二日
四	小牧砧ニ鼠返ヲ接ギタルモノ	五月廿八日	一〇、九	二〇、八	三〇、五	三四、三	三五、〇	四八	十二月十一日
五	鼠返砧ニ鼠返ヲ接ギタルモノ	五月廿六日	一〇、三	二六、七	三〇、一	三一、九	三四、三	三五	同
六	多胡早生砧ニ鼠返ヲ接ギタルモノ	五月廿四日	一一、九	二八、〇	三二、〇	三四、〇	三四、七	四五	同
七	小牧砧ニ多胡早生ヲ接ギタルモノ	五月廿九日	八、八	二〇、八	二二、三	二五、一	三一、一	二四	十二月十三日
八	鼠返砧ニ多胡早生ヲ接ギタルモノ	五月廿六日	八、四	一六、六	一七、二	一八、二	一八、四	二〇	同
九	多胡早生砧ニ多胡早生ヲ接ギタルモノ	五月廿一日	九、二	二五、八	三一、九	三三、八	三六、〇	三〇	同

備考

接木二年目ニアリテハ其儘苗圃ニ植付ケ新梢一本ヲ生長セシメ四十四年度ニ於テハ四月下旬之ヲ掘取リ畦巾四尺株間三尺ノ距離ニ移植シタリ

明治四十四年度ニ於ケル各區ノ發芽期開葉期、落葉期等ノ生育狀況ハ調査セス

(其 二) 明治四十四年度接木シタルモノ

生育狀況

試驗別	發芽期	生育狀況								落葉期
		小暑(七月八日)	立秋(八月九日)	白露(八月十日)	秋分(九月十日)	霜降(十月十日)	立冬(十一月十日)	大雪(十二月十日)	小寒(十二月二十日)	
一 小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	五月六日	八六 ^寸	九三 ^枚	一七 ^寸	二四 ^枚	二八 ^寸	三三 ^枚	三三 ^寸	三三 ^枚	三月四日
二 鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	五月廿一日	三、〇	四、〇	一一、四	一六、八	一七、八	三三、〇	二四、九	二六、〇	三月九日
三 小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	五月六日	七、八	八、一	一五、三	二五、五	二三、〇	三七、〇	二六、七	四二、六	三月五日
四 鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	五月廿三日	一、五	二、一	七、八	一七、五	欠	欠	欠	欠	欠

但シ第四區ハ八月下旬ニ至リ全部枯死シタル爲メ爾後其調査ヲ省ケリ

各年度ニ於ケル本試験ノ成績ハ左ノ如シ

(其 一) 明治四十二年度接木シタルモノ

明治四十二年度成績(十一月廿七日調査)

試 驗 別	活 着		苗 丈		根		廻		重	
	本 數	最 長	最 短	平 均	最 大	最 小	平 均	最 重	最 輕	平 均
一 小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	七 _本	七、一六、〇 _寸	六、六 _寸	六、二 _寸	七、一 _寸	七、〇 _寸	七、八 _寸	六、二〇、 _知	八、一 _知	一四、六 _知
二 鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	一〇	一六、一	五、四	一〇、四	一〇、〇	五、	八、一	二四、	五、一〇、五	
三 多胡早生砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	一〇	一六、三	四、四	九、七	一〇、〇	六、	七、五	二八、	二、三、二	一、八
四 小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	九	二一、五	七、二	一四、六	一〇、	六、	七、六	一八、	九、一	二、七
五 鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	九	三一、九	九、六	二九、八	一、三	六、	九、六	二七、	七、一	六、六
六 多胡早生砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	一〇	二〇、九	二、〇	一五、六	一、一	七、	八、六	二三、	二、五、	一、九、五
七 小牧砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	九	二六、二	七、二	一五、四	一、五	六、	二〇、二	六、	二、一	九、〇
八 鼠返砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	七	二五、二	〇、八	一八、五	一、四	九、	二〇、二	六、	一、五、	二〇、八
九 多胡早生砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	八	一九、三	四、九	一一、五	一、三	六、	九、八	四八、	二、三、	三、七、〇

明治四十三年度成績(十二月十四日調査)

試 驗 別	條 ノ 長		條 ノ 太		重		量	
	最 長	最 短	最 大	最 小	最 重	最 輕	平 均	平 均
一 小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	五九、〇 _寸	二三、〇 _寸	一、七 _寸	一、三 _寸	六、七 _知	二〇、 _知	四、三、 _知	三、
二 鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	五三、〇 _寸	三一、〇 _寸	一、七 _寸	一、三 _寸	七〇、	三六、	五、二、 _知	四、
三 多胡早生砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	四九、〇 _寸	三九、〇 _寸	一、八 _寸	一、四 _寸	二〇、〇 _知	六、三、	八、一、 _知	五、

明治四十四年度成績(十一月七日調査)

四	五	六	七	八	九
小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	多胡早生砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	小牧砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	鼠返砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	多胡早生砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ
四一、〇	三八、〇	四〇、〇	二二、〇	四〇、〇	三六、〇
二一、〇	二四、〇	三一、〇	一一、〇	一七、〇	一四、〇
三三、五	三三、一	三四、六	一七、四	三三、七	二三、三
一、五	一、三	一、五	一、一	一、七	一、六
九一、二八	一一、二七	一一、二六	八一、〇〇	一〇、一四六	七一、二三
五四、	五三、	七〇、	三六、	九九、	五六、
一二、四一、〇	三三、四二、三	三一、四五、九	一八、二六、七	三五、六八、〇	一四、三六、〇

一	二	三	四	五	六	七
小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	多胡早生砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	多胡早生砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	小牧砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ
四〇、〇	四七、〇	四四、〇	三一、〇	三二、〇	三五、〇	三七、〇
二九、〇	二一、〇	一八、〇	一八、〇	二四、〇	一九、〇	二二、〇
三四、三	二九、九	二八、四	二五、八	二一、二	二五、三	二八、二
一、五	一、五	一、五	一、四	一、一	一、二	一、四
一〇、一	一〇、一	九一、一六	六、九三	六、七六	七、八八	七、一一〇
三	四	三	四	六	四	三
二	二	二	三	三	二	二
二、三	三、〇	二、五	三、七	五、〇	二、六	二、三

八鼠返 砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	三二、〇	二三、〇	二二、七	一、二	七、九	三	二
九多胡早生 砧ニ多胡早生ヲ接キタルモノ	三七、〇	二五、〇	三〇、四	一、六	一、〇	三	三

(其 二) 明治四十四年度接木シタルモノ

成 績 (十一月七日調査)

試 験 別	活 着		丈			根		廻		重		量	
	本數	最長	最短	平均	最大	最小	平均	最重	最輕	平均			
一 小牧砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	六 _本 三 _十 五 _分	二八、〇	三二、五	一、三	一、〇	一、二	四四、 _分	二二、 _分	三三、 _分	〇			
二 鼠返砧ニ小牧ヲ接キタルモノ	五二 _七	二五、〇	二五、八	一、一	九、	九八	二七、	一九、	二二、	五			
三 小牧砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	三二 _八	〇二三、	〇二五、	七	一、	〇一、	〇三	四三、	二五、	三二、	〇		
四 鼠返砧ニ鼠返ヲ接キタルモノ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一			

尙ホ各區ニツキ樹皮ノ色澤ト葉質葉形等ヲ調査シタルモ各種共接穂ニ於ケル種類固有ノ形質ヲ具ヘ特ニ異点ヲ認メサリキ

本試験ノ成績ニ據リ砧木ノ接穂ニ及ホス關係ヲ評論スルハ左ノ如シ

一、多胡早生ヲ砧木トシタルモノハ他ノ小牧若クハ鼠返ヲ砧木トシタルモノニ比シ其接穂ヨリ發生セル枝條ハ太キカ如シ

二、鼠返ヲ砧木トシタルモノハ他ノ多胡早生若クハ小牧ヲ砧木トシタルモノニ比シ發條數

多ク又其枝條ハ細小ナルカ如シ

三、小牧ヲ砧木トシタルモノハ發條數少ナキカ如シ

四、枝條ノ長サハ計數ニ於テハ鼠返ヲ砧木トシタルモノニ稍ヤ多ク小牧ヲ砧木トシタルモノ之ニ次キタレモ右ハ四十二年度ニ於テ鼠返砧木ニ同種ヲ接キタルモノト四十三年度ニ於テ同種ノ砧木ニ多胡早生ヲ接キタルモノニ一、二不均一ノ發育ヲナシタルモノアルニ基ケリ今若シ此等一、二ノモノヲ除キ達觀的ニ之ヲ評論スルハ小牧ヲ砧木トシタルモノハ他ニ比シテ最モ能ク生長スルカ如シ

但シ第一圖ヲ參照スベシ

栽 植 ノ 部

耕 種 概 要

一、栽植年月 明治四十一年四月

一、樹 齡 四 年

但シ苗木優劣試験及ヒ植付深淺試験ハ三年目トス

一、桑 種 肥料關係試験ハ鼠返種其他ハ小牧種

一、試験步數 種類試験植付深淺試験ノ内深植區仕立方試験、伐採若クハ摘葉時期回数試

驗ノ内第一區第二區第三區

夏秋蠶用桑摘葉方法試験、三要素適量試験ヲ除クノ外一區總テ二畝步宛ト
ス

一、一反步株數 九百株(普通植)

但シ株數試験ト密植種類試験ヲ除ク

一、畦巾及株間 肥料關係試験ハ畦巾四尺株間三尺其他ハ畦巾四尺五寸株間二尺六寸七分

一、仕 立 方 根 刈

一、施肥時期及回数 春四月上中旬(夏七月上旬)ノ二回

一、肥 料 一反步當リ用量左ノ如シ

肥料名	用 量	各 期 使 用 量		仮 定 三 成 分 量			價 格
		春	夏	窒 素	磷 酸	一 加 里	
糞 尿	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、二六〇	二、二二〇	一、七〇〇	六、〇〇〇
人 糞 尿	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、一四〇	二、六〇〇	五、四〇〇	七、一四〇
堆肥 馬 糞	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四、五〇〇	三、三二〇	三、五〇〇	一、〇〇〇
野草生草	五〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二、七〇〇	〇、七五〇	二、三三〇	七八五
合 計	五五〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇	二七五、〇〇〇	三、一二〇	八、七五二	八、二二〇	一四、九二五
大 豆 粕	一一、五〇〇	五、七五〇	五、七五〇	八、八二二	一、二二七	一、八二二	二、四七七
過 燐 酸 石 灰	一三、三三〇	六、六六五	六、六六五	一、二〇〇〇	一、二〇〇〇	一	一、八二五
計	五七四、八三〇	二八七、四一五	二八七、四一五	四、〇〇二	三、〇〇二	三、〇〇二	一九、二二七

一、耕耘ノ時期及回数 春耕四月上中旬、夏耕七月上旬、冬耕十一月上中旬ノ三回

一、耕耘方法 暑被寒披

一、除草回数 三 回

一、結 束 期 十一月上中旬

一、解 束 期 四月上中旬

一、摘 葉 法 葉柄取トシ梢端三四葉ヲ殘シ摘採ス

一、收穫調查 各試驗成績ノ收穫量ハ總テ一反歩ニ換算セルモノトス
右ノ外特殊ノ事項ハ其試驗記事中ニ載ス

第一 種類試驗^附見本園ニ於ケル種類ノ調査

一、種類試驗 (繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ現今廣ク縣内ニ栽培セラル、小牧鼠返、四方咲、四ツ目、四、五、八、相模早生ノ六種類ガ果シテ風土ニ恰適セル良種ナルヤ否ヤヲ確メントスルニアリ

試驗ノ方法トシテハ其特性ヲ比較セン爲メ關東奥羽地方ニ多ク栽培セラル、左記ノ六種類ヲ加ヘ且ツ各種類毎ニ樹齡ニヨリ現ハル、狀態ヲ對照セン爲メ先ツ五ケ年ヲ期シ毎年十五歩宛同一系統ノ苗木ヲ栽植シタリ

其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

試驗別	種名(早生種)	試驗別	種名(中生種)	試驗別	種名(晩生種)
一 市平	二 相模早生	五 鶴田	一〇 鼠返	九 山中高助	
三 多胡早生	六 小牧	七 四方咲	一一 四ツ目	四 文目	
四 四五八	八 金芭蕉	一二 十文字			

各區ノ樹齡四年目ニ於ケルモノ、破苞期開葉期及ビ落葉期ハ左ノ如シ但シ樹齡三年目ノモノハ之レト差ヲ認メス

試 驗 別	破 苞 期	開 葉 期	落 葉 期
一 市 平 四月 廿 日	同 四月 卅 日	同 十一月 四 日	
二 相 摸 早 生 同 十九 日	同 廿 八 日	同	
三 多 胡 早 生 同 十八 日	同 廿 九 日	同	
四 四 五 八 同 廿 一 日	五月 一 日	同	
五 鶴 田 同 廿 七 日	同 九 日	同	
六 小 牧 同 廿 五 日	同 七 日	同	
七 四 方 唉 同 廿 五 日	同 三 日	同	
八 金 芭 蕉 同 廿 四 日	同 八 日	同	
九 山 中 助 同 廿 六 日	同 九 日	十一月 五 日	
一〇 鼠 返 同 廿 六 日	同 九 日	十一月 六 日	
一一 四 ツ 目 同 廿 七 日	同 十 日	同	
一二 十 文 字 同 廿 七 日	同 十一 日	同	

備考

破苞期開葉期第一葉放出ノ時ハ各株芽ノ過半其ノ期ニ達シタル時ヲ以テ定メタリ
 落葉期ハ各種ノ落葉初期ヲ以テ定メタリ

破苞期開葉期落葉期ノ調査ハ以下諸試驗皆之ニ同シ

春期發芽前ニ於ケル枝條ノ狀態ハ左ノ如シ

試驗別	樹齡	條ノ數	條ノ長サ	條ノ太サ	小枝ノ多少	一尺間芽數
一市平	三 年	二、七 ^本 六、〇	四五、二五 ^サ 四七、二二	一、六五 ^サ 一、四一	多 中	六、五 ^サ 七、〇
二相摸早生	三 年	欠調 四、三	三九、二二	一、六二	多	七、六
三多胡早生	三 年	一、六 六、〇	五〇、二〇 四七、五六	二、〇二 一、〇八	少 ナシ	八、四 七、九
四四五八	三 年	四、五 六、〇	二五、六〇 三四、三三	一、八八 一、〇八	少 ナシ	九、五 九、一
五鶴田	三 年	三、〇 七、三	五二、七八 四七、八九	二、一八 一、四九	ナシ 少	八、二 五、九

六	小	牧	四	三	年	年	二、三	七、七	五九、七八	六〇、〇〇	二、一七	一、五六	ナシ	ナシ	六、八	九、七
七	方	咲	四	三	年	年	八、三	三、〇	五九、八九	五一、八九	二、〇二	一、二九	少	多	七、一	九、四
八	金	芭	四	三	年	年	五、〇	二、〇	五五、八三	四五、七八	二、一八	一、五〇	少	中	七、〇	七、五
九	山	中	四	三	年	年	八、〇	三、〇	五二、〇〇	四一、五六	一、九八	一、二四	少	多	七、一	八、六
一〇	鼠	返	四	三	年	年	一三、三	二、〇	四三、六七	三八、七八	二、〇八	一、〇一	少	多	一〇、三	一四、五
一一	四	ッ	四	三	年	年	一〇、三	二、七	四五、八八	四二、〇〇	一、八〇	一、三四	中	多	一〇、四	一四、九
一二	十	文	四	三	年	年	七、三	三、七	三九、四五	三八、五六	一、四四	一、〇九	少	少	一二、〇	九、六

枝條ノ調査ハ生育中庸ナル三株ニ付春期發芽前左ノ方法ニヨリテ行ヘリ

(㊦) 條ノ數 各株ノ總數ヲ平均ス

(㊧) 條ノ長 各株ニ付生長中位ナルモノ三本宛ヲ撰ミ之ヲ調査平均ス

(㊨) 條ノ太サ (㊨)ノ調査株ニ付最下部ヲ測リ平均ス

(㊩) 尺間芽數 (㊩)ノ調査各條ノ中央部一尺間ニ付キ調査平均ス

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、收穫調查

試驗別	樹齡	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	收穫月日	收葉 等位	葉梢條割合(千分率)		
									葉	梢	條
一市平	三年	一三、六二〇	五四、九〇〇	二四、三〇〇	八二、六〇〇	一、八〇〇	五月廿三日	一	三三九	一五〇	五一
	四年	一八、七〇〇	五五、三〇〇	二五、四〇〇	九六、六〇〇	四、四〇〇		一	三三二	一四三	五四五
二相模早生	三年	欠									
	四年	一三、四〇〇	三〇、〇〇〇	二、六〇〇	八八、八〇〇	六、〇〇〇		三	二二八	九六	六七六
三多胡早生	三年	一三六、〇二八	四四、六一四	一九、一五六	七一、一〇〇	一、五八〇		二	三三一	一四二	五二七
	四年	一五、六六三	四三、七六三	二三、〇六三	八一、一二	四、七五〇		二	二九六	一五六	五四八
四四五八	三年	三四、二〇〇	六、九七五	四、九五〇	二一、三七五	九〇〇		三	二〇九	一四九	六四二
	四年	五三、三五五	一四、一七五	六、九七五	三一、七五	四五〇	同	四	二六八	一三	六〇〇

五	鶴	田	三年	三二六、六七〇	二八、三四	五〇、二七一	一三〇、六八	七、四五七	六月六日	二	四五	一六三	四四二
四			四年	四四九、一〇〇	三二、六二五	六六、三七五	一四九、四〇〇	一一、七〇〇	同	一	五〇六	一五二	三四二
六	小	牧	三年	二〇八、八〇〇	七九、九二〇	三四、二〇〇	八三、三四〇	一一、三四〇	同	三	四〇四	一七三	四二三
四			四年	三二六、二五〇	一三四、二五〇	六〇、三〇〇	一二五、二五〇	六、四五〇	同	四	四〇九	一八九	三九二
七	四	方	三年	二二、一〇〇	七八、三〇〇	二八、〇五〇	一〇一、一〇〇	四、六〇〇	同	四	三七七	一三五	四八八
四		咲	四年	三〇三、七五〇	一三六、二〇〇	四三、六五〇	一二六、二五〇	七、六五〇	同	三	四六〇	一四七	三九三
八	金	芭	三年	四二六、一六〇	二〇〇、八八〇	六八、五八〇	一三二、六六〇	一四、〇四〇	同	一	四九九	一七一	三三〇
四		蕉	四年	二九七、三〇〇	一五二、二五〇	四六、五〇〇	九二、一〇〇	六、四〇〇	同	二	五二三	一六〇	三一七
九	山	中	三年	三七七、三九	一七四、〇八六	六五、五七一	一三四、六四	二、九五七	六月十三日	三	四六五	一七五	三六〇
四		高	四年	二八二、三七五	一三〇、一六二	五四、七八八	九三、一五〇	四、二七五	同	三	四六九	一九七	三三四
一〇	鼠	返	三年	三六四、五〇〇	一八〇、三六〇	四五、九〇〇	一三三、二〇〇	五、〇四〇	同	二	五〇一	一二八	三七二
四			四年	三七二、〇〇〇	一九二、六〇〇	四七、一〇〇	一二六、四五〇	五、八五〇	同	一	五三六	一二九	三四五
一一	四	ツ	三年	三七八、七〇〇	一八七、〇二〇	四〇、八六〇	一四六、七〇〇	四、四〇〇	同	一	四九九	一〇九	三九二
四		目	四年	三五二、〇〇〇	一七二、二六〇	五九、四〇〇	一二五、七四〇	三、六〇〇	同	二	四九六	一七一	三三三
一二	十	文	三年	一六六、五〇〇	八〇、二五〇	二四、七五〇	五六、二五〇	五、二五〇	同	四	四九八	一五三	三四九
二	字												

四年	一八、二四三	八〇、一〇〇	二四、九四三	四九、七七	三、四二同	四	五七	一六二	三三
----	--------	--------	--------	-------	-------	---	----	-----	----

備考

(一) 收穫期ハ種類ニヨリ左ノ時期ニ於テセリ

早生種

春蠶二齡初期

中生種

春蠶四齡初期

晩生種

春蠶五齡初期

(二) 葉量ハ葉柄付トス以下諸試験皆之ニ同シ

二、葉ノ調査

試験別	樹齡	圓葉裂		大長	小巾	厚薄	硬軟	成熟早晚	同齋否	老硬
		葉ノ別	裂							
一市平	三年 四年	裂	多少圓ナ ルモ幾分 タリ	二、六八六 ⁺ 二、八九四	二、二四六 ⁺ 二、四二六	四三 ⁺ 三七	軟 硬	中 早	齋	早
二相摸早生	三年 四年	欠	二、三七〇	一、七〇〇	三七	軟	晚	凍害ニ罹 メタル爲 不明	晚	晚
三多胡早生	三年 四年	裂	二、二四六 二、九七二	二、四一八 二、〇六八	四二 三五	硬	中	齋	晚	晚

二	一〇	九	八	七	六	五	四
四	鼠	山	金	四	小	鶴	四
ツ		中	芭	方			五
目	返	高	蕉	咲	牧	田	八
三	四	四	四	四	四	四	四
年	年	年	年	年	年	年	年
裂	裂	圓	圓	圓	裂	裂	裂
二、五九六	二、五九二	二、八二八	三、三九二	二、九一六	三、〇一六	三、〇九〇	二、五三二
二、〇二八	二、〇八二	二、三二二	二、七二八	一、九四〇	二、〇六四	二、二八四	一、五三四
三、三六	三、三一	三、三七	四、四二	三、三五	三、三八	四、四二	三、三八
硬	硬	硬	軟	軟	硬	硬	硬
硬	硬	硬	軟	軟	硬	硬	軟
中	中	早	晚	中	早	中	早
齋	齋	齋	否	齋	齋	否	否
晚	晚	早	晚	晚	中	早	早

		四年		二、五二〇	二、〇九八	、三五				
三	十	文	字	裂	二、四八二	一、七五八	、三二	軟	軟	晚
四	三	年	年	二、六〇四	一、九六八	、三四	晚	齋	晚	

備考

一、硬軟以下ハ早中晩種別ノ比較評語トス

一、大小ハ收穫ノ際五十葉ニツキ調査平均ス

一、厚薄ハ右ノ五十葉ヲ積ミ重ネ葉柄ノ付根ヨリ葉長ノ三分ノ一ノ所ヲ切斷シ其斷面ノ厚

サヲ調査ス

一、硬軟ハ春蠶期ニハ收穫ノ際秋蠶期ハ八月中旬ニ調査ス

一、成熟ノ早晚ト齋否ハ開葉期ヨリ收穫マテノ間ニ於テ時々調査シタルモノニヨル

一、老硬ノ早晚ハ收穫後落葉迄ノ間ニ於ケル硬化狀態ニヨル大小厚薄成熟老硬ノ調査方法

ハ以下諸試験皆之ニ同シ

葉質ハ尙葉質試験部桑樹ノ葉質試験ヲ参照スヘシ

本年五月二日ニ於ケル結霜ノ爲メ早生種ハ甚ダシキ害ヲ被リ延テ收葉量ヲ減シタリ就中相摸早生ハ被害最モ大ニシテ全葉悉ク黒變シ再發芽ヲ催セリ從テ成熟調査ヲ省ケリ

今本試験ノ成績ニ據リ早生晩種別ニ收葉量ノ多少ヲ比較スレバ左ノ如シ

早 生 種

早生種中收葉量ノ最モ多キハ市平ニシテ多胡早生之ニ次キ相模早生ト四五八トハ共ニ著シク少ナシ

中 生 種

金芭蕉ノ收葉量ハ樹齡三年目ノモノニ於テハ鶴田ヲ凌キ第一位ニアルモ四年目ノモノニ於テハ却テ鶴田ニ劣リ第二位ヲ占メ小牧ト四方咲ニ於テモ樹齡ノ差ニヨリ收葉量前後シタルヲ見タリ

晩 生 種

鼠返ト四ツ目トハ樹齡ニヨリ收量相前後シタルモ其平均收量ハ鼠返ニ多ク次キハ山中高助ニシテ十文字最モ劣レリ

尙ホ樹齡三年目ノモノニ就キ昨今兩年度ノ收葉量ヲ平均シタル成績ト本年度ニ於ケル樹齡通計ノ收葉量ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗 別	樹 齡		各 樹	計
	四十三	四十四兩年度平均		
一 市 平	六二、二八〇	同上等位	一一七、五八〇	同上等位

二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
相摸早生	多胡早生	四五八	鶴田	小牧	四方咲	金芭蕉	山中高助	鼠返	四ツ目	十文
六〇、三〇〇	五三、八九七	一八、〇八三	一二八、〇〇一	一〇一、三五三	一一四、五二五	一五四、八九〇	一七六、〇四三	一八七、六八〇	一五二、〇一〇	一〇六、一二五
二	三	四	二	四	三	一	二	一	三	四
九〇、三〇〇	九七、六六〇	三二、二五八	三四九、六二六	二三五、六〇三	二五〇、七二五	三〇七、一四〇	三〇六、二〇五	三八〇、二八〇	三二四、二七〇	一八六、二三五
三	二	四	一	四	三	二	三	一	二	四

前表ニ據ル片ハ收葉量ノ最モ多キハ早生種ノ市平中生種ノ鶴田、金芭蕉晩生種ノ鼠返ニシテ其最モ少ナキハ早生種ノ四五八、中生種ノ小牧晩生種ノ十文字ナリトス但シ中生種ノ鶴田ハ樹齡ノ通計ニ於テハ第一位ヲ占メタルモ昨今兩年度ニ於ケル樹齡三年目ノ平均量ニ於テハ金芭蕉却テ第一位ヲ占メタリ

二、見本園ニ於ケル種類調査

本調査ノ目的ハ縣内及ヒ他府縣產ノ種類ヲ蒐集シ各々ノ特性ヲ調査シ以テ優良ナルモノヲ知ラントスルニアリ

調査ニ供シタル桑種ハ各種共魯桑實生苗ニ接木シタルモノニシテ植付ハ畦巾五尺株間三尺一反歩七百二十本ノ割合トシタリ其種類ノ名稱及ヒ接穗ノ取寄先ハ左ノ如シ

種	類	接穗取寄先	種	類	接穗取寄先	種	類	接穗取寄先				
多胡早生	東京府	節曲	東京府	元右衛門	本縣	砂川早生	東京府	鼠返	本縣	四五八	本縣	
白早生	東京府	魯桑實生	當場	平市	平	東京府	十文字	本縣	尾網	本縣	皇國桑	愛知縣
魁	京都府	信州菊葉	本縣	布袋	東京府	大縮緬	東京府	陳	本縣	金	子	東京府
四ツ目	本縣	伊達赤木	東京府	長瀬	東京府	岩間	本縣	内田早生	東京府	六之亟	東京府	

直立	神座	大島早生	信州四方咲	山中高助	九紋竜	嘉八	控葉	改良十文字	小笠原	千松
東京府	東京府	東京府	本縣	東京府	東京府	東京府	東京府	本縣	東京府	東京府
	國	落	四方	青	中	島ノ	群馬赤	太	辰五	黒
	富	井	咲	軸	澤	内	木	和	郎	木
	東京府	東京府	東京府	本縣	東京府	東京府	東京府	東京府	本縣	京都府
	加	太	小	奎	德	中	魯	目	青	道
				早						
	納	洋	牧	生	畑	葉	桑	黒	木	元
	東京府	東京府	本縣	東京府	東京府	本縣	東京府	福島縣	東京府	本縣
	京	京		京	京		京	島	京	
	府	府	縣	府	府	縣	府	縣	府	縣

本調査ノ結果ハ左ノ如シ

但シ調査ハ發育中庸ノ三株ヲ選ビ行ヒタリ

一、梢條調査

種類	名條數	條長	條ノ太サ	小枝ノ多少	節間ノ距離	條ノ曲直	條ノ色
----	-----	----	------	-------	-------	------	-----

多胡早生	節曲	元右衛門	砂川早生	鼠返	四五八	白早生	魯桑實生	市平	十文子	尾網	皇國桑	魁	信州菊葉	布袋	大縮緬
二、〇 ^本	二、三	三、〇	二、七	三、三	四、三	三、〇	三、三	二、三	三、七	二、三	二、七	五、〇	二、七	二、七	三、〇
七一、三六 ^寸	五八、八六	五七、四四	五六、七五	五七、四〇	五一、三八	六三、四四	六四、四〇	六三、〇〇	七三、七二	七五、六三	八六、二五	六五、三三	五五、一三	五八、三三	五四、七八
二、九〇 ^寸	一、四九	二、三二	二、〇四	一、八八	一、五五	一、六一	二、〇五	二、二七	一、九七	二、〇四	二、四一	一、八五	一、五四	一、七八	一、五三
中	多	少	中	多	少	少	中	中	中	中	中	少	中	少	ナシ
中	短	短	中	最短	中	最長	中	中	短	最長	長	最長	中	最長	長
直	曲	直	曲	直	曲	直	曲	直	直	直	直	曲	直	曲	直
淡灰青褐	赤褐	褐	濃黃褐	濃黃褐	黑褐	濃黃褐	黃褐	濃灰青褐	灰青褐	濃灰褐	淡褐	濃灰青褐	黃褐	濃黃褐	褐

陳場	金子	四ッ目	伊達赤木	長瀬	岩間	内田早生	六之亟	千松	黒木	道元	小笠原	辰五郎	青木	改良十文字	太和大和
二、三	三、〇	三、〇	三、〇	二、七	二、七	三、七	二、〇	二、七	三、〇	二、七	二、三	二、三	二、七	二、七	三、三
七七、一三	七〇、〇〇	五一、一一	六九、六七	七三、一三	六五、八八	六五、三六	六四、一七	六四、六三	六一、三三	五一、六三	五三、〇〇	六三、五七	七一、六三	七八、六三	六〇、七〇
二、二三	二、〇七	一、六三	二、二八	二、二四	一、九一	一、八七	二、二〇	二、一一	二、三三	一、四六	二、一四	二、二七	二、〇三	二、二三	一、七九
少	ナシ	多	ナシ	少	中	多	多	少	多	少	少	多	中	中	多
中	最長	短	最長	長	中	短	中	中	中	中	最長	中	最長	最短	長
直	直	直	直	直	直	直	曲	直	曲	直	直	直	直	直	直
濃黃褐	褐	淡灰青褐	褐	褐	濃黃褐	褐	淡灰青褐	褐	褐	褐	赤褐	黒褐	濃黃褐	淡灰青褐	灰青褐

目	控	群	魯	嘉	島	中	九	中	德	山	青	奎	信	四	小
黑	葉	馬赤木	桑	八	ノ内	葉	紋	澤	畑	中高助	軸	早生	四方咲	方咲	牧
二、七	二、三	三、〇	二、三	二、三	三、三	一、七	二、〇	二、七	二、〇	二、三	三、〇	三、七	三、〇	四、〇	二、七
四九、六二	六四、二九	五五、八八	六四、〇〇	六四、二三	四一、四〇	五九、四〇	五二、八三	五四、〇〇	五八、八三	六五、一四	五八、一一	五七、〇〇	五五、〇〇	五四、三三	七三、〇〇
一、三六	二、〇一	一、六三	二、二六	一、六四	一、五七	二、一四	一、九四	一、九四	二、一四	二、一七	一、八六	一、七九	一、四九	一、六七	二、二六
少	中	少	少	ナシ	少	多	多	中	少	多	中	中	少	中	中
短	中	中	最長	中	中	長	短	中	中	中	中	中	短	短	中
直	直	曲	曲	直	直	直	曲	直	直	直	直	直	直	直	直
濃灰青褐	黃褐	褐	淡灰青褐	灰青褐	淡褐	褐	濃黃褐	濃灰褐	濃黃褐	淡黃褐	濃黃褐	淡灰青褐	褐	褐	濃黃褐

大島早生	落井	太洋	神座	國富	加納	直立
三、〇	三、七	三、〇	三、三	三、三	二、〇	三、三
五八、五六	四六、〇〇	六四、六七	六七、二〇	七三、二〇	五九、八三	五五、八九
二、〇二	一、九〇	二、一三	二、〇四	二、〇五	二、四二	二、〇五
中	中	少	少	ナシ	多	中
中	短	短	中	短	中	中
直	曲	直	直	直	直	直
黃褐	褐	濃黃褐	褐	灰青褐	灰青褐	濃黃褐

備考

- (一) 條數ハ各株ノ總數ヲ平均シテ定ム
- (二) 條ノ長サハ各株成長中位ナルモノ三本宛ヲ選ヒ調査平均ス
- (三) 條ノ太サハ(二)ノ梢條ニツキ其最下部ヲ測リ平均ス
- (四) 小枝ノ數ハ(二)ノ梢條ニツキ調査ス
- (五) 節間ノ距離ハ(二)ノ梢條ヲ上中下ニ三等分シ中段ノ芽數ヲ以テ其長サヲ除シ之ヲ定ム
- (六) 節間ノ直曲ハ(四)ノ梢條ニツキ調査ス
- (七) 條ノ色ハ收穫當時肉眼ニヨリ左ノ十一種ニ區別シ鑑定セリ

二、發芽開葉期調査

種類名	破苞期	開葉期					
		第一葉	第三葉	第五葉	第七葉	第九葉	
多胡早生	四月廿七日	五月三日	五月六日	五月十一日	五月廿二日		
節曲	四月十七日	四月廿八日	五月三日	五月十二日			
元右衛門	四月廿七日	五月十日	五月十二日	五月十五日	五月廿七日	六月七日	
砂川早生	四月廿二日	五月五日	五月八日	五月十三日			
鼠返	四月廿七日	五月十一日	五月十三日	五月十六日	五月三十日	六月七日	
四五八	四月十八日	五月八日	五月十日	五月十五日			
白早生	四月廿二日	五月五日	五月七日	五月十一日	五月二十日		

赤	褐	濃	淡	黃	淡	
		黃			黃	
褐		褐	褐	褐	褐	
		濃	濃	灰	淡	
			灰	青	灰	
		灰	青		青	
		褐	褐	褐	褐	

魯桑實生	市平	十文	尾網	皇國桑	魁	信州菊葉	布袋	大縮緬	陳場	金子	四ッ目	伊達赤木	長瀬	岩間	内田早生
四月廿三日	四月二十日	五月一日	四月廿三日	四月廿六日	四月廿七日	四月十九日	四月廿五日	四月廿五日	四月廿七日	四月廿八日	四月廿六日	四月廿八日	四月廿五日	四月廿五日	四月廿五日
五月四日	五月三日	五月十三日	五月四日	五月十一日	五月十日	四月廿九日	五月七日	五月七日	五月十日	五月十一日	五月八日	五月十日	五月十日	五月五日	五月八日
五月七日	五月六日	五月十七日	五月六日	五月十四日	五月十二日	五月四日	五月十一日	五月十日	五月十二日	五月十三日	五月十日	五月十三日	五月十二日	五月八日	五月十一日
五月十七日	五月十日	五月廿二日	五月十日	五月十七日	五月十七日	五月八日	五月十七日	五月十三日	五月十八日	五月十八日	五月十四日	五月十八日	五月十七日	五月十二日	五月十六日
六月一日	五月十六日	六月十一日	五月十五日	五月廿九日	五月三十日	五月十四日	五月廿八日	五月廿四日	五月廿八日	五月廿九日	五月卅一日	五月廿九日	五月廿九日	五月廿三日	五月廿七日
						五月廿三日					六月七日				

六之丞	千松	黒木	道元	小笠原	辰五郎	青木	改良十文字	太和大和	目黒	控葉	群馬赤木	魯桑	嘉八	嶋ノ内	中葉
四月廿二日	五月四日	四月十九日	四月廿四日	四月廿六日	四月廿六日	四月廿五日	四月廿五日	四月廿四日	四月廿七日	四月廿七日	四月廿三日	四月廿三日	四月廿四日	四月廿七日	四月廿四日
五月十日	五月十三日	四月三十日	五月七日	五月十日	五月十日	五月九日	五月十一日	五月四日	五月七日	五月十一日	五月七日	五月七日	五月七日	五月十日	五月八日
五月十二日	五月十五日	五月七日	五月八日	五月十二日	五月十二日	五月十二日	五月十三日	五月七日	五月十日	五月十二日	五月九日	五月十二日	五月十日	五月十一日	五月十一日
五月十七日	五月廿二日	五月十三日	五月十五日	五月十五日	五月十五日	五月十八日	五月二十日	五月十日	五月十五日	五月十七日	五月二十日	五月廿一日	五月十二日	五月十四日	五月十五日
五月廿五日	六月五日	五月廿二日	五月廿八日	五月三十日	五月廿九日	五月廿九日	六月二日	五月廿二日	五月廿八日	五月三十日	五月三十日	六月二日	五月十七日	五月廿五日	五月廿五日
				六月九日	六月六日	六月八日				六月十日					
										日					

直立	加納	國富	神座	太洋	落井	大島早生	小牧	四方咲	信州四方咲	奎早生	青軸	山中高助	德畑	中澤	九紋龍
四月廿三日	四月廿四日	四月廿八日	四月廿七日	四月廿八日	四月廿三日	四月廿六日	四月廿二日	四月廿三日	四月廿三日	四月廿二日	四月廿七日	四月廿六日	四月廿四日	四月廿七日	四月廿四日
五月五日	五月八日	五月十一日	五月九日	五月十一日	五月七日	五月十一日	五月六日	五月二日	五月二日	五月三日	五月九日	五月九日	五月八日	五月十一日	五月九日
五月八日	五月十一日	五月十四日	五月十一日	五月十四日	五月十一日	五月十三日	五月十日	五月五日	五月五日	五月七日	五月十一日	五月十一日	五月十一日	五月十三日	五月十一日
五月十三日	五月十七日	五月二十日	五月十四日	五月十七日	五月十五日	五月十六日	五月十三日	五月九日	五月九日	五月十二日	五月十三日	五月十七日	五月十七日	五月廿一日	五月十五日
五月廿九日	五月廿八日	五月廿九日	五月廿六日	五月廿八日	五月廿九日	五月三十日	五月廿二日	五月廿三日	五月廿三日	五月廿二日	五月廿四日	五月廿四日	五月廿八日	五月廿五日	五月廿四日
		六月七日										六月八日			
		日										日			

備考

破苞期ハ各株芽ノ過半破苞シタルキヲ以テ定ム

開葉期ハ各株毎ニ破苞期中位ノ二芽宛ヲ選ヒ調査ス

三、葉ノ調査

種類名	調査期	形		大小	色	光澤	厚薄	硬軟	成熟早晚	成熟齋否
		刻	裂							
多胡早生	第一期	少		大	中	少	中	中	中	齋
節曲	第一期	少		小	濃	中	厚	硬	早	齋
元右衛門	第三期	少		最小	淡	少	薄	中	中	否
砂川早生	第一期	少		中	中	多	中	中	晚	否
鼠返	第三期	多		小	濃	少	薄	中	晚	否
四五八	第一期	少		小	中	多	厚	硬	早	齋
白早生	第一期	多		中	中	中	中	中	中	齋
魯桑實生	第二期	ナシ		中	中	多	中	軟	早	齋
市平	第一期	多		大	中	少	中	中	早	齋
十文	第三期	少		中	中	少	中	中	晚	否

尾	皇	魁	信	布	大	陳	金	四	伊	長	岩	內	六	千	黑
網	國	州	菊	袋	緇	場	子	ッ	達	赤	間	早	之	松	木
第一期	第二期	第二期	第一期	第二期	第二期	第二期	第二期	第三期	第二期	第二期	第二期	第二期	第二期	第三期	第一期
多	ナシ	ナシ	多	ナシ	多	ナシ	ナシ	中	ナシ	ナシ	多	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
圓	長	長	長	長	長	長	圓	長	圓	長	長	長	長	圓	長
大	大	大	最小	最大	大	中	大	最小	大	大	小	最小	中	最大	大
濃	中	中	濃	中	濃	中	淡	中	淡	濃	中	濃	淡	淡	淡
少	多	多	多	中	少	多	少	少	少	多	少	中	多	中	中
中	中	中	厚	厚	厚	中	薄	中	中	中	中	中	中	厚	薄
中	軟	軟	硬	中	硬	軟	中	中	硬	軟	中	硬	軟	軟	軟
早	晚	中	早	中	早	中	中	中	晚	中	早	早	中	晚	早
齋	齋	齋	否	否	否	齋	齋	否	否	齋	齋	否	齋	否	否

道	小	辰	青	改	太	目	控	群	魯	嘉	嶋	中	九	中	德
笠	五			良	大			馬			ノ	紋			
元	原	郎	木	十	和	黑	葉	赤	桑	八	内	葉	龍	澤	畑
第二期	第三期	第三期	第三期	第二期	第一期	第二期	第三期	第二期	第二期	第一期	第二期	第二期	第二期	第二期	第二期
多	ナシ	ナシ	少	ナシ	ナシ	多	ナシ	ナシ	ナシ	少	少	多	ナシ	少	ナシ
長	圓	長	長	圓	圓	長	長	長	圓	圓	圓	長	長	圓	圓
小	最大	中	大	小	中	小	中	中	最大	小	中	小	大	大	最大
濃	濃	淡	淡	濃	中	濃	濃	中	中	中	濃	濃	濃	中	中
中	多	少	多	中	少	少	中	中	多	多	中	少	中	中	中
厚	厚	薄	中	中	中	中	厚	中	厚	中	中	中	薄	厚	厚
硬	軟	中	軟	中	中	硬	中	軟	軟	中	中	硬	軟	中	硬
早	中	中	晚	晚	早	早	早	中	晚	早	早	早	晚	中	早
否	否	否	齋	齋	齋	否	齋	齋	齋	齋	齋	否	齋	齋	否

直	加	國	神	太	落	大	小	四	信	奎	青	山
立	納	富	座	洋	井	島	牧	方	州	早	軸	中
第二期	第二期	第三期	第二期	第二期	第二期	第二期	第二期	第二期	第二期	第一期	第二期	第三期
少	少	ナシ	ナシ	少	ナシ	ナシ	多	ナシ	ナシ	多	多	ナシ
長	長	長	長	圓	長	長	長	長	長	圓	長	圓
小	中	大	中	大	大	中	中	中	中	中	中	中
濃	濃	中	中	濃	中	淡	濃	中	中	淡	淡	中
少	中	少	少	少	中	多	少	中	中	中	少	少
厚	厚	厚	中	中	中	薄	中	薄	薄	薄	薄	厚
硬	硬	中	軟	硬	中	軟	軟	軟	軟	軟	中	硬
早	早	晚	中	早	中	中	早	早	早	早	晚	中
否	齋	否	齋	齋	齋	齋	齋	齋	齋	否	否	齋

備考

葉ノ調査ハ春蠶掃立後十日目(五月廿三日)二十日目(六月二日)三十日目(六月十二日)ノ三期
ニヨリ成熟ノ早キモノハ右第一期ニ中庸ナルモノハ同上第二期ニ晚キモノハ同上第三期

期ニ調査セリ

四、收穫量並ニ葉梢條ノ割合

種類名	調査期	總	量	葉	量	梢	量	條	量	消耗量	葉梢條ノ割合(千分率)
多胡早生	第一期	三八八、八〇〇	一二五、五二〇	五四、四八〇	二〇一、六〇〇	七、二〇〇	三二九	一四三	五二八		
節 曲	第一期	四二九、六〇〇	一五二、一六〇	四五、六〇〇	二三三、二〇〇	八、六四〇	三六二	一〇八	五三〇		
元右衛門	第三期	六一九、六八〇	二二五、六〇〇	八〇、四〇〇	三〇二、四〇〇	二、二八〇	三七一	一三二	四九七		
砂川早生	第一期	二三五、九二〇	七六、五六〇	三六、七二〇	一一七、六〇〇	五、〇四〇	三三二	一五九	五〇九		
鼠 返	第三期	四五〇、七二〇	二〇七、八四〇	五二、三二〇	一八六、二四〇	四、三二〇	四六六	一一七	四一七		
四五八	第一期	二一八、六四〇	六一、四四〇	二七、一二〇	一二七、九二〇	二、一六〇	二八四	一二五	五九一		
白早生	第一期	二一六、四八〇	七五、八四〇	三三、三六〇	一一三、二〇〇	四、〇八〇	三五七	一五七	四八六		
魯桑實生	第二期	四三九、二〇〇	一六五、三六〇	五二、八〇〇	二一一、二〇〇	九、八四〇	三八五	一二三	四九二		
市 平	第一期	三七二、二四〇	一〇四、四〇〇	四八、四八〇	二一〇、二四〇	九、一二〇	二八七	二三四	五七九		
十文字	第三期	四八二、四〇〇	一七六、八八〇	七三、二〇〇	二二六、三二〇	六、〇〇〇	三七一	一五四	四七五		
尾 網	第一期	三五二、〇八〇	一二五、〇四〇	四六、〇八〇	一七三、五二〇	七、四四〇	三六三	一三四	五〇三		
皇國桑	第二期	四四一、一二〇	一九六、三二〇	四〇、〇八〇	二〇〇、六四〇	四、〇八〇	四四九	九三	四五八		

魁	第二期	三三六、〇〇〇	一三三、二〇〇	三六、七二〇	一六三、二〇〇	二、八八〇	四〇〇	一一〇	四九〇
信州菊葉	第一期	一八二、四〇〇	七四、六四〇	二九、二八〇	七四、一六〇	四、三二〇	四一九	一六四	四一七
布袋	第二期	二二九、九二〇	一〇四、六四〇	四三、二〇〇	七六、八〇〇	五、二八〇	四六六	一九二	三四二
大縮緬	第二期	二七六、七二〇	一三〇、八〇〇	三八、六四〇	一〇四、四〇〇	二、八八〇	四七八	一四一	三八一
陳場	第二期	二八八、〇〇〇	一〇四、一六〇	三九、六〇〇	一四〇、六四〇	三、六〇〇	三六六	一三九	四九五
金子	第二期	三〇七、二〇〇	一二八、一六〇	四〇、〇八〇	一三六、五六〇	二、四〇〇	四二〇	一三二	四四八
四ッ目	第三期	二七一、二〇〇	一二一、二〇〇	三三、八四〇	一一二、五六〇	三、六〇〇	四五三	一二六	四二一
伊達赤木	第二期	三三三、六〇〇	一三三、九二〇	五〇、四〇〇	一四四、〇〇〇	五、二八〇	四〇八	一五四	四三八
長瀬	第二期	三四四、六四〇	一四八、〇八〇	三三、六〇〇	一五八、四〇〇	四、五六〇	四三五	九九	四四六
岩間	第二期	三四〇、八〇〇	一三九、二〇〇	五二、八〇〇	一三九、六八〇	九、一二〇	四二〇	一五九	四二一
内田早生	第二期	三七九、二〇〇	一三四、四〇〇	五九、二八〇	一八二、四〇〇	三、一二〇	三五七	一五八	四八五
六之亟	第二期	三六三、六〇〇	一七〇、四〇〇	三八、八八〇	一四三、二八〇	二、〇四〇	四八三	一一〇	三〇七
千松	第三期	四〇五、三六〇	二〇七、六〇〇	四九、四四〇	一四三、〇四〇	五、二八〇	五一九	一二四	三五七
黒木	第一期	三〇七、六八〇	一〇〇、八〇〇	三〇、七二〇	一六七、七六〇	八、四〇〇	三三七	一〇三	五六〇
道元	第二期	二〇九、二八〇	八三、五二〇	三四、〇八〇	八五、二〇〇	六、四八〇	四一二	一六八	四二〇
小笠原	第三期	三八四、九六〇	一六八、七二〇	五九、五二〇	一四六、一六〇	二、五六〇	四五二	一五九	三九〇

辰五郎	第三期	四三四、六四〇	一九三、六八〇	三五、七六〇	二〇一、八四〇	三、三六〇	四四九	八三四六八
青木	第三期	三六一、五二〇	一六七、五二〇	二七、九二〇	一五六、二四〇	九、八四〇	四六三一	一〇五四三二
改良十文字	第二期	二四五、五二〇	九〇、二四〇	一九、六八〇	一三二、〇〇〇	三、六〇〇	三七三	八一五四六
太和大	第一期	二一七、九二〇	七二、二四〇	三〇、七二〇	一〇九、九二〇	五、〇四〇	三三九	一四四五一七
目黒	第二期	一三三、二〇〇	四八、〇〇〇	二〇、八八〇	六一、二〇〇	三、一二〇	三六九	一六〇四七一
控葉	第三期	二九一、六〇〇	一三六、八〇〇	三〇、四八〇	一一六、八八〇	七、四四〇	四八一	一〇七四一二
群馬赤木	第二期	二三五、二〇〇	九六、〇〇〇	三七、二〇〇	九九、八四〇	二、一六〇	四一二	二六〇四二八
魯桑	第二期	三一六、八〇〇	一二四、三二〇	三二、八八〇	一五八、四〇〇	一、二〇〇	三九四	一〇四五〇二
嘉八	第一期	一三四、四〇〇	五四、〇〇〇	二三、〇四〇	五四、九六〇	二、四〇〇	四〇九	一七五四一六
島ノ内	第二期	二三五、二〇〇	一〇三、四四〇	四〇、〇八〇	八九、〇四〇	二、六四〇	四四五	一七二三八三
中葉	第二期	一八九、八四〇	八七、八四〇	二五、二〇〇	六八、四〇〇	八、四〇〇	四八四	一三九三七七
九紋龍	第二期	二九四、〇〇〇	一二七、四四〇	四七、二八〇	一一四、〇〇〇	五、二八〇	四四二	一六三三九五
中澤	第二期	二六〇、四〇〇	一〇七、五二〇	二六、六四〇	一二三、六〇〇	二、六四〇	四一七	一〇四四七九
徳畑	第二期	三五六、四〇〇	一八一、二〇〇	三二、八八〇	二三九、二〇〇	三、一二〇	五一三	九三三九四
山中高助	第三期	四二一、六八〇	一八三、三六〇	四九、六八〇	一八〇、七二〇	七、九二〇	四四三	一二〇四三七
青軸	第二期	三三四、八〇〇	一四一、一二〇	四六、五六〇	一四一、六〇〇	五、五二〇	四二九	一四一四三〇

奎早生	第一期	二七三、六〇〇	一一七、六〇〇	二八、五六〇	一二〇、四八〇	六、九六〇	四四一	一〇七四五二
信州四咲	第二期	二七六、四八〇	一一四、二四〇	四五、一二〇	一一五、二〇〇	一、九二〇	四一六	一六四四二〇
四方咲	第二期	三二二、八〇〇	一三七、七六〇	三二、一六〇	一四六、四〇〇	六、四八〇	四三六	一〇一四六三
小牧	第二期	三〇五、〇四〇	一一一、一二〇	三九、六〇〇	一四九、〇四〇	五、二八〇	三七一	一三二四九七
大島早生	第二期	三六六、二四〇	一七六、四〇〇	三七、六八〇	一四八、〇八〇	四、〇八〇	四八七	一〇四四〇九
落井	第二期	三五一、六〇〇	一六二、七二〇	四一、五二〇	一四四、〇〇〇	三、三六〇	四六七	一一九四一四
太洋	第二期	三〇六、〇〇〇	一一五、二〇〇	四八、四八〇	一三六、八〇〇	五、五二〇	三八四	一六一四五五
神座	第二期	四一七、八四〇	一八九、六〇〇	四六、〇八〇	一七四、〇〇〇	八、一六〇	四六三	一一二四二五
國富	第三期	四五八、六四〇	一九三、六八〇	七八、七二〇	一七八、五六〇	七、六八〇	四二九	一七五三九六
加納	第二期	二六八、八〇〇	一〇四、一六〇	四二、七二〇	一一五、九二〇	六、〇〇〇	三九六	一六三四四一
直立	第二期	三三二、四〇〇	一二四、八〇〇	四四、八八〇	一五六、〇〇〇	六、七二〇	三八三	一三八四七九

備考

成熟ノ早晚ニヨリ葉ノ調査ト同様ノ各期別ニ調査セリ

五、刈取後ノ生育及ヒ落葉期調査

種類名	萌芽期	七月一日	七月十五日	八月一日	八月十五日	九月一日	十月一日	落葉期
		長葉數條	長葉數條	長葉數條	長葉數條	長葉數條	長葉數條	

多胡早生	六月二日	一六、七 ^寸	一一、二 ^枚	二七、七 ^寸	一九、三 ^枚	三六、八 ^寸	二六、八 ^枚	四四、五 ^寸	三三、〇 ^枚	五一、〇 ^寸	四〇、〇 ^枚	六五、八 ^寸	四四、〇 ^枚	十一月五日
節曲	六月五日	三、八	一〇、〇	一八、八	一四、七	三〇、五	二二、五	三七、五	三〇、七	四五、一	三九、〇	五一、六	五〇、六 ^寸	同日
元右衛門	六月廿五日	—	—	一〇、三	一〇、三	二六、〇	一九、一	三四、〇	二六、六	三七、六	四三、〇	五一、五	五四、〇 ^寸	同日
砂川早生	六月三日	一四、八	二二、七	二〇、七	三九、一	二七、〇	四七、六	三三、一	五八、三	三八、六	五八、五	四五、六 ^寸	同日	同日
鼠返	六月廿六日	—	—	一〇、七	一一、七	二六、一	二四、五	三四、〇	四〇、〇	四三、八	五四、〇	四五、六	六四、〇 ^寸	同日
四五八	六月三日	八、七	一〇、三	一五、五	一四、五	二五、六	一七、五	三七、六	二五、〇	四三、三	三五、〇	五三、三	三九、六 ^寸	同日
白早生	六月五日	一五、八	二二、五	二三、三	一八、二	四四、三	二五、五	六一、八	三五、〇	六八、三	四四、〇	七一、〇	四五、〇 ^寸	同日
魯桑實生	六月十五日	八、七	七、三	一八、五	一三、七	三三、五	二〇、八	四〇、〇	三〇、六	五〇、〇	三六、〇	五八、六	四一、二 ^寸	同日
市平	六月二日	一七、五	二三、三	二六、〇	一八、五	三七、五	二四、〇	四三、五	三〇、〇	五一、六	三七、三	六四、一	四一、〇 ^寸	同日
十文字	六月廿七日	—	—	八、〇	一〇、〇	二五、〇	一六、五	三七、三	二四、七	四八、〇	四二、〇	六〇、五	五一、〇 ^寸	同日
尾網	六月二日	一七、六	一二、七	二七、二	一七、三	四四、五	二六、六	五三、八	三三、〇	六八、三	四一、六	六九、六	四一、〇 ^寸	同日
皇國桑	六月廿一日	—	—	一三、二	一一、七	三一、六	二〇、一	四八、〇	二九、〇	六一、〇	四二、〇	六七、六	四一、〇 ^寸	同日
魁	六月十八日	四、八	六、三	一三、二	一一、五	二七、一	一八、一	四三、六	二三、三	四四、〇	二九、三	四八、〇	三〇、五 ^寸	同日
信州菊葉	六月二日	二、八	一〇、七	一九、〇	一六、二	三七、〇	二三、〇	三七、六	二六、〇	四二、〇	三〇、六	四二、八	三一、〇 ^寸	同日
布袋	六月十七日	五、八	五、五	一二、七	九、八	三五、〇	一五、八	三七、五	二二、六	四六、〇	三七、六	四六、八	二八、〇 ^寸	同日
大縮緬	六月十五日	九、八	七、五	一九、七	一三、七	三三、八	二三、一	四一、五	二八、六	四七、六	三五、三	五〇、六	三七、六 ^寸	同日

陳 塲	六月十七日	四、〇	五、八	二、八	一一、五	二六、三	一六、六	四四、六	二七、三	四六、六	三四、三	五四、一	三六、三	同	六	日
金 子	六月十七日	五、五	六、七	三、八	一一、二	二九、六	一七、三	四〇、〇	二三、三	五〇、〇	二八、三	五五、六	三五、六	同	四	日
四 ツ 目	六月廿四日			六、七	一一、三	一八、五	一六、五	一九、三	二二、〇	二一、〇	三〇、〇	二二、〇	三〇、六	同	五	日
伊 達 赤 木	六月十七日	五、九	七、〇	一五、六	一一、八	二九、三	一七、一	四〇、〇	二六、〇	四八、三	二九、三	五五、〇	三〇、三	同	四	日
長 瀬	六月廿四日			九、〇	九、五	二〇、四	一三、六	三〇、一	二〇、六	三六、六	二五、〇	五七、四	三二、〇	同		
岩 間	六月十七日	五、九	六、八	一三、〇	二二、二	二七、〇	一九、五	三五、三	二七、一	四三、三	三六、六	四八、五	三八、〇	同		
内 田 早 生	六月十七日	五、〇	七、三	一三、〇	一五、五	二六、八	二五、〇	三六、三	三七、〇	四五、〇	五九、〇	五三、八	六四、〇	同		
六 之 亟	六月十八日	三、七	六、〇	一二、三	一一、二	二三、八	一五、八	二九、六	二二、六	三二、六	二七、三	四九、五	三二、三	同		
千 松	七月八日					一五、三	一二、八	三二、六	二二、六	四〇、三	三二、〇	五三、七	三五、三	同		
黒 木	六月二日	一五、七	二二、八	二五、五	一九、〇	四四、〇	二六、〇	四七、〇	二八、三	五五、三	四〇、〇	五七、三	四〇、六	同		
道 元	六月十九日	五、〇	六、八	一二、七	一一、三	二五、二	一九、〇	三三、二	二五、〇	四一、三	三五、〇	四八、〇	三七、六	同		
小 笠 原	六月三十日			三、三	六、五	一三、三	一〇、八	二一、八	一三、六	三三、〇	二〇、〇	四五、八	二二、〇	同	六	日
辰 五 郎	六月三十日			三、五	七、五	二〇、一	一二、八	三三、二	二二、〇	四一、三	三二、六	五五、〇	三五、〇	同	五	日
青 木	七月三日			四、二	七、〇	一二、八	九、一	二三、五	一四、〇	二四、三	二四、六	四六、〇	二五、六	同	四	日
改良十文字	六月十七日	五、三	七、八	一四、八	一一、二	三二、四	三〇、三	四二、一	四〇、六	五二、〇	五七、三	五五、〇	五八、〇	同		
太 大 和	六月三日	一五、九	二二、三	二七、〇	二〇、〇	四二、〇	三〇、〇	五二、六	二七、六	六三、〇	四六、〇	六四、三	四七、〇	同		

目	控	群馬赤	魯	嘉	島ノ	中	九紋	中	德	山中高助	青	奎	信州四方	四方	小
黑	葉	木	桑	八	内	葉	龍	澤	畑	助	軸	生	咲	咲	牧
六月十八日	六月廿八日	六月十九日	六月十九日	六月三日	六月十六日	六月十八日	六月十九日	六月廿二日	六月十九日	六月廿九日	六月十八日	六月三日	六月十九日	六月十八日	六月十八日
五、〇	—	五、〇	三、七	一五、五	五、〇	五、〇	四、三	—	三、七	—	六、八	一四、八	六、八	六、六	六、九
六、三	—	六、〇	五、八	一二、三	六、七	六、八	六、〇	—	六、五	—	七、二	二、五	七、二	七、七	八、三
一五、三	八、〇	一三、八	一三、八	二五、〇	一四、三	一三、〇	一〇、三	八、三	一三、三	六、三	一四、〇	二六、二	一六、〇	一四、三	一五、二
一三、七	八、二	一二、二	一〇、五	一九、〇	二、七	二、五	三、〇	九、五	二、五	八、八	二二、五	一九、二	九、五	二四、二	二四、〇
二八、六	二二、六	二七、〇	三〇、〇	三九、一	二八、三	二七、一	二二、〇	二二、三	二九、三	二三、一	三〇、五	三七、六	三一、一	二五、五	二七、一
二二、〇	一六、一	一七、二	二六、〇	二七、三	一七、五	二一、〇	一八、一	一四、〇	一九、一	一四、〇	一九、一	二八、〇	二四、〇	一六、五	二二、三
三七、五	三三、八	三七、〇	四一、三	四五、一	三七、六	三六、五	三六、八	三一、〇	三七、一	三〇、三	三九、五	四五、三	四〇、〇	三七、〇	三三、八
三〇、六	二三、〇	二四、〇	二一、六	三一、六	二六、三	二四、六	二七、三	二二、三	二四、三	一八、六	二五、〇	二四、六	三二、〇	二四、六	二四、〇
四六、六	四三、三	四六、六	五三、五	五六、六	四〇、〇	五〇、〇	三四、六	四四、三	四四、三	三四、三	五〇、〇	四九、六	四六、六	四五、〇	四五、六
三八、六	三〇、六	三二、〇	三三、〇	四三、三	三三、〇	三三、六	三四、〇	二七、六	三一、六	三〇、〇	三六、〇	四一、三	四三、三	四二、〇	四〇、六
五、一、三	五、〇	五、一、三	六六、六	五七、〇	四五、〇	五八、〇	四〇、三	五六、六	五一、五	四〇、三	五三、六	五一、〇	四八、三	四五、六	五六、〇
四〇、三同	三三、六同	三四、〇同	三五、八同	四四、〇同	三三、〇同	三五、〇同	三六、〇同	三一、六同	三一、六同	三〇、〇同	三七、八同	四一、八同	四三、六同	四三、三同	四二、六同
四日	五日	六日	四日	四日	六日	六日	六日	五日	五日	四日	五日	五日	四日	四日	四日

大島早生	落井	太洋	神座	國富	加納	直立
六月十八日	六月十八日	六月十七日	六月十九日	六月廿九日	六月十九日	六月十八日
六、三	八、五	五、八	四、九	—	五、八	六、七
八、三	八、八	七、二	七、二	—	六、八	七、〇
一五、二	一三、三	一四、八	一三、七	八、七	一二、五	一四、三
一三、八	一二、〇	一二、八	一三、八	一〇、〇	一一、八	一六、三
二九、五	二四、五	三〇、一	二九、六	二七、〇	二三、五	三三、〇
一九、八	一七、〇	一八、六	一九、八	一八、〇	一六、三	二七、〇
三九、〇	三、七	四、三	四、一	三八、〇	三三、二	四〇、五
二五、〇	二三、五	二七、六	三〇、六	二七、五	二七、三	三六、〇
四七、三	四四、六	五一、六	五、三	四六、六	四五、五	四八、三
三六、三	三八、六	三八、〇	三二、六	三七、〇	三八、〇	四三、三
五、〇	四九、五	五、〇	五八、〇	四八、八	四七、〇	六一、〇
三八、〇	四〇、〇	三九、三	三三、三	三八、六	三八、〇	四七、六
同	同	同	同	同	同	同
六		四			五	四
日		日			日	日

備考

萌芽期ハ各株過半其期ニ達シタルヲ以テ定ム以下試験悉ナ之ニ同シ
 條長及葉數ハ發育中位ノモノニ芽宛ヲ選ヒ調査ス

落葉期ハ落葉初期ヲ以テ定ム

以上調査ノ結果ニ據リ比較的良種ト認ムヘキモノヲ掲クレハ左ノ如シ

一、春蠶一二齡用

多胡早生 節 曲 尾 網 至 早生
 市 平 黒 木

右ノ中節曲ハ發芽期最モ早ク收葉量亦優位ナルモ硬化稍々早ク奎早生。黒木ノ兩種亦成熟不齋ノ傾キアリ

一、同二三四齡用

皇	國	桑	神	座	德	畑	大島	早生	六	之	亟
落	井	魯	桑	實生	長	瀬	伊達	赤木	魁		
金	子	九	紋	龍	魯	桑					

各種共收葉量多キモ德畑及ヒ伊達赤木ハ硬化早ク且ツ成熟齋一ナラサルカ如シ
一、同四五齡用

鼠	返	千	松	元	右衛門	國	富	辰	五	郎	
山	中	高	助	小	笠	原	十	文	字	青	木

右ノ内山中高助ハ硬化稍早ク其他ノ各種ハ成熟不齋ノ傾キアリ

一、夏秋蠶用

千	松	國	富	小	笠	原	十	文	字	落	井
青	木	九	紋	龍	魯	桑					

右ノ各種ハ比較的葉形大ニシテ肉厚ク且ツ硬化晚ク夏秋蠶用トシテ適當スルモノ、如シ

第一 密植種類試驗 (繼續三年目)

本試驗ノ目的ハ春秋蠶兼用トシテ密植速成ニ適スル種類ヲ知ラントスルニアリ植付株數ハ一反歩三千本ノ割合トシ畦巾三尺株間一尺二寸トシタリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	魯桑實生
第二區	小牧
第三區	十文字
第四區	四方咲
第五區	細江
第六區	鼠返
第七區	九紋龍
第八區	山中高助

各區ニ於ケル枝條發芽前ノ狀態ト破苞期開葉期並ニ落葉期等ハ左ノ如シ

試驗別	條ノ數	條ノ長サ	條ノ太サ	破苞期	開葉期	刈取後萌芽期	落葉期
一魯桑實生	六 _本 七	三 _寸 五 _寸 八九	一 _寸 〇〇	四月廿五日	四月三十日	六月十四日	十一月四日

[illegible]

備考

株直期日 六月七日トス

五月二日ニ於ケル結霜ノ爲メ開葉ノ程度ニヨリ各種共多少ノ被害アリタリ從テ其後ノ發育上幾分ノ遲速ヲ生セリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

(其二) 收穫調查

試驗別	總量	春蠶				秋蠶		春秋收穫量合計等位			
		葉量	稍量	一條量	消耗量	葉量步合	二齡末		五齡末		
一 魯桑實生	二九七、〇〇〇	二二三、五八八	三四、五三三	二二三、八四六	五、二三	四二、三	四四、八三三	八〇、八五二	二五、七三四	二四九、二四二	六

二	小	牧	三六五、四四五、一八九、八一九	三八、〇二八、一三〇、九〇九	六、七〇九	五二、九	六五、七二四	五五、五五六、二二、二七〇	三三、〇八九	一
三	十	文	二九三、九九三、七五、五四	三三、五二二、九、五九五	四、四五九	四七、五	四二、〇八三	六三、四六二、〇五、五四五	二四三、〇五九	七
四	四	方	三四、〇九六、六四、二四一	二八、九二六、一四、五八	六、三六一	四八、六	四三、三八	七六、〇二七、一六、一五五	二八〇、三九六	三
五	細	江	二七八、五六九、一四、四八五	二四、八五六、一〇三、七、四	五、一四三	五三、〇	三〇、九八一	七九、〇九二、一〇、〇七二	二五四、九八	五
六	鼠	返	二五四、四八三、一三五、五二七	二五、三四五	八七、九三二	五四、五	二三、五七一	四六、三四	六九、八九五	八
七	九	紋	三二〇、八四三、一五四、六九九	三〇、三六二、二二、八九二	二、八九二	五〇、二	五四、四〇六	八五、一三五	三九、五四一	二
八	山	中高助	三三二、九六七、一六〇、二二〇	三三、三〇八、一三六、八三	三、六二六	四八、七	三四、三五二	八二、三五三、一六、七〇四	二七六、九四	四

備考

收穫期ハ左ノ如シ

春期伐採收穫期

春蠶三齡末(六月三日)

秋期摘葉期

秋蠶二齡末(八月十三日)ト五齡末(八月卅一日)

(其二) 葉ノ調査

試驗別	葉ノ長サ		大巾	厚薄	硬軟	成熟早晚	
	長	サ					
一 魯桑實生	三、九五二	三、六四八	六四	硬	春蠶期	早	老硬早晚
二 小牧	四、六二四	三、六八八	五九	中	秋蠶期	早	中

一	二	三	四	五	六	七	八
魯桑實生	小牧	十文	四方	細江	鼠返	九紋龍	山中高助
五五九、一九五	六九八、八一五	五四四、二四六	六一九、五四六	五八三、九八七	四六一、四九三	六八〇、六三三	五七〇、六九〇
一八六、三九八	二三二、九三八	一八一、四一五	二〇六、五一五	一九四、六六二	一五三、八三一	二二六、八七七	一九〇、二三〇
六	一	七	三	四	八	二	五

前表ニ據レバ昨年迄收葉量合計ニ於テ第二位ニアリシ小牧ハ本年度ニ至リ九紋龍ヲ凌キテ第一位ヲ占メ同第七位ニアリシ山中高助ハ魯桑實生十文字ヲ凌キテ第五位ヲ占ムルニ至レリ

第三 苗木優劣試驗

(栽植三年目)

本試驗ノ目的ハ採苗法ヲ異ニシタルハ桑樹ノ發育收量及樹勢等ヲ驗シ其優劣ヲ知ラントスルニアリ

試験ノ方法トシテハ何レモ同齡ノ小牧種ヲ用ユ其試験ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	接木苗
第二區	横伏苗
第三區	代出苗
第四區	盛取苗

但シ本試験ハ夏秋蠶兼用ノ桑園ニ就テ行フ

各區ニ於ケル枝條ノ狀態ト刈取後ノ萌芽期トハ左ノ如シ

試驗別條ノ數條ノ長サ條ノ太サ刈取後萌芽期					
一	接木苗	九、七 _本	六〇、一一 _サ	一、七八 _サ	五月廿六日
二	横伏苗	六、七	五八、六七	一、七六	同
三	代出苗	一〇、〇	六〇、五六	一、七八	同
四	盛取苗	六、〇	五八、八九	一、八三	同

備考

發芽前伐採期ハ五月九日トス

條ノ數條ノ長條ノ太サノ調査ハ秋期摘葉當時ニ行ヒタリ

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別		夏 期 摘 葉 量	秋 期 摘 葉 量	合 計	收 葉 等 位
一	接 木 苗	三四、八六五	一二五、七二四	一五〇、五七九	一
二	橫 伏 苗	一九、一三三	一一二、〇〇〇	一三一、一三三	三
三	代 出 苗	二七、八二〇	一一七、一七〇	一四四、九九〇	二
四	盛 取 苗	一六、八四一	七六、五〇〇	九三、三四一	四

備 考

夏期ハ夏蠶二齡末七月十七日ニ於テ條ノ下半部ヲ摘葉シ秋期ハ秋蠶五齡末八月二十七日ニ於テ梢頭ノ三四葉ヲ殘シ其他ノ全部ヲ摘葉シタリ

右ノ成績ニ據レバ枝條ノ發育ハ代出苗最モ良好ナレモ收葉量ノ多キハ接木苗ニシテ代出苗橫伏苗之ニ次キ盛取苗ハ接木苗ニ比シ葉量一反歩ニ對シ約五十七貫匁少ナク各區中最モ劣リタリ

第 四 植 付 深 淺 試 驗 (栽植三年目)

本試驗ノ目的ハ植付ノ深淺ニヨリ樹勢收葉量等ニ及ボハ關係ヲ知ラントスルニアリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	淺植	植込ノ深サ六寸
第二區	普通植	同 一尺
第三區	深植	同 二尺

但シ本試驗ハ夏秋蠶兼用春期發芽前枝條伐採桑園ニ就テ行フ

各區ニ於ケル枝條ノ狀態ト刈取後ノ萌芽期トハ左ノ如シ

試 驗 別	條 數	條 ノ 長 サ	條 ノ 太 サ	刈取後萌芽期
一 淺植	九、六 [*]	六二、六七 ^サ	一、七九 ^サ	五月廿六日
二 普通植	七、三	六四、四四	一、八一	同
三 深植	七、三	五八、七八	一、五四	同

備 考

發芽前伐採期ハ五月九日トス

條ノ數、條ノ長サ、ノ條ノ太サ調査ハ秋期摘葉當時ニ行フ

調査方法ハ總テ種類試驗ニ同シ

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別	夏蠶期摘葉量	秋蠶摘葉量	合 計	收葉等位
-------	--------	-------	-----	------

一	二	三
淺植	普通植	深植
三一、〇八二	三一、五三三	二八、一〇二
一二四、二〇〇	一二八、三三三	一二三、五五九
一五五、二八二	一五九、八六六	一五一、六六一
二	一	三

備考

夏期ハ夏蠶二齡末(七月十八日)ニ於テ條ノ下半部ヲ摘葉シ秋期ハ秋蠶五齡末八月廿七日ニ於テ梢頭三四葉ヲ殘シ其他ノ全部ヲ摘葉セリ

右ノ成績ニ據レバ普通植區最モ優位ヲ占メ深植區最モ劣レリ

又深植區ハ栽植當年枯株ヲ生シ植繼ヲ要スルコト最モ多カリキ

第五 仕立方試驗

(栽植四年目)

本試驗ノ目的ハ桑樹ノ仕立方ニヨリ收葉量葉質患害ノ多少樹齡等ニ及ホス關係ヲ知ラントスルニアリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

根刈

中刈

高刈

攀 式

秋 田 式

各區ニ於ケル試験面積桑種及ヒ畦巾株間ハ左ノ如シ

試 驗 別	桑 種	植 付 步 數	畦 巾	株 間	對一反步株數
根 刈	赤木、鼠返、小枚	五 畝 步	四 尺 五 寸	二 尺 六 寸 七 分	九 百 株
中 刈	赤木、四方咲	三 畝 步	五 尺	四 尺	五百四拾株
高 刈	赤木、十文字	七 畝 六 步	六 尺	六 尺	三百 株
攀 式	赤木、魯桑	三畝拾八步	九 尺	九 尺	百卅三株
秋 田 式	赤木、魯桑	四 畝 步	十 二 尺	十 二 尺	七拾五株

各區ニ於ケル仕立方ハ左ノ如シ

一、根 刈 仕 立

植付ノ當年良條一本ノミヲ殘シ其他ヲ搔キ取リ翌年春期發芽前地上三四芽ヲ存シ其梢條ヲ切斷シ三年目ノ春期ヨリ伐採收葉ス

一、中 刈 仕 立

植付ノ翌年春期發芽前土際ヨリ梢條ヲ切斷シ一本ノ良條ヲ直立セシメ三年目發芽前一尺

五寸ノ高サニ於テ切斷シ其切斷部ニ近キ所ニ二三芽ヲ存シ以下全部ノ芽ヲ除キ四年目ヨリハ三年目ト同一ノ場所ヨリ伐採收葉ス

一、高刈仕立

二年目ノ春發芽前ニ於テ地表面ヨリ梢條ヲ切り去リ一本ノ良條ヲ直立セシメ三年目發芽前四尺ノ高サニ切斷ス其他前法ニ異ナラス

一、拳式秋田式ノ二區ハ未タ成木年限ニ達セサルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

各區ニ於ケル破苞期開葉期及ヒ葉色黃變期ト落葉期トハ左ノ如シ

但シ同一種類タル赤木種ニツキ調査ス

試驗別	破苞期	開葉期	葉色黃變期	落葉期
根刈	四月廿八日	五月九日	十一月一日	十一月四日
中刈	同	同	同	同
高刈	同	同	十五日	同

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、收穫調查

試驗別	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	收穫等位	葉梢條割合(千分率)
							葉—梢—條

高刈	根刈		中刈		赤木		鼠返		小牧	
	赤木	鼠返	赤木	鼠返	赤木	鼠返	赤木	鼠返	赤木	鼠返
十文字	一六〇、九七二	八二、六八六	二二、七六一	五、六四五	七五、一三一	四四、四二	一四、三六	一四、三六	一四、三六	一四、三六
赤木	一八〇、五三一	九一、七〇九	二九、四六九	五五、五一五	二、八三八	六五、一一七	〇、三一九	〇、三一九	〇、三一九	〇、三一九
四方咲	二六三、〇五三	一一四、〇一四	三〇、六三三	一一二、七六一	五、六四五	二四、七七	一六、六三五	一六、六三五	一六、六三五	一六、六三五
赤木	三三三、六七七	一五六、一六八	五四、二八一	一一七、〇九四	六、一三四	二四、七七	一六、六三五	一六、六三五	一六、六三五	一六、六三五
鼠返	三〇〇、四五〇	一五六、九六〇	四六、〇八〇	九二、五二〇	四、八九〇	一五、三二	一五、六三	一五、六三	一五、六三	一五、六三
小牧	二八九、九一七	一二三、四九六	五四、二三五	一〇一、七三九	一〇、四四八	四四、四二	一九、四三	一九、四三	一九、四三	一九、四三
赤木	三二八、六三五	一五四、七五五	五四、八一〇	一〇六、二九〇	二二、七八〇	三四、九〇	二七、四三	二七、四三	二七、四三	二七、四三

備考

收穫ノ時期ハ左ノ如シ

赤木、小牧、四方咲ハ春蠶四齡末(六月九日)トス

鼠返、十文字ハ春蠶五齡末(六月十八日)トス

右成績ニ據リ仕立方別赤木ト他ノ種類トヲ比較スルハ根刈ニ在リテハ赤木ノ收葉量ハ鼠返ノ次位ニアレモ中刈高刈ニ在リテハ何レモ首位ヲ占ム

二、葉ノ調査

試験別	長	巾	厚	硬軟
春				
秋				

根刈(赤木)	三、八〇二 ⁺	二、九三〇 ⁺	四七 ⁺	軟	軟
中刈(赤木)	三、九六八	三、〇二二	四五	硬	硬
高刈(赤木)	四、二六六	三、一三四	四〇	中	軟

葉質ハ尙ホ葉質試験部仕立方ニヨル桑樹ノ葉質試験ヲ參照スヘシ

尙ホ根刈區ニ於ケル初年(樹齡三年目)ノ收葉量ヲ掲ケ之ト本年度ノ合計量ヲ示セバ左ノ如シ

種類別	初年收葉量	二ケ年間收葉量合計	同 上 平 均	同 上 等 位
赤木	一四六、五七一	三〇一、三二六	一五〇、六六三	一
鼠返	一三六、八〇〇	二九三、七六〇	一四六、八八〇	二
小牧	一三五、五〇〇	二五八、九九六	一二九、四九八	三

以上ノ成績中赤木ニ就テ見ルルハ中刈區最モ多ク根刈區之ニ次キ高刈區最モ少シ又同一仕立方ニ於ケル收葉量ノ多キ種類ハ根刈區二ケ年平均及ヒ中刈區高刈區ニ於テ何レモ赤木優位ヲ占メタリ

第六 植付株數試験 (繼續二年目)

本試験ノ目的ハ株數ノ異ナルニ從ヒ其發育收葉量等ニ及ホス結果ヲ明カニシ適當ナル植付

株數ヲ知ラントスルニアリ其ノ試験ノ區別ハ左ノ如シ

但シ株數ノ疎密ニヨリ植付ノ深淺ヲ異ニシタル爲メ假リニ第四區以上ヲ疎植第五區以下ヲ密植トシタリ

疎				密			
植				植			
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八
區	區	區	區	區	區	區	區
六百	九百	千二百	千五百	千八百	二千四百	三千	三千六百
本植	本植	本植	本植	本植	本植	本植	本植

各區ニ於ケル畦巾ト株間トハ左ノ如シ

第一區	試驗別	畦	巾	株	間
六 百 本 植					
四 尺 五 寸					
四 尺					

第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區	第 六 區	第 七 區	第 八 區
九 百 本 植	千 二 百 本 植	千 五 百 本 植	千 八 百 本 植	二 千 四 百 本 植	三 千 本 植	三 千 六 百 本 植
四 尺 五 寸	三 尺 七 寸 五 分	三 尺 七 寸 五 分	三 尺	三 尺	三 尺	三 尺
二 尺 六 寸 七 分	二 尺 四 寸	一 尺 九 寸 二 分	二 尺	一 尺	一 尺	一 尺

本試驗ハ甲乙二個所ニ於テ行ヒ其甲號地ヘノ肥料ハ當場所定ノ普通量ヲ施シ乙號地ヘハ甲號地ノ量ニ五割ニ増シタルモノヲ施シタリ

各區ニ於ケル枝條發芽前ノ狀態ト破苞期開葉期並ニ落葉期トハ左ノ如シ

普) 號 甲				試 驗 別			
植		疎		條ノ數		條ノ長	
四	三	二	一	條ノ太サ		一尺間ノ芽數	
千五百本植	千二百本植	九百本植	六百本植	一、五三	七、二	四月廿五日	五月八日
六、七	五、三	四、七	八、〇	一、三三	七、九	同	同
五二、一一	四八、八九	五四、三三	五六、四四	一、三三	七、九	同	同
一、三三	一、三三	一、三四	一、五三	六、九	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同					

地 (肥 多) 號 乙								地 (肥 通)			
植 密				植 疎				植 密			
八	七	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五
三千六百本植	三千本植	二千四百本植	千八百本植	千五百本植	千二百本植	九百本植	六百本植	三千六百本植	三千本植	二千四百本植	千八百本植
三、七	六、七	六、〇	七、七	六、〇	五、三	四、三	六、〇	四、七	五、〇	六、〇	五、七
四三、五五	四三、八九	四四、三三	四七、三三	五〇、一一	五六、七八	五七、四四	五二、五六	四八、二二	四六、〇〇	四九、五六	五三、三三
一、二八	一、二四	一、一七	一、二九	一、四六	一、三八	一、五三	一、四八	一、二二	二、二六	一、四六	一、三六
七、四	七、七	七、九	七、七	八、二	七、四	七、九	七、九	七、四	七、六	八、一	七、二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
廿六日		廿五日	廿六日	四月廿五日			四月廿五日		四月廿六日	四月廿五日	四月廿六日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	五月七日	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、収 穫 調 査

試 驗 別	總 量	葉 量	梢 量	條 量	消 耗 量	收 葉 等 位	葉 梢 條 割 合 (千分率)

地 (肥 多) 號 乙												地 (肥 通 普) 號 甲											
植 密				植 疎				植 密				植 密				植 疎				植 密			
八	七	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五	四	三	二	一
三千六百本植	三千本植	二千四百本植	千八百本植	千五百本植	千二百本植	九百本植	六百本植	三千六百本植	三千本植	二千四百本植	千八百本植	千五百本植	千二百本植	九百本植	六百本植	三千六百本植	三千本植	二千四百本植	千八百本植	千五百本植	千二百本植	九百本植	六百本植
三〇、九三五	三二、九〇三	三八、五九	四四、八〇〇	三九、四七六	三〇、〇〇〇	二五、六九二	一八、八八九	四六、七、六二	四二、一六	三四、六九五	三五〇、八六	二九、六〇九	一九、九四七	二七、九元	二三、八七	四六、七、六二	四二、一六	三四、六九五	三五〇、八六	二九、六〇九	一九、九四七	二七、九元	二三、八七
二八、九三	一三、四九	一九、一四一	一五、六六七	二七、八五五	一九、三四五	一〇七、六五四	七五、五五六	二〇〇、〇八四	一八二、二七九	一四、七三二	一四、三六七	九二、八二	八四、三七八	九三、二五七	九九、九七二	二〇〇、〇八四	一八二、二七九	一四、七三二	一四、三六七	九二、八二	八四、三七八	九三、二五七	九九、九七二
四三、九三六	四九、二九〇	五〇、七二六	七八、〇〇〇	七六、九〇五	五七、三八二	四三、二六九	三六、六三二	六五、一七九	五八、一〇二	五二、七九	五九、五二〇	三五、二九六	三七、〇一一	三七、二〇〇	四七、五〇三	四三、九三六	五八、一〇二	五二、七九	五九、五二〇	三五、二九六	三七、〇一一	三七、二〇〇	四七、五〇三
二五、八〇六	一三、五八二	二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、七一四	二〇、〇〇〇	九六、九三三	六六、六六七	一九一、三六八	一六一、三九三	一三六、二七二	一四〇、三七七	八九、〇六三	七四、二二	八二、二八六	七〇、九六六	二五、八〇六	一六一、三九三	一三六、二七二	一四〇、三七七	八九、〇六三	七四、二二	八二、二八六	七〇、九六六
三、二九〇	七、六二三	八、六五二	五、一三三	八、五六三	三、二七三	四、八四六	二、〇四四	一〇、九九〇	八、三五四	七、九七三	六、六二二	二、四三八	三、三四七	五、一八六	四、三八六	三、二九〇	八、三五四	七、九七三	六、六二二	二、四三八	三、三四七	五、一八六	四、三八六
四	三	二	一	一	二	三	四	一	二	三	四	三	四	二	一	四	三	二	一	三	四	二	一
四三三	四三七	四四九	四四六	三八七	四〇二	四三四	四三三	四三八	四九四	四三四	四二〇	四二七	四三二	四三八	四五八	四三三	四九四	四三四	四二〇	四二七	四三二	四三八	四五八
一四七	一六一	一六四	一七八	二〇一	一九三	一七五	二〇五	一四三	一四五	一五七	一七三	一六三	一八九	一七五	二二七	一四七	一四五	一五七	一七三	一六三	一八九	一七五	二二七
四二二	四〇二	三八七	三七六	四二二	四〇五	三九二	三七三	四一九	四〇二	四〇九	四〇七	四一〇	三八〇	三八七	三三五	四二二	四〇二	四〇九	四〇七	四一〇	三八〇	三八七	三三五

備考

收穫期ハ春蠶四齡初(六月五日)トス

二、葉ノ調査

乙 號(多)				甲 號(普通肥地)								試驗別		大長		小巾		厚薄		春蠶期		秋蠶期	
疎植				密植				疎植															
一	二	三	四	五	六	七	八	一	二	三	四												
六 百 本 植	九 百 本 植	千 二 百 本 植	千 五 百 本 植	千 八 百 本 植	貳 千 四 百 本 植	三 千 本 植	三 千 六 百 本 植	六 百 本 植	九 百 本 植	千 二 百 本 植	千 五 百 本 植												
三、四七八	三、一六四	二、九七八	二、九八二	二、九五六	二、八八四	二、九一六	二、九四八	二、九九六	三、一〇六	三、一四六	三、一二六												
二、三三八	二、一二〇	二、〇四〇	二、一〇八	一、九六八	一、九四六	二、〇四四	二、〇五八	二、〇七二	二、一三四	二、〇九二	二、〇七〇												
三、三七	三、三五	三、三五	三、三二	三、三六	三、三四	二、二八	三、三五	三、三三	三、三五	三、三五	三、三八												
軟	軟	硬	軟	硬	軟	軟	硬	軟	同	同	同												
同	同	同	同	軟	同	同	同	硬	硬	軟	硬												

(肥 地)			
密	植		
五	六	七	八
千八百本植	二千四百本植	三千本植	三千六百本植
三、一五八	二、九七一	二、八七六	二、八八二
二、一二六	一、九八〇	一、九五八	一、九三四
三〇	三〇	二八	二八
硬	軟	軟	硬
同	同	同	同

備考

硬軟ハ甲乙兩號地共疎植ト密植トノ別々ノ比較評語トシ其調査ハ春蠶期ハ收穫ノ際秋蠶期ハ八月中旬ニ於テシタリ

右成績ニ據レバ收葉量ハ甲號(普通肥)地ニアリテハ疎植ノ六百本植ト九百本植區ハ他ノ千二百本植區ト千五百本植區ニ優リタレト通シテ株數ノ多キニ從ヒ遞次増加スルノ傾キアリ乙號(多肥)地ニ在リテハ密植ノ千八百本植區最モ多ク疎植ノ千五百本植區之ニ次キ全体ヲ通ジ株數ノ之レヨリ多ク又ハ少キモノハ何レモ遞次減少シタリ
 枝條ノ伸長ト葉形トハ甲乙號兩地ヲ通シ概シテ密植區ニ比シ疎植區ニ佳良ナルモノ多シ
 尙ホ昨今兩年度ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セハ左ノ如シ

試驗別	前年度ト本年度トノ收葉量合計	同上平均	同上等位
一 六百本植	一八一、〇四九	九〇、五二五	二

地 (肥 多) 號 乙				地 (肥 通 普) 號 甲			
植 密		植 疎		植 密		植 疎	
八 七 六 五	三 千 六 百 本 植	四 三 二 一	千 千 九 六 百 本 植	八 七 六 五	三 千 六 百 本 植	四 三 二	千 千 九 百 本 植
三 千 六 百 本 植	二 千 四 百 本 植	千 五 百 本 植	千 二 百 本 植	三 千 六 百 本 植	二 千 四 百 本 植	千 五 百 本 植	千 二 百 本 植
二 八 一、四 三 六	二 七 七、一 六 九	二 八 五、六 四 六	二 〇 五、五 二 九	四 四 八、四 八 五	三 五 四、〇 七 八	一 八 二、〇 八 七	一 五 二、二 三 三
一 四 〇、七 一 八	一 三 八、五 八 五	一 四 二、八 二 三	一 〇 二、七 六 五	二 二 四、二 四 三	一 七 七、〇 三 九	九 一、〇 四 四	七 六、一 一 七
三	四	一	二	一	二	一	四
二	一	三	四	三	四	三	二
一	二	四	三	四	三	二	一
一	二	三	四	一	二	三	四

第七 耕耘方法試驗 (繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ耕耘ノ方法ヲ異ニシ發育收葉量等ニ及ホス關係ヲ知ラントスルニアリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

- 第一區 平坦
- 第二區 常披
- 第三區 寒被暑披
- 第四區 暑被寒披

各區ノ耕耘方法ハ左ノ如シ

第一區 (平坦)耕耘毎ニ圃面ヲ平カニス

第二區 (常披)耕耘毎ニ畦間ニ土ヲ搔キ上ケ株際ヲ披キ置ク

第三區 (寒被暑披)冬耕ノ際畦間ノ土ヲ株際ニ搔キ寄せ夏耕ノ際株間ノ土ヲ畦間ニ搔

キ上ク

第四區 (暑被寒披)夏耕ノ際畦間ノ土ヲ株際ニ搔キ寄せ冬耕ノ際株際ノ土ヲ畦間ニ搔

キ上ク

各區ニ於ケル枝條ノ發芽前ノ狀態ト破苞期開葉期トハ左ノ如シ

試驗別條ノ數	條ノ長サ	條ノ太サ	破苞期	開葉期
--------	------	------	-----	-----

一	二	三	四
平	常	寒	暑
坦	披	被	被
七、三 ^本	八、三	七、七	六、〇
四一、五六 ^寸	四六、五六	四七、二二	四九、〇〇
一、〇七 ^寸	一、三三	一、四七	一、二六
四月廿五日	同	同	同
五月七日	同	同	五月八日

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

試験別	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	收葉葉梢條ノ割合(千分率)
一 平坦	二三七、三〇七 ^坪	一一二、二〇七 ^坪	七三七、七六一 ^坪	八七、一〇四 ^坪	二、三三五 ^坪	四四七三二五九三六八
二 常披	三〇一、〇六九	一四五、一二五	五五一、九七五	一〇三、七八一	一、八八	一四八二一七三三四五
三 寒被暑被	二九七、〇〇〇	一三五、〇六六	五三、三四一	一〇八、三七三	二、二二〇	二四五五一八〇三六五
四 暑披寒披	二六七、三〇〇	一二三、五三一	四四、〇二三	九九、三八六	三、六〇	三四六三一六五三七二

備考

收穫期ハ春蠶五齡初(六月十三日)トス

右ノ成績ニ據レハ總量葉量共ニ常披最モ優リ寒被暑披之ニ亞キ平坦最モ劣レリ
尙ホ昨今兩年度ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試驗別	前年度ト本年度トノ收葉量合計	同上平均	同上等位
試驗			

四	三	二	一
暑	寒	常	平
被	被		
寒	暑		
披	披	披	坦
二六一、九〇六	二九一、四六二	三〇〇、四九三	二五〇、一四九 ^實
一三〇、九五三	一四五、七三一	一五〇、二四七	一二五、〇七五 ^實
三	二	一	四

前表ニ據レバ常披ト寒被暑披兩區ノ成績ハ前年度ニ反シタレトモ暑被寒披ト平坦區トハ同一ノ傾向ヲ示シ前兩區ニ劣ルヲ見タリ

第八 施肥ノ時期回数試験 (繼續二年目)

本試験ノ目的ハ伐採收葉又ハ摘葉ノ時期回数ヲ異ニセル各桑園ニ對シ肥料ハ如何ナル時期ニ施シ又幾回ニ施スヲ可トスルヤヲ知ラントスルニアリ

供試桑園ハ左ノ如シ

- (甲) 春 期 (春蠶五齡末) 伐採收葉スルモノ
- (乙) 春 期 (春蠶三齡末) 伐採收葉秋期(秋蠶五齡末)摘葉スルモノ
- (丙) 夏 期 (夏蠶四齡末) 伐採收葉スルモノ
- (丁) 春 期 (發芽前) 伐採夏秋兩期(夏蠶二齡末秋蠶五齡末)摘葉スルモノ
- 本試験ノ區別ハ左ノ如シ

- 第一區 春一期施肥
第二區 春夏兩期施肥
第三區 春夏兩期施肥
第四區 春夏冬三期施肥

肥料ハ春ハ發芽前(三月二十七日)夏ハ伐採若クハ摘葉後七月六日(冬ハ落葉後十一月九日)ニ施シタリ其一反步當リト期節別用量ハ左ノ如シ

試驗別	總量	施肥期別用量		
		春	夏	冬
第一區 堆肥 大豆粕 過磷酸石灰	五五〇、〇〇〇 ^{pt} 一一、五〇〇 一三、三三〇	五五〇、〇〇〇 ^{pt} 一一、五〇〇 一三、三三〇	—	—
第二區 堆肥 大豆粕 過磷酸石灰	五五〇、〇〇〇 一一、五〇〇 一三、三三〇	二七五、〇〇〇 ^{pt} 五、七五〇 六、六六五	二七五、〇〇〇 ^{pt} 五、七五〇 六、六六五	—
第三區 堆肥 大豆粕 過磷酸石灰	五五〇、〇〇〇 一一、五〇〇 一三、三三〇	二七五、〇〇〇 五、七五〇 六、六六五	—	二七五、〇〇〇 五、七五〇 六、六六五

第 四 區	堆 大 過	豆 酸 石 灰	肥
五五〇、〇〇〇	一一、五〇〇	一三、三三〇	一八三、三三三
一八三、三三三	三、八三三	四、四四三	一八三、三三三
一八三、三三三	三、八三三	四、四四三	一八三、三三三
一八三、三三三	三、八三三	四、四四三	一八三、三三三

各區ニ於ケル枝條ノ發芽前ノ狀態ト破苞期開葉期トハ左ノ如シ

試驗別	枝條ノ狀態		破苞期	開葉期
	條數	長一條		
(甲) 春期伐採收葉 スルモノ	一 春 施 肥 二 春 夏 施 肥 三 春 冬 施 肥 四 春 夏 冬 施 肥	六、七 三九、六七 四六、五六 四三、四四 四八、一一	一、〇八 一、二三 一、二三 一、一九 一、二〇	四月廿五日 同 同 同 同 廿六日
(乙) 春期伐採收葉 秋期摘葉スルモノ	一 春 施 肥 二 春 夏 施 肥 三 春 冬 施 肥 四 春 夏 冬 施 肥	七、七 四八、一一 五三、八九 五〇、一一 四七、一一	一、二〇 一、三六 一、二四 一、二七	同 廿六日 同 同 同
(丙) 夏期伐採收葉	一 春 施 肥 二 春 夏 施 肥	七、三 五、七 二一、一一 一八、三三	八、〇 六、二	四月廿七日 同

スルモノ	三	四	(丁) 春期發芽前伐 採夏秋兩期摘葉 スルモノ				同	同
			一	二	三	四		
春冬施肥	九、〇	二六、一一	六、七	五、三	四、三	六、七	七六、〇〇	一、八二
春夏冬施肥	六、〇	一八、三三	六、七	五、三	四、三	六、七	七二、〇〇	一、七九
同	七、〇	同	一、七〇	一、九一	一、七九	一、七〇	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考

(丁) 區ハ發芽前伐採シタルモノナルヲ以テ破苞期ト開葉期トヲ調査セス
本試験ノ成績ハ左ノ如シ

一、收穫調查

試驗別	春			夏			秋	合	收
	總量	葉量	總量對葉量歩合	總量	葉量	總量對葉量歩合			
一 春施肥	二〇八、九二	九五、九五	四七・一%	同	同	同	同	同	同
二 春夏施肥	三三、六八	一四、五九	四六・二	同	同	同	同	同	同
三 春冬施肥	一八、〇三	八、九七	四七・九	同	同	同	同	同	同
四 春夏冬施肥	二四〇、五七	一〇九、四四	四六・〇	同	同	同	同	同	同
合計	二〇八、九二	九五、九五	四七・一%	同	同	同	同	同	同
收葉量等位	二	四	一	三	二	一	二	一	三

又伐採收葉當時ニ於ケル(丁)ノ各區ハ夏期摘葉ノ時葉ノ大小厚薄ハ左ノ如シ

二、葉ノ調査

試驗別				大		小		厚	薄
試	驗	別		長		巾			
				一	二	一	二		
(甲)春期伐採收葉スルモノ	一	春	施肥	三、二六四	三、四三六	二、二〇六	二、四二〇	三、三五	三、三五
	二	春夏	施肥	三、四三六	三、七五四	二、四二〇	二、六九四	三、三五	三、三五
	三	春	施肥	三、七五四	三、四四八	二、六九四	二、三五七	三、三五	三、三七
	四	春夏	施肥	三、四四八		二、三五七		三、三七	
(乙)春期伐採收葉秋期摘葉スルモノ	一	春	施肥	二、九〇〇	二、九六六	一、八九八	二、二三八	三、三五	三、三五
	二	春夏	施肥	二、九六六	二、七七七	二、二三八	一、九七三	三、三五	三、三四
	三	春	施肥	二、七七七	二、八七二	一、九七三	二、〇八〇	三、三四	三、三五
	四	春夏	施肥	二、八七二		二、〇八〇		三、三五	
(丙)夏期伐採收葉スルモノ	一	春	施肥	二、四二〇	二、三三六	一、九七八	一、八二四	三、五一	三、四七
	二	春夏	施肥	二、三三六	二、三〇八	一、八二四	一、七五六	三、四七	三、四九
	三	春	施肥	二、三〇八	二、一四六	一、八二八	一、七五六	三、四九	三、四二
	四	春夏	施肥	二、一四六		一、七五六		三、四二	

(丁) 春期發芽前伐採 夏秋兩期摘葉スル モノ			
一	二	三	四
春 施 肥	春 夏 施 肥	春 冬 施 肥	春 夏 冬 施 肥
四、四六〇	四、三五六	四、七〇八	四、七三二
三、五九二	三、六二〇	三、八三六	四、一三六
、五七	、六五	、五五	、五七

右ノ成績ニ據レバ(甲)ト(丁)ニ在リテハ春夏施肥區ノ葉量最モ多ク秋冬施肥區最モ少ク(乙)ト(丙)ニ在リテハ春夏施肥區ノ葉量最モ優リ春夏冬施肥區最モ劣レリ其他(甲)(乙)(丙)(丁)共春夏秋冬兩期ニ施與シタル區ハ他ノ各區ニ比シ冬期枝條ノ先端稍ヤ多ク枯損シタルヲ見タリ
尙ホ昨今兩年度ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗 別	前年度ト本年度トノ 收 葉 量 合 計		同 上 平 均	同 上 等 位
	一	二		
(甲) 春期伐採取葉ス ルモノ	一 春 施 肥	二〇三、一五四	一〇一、五七七	四
	二 春 夏 施 肥	三〇三、二一一	一五一、五〇六	一
	三 春 冬 施 肥	二八〇、三〇七	一四〇、一五四	三
	四 春 夏 冬 施 肥	二八六、八七八	一四三、四三九	二
(乙) 春期伐採取葉秋	一 春 施 肥	三四三、七五二	一七二、八七六	一
	二 春 夏 施 肥	三二〇、二一五	一五五、一〇八	四

期摘葉スルモノ		(丙)夏期伐採収葉スルモノ		(丁)春期發芽前伐採夏秋兩期摘葉スルモノ	
三	春 冬 施 肥	一	春 施 肥	一	春 施 肥
四	春 夏 冬 施 肥	二	春 夏 施 肥	二	春 夏 施 肥
		三	春 冬 施 肥	三	春 冬 施 肥
		四	春 夏 冬 施 肥	四	春 夏 冬 施 肥
三二九、一一四		四七一、四七〇		四〇九、一五五	
三三〇、六一五		四七三、八四三		四一九、〇一六	
		四四一、五二三		三八七、〇九三	
		四二九、五〇三		三八九、〇一八	
一六四、五五七		二三五、七三五		二〇四、五七八	
一六五、三〇八		二三六、九二一		二〇九、五〇八	
		二二〇、七六二		一九三、五四七	
		二一四、七五二		一九四、五〇九	
二		一		一	
三		二		二	
		三		三	
		四		四	

第九 肥料効驗試驗

(繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ桑樹ノ肥料トシテ最モ効驗多キ種類ヲ知ラントスルニアリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

但シ肥料ハ各區共一反歩ニ付窒素四貫匁ヲ施ス割合トシ磷酸ト加里トハ各區中最多量ヲ含有スルモノ(磷酸二貫八百匁加里三貫六百十五匁)ヲ標準トシ之ニ充タザル區ニハ過

磷酸石灰ト木灰トヲ施シテ補ヒタリ

第一區	堆肥
第二區	人糞尿
第三區	鰯ノ粕
第四區	蠶蛹ノ粕
第五區	大豆粕
第六區	藁臺粕
第七區	信濃肥料第三號
第八區	蠶糞
第九區	綠肥
第十區	堆肥人糞尿大豆粕ノ混合肥料
第十一區	無肥料

但シ無肥料區ハ三要素適量試験ノモノヲ對照ス

各區一反步ニ對スル肥料ノ用量ト價格ハ左ノ如シ

試驗別肥料名	用量		各種別價格
	施肥期	別用量	
	春	夏	

第 區	第 五 區	第 四 區	第 三 區	第 二 區	第一區
藁 臺 粕	大 豆 過 磷 木 灰	蠶 蛹 過 磷 木 灰	鯪 過 磷 木 灰	人 糞 過 磷 木 灰	堆 肥 過 磷 木 灰
七九、二一〇	五二、一五〇 八、六四〇 二三、八六〇	四〇、二〇〇 七、三八〇 二九、二八〇	四一、二四〇 、一〇〇 二九、一四〇	七〇、一、七四五 八、七六七 一四、七〇一	七〇、五、一〇〇 ^實 一一、一八五 ^効
三九、六〇五	二六、〇七五 四、三三〇 一一、九三〇	二〇、一〇〇 三、六九〇 一四、六四〇	二〇、六二〇 、〇五〇 一四、五七〇	三五〇、八七七 四、三八四 七、三五〇	三五二、五五〇 ^實 五、五九三 ^効
同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上
二三、七六三	一一、二三三 一、一八三 七、一六	一二、四六二 一、〇一〇 八七八	二一、六五一 、〇一四 八七四	二五、〇五三 一、二〇〇 、四二二	一九、一〇八 ^實 一、五三二 ^効
	一三、一三二	一四、三五〇	二二、五三九	二六、六七五	二〇、六三九 ^實

第十區					第九區			第八區			第七區		第六區	
木	過	料	肥	混	木	過	綠	木	過	蠶	木	信	木	過
	磷	大	人	堆		磷	肥		磷	酸		濃		磷
	酸	豆	糞			石	(生		酸	石		肥		酸
灰	灰	粕	尿	肥	灰	灰	草)	灰	灰	糞	灰	料	灰	石
												第三		灰
												號		
一二、八六〇	九、五三〇	一七、三八〇	二三三、八六〇	二三四、九七〇	一、七七八	一〇、八〇〇	七四〇、七四〇	二八、二九〇	六、六八五	二七七、七七八	三〇、九〇〇	四〇、〇〇〇	二二、一〇〇	二、三六〇
六、四三〇	四、七六五	八、六九〇	一二六、九三〇	一二七、四八五	八八九	五、四〇〇	三七〇、三七〇	一四、一四五	三、三四三	一三八、八八九	一五、四五〇	二〇、〇〇〇	一一、〇五〇	一、一八〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
三、三八六	一、三〇五	三、七四四	八、三四九	六、三六八	〇、五三	一、四六九	一一、六三〇	八四九	九一五	一三、八八九	九二七	二〇、〇〇〇	六、六六三	三、三二三
		二〇、一五二				一三、一五二			一五、六五三		二〇、九二七			二四、七四九

但シ第十區ノ肥料混合ノ割合ハ窒素四貫匁ヲ三等分シ其一分ヲ各種ノ肥料ニ含マシメ
タリ

各區ニ於ケル枝條發芽前ノ狀態ト破苞期開葉期落葉期トハ左ノ如シ

試 驗 別	條 數	條 長 サ	條ノ太サ	破 苞 期	開 葉 期	落 葉 期
一 堆 肥	九、七 [*]	三九、〇〇 ⁺	一、一八 ⁺	四月廿六日	五月九日	十一月五日
二 人 糞 尿	一三、七	三九、七八	一、〇七	同	五月八日	同 六日
三 鰯 鰯 粕	一二、三	三九、三三	一、〇七	同	同	同 五日
四 蠶 蛹 粕	一五、三	四〇、〇〇	一、〇七	同	同	同
五 大 豆 粕	一五、七	三九、一一	一、一一	同	同	同
六 芸 臺 粕	一一、七	四二、四四	一、一〇	同	五月七日	同
七 信濃肥料第三號	一二、七	三八、三三	九八	同	五日	同
八 蠶 糞	一二、三	四〇、七八	一、一七	同	同 八日	同 六日
九 綠 肥	一二、三	四二、三三	一、一九	同	同	同 五日
一〇 堆肥人糞尿大豆粕混合肥料	一二、三	三九、五六	一、一八	同	同	同 六日
一一 無 肥 料	八、七	三五、七八	一、〇六	同	同	同 五日

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別	總 量	葉 量	梢 量	條 量	消 耗 量	收穫 等位	葉梢條ノ割合(千分率)		
							葉	梢	條
一 堆 肥	四〇、八〇 ^四	一九五、一三六 ^四	六七、七四五 ^四	一三八、三五五 ^四	九、五七三 ^四	一〇	四八六	一六九	三四五
二 人 糞 尿	五三、一一一	二五七、〇二九	九四、五〇〇	一六八、八二九	一一、七五三	四	四九三	一八二	三三四
三 鰯 粕	四八、八一二	二〇、六〇〇	七五、三〇〇	一四七、〇九一	五、三六一	八	四八七	一七三	三四〇
四 蠶 蛹 粕	四九、二七〇	二三、三〇〇	八六、四〇〇	一四九、八九五	九、六七五	七	四七五	一九二	三三三
五 大 豆 粕	四六、五八三	三三、二六五	八二、五八八	一六三、九五九	五、七七二	五	四八七	一七二	三四一
六 藁 臺 粕	四四、一九五	二〇、四六九	八四、九三八	一四六、四九九	七、三六九	九	四六九	一九五	三三六
七 信 濃 肥 料 第 三 號	五五、九七五	二八、六〇〇	一〇四、七〇〇	一八五、九九五	一二、七五〇	一	四九三	一八三	三三四
八 蠶 糞	五三、一四三	二六、八〇七	九四、一七九	一九五、三六四	五、五三九	三	四八一	一六九	三五〇
九 綠 肥	四九、〇五〇	二八、二五〇	八七、五〇〇	一六八、八五〇	一〇、四五〇	六	四七一	一八一	三四八
一〇 堆肥人糞尿大豆粕混合肥料	五八、四〇〇	二八、五〇〇	一〇三、八〇〇	一七、九〇〇	六、二四〇	二	四九九	一八五	三三六
一一 無 肥 料	四〇、一〇〇	一四、〇〇〇	六五、八〇〇	一二〇、〇〇〇	二〇、三〇〇	二	五一二	一七三	三二六

備 考

收穫ノ時期ハ春蠶五齡末(六月十八日)トス

二、葉 ノ 調 査

試 驗 別	長	巾	厚	薄
-------	---	---	---	---

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
堆肥	人糞尿	鰾	蠶蛹	大豆	蠶臺	信濃肥料第三號	蠶糞	綠肥	堆肥、人糞尿、大豆粕ノ混合肥料	無肥料
二、四九二 ^寸	二、四五二	二、六七六	二、五八八	二、九六〇	二、六二四	二、四四八	二、六〇〇	二、六八〇	二、六〇〇	二、一〇四
一、九一六 ^寸	一、九二六	二、〇一六	一、九八八	二、二〇〇	一、九八四	一、九三六	二、〇一二	二、〇二八	二、〇五二	一、七六〇
三、三二 ^寸	三、三五	三、三二	三、三〇	三、三二	三、三五	三、三五	四、〇	三、三七	三、三〇	三、三二

但シ葉ノ硬軟成熟ノ早晚齋否等ニ付調査シタルドモ其差ヲ附シ難カリキ然レモ收穫當
時葉色ノ最モ濃厚ナリシハ堆肥人糞尿大豆粕ノ混合肥料區ニシテ人糞尿區之ニ次キ其
最モ淡色ナリシハ綠肥區ニシテ堆肥區大豆粕區ハ稍之ニ優リ他ノ各區ハ其中間ナリ
シ

葉質ハ尙ホ葉質試驗部肥料ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗ヲ參照スヘシ

右ノ成績ニ據ルトキハ収葉量ノ最モ多キハ信濃肥料第三號區ニシテ堆肥人糞尿大豆粕ノ混合肥料區稍之ニ比肩シ蠶糞區人糞尿區大豆粕區綠肥區鰾^メ粕區順次相亞キ蠶糞粕ト堆肥ノ兩區ハ最モ少シトス葉量歩合ニ於テハ前記混合肥料區最モ多ク人糞尿區ト信濃肥料第三號區トハ之ニ次キ枝條ノ發育ハ蠶糞粕區ト綠肥區ニ宜シク條數ハ大豆粕區ト蠶糞^メ粕區トニ多カリキ

尙ホ窒素一貫匁ニ對スル収葉量並ニ堆肥ニ對スル肥效ヲ示セハ左ノ如シ

試驗別		窒素一貫匁對収葉量		堆肥對肥效	
一	堆肥	四八、七八三 ^匁	一	〇	〇
二	人糞尿	六四、二五七	一	三	二
三	鰾 ^メ 糞	五二、六五〇	一	〇	八
四	蠶糞 蛹 ^メ	五三、三二五	一	〇	九
五	大豆粕	五八、五六六	一	二	〇
六	蠶糞 莖	五一、一一七	一	〇	五
七	信濃肥料第三號	七〇、六五〇	一	四	五
八	蠶糞	六七、〇一八	一	三	七
九	綠肥	五七、〇六三	一	一	七

一〇 堆肥、人糞尿、大豆粕ノ混合肥料

七〇、一二五

一四四

次ニ昨今兩年度ノ収葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗 別	ニケ年間収葉量合計	同 上 平 均	同 上 等 位
一 堆 肥	四〇〇、〇六六 _別	二〇〇、〇三三 _別	一〇
二 人 糞 尿	五三六、一四七	二六八、〇七四	二
三 鰯 糞 粕	四二四、一七〇	二一二、〇八五	八
四 蠶 蛹 粕	四三四、四八四	二一七、二四二	七
五 大 豆 粕	四五一、七二八	二二五、八六四	六
六 藎 莖 粕	四〇六、二〇二	二〇三、一〇一	九
七 信 濃 肥 料 第 三 號	五〇一、九八二	二五〇、九九一	四
八 蠶 糞	五三〇、九〇四	二六五、四五二	三
九 綠 肥	四六四、二三五	二三二、一一八	五
一〇 堆肥人糞尿大豆粕混合肥料	五三九、九八四	二六九、九九二	一
一一 無 肥 料	三八二、〇〇〇	一九一、〇〇〇	一一

第一〇 三要素適量試驗

(繼續二年目)

本試験ノ目的ハ窒素磷酸加里ノ各適量ヲ知ラントスルニアリ其試験ノ區別ハ左ノ如シ
但シ肥料ハ窒素ニ硫酸アンモニヤ磷酸ニ磷酸曹達加里ニ硫酸加里ヲ用ヒタリ

試 驗 別	(甲)窒素					(乙)磷酸					(丙)加里		
	ナ	二	三	四	五	ナ	一	二	三	四	ナ	一	二
窒素	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
磷酸	五	五	五	五	五	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
加里	百	百	百	百	百	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
加	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿
量	二、五〇〇	三、五〇〇	四、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇
加	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
里	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
里	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇

(丁) 無肥料	
三	四
貫	貫
勿	勿
五、五〇〇	五、五〇〇
四、〇〇〇	四、〇〇〇
三、〇〇〇	四、〇〇〇

各區發芽前ニ於ケル枝條發育ノ狀況ハ左ノ如シ

(甲) 窒素		試驗別	條ノ數	條ノ長サ	條ノ太サ	小枝ノ多少	一尺間芽數
ナ	二	三	四	五	貫	貫	貫
シ	勿	勿	勿	勿	貫	貫	貫
一五、〇	一〇、八	五、〇	一三、〇	一一、三	三六、二	三八、三	三六、六
三六、二	三八、三	三四、〇	三六、一	三九、七	一、〇	一、二	一、二
一、〇	一、二	一、九	一、〇	一、二	一、二	一、二	一、二
中	少	中	中	中	多	多	多
一二、七	一一、八	一二、三	一三、三	一二、二	一二、〇	一三、四	一二、八

(乙) 燐				
酸				
ナ	一	二	三	四
貫	貫	貫	貫	貫
シ	勿	勿	勿	勿
一一、〇	一〇、七	一〇、三	一二、七	一二、七
三六、六七	三六、〇〇	三五、八九	三七、三三	三八、七八
一、二四	一、二四	一、一二	一、二三	一、一二
多	多	多	中	中
一二、八	一一、九	一二、三	一二、〇	一二、〇

又發芽開葉落葉ノ狀況並ニ刈取後ニ於ケル萌芽期ハ左ノ如シ

(丁) 無肥		(丙) 加里				
		ナ 一 二 三 四				
		貫 貫 貫 貫				
料		シ	勿	勿	勿	勿
		一一、七	一二、三	一四、三	一〇、七	一〇、七
		三七、四四	三六、六七	三五、三三	三四、六七	三五、七八
		一、一一	一、三九	九八	一、二二	一、〇六
		中	多	中	多	少
		一一、七	一二、一	一二、一	一〇、九	一二、六

試驗別		(甲) 室素				
		ナ 二 三 四 五				
		貫 貫 貫 貫 貫				
破苞期		シ	勿	勿	勿	勿
第一開葉期		四月廿六日	同	同	同	同
第五開葉期		五月八日	同	同	同	同
第十開葉期		五月十三日	同	同	同	同
落葉期		六月八日	同	同	同	同
刈取後萌芽期		六月八日	同	同	同	同
		十一月五日	同	同	同	同
		七月四日	同	同	同	同

(乙) 磷酸				(丙) 加里				(丁) 無肥料
	二	三	四		ナ	一	二	
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿
	同	同	同	同	同	同	同	同
	四月廿六日	四月廿六日	四月廿六日	四月廿六日	四月廿六日	四月廿六日	四月廿六日	四月廿六日
	五月八日	五月八日	五月八日	五月八日	五月八日	五月八日	五月八日	五月八日
	同	同	同	同	同	同	同	同
	五月十三日	五月十三日	五月十三日	五月十三日	五月十三日	五月十三日	五月十三日	五月十三日
	同	同	同	同	同	同	同	同
	六月七日	六月七日	六月七日	六月七日	六月七日	六月七日	六月七日	六月七日
	同	同	同	同	同	同	同	同
	十一月五日	十一月五日	十一月五日	十一月五日	十一月五日	十一月五日	十一月五日	十一月五日
	同	同	同	同	同	同	同	同
	七月四日	七月四日	七月四日	七月四日	七月四日	七月四日	七月四日	七月四日

備考

開葉期ハ發育中庸ノ三株ニ付破苞期中位ノ二芽宛ヲ撰ヒ調査平均ス

刈取後萌芽期ハ各株過半其期ニ達シタルキトス但シ株直期日ハ六月二十三日トス

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

一、收穫調查

試驗別	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	收葉等位	葉梢條ノ割合(千分率)
							葉—梢—條

(甲)窒素						(乙)磷酸						(丙)加里					
ナ	二	三	四	五	貫	ナ	一	二	三	四	貫	ナ	一	二	三	四	貫
シ	勿	勿	勿	勿	勿	シ	勿	勿	勿	勿	勿	シ	勿	勿	勿	勿	勿
五三、六〇〇 ^貫	四九、六〇〇	三四、三〇〇	五七、五〇〇	五九、〇〇〇	五七、四〇〇	五三、六〇〇	七〇、一〇〇	五四、三〇〇	六三、六〇〇	五八、二〇〇	五七、四〇〇	五三、六〇〇	六二、四〇〇	五四、四〇〇	五三、二〇〇	六五、七〇〇	六五、七〇〇
二八、二〇〇 ^貫	二六、七〇〇	一五、一〇〇	二八、五〇〇	二八、二〇〇	二六、一〇〇	二八、二〇〇	三四、八〇〇	二七、五〇〇	三六、三〇〇	二九、六〇〇	二六、一〇〇	二八、二〇〇	二八、六〇〇	二七、九〇〇	二七、一〇〇	三一、四〇〇	三一、四〇〇
九八、四〇〇 ^貫	七六、三〇〇	五八、二〇〇	一〇〇、二〇〇	九五、七〇〇	一〇六、二〇〇	九八、四〇〇	一二、七〇〇	九〇、九〇〇	一〇九、二〇〇	九五、七〇〇	一〇六、二〇〇	九五、四〇〇	一〇二、〇〇〇	九六、六〇〇	九一、八〇〇	七八、〇〇〇	七八、〇〇〇
一七八、八〇〇 ^貫	一三五、九〇〇	九二、七〇〇	一七六、七〇〇	一八八、一〇〇	一六六、五〇〇	一七八、八〇〇	二四、七〇〇	一六〇、八〇〇	一八三、〇〇〇	一八一、二〇〇	一六六、五〇〇	一八九、六〇〇	一九二、三〇〇	一六四、一〇〇	一八四、八〇〇	一三七、四〇〇	一三七、四〇〇
一三、二〇〇 ^貫	八、七〇〇	一八、三〇〇	九、〇〇〇	二、〇〇〇	二二、八〇〇	一三、二〇〇	一四、七〇〇	二〇、一〇〇	一四、一〇〇	一一、七〇〇	二二、八〇〇	一一、四〇〇	二八、五〇〇	一六、八〇〇	五、四〇〇	一三、二〇〇	一三、二〇〇
二	三	四	一	二	五	二	一	四	二	三	五	五	二	三	四	一	五
五〇五	四九一	五〇七	五〇八	五〇〇	四九〇	五〇五	五〇〇	五一九	五二二	五〇二	四九〇	四八七	四九五	五一五	四九五	四九三	四八三
一七六	一八六	一九〇	一七八	一六九	一九九	一七六	一七六	一七四	一八二	一七二	一九九	一七二	一七五	一八〇	一六八	一八四	一八四
三二九	三三三	三〇三	三二四	三三一	三二一	三二九	三三三	三〇七	三〇六	三二六	三二一	三四一	三三〇	三〇九	三三七	三二三	三二三

(丁)無	肥	料	四〇〇、一〇〇	一四、〇〇〇	五、八〇〇	一四〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	五二	一七三	三六
------	---	---	---------	--------	-------	---------	--------	---	----	-----	----

備考

收穫期ハ春蠶五齡末(六月十七日)トス

窒素三、五百々區ハ本年モ亦春期寒枯ニ罹リタルモノアリ其收量ヲ減シタリ

二、葉ノ調査

試驗別					大長		小巾		厚	薄
(甲)窒素										
ナ	二	三	四	五	ナ	二	三	四	五	ナ
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
シ	勿	勿	勿	勿	シ	勿	勿	勿	勿	シ
(乙)燐酸										
ナ	一	二	三	四	ナ	一	二	三	四	ナ
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
シ	勿	勿	勿	勿	シ	勿	勿	勿	勿	シ
二、二二八 ^寸	二、一七二	二、〇八四	二、二六〇	二、四八〇	二、二二八 ^寸	二、一七二	二、〇八四	二、二六〇	二、四八〇	二、二二八 ^寸
一、八二四 ^寸	一、八四〇	一、七二〇	一、七八〇	一、九四四	一、八二四 ^寸	一、八四〇	一、七二〇	一、七八〇	一、九四四	一、八二四 ^寸
一、九一六	一、九四〇	二、〇〇〇	二、一七六	一、八二四	一、九一六	一、九四〇	二、〇〇〇	二、一七六	一、八二四	一、九一六
三、三七 ^寸	三、三八	三、四	三、三七	三、三五	三、三七 ^寸	三、三八	三、四	三、三七	三、三五	三、三七 ^寸

但シ硬軟成熟ノ早晚齊否葉色ノ濃淡等ニ付調査シタレモ殆ント等差ヲ認メス只僅カニ窒素區ニ於テ施用量多キ程比較的成熟期晚ク質軟カニシテ葉色亦濃厚ナルカ如ク無窒素區ハ特ニ各區中最モ淡色ナルノ傾キアリタリ

尙ホ昨今兩年度ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

(丙) 加里				
ナ	一	二	三	四
貫	貫	貫	貫	貫
シ	勿	勿	勿	勿
二、三四四	二、三四〇	二、二六四	二、四九二	二、五〇四
一、八五二	一、七七六	一、七三二	一、八八〇	一、九六四
三、三五	三、三三	三、三五	三、三〇	三、三八

(丁) 無肥料

二、一〇四	一、七六〇	三、三二
-------	-------	------

試驗別

二ケ年間收葉量合計

同上平均

同上等位

(甲) 窒素				
ナ	二	三	四	五
貫	貫	貫	貫	貫
シ	勿	勿	勿	勿
五三九、三八八	五三三、七六〇	二八九、七八〇	六一二、四〇〇	五九五、六八〇
二六九、六九四	二六六、八八〇	一四四、八九〇	三〇六、二〇〇	二九七、八四〇
三	四	五	一	二

(丁) 無肥料	(丙)加里					(乙)磷				
	ナ	一	二	三	四	ナ	一	二	三	四
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
	シ	勿	勿	勿	勿	シ	勿	勿	勿	勿
	五六七、八二〇	五五六、九五〇	六〇六、〇三一	五二〇、六二九	五四六、六六〇	四九七、一〇〇	六一八、二九五	五二一、八〇〇	五六八、三〇〇	六〇六、三六八
	二八三、九一〇	二七八、四七五	三〇三、〇一六	二六〇、三一五	二七三、三三〇	二四八、五五〇	三〇九、一四八	二六〇、九〇〇	二八四、一五〇	三〇三、一八四
	二	三	一	五	四	五	一	四	三	二

第二 蠶糞貯藏法試験

(繼續二年目)

本試験ノ目的ハ蠶糞ヲ肥料トスル場合ニ其貯藏法ハ左ノ三方法中何レカ最モ有利ナルヤヲ知ラントスルニアリ其試験ノ區別ハ左ノ如シ

但シ蠶糞ハ春蠶五齡中ノ新鮮ナルモノニツキ一反歩窒素四貫勿ノ該當量ニ秤リ分ケ試験

別ニヨリ二週間宛貯藏シタリ

第一區

蠶糞ヲ其儘舍内ニ堆積シ置クモノ

第二區

蠶糞ヲ水中ニ入レ置クモノ

第三區

蠶糞ヲ土壤ト共ニ舍内ニ堆積シ置クモノ

各區ニハ過磷酸石灰ト木灰トヲ施シ常場所定ノ施與磷酸ト加里分トノ不足ヲ補ヒタリ
今一反步當リノ肥料用量ト施肥期ヲ掲クレバ左ノ如シ

肥料名	用	量	施肥期
蠶糞		二七七 ^g 、七七八	
過磷酸石灰		六、六八七	七月十九日
木灰		二八、二八三	

各區ニ於ケル枝條ノ發芽前ノ狀態ト破苞期開葉期トハ左ノ如シ

試驗	別	條數	條ノ長サ	條ノ太サ	破苞期	開葉期
一	蠶糞ヲ其儘ニ舍内ニ堆積シ置クモノ	一〇、三 ^本	三、九五六 ^{cm}	一、〇八 ^{mm}	四月二十六日	五月八日
二	蠶糞ヲ水中ニ入レ置クモノ	一一、三	三、九六七	一、一三	同	同
三	蠶糞ヲ土壤ト共ニ舍内ニ堆積シ置クモノ	一一、三	三、八五六	一、〇三	同	同九日

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

試 験 別	總 量	葉 量	梢 量	條 量	消 耗 量	收 葉		葉 梢 條ノ割合(千分率)	
						等 位	葉	梢	條
一 蠶糞ヲ其儘舍内ニ堆積シ置 クモノ	五六一、六〇 ^計	二七二、一〇〇 ^計	一〇三、八〇〇 ^計	一八三、六〇〇 ^計	二七六 ^計	二	四八六	一八六	三三八
二 蠶糞ヲ水中ニ入レ置クモノ	六〇〇、八七九	三〇〇、八五五	一〇三、八二二	一八六、八七九	九三三	一	五〇九	一七五	三二六
三 蠶糞ヲ土壤ト共ニ堆積シ置 クモノ	五二七、九七六	二四六、九七一	九一、九二三	一六九、一四七	八九五	三	四八五	一八三	三三三

備 考

收穫期ハ春蠶五齡末(六月十八日)トス

右ノ成績ニ據レバ蠶糞ヲ水中ニ入レ置クモノ最モ優リ土壤ト共ニ堆積シ置クモノ最モ劣レ
 リ尙ホ試験ヲ重ネテ確ムル所アルベシ
 尙ホ昨今兩年度ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 験 別	前年度ト本年度ト ノ收葉量合計	同 上 平 均	同 上 等 位
一 蠶糞ヲ其儘舍内ニ堆積シ置クモノ	五六六、二七七 ^計	二八三、一三八 ^計	一
二 蠶糞ヲ水中ニ入レ置クモノ	五四五、七八九	二七二、八九四	二
三 蠶糞ヲ土壤ト共ニ堆積シ置クモノ	四三三、九八三	二一六、九九一	三

第二一 綠肥試験

一、綠肥間作試驗 (繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ桑園ニ左ノ間作物ヲ栽培セバ各幾何ノ收量ヲ得且ツ肥料トシテノ効驗何レカ最モ多キヤヲ知ラントスルモノニシテ桑園ハ一反步七百五十本(畦巾四尺八寸株間三尺)ノ割合ニ植付ケタリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

- 第一區 紫雲英
第二區 青刈大豆
第三區 赤クロバー

各區ノ間作物ハ開花ノ初期收穫シ直ニ肥料トシテ一反步當リ窒素四貫匁磷酸三貫匁ノ割合ニ施シ磷酸分ノ不足ハ過磷酸石灰ヲ以テ補ヒ加里ハ各區中最多量ヲ含有スル青刈大豆ノ五貫三十四匁ヲ標準トシ木灰ヲ以テ之ニ充チサル他ノ二區ヲ補ヒタリ其各區一反步ニ對スル用量ハ左ノ如シ

試驗別	綠肥		木灰
	過磷酸石灰	木灰	
一 紫雲英	八三三、三三五 ^{pr}	一〇、六六七 ^{pr}	一六、六六六 ^{pr}
二 青刈大豆	六八九、六五五	一六、三二〇	—
三 赤クロバー	六四五、一六〇	七、八一三	二三、七二六

各區ニ於ケル間作物ノ生育狀況及其成績ハ左ノ如シ

間作物生育狀況

試驗別	播種量	播種期	發芽期	開葉期	生育期間
一 紫雲英	二、五 ^升	四十三三年九月十五日	四十三三年九月廿二日	五月十八日	二百卅九日
二 青刈大豆	四、〇	五月六日	五月十七日	七月廿七日	七十一日
三 赤クロバ	一、〇	五月八日	五月二十日	八月十一日	八十四日

間作物收穫調査

試驗別	收穫月日	收穫當時作物ノ長	莖葉根	收穫部	合計
一 紫雲英	五月十八日	二二、五 ^寸	三八七、二五〇 ^g	五三、三〇〇 ^g	四四〇、五五〇 ^g
二 青刈大豆	七月廿九日	二七、五	二六七、六〇〇	二三、四〇〇	二九一、〇〇〇
三 赤クロバ	八月十一日	一四、〇	一八〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	二三四、〇〇〇

尙ホ四十一年度ヨリ本年度ニ至ル四ケ年間ノ平均收量及ヒ其所含三要素量ヲ掲クレバ左ノ如シ

試驗別	平均量	窒素	一定三要素	酸ノ含量	里
一 紫雲英	三三〇、一八三 ^g	一、五八五 ^g	二九七 ^g	一、二二一 ^g	
二 青刈大豆	二七三、三一四	一、九八五	二一九	一、九九五	
三 赤クロバ	二三三、一二五	一、四四五	三三六	八一六	

桑樹ノ生育狀況並ニ其成績ハ左ノ如シ

桑樹ノ生育狀況

試 驗 別	條ノ數	條ノ長	條ノ太サ	破苞期	開葉期	落葉期
一 紫雲英	一一、〇 ^本	三九、〇〇 ^寸	一、一六 ^寸	四月廿七日	五月九日	十一月六日
二 青刈大豆	一五、〇	四〇、四四	一、〇九	四月廿六日	五月八日	同
三 赤クロバ	九、三	三九、五六	一、一四	同	同	同

桑樹收穫調査

試 驗 別	總 量	葉 量	梢 量	條 量	消耗量	收穫等位	葉梢條ノ割合(千分率)
一 紫雪英	三九、五〇 ^リ	一八、六五 ^リ	七三、四〇 ^リ	一三〇、八五 ^リ	七、六五〇	三	四七三
二 青刈大豆	四九〇、七〇〇	二三八、六〇〇	一〇〇、八〇〇	一五、〇五〇	五、四〇〇	二	四七一
三 赤クロバ	四九六、六九四	二三八、五三	九、一五	一五、三八	六、六七	一	四八七
							二〇〇
							三二三

備考

收穫期ハ春蠶五齡末(六月十七日)トス

尙ホ昨今兩年度ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗 別	四十三四十四兩年度ノ收葉量合計	同 上 平 均	同上等位
-------	-----------------	---------	------

一	紫雲英	三七〇、七三〇 ^g	一八五、三六五 ^g	三
二	青刈大豆	三九〇、一一三	一九五、〇五七	二
三	赤クロバー	四三四、七四九	二一七、三九七	一

本試験ノ成績ニ據レバ青刈大豆ノ收穫量ハ他ノ二種ノ中間ニアルモ其含有窒素量ハ却テ第一位ヲ占メ其他ノ二區ハ共ニ稍劣レリ而シテ之カ肥料トシテノ效驗ハ赤クロバー優位ヲ占メ紫雲英最モ劣レリ

二、綠肥作物播種量試驗 (新設)

本試験ノ目的ハ綠肥トシテ桑樹ノ畦間ニ青刈大豆、赤クロバーヲ栽培スルニ當リ適當ナル各ノ播種量ヲ知ラントスルニアリ作付歩數ハ各區十歩宛ニシテ其ノ試験ノ區別ハ左ノ如シ

(甲) 青刈大豆			
第一區	四升	第二區	六升
第三區	八升	第一區	五合
(乙) 赤クロバー			
第三區	一升五合	第二區	一升

但シ播種量ハ對一反歩トス

播種法ハ青刈大豆ハ點播 赤クロバーハ條播トセリ各區ニ於ケル播種期ト其生育狀況トハ左ノ如シ

試 驗		播 種 期	發 芽 期	開 花 期	開花當時ノ莖長	生 育 期 間
(甲) 青刈大豆	第一區 四升播	五月六日	五月十七日	七月廿七日	二八 ^寸 、八	二二、九 七十一日
	第二區 六升播	同	同	同	二三、四	
	第三區 八升播	同	同	同	九、〇	
(乙) 赤クロバー	第一區 五合播	五月八日	五月二十日	八月十一日	四、〇	四、五 八十四日
	第二區 一升播	同	同	同	四、〇	
	第三區 一升五合播	同	同	同	四、五	

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗		播 種 期	發 芽 期	開 花 期	開花當時ノ莖長	生 育 期 間
(甲) 青刈大豆	第一區 四升播	七月廿九日	二七 ^寸 、五	二六 ^寸 七、六〇〇	二三、四〇〇	二九 ^寸 一、〇〇〇
	第二區 六升播	同	二五、五	二四 ^寸 五、四〇〇	二六、六〇〇	二八 ^寸 二、〇〇〇
	第三區 八升播	同	二六、〇	二三 ^寸 三、五〇〇	三一、五〇〇	二六 ^寸 四、〇〇〇
(乙) 赤クロバー	第一區 五合播	八月十一日	一四、〇	二二 ^寸 一、二〇〇	二八、八〇〇	二四〇、〇〇〇
	第二區 一升播	同	一〇、〇	一八〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	二三 ^寸 四、〇〇〇
	第三區 一升五合播	同	一〇、〇	二五 ^寸 一、四〇〇	七九、二〇〇	三三 ^寸 二、四〇〇

右ノ成績ニ據レハ青刈大豆ニアリテハ四升播最モ優リ播種量ヲ増加スルニ從ヒ順次收量ヲ減シ赤クロバーニ於テハ一升五合播最モ多ク他ノ二區ハ收量稍類セリ

第十三

伐採収葉若クハ摘葉時期回數試驗

(繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ伐採収葉若クハ摘葉ノ時期回數ヲ異ニシ其收葉量樹齡等ニ及ホス結果ヲ知ラントスルニアリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

- | | |
|-----|--------------|
| 第一區 | 春期伐採収葉 |
| 第二區 | 春期伐採収葉秋期摘葉 |
| 第三區 | 春期伐採収葉夏秋期摘葉 |
| 第四區 | 春期發芽前伐採秋期摘葉 |
| 第五區 | 春期發芽前伐採夏秋期摘葉 |
| 第六區 | 夏期伐採収葉 |
| 第七區 | 春期摘葉夏期伐採収葉 |

本試驗ハ甲乙二ヶ所ニ於テ行ヒ甲號地ヘノ肥料ハ普通用量ヲ乙號地ヘハ甲號地ノ肥料ニ五割ヲ増シタルモノヲ施シタリ

各區ニ於ケル伐採若クハ摘葉ノ時期ハ左ノ如シ

定	期	收	穫	期
第一區 春 蠶 四 齡 末	六月九日伐採收葉			
第二區春蠶二齡末ト秋蠶各齡ノ半ニ一回ツ、	五月二十八日伐採收葉	八月七日十二日十六日廿一日廿八日	摘葉	
第三區春蠶二齡末ト夏秋蠶各齡ノ半ニ一回ツ、	五月二十八日伐採收葉	七月十二日十六日廿日廿五日卅一日 八月七日十二日十六日廿一日廿八日	摘葉	
第四區春期發芽前ト秋蠶各齡ノ半ニ一回ツ、	四月十八日伐採	八月七日十二日十六日廿一日廿八日	摘葉	
第五區春期發芽前ト夏秋蠶各齡ノ半ニ一回ツ、	四月十八日伐採	七月十二日十六日廿日廿五日卅一日 八月七日十二日十六日廿一日廿八日	摘葉	
第六區 夏 蠶 四 齡 末	七月廿六日伐採收葉			
第七區春蠶三齡ノ初ト夏蠶四齡末	五月卅一日摘葉七月廿六日伐採收葉			

夏秋期摘葉ノ方法ハ左ノ如シ

一、夏期摘葉ノ程度ハ條ノ下半部ニ止ム

但シ夏蠶五齡ノ摘採期ニ於ケル條長ニ付テ云フ

一、夏秋期共各齡ニ於ケル摘葉ノ分量ハ各區ニ付收穫見込ヲ定メ用桑比例ヲ以テ收穫スル

モ常ニ各株均一ノ摘採ヲナス爲メ幾分ノ増減アルモノトス

一、摘採ハ成ルヘク蠶齡ノ進ムニ從ヒ上部ヨリ下部ニ及ホシタリ

桑樹ノ生育狀況ハ左ノ如シ

試 驗 別	破 苞		開 葉		落 葉 期
	普 通 肥	多 肥	普 通 肥	多 肥	
一 春 期 伐 採 收 葉	四月廿六日	四月廿六日	五月八日	五月九日	十一月四日
二 春 期 伐 採 收 葉 秋 期 摘 葉	同	同	同 九 日	同	同
三 春 期 伐 採 收 葉 夏 秋 期 摘 葉	同	同	同 八 日	同 八 日	同
四 春 期 發 芽 前 伐 採 秋 期 摘 葉					同
五 春 期 發 芽 前 伐 採 夏 秋 期 摘 葉					同
六 夏 期 伐 採 收 葉	同 廿七日	同 月廿七日	同 十 日	同 十 日	同 六 日
七 春 期 摘 葉 夏 期 伐 採 收 葉	同	同	同	同	同

第四區ト第五區トハ四月廿日枝條ヲ伐採シ同時ニ株直シヲナシ其後五月十五日ニ至リ甲乙兩號地共萌芽ヲ始メ爾後順當ニ生育シタリ
本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

甲號(普通肥)地收穫調查

(其 一) 伐採收葉量

(其二) 摘葉量

試驗別	春期				夏期			
	總量	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡	總量	一齡
一 春期伐採收葉	三八、七〇八 ^實	三、一三三 ^實	四、八〇二 ^實	四、〇三三 ^實	四、一三六 ^實	三、八〇五 ^實	二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實
二 春期伐採收葉秋期摘葉	二〇三、三六七	四〇、八〇二 ^實	四〇、〇六七	四、〇三三 ^實	三、四二七 ^實	二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實	八、九三三 ^實
三 春期伐採收葉夏秋期摘葉	九、一五六	三九、九三二 ^實	四、〇五三 ^實	四、一三六 ^實	三、八〇五 ^實	二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實	八、九三三 ^實
四 春期發芽前伐採秋期摘葉				五二、六五〇 ^實	五、一三〇〇 ^實	二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實	八、九三三 ^實
五 春期發芽前伐採夏秋期摘葉						二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實	八、九三三 ^實
六 夏期伐採收葉						二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實	八、九三三 ^實
七 春期摘葉夏期伐採收葉						二六、六九二 ^實	八、九三三 ^實	八、九三三 ^實

試驗別	春期				秋期			
	總量	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡	總量	一齡
一 春期伐採收葉							六三、七〇八 ^實	二、一〇六 ^實
二 春期伐採收葉秋期摘葉	一五、〇六六 ^實	八八二 ^實	二、七五四 ^實	二、六四六 ^實	三、〇二四 ^實	五、七六〇 ^實	四〇、〇七六 ^實	一、二四七 ^實
三 春期伐採收葉夏秋期摘葉							四〇、〇七六 ^實	二、八七六 ^實
四 春期發芽前伐採秋期摘葉							二〇、三九二 ^實	四、六八五 ^實
五 春期發芽前伐採夏秋期摘葉	五九、六七九	一、一三六	四、四四四	八、七八六 ^實	二、九六六 ^實	三、五七七 ^實	四九、八八六 ^實	一、七四三 ^實

栽桑試驗 栽種ノ部 第一三 伐採收葉若クハ摘葉時期回数試驗

(其 一) 伐採收穫量

[illegible]

試驗別		春		夏		秋	
試驗別	摘葉量	總量	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡
一 春期伐採收穫	二八四、八五七 ^實 、七四三 ^實 、九二六、五〇〇 ^實	七、五〇〇 ^實					
二 春期伐採收穫秋期摘葉	七〇、八五二、七〇〇、八六五〇三、五二五、九五〇						
三 春期伐採收穫夏秋期摘葉	九四、五〇三七、四〇〇三、六六七四二、一五〇二、四三三						
四 春期發芽前伐採秋期摘葉	四九、九五〇						
五 春期發芽前伐採夏秋期摘葉	四〇、五〇〇						
六 夏期伐採收穫	二五、六五九 ^實 、二一、六四九 ^實 七、八五 ^實 一九、二九 ^實 八、〇二六 ^實						
七 春期摘葉夏期伐採收穫	一四六、三八二						

右甲乙兩號地各區ニ於ケル收葉量ヲ掲ケテ其平均結果ヲ示セハ左ノ如シ

栽桑試驗 栽植ノ部 第一三 伐採收葉若クハ摘葉時期回數試驗

尙第一第二第三第六第七區ノ伐採収葉期ニ於ケル葉梢條ノ割合(千分率)ハ左ノ如シ

試 驗 別	甲 號 (普通肥) 地		乙 號 (多肥) 地	
	葉 梢 條	葉 梢 條	葉 梢 條	葉 梢 條
一 春 期 伐 採 收 葉	四六二	一七二	三六六	四四三
二 春 期 伐 採 収 葉 秋 期 摘 葉	四〇八	一五一	四四一	四一一
三 春 期 伐 採 收 葉 夏 秋 期 摘 葉	四一九	一四七	四三四	四〇六
四 夏 期 伐 採 收 葉	七三四	一七三	九三	五三八
五 春 期 摘 葉 夏 期 伐 採 收 葉	五六二	三〇九	一二九	五七〇
				三三八
				九二

本試驗ノ成績ニ於テ乙號(多肥)地ノ收葉量カ概シテ甲號(普通肥)地ニ劣レルヲ見シハ地味ノ相違ニ基因セルモノナルコト前年ト同シ而シテ今甲乙兩號地ノ平均收葉量ヲ見ルニ其最モ多キハ第六區ニシテ第五區及第一區第四區ハ相伯仲シテ之ニ亞キ第七區第三區順次少ク第二區最モ劣リ又第六區ト第五區及第七區トハ兩號地ヲ通シ稍一致ノ傾キアルモ他ハ其成績相前後シ未タ之カ優劣ヲ判シ難キモノアリ

尙ホ昨今兩年度ニ於ケル甲乙兩號地ノ平均收葉量ヲ合計シ其結果ヲ示セハ左ノ如シ

試 驗 別	二ケ年間收葉量合計	同 上 平 均	同 上 等 位
一 春 期 伐 採 收 葉	二三二、二三三	一一六、一一二	六

二	春期伐採收葉 秋期摘葉	二〇八、〇九四	一〇四、〇四七	七
三	春期伐採收葉 夏秋期摘葉	二四二、五〇六	一二一、二五三	五
四	春期發芽前伐採秋期摘葉	二四七、九〇八	一二三、九五四	四
五	春期發芽前伐採夏秋期摘葉	二五九、九六〇	一二九、九八〇	二
六	夏期伐採收葉	二九二、六四八	一四六、三三四	一
七	春期摘葉 夏期伐採收葉	二五四、八四八	一二七、四二四	三

第一四

夏秋蠶期摘葉程度試驗

(繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ夏秋期若クハ秋期ニ於ケル摘葉ノ程度ヲ異ニシ其收葉量樹勢等ニ及ホス關係ヲ知ラントスルニアリ供試桑園ハ(甲)春期伐採收葉秋期摘葉ノモノ(乙)同夏秋期摘葉ノモノ(丙)春期發芽前伐採秋期摘葉ノモノ(丁)同夏秋期摘葉ノモノヲ以テシタリ

但シ伐採摘葉ノ時期ト方法トハ伐採若クハ摘葉時期回數試驗ニ同シク又全部摘葉區ノ成績ハ總テ同試驗ヲ對照セリ

第一區 全部摘葉

第二區 半部摘葉

半部摘葉ノ方法ハ最終ノ摘葉マテニ各條ニツキ其葉數ノ半バヲ摘ミ終ルモノトス

(甲)(乙)ノ兩區ハ 甲乙兩號地共四月二十六日破苞ヲ始メ五月七日開葉シ(丙)(丁)ノ各區ハ四月二十日伐條後直ニ株直ヲナシ五月十五日ニ至リ萌芽シ爾後順當ニ生育シタリ

甲號(普通肥)地收穫調查

(其一) 春期伐採收葉

[illegible]

備考

(丙)(丁)各區ノ條量ハ發芽前伐採當時ノ量トス乙號地表亦之ニ同シ

(其二)夏秋期摘葉量

試驗別	總量	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡	總量	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡
甲	二期	一期	二期	三期	四期	五期	二期	一期	二期	三期	四期	五期
春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉	春季伐採收葉秋季全部摘葉
乙	二期	一期	二期	三期	四期	五期	二期	一期	二期	三期	四期	五期
春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉	春季伐採收葉夏季全部摘葉
丙	二期	一期	二期	三期	四期	五期	二期	一期	二期	三期	四期	五期
春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉	春季發芽前伐採秋季全部摘葉
丁	二期	一期	二期	三期	四期	五期	二期	一期	二期	三期	四期	五期
春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉	春季發芽前伐採夏季全部摘葉

乙號(多肥)地收穫調查

(其一)春期伐採收葉量

試驗別	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	葉梢條ノ割合(千分率)
試驗別	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	葉梢條ノ割合(千分率)

甲		乙		丙		丁	
一	二	一	二	一	二	一	二
全部摘葉 春秋期 採收葉	春秋期伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期發芽前伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期發芽前伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期發芽前伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期發芽前伐採 全部摘葉 春秋期
七〇、八二五 ^實	一〇一、一二九	九四、六五〇	一二四、九一二				
二八、七〇〇 ^實	四二、四一〇	三七、四〇〇	四九、八〇〇				
八、六五〇 ^實	一五、二七八	一二、六六七	二〇、四〇〇				
三三、五二五 ^實	四一、二六八	四二、一五〇	五一、九五六	四九、九五〇	六九、七五〇	四〇、五〇〇	七一、一〇〇
九五〇 ^實	二、一七三	二、四三三	二、七五六				
四一、一	四二、九	四〇、六	四〇、八				
一二四	一五四	一三七	一六七				
四六五	四一七	四五七	四二五				

(其二) 夏秋期摘葉量

甲		乙		丙	
一	二	一	二	一	二
全部摘葉 春秋期 採收葉	春秋期伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期發芽前伐採 全部摘葉 春秋期	春秋期發芽前伐採 全部摘葉 春秋期
七〇、八二五 ^實	一〇一、一二九	九四、六五〇	一二四、九一二		
二八、七〇〇 ^實	四二、四一〇	三七、四〇〇	四九、八〇〇		
八、六五〇 ^實	一五、二七八	一二、六六七	二〇、四〇〇		
三三、五二五 ^實	四一、二六八	四二、一五〇	五一、九五六	四九、九五〇	六九、七五〇
九五〇 ^實	二、一七三	二、四三三	二、七五六		
四一、一	四二、九	四〇、六	四〇、八		
一二四	一五四	一三七	一六七		
四六五	四一七	四五七	四二五		

試驗別

夏

期

秋

期

[illegible]

今甲號(普通肥)地ト乙號(多肥)地ニ於ケル各區ノ收葉量ヲ計上シ其等位ヲ示ス片ハ左ノ如シ

試 驗 別		甲號(普通肥)地	乙號(多肥)地	平 均	等 位
甲	一 二 春期伐採收葉秋期全部摘葉 春期伐採收葉秋期半部摘葉	一〇四、五〇八 ^甲 九三、二九一	六二、五〇三 ^甲 七二、五七二	八三、五〇五 八二、九三二	一 二
乙	一 二 春期伐採收葉夏期全部摘葉 春期伐採收葉夏期半部摘葉	九五、〇七四 一一九、〇七八	九五、五三三 八三、一六九	九五、三〇三 一〇一、一二四	二 一
丙	一 二 春期發芽前伐採秋期全部摘葉 春期發芽前伐採秋期半部摘葉	一〇二、九七一 五八、五〇〇	一〇六、三二三 六六、三三〇	一〇四、六四七 六二、四一五	一 二
丁	一 二 春期發芽前伐採夏秋期全部摘葉 春期發芽前伐採夏秋期半部摘葉	一〇九、五六五 八九、七三七	一〇一、五三九 九九、六〇〇	一〇五、五五二 九四、六六九	一 二

本試験ノ成績ニ據レバ(甲)(丙)(丁)共ニ半部摘葉區ハ全部摘葉區ニ比シ概シテ收量少ナキヲ見タリ又多肥地ノ收量概シテ普通肥地ニ劣リタルハ前年同様地味ノ異リタルニヨリタルモノナリ

ラン

尙ホ昨今二ケ年間ニ於ケル甲乙兩號地ノ收葉量ヲ合計シ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗 別		二ケ年收葉量合計		同 上 平 均		同 上 等 位
甲						
一	春期伐採收葉秋期全部摘葉	二〇八、〇九四 ^甲		一〇四、〇四七 ^甲		一
二	春期伐採收葉秋期半部摘葉	一七七、八二四		八八、九一二		二
乙						
一	春期伐採收葉夏秋期全部摘葉	二四二、五〇六		一二一、二五三		一
二	春期伐採收葉夏秋期半部摘葉	二二三、三〇九		一〇六、六五五		二
丙						
一	春期發芽前伐採秋期全部摘葉	二四七、九〇八		一二三、九五四		一
二	春期發芽前伐採秋期半部摘葉	一六六、七三五		八三、三六八		二
丁						
一	春期發芽前伐採夏秋期全部摘葉	二五九、九六〇		一二九、九八〇		一
二	春期發芽前伐採夏秋期半部摘葉	一九〇、四六〇		九五、二三〇		二

葉質試驗

第一 桑樹ノ葉質試驗

本試驗ノ目的ハ桑樹ノ種類ニヨリ蠶兒ノ發育、收繭ノ多寡品質等ニ及ホス結果ヲ明カニシ葉質ノ良否ヲ如ラントスルニアリ

供試桑樹ハ栽桑部種類試驗各區ノモノニシテ蠶種ハ愛知縣中島郡金城蠶種改良組合ノ採種シタル一化性金城又昔ヲ用ヒ各區ノ飼育頭數ヲ一千頭宛トシタリ
其ノ試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	市平 (早生種)	給與
第二區	相模早生 (同上)	給與
第三區	多胡早生 (同上)	給與
第四區	四五八 (同上)	給與
第五區	鶴田 (中生種)	給與
第六區	小牧 (同上)	給與
第七區	四方咲 (同上)	給與
第八區	金芭蕉 (同上)	給與

山中高助（晩生種）給與

鼠返(同上)給與

四ツ目(同上)給與

十字文(同上)給與

但シ桑樹ハ種類ニ依リ發芽ニ早晚アリ終始同一ノモノヲ用井難カリシニヨリ各區ノ給桑期間ヲ左表ノ如クシタリ

[illegible]

九	山中高助給與	上	山中高助同	上	同	上
一〇	鼠返給與	魯桑實生同	鼠返同	上	同	上
一一	四ツ目給與	上	四ツ目同	上	同	上
一二	十文字給與	上	十文字同	上	同	上

蠶兒ノ掃立ハ五月十三日午前十一時ニシテ各區共何等ノ障害ナク能ク齊一ニ發育シ六月二十日午後六時全部上簇シタリ其ノ經過左ノ如シ

但シ第二區相模早生第四區ノ四五八、給與區ハ桑樹ノ繁茂不良ナリシト霜害ヲ被リタル爲メ二眠起頭數調査ノ際其數ヲ半減シタリ

生育經過

蠶齡	掃立餉食月日	停食月日	埃蛻終熟月日	食桑中絶食中合	日數
第一齡	午前五月十三時	午五後月二十時	午五前月二十二時	七日十二時間	一日九時間八日二十一時間
第二齡	午前五月二十二時	午五後月二十七時	午五前月二十九時	五日九時間	一日十二時間六日二十一時間
第三齡	午五前月二十九時	午六後月三時	午六後月四時	五日十時間	一日四時間六日十四時間
第四齡	午六後月四時	午六後月三十時	午六前月十三時	五日二十時間	二日十四時間八日十時間
第五齡	午六前月十三時	午六後月十九時	午六後月二十時	七日十三時間	一七日十三時間
合計	一	一	一	卅一日十六時間六日十五時間三十八日七時間	

蠶	齡	回	數	量
第一	齡		六二	四六〇、五 _匁
第二	齡		三九	九二二、〇
第三	齡		三四	二、五〇一、〇
第四	齡		三六	八、〇九〇、〇
第五	齡		三九	三六、一七〇、〇
合計			二一〇	四八、一四三、五

各 齡 溫 濕 度

蠶	齡	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
第一	齡	七四 _度	四〇 _度	五九 _度	一〇〇 _度	三九 _度	六九 _度	七四 _度	五五 _度	七二 _度	八五 _度	三九 _度	五四 _度
第二	齡	七八	四〇	六三	九三	三九	六五	七八	六五	七二	七〇	三九	五三
第三	齡	八二	五四	六七	一〇〇	三七	七〇	七八	六五	七〇	七七	四二	六二
第四	齡	八二	五〇	六八	一〇〇	四七	六八	七七	六六	七二	七七	四六	六二
第五	齡	八六	五九	七一	一〇〇	五四	七四	八四	六四	七二	八二	五一	六七
平均	均	八〇	四九	六六	九九	四三	六九	七八	六三	七二	七八	四三	六〇

簇

中 一七六 六〇 六七 一〇〇 五二 七七 八〇 六九 七四 七〇 五二 六三

蠶兒ノ体量 (對百頭)

試驗別	第三齡眠蠶	第四齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟	蠶
一 市平給與	四、六 ^外		一二〇、〇 ^外		八二、〇 ^外
二 相模早生給與	四、四		一〇五、〇		八〇、〇
三 多胡早生給與	四、六		一二〇、〇		八四、〇
四 四五八給與	四、三		一一〇、〇		七八、〇
五 鶴田給與		一九、〇 ^外	一一九、〇		七五、〇
六 小牧給與		一八、五	一二六、〇		七八、〇
七 四方咲給與		一八、〇	一二五、〇		七八、〇
八 金芭蕉給與		一九、〇	一二〇、〇		八〇、〇
九 山中高助給與			一二三、〇		八七、〇
一〇 鼠返給與			一二〇、〇		八五、〇
一一 四ツ目給與			一一八、〇		八〇、〇
一二 十文字給與			一一九、〇		八五、〇

右ノ如ク經過日數ト給桑量トハ何レモ同一ニシテ食桑ノ狀況ト蠶兒ノ發育トハ大差ナカリキ

本試驗ニ於ケル收繭、繰糸ノ成績ハ左ノ如シ

(甲) 一、收繭成績

試 驗 別	上		中		下		同功繭		合 計		結繭對蟻一万頭	
	顆數	容量 重量	顆數	容量 重量	顆數	容量 重量	顆數	容量 重量	顆數	容量 重量	顆數	容量 重量
一市平給與	六二五	二六、七 二六、六	五五二	二二、二	九〇三	三〇、三	四四〇	三〇、〇	七三三	二六、二	七三三	二六、二
二相模早生給與	六〇八	二六、〇 二七、二	五〇二	二〇、〇	一〇〇	〇、四	八	五、二	七〇三	二四、四	七〇三	二四、四
三多胡早生給與	六四三	二七、五 二七、六	五七二	二三、三	二二〇	〇、三	四四	三、〇	七五三	二一、一	七五三	二一、一
四四五八給與	六二五	二五、五 二五、三	五四二	二二、二	三三〇	〇、四	六	四〇	七二二	二一、一	七二二	二一、一
五鶴田給與	六六〇	二八、〇 二八、七	四九二	二〇、〇	八〇三	〇、三	四	三七	七五四	二一、三	七五四	二一、三
六小牧給與	六三七	二七、〇 二六、二	四七一	一九、九	一三〇	〇、四	五	三九	七六三	二一、三	七六三	二一、三
七四方咲給與	六三六	二七、〇 二六、五	四七一	一九、九	一〇〇	〇、四	四	三四	七六三	二一、三	七六三	二一、三
八金芭蕉給與	六二九	二七、五 二七、八	四五一	一八、八	八〇三	〇、三	三	三五	七七三	二一、三	七七三	二一、三
九山中高助給與	六三三	二七、五 二六、七	四六一	二五、五	一一八	〇、四	六	三五	七四五	二一、一	七四五	二一、一
一〇鼠返給與	六三八	二八、〇 二七、六	六七二	二五、五	八〇三	〇、三	四	三九	七五三	二一、八	七五三	二一、八
一一四ツ目給與	六二〇	二七、〇 二六、二	五五二	二二、二	九〇三	〇、三	三	四二	七六三	二一、五	七六三	二一、五
一二十文字給與	六四二	二八、〇 二八、一	六〇二	二二、二	一五〇	〇、五	六	四二	七五九	二一、七	七五九	二一、七

但シ第二區相模早生、第四區四五八給與區ノ收繭量ハ一千頭ニ改算シタリ

(甲) 二、繭質調査

試 驗 別	上繭一升繭ノ大サ(對十顆)			繭層 繭及蛻皮 合 計	對繭一升ノ量	肉 眼 審 查 位		
	ノ顆數	長	巾					
一 市平給與	二三一	一一、三五五、二〇	六、六	八、七	一五、三	一五、二五	一九、六四	三
二 相模早生給與	二三四	一一、三〇五、二〇	六、六	九、一	一五、七	一五、四四	二〇、二九	二
三 多胡早生給與	二三四	一一、二五五、二〇	六、六	八、六	一五、二	一五、四四	二〇、一二	一
四 四五八給與	二四五	一〇、八五五、一〇	六、一	八、九	一五、〇	一四、九五	二一、八一	四
五 鶴田給與	二三五	一一、四〇五、一五	六、八	八、九	一五、七	一五、九八	二〇、九二	一
六 小牧給與	二三四	一一、二三五、二〇	六、五	八、九	一五、四	一五、二八	二〇、八三	四
七 四方咲給與	二三四	一一、二三五、二〇	六、七	八、九	一五、六	一五、六八	二〇、八三	三
八 金芭蕉給與	二二八	一一、四〇五、二〇	六、六	八、八	一五、四	一五、〇五	二〇、〇六	二
九 山中高助給與	二三〇	一一、三五五、二〇	六、五	八、九	一五、四	一四、九五	二〇、四七	二
一〇 鼠返給與	二二八	一一、三八五、二〇	六、六	九、五	一六、一	一五、〇五	二一、六六	三
一一 四ッ目給與	二三〇	一一、三五五、二〇	六、四	九、五	一五、九	一四、七〇	二一、八五	四
一二 十文字給與	二三九	一一、三五五、二〇	六、八	九、九	一六、七	一五、五七	二二、六七	一

備考

等位ノ色澤、形狀、緊緩等ヲ調査シ早、中、晚桑給與區毎ニ比較シテ等位ヲ付シタリ

以下諸試驗皆之ニ同シ

(甲) 三、絲質調查

試 驗 別	一類ノ絲				一類ノ織				類 節	切 斷
	最 長	最 短	平 均	長	最 太	最 細	平 均	度		
一 市平給與	六一〇 _四	四三〇 _四	五三〇 _四	五、四 _四	三、六五 _{デニール}	三、〇六 _{デニール}	三、二九 _{デニール}	一、二 _グ	一、二 _グ	一、〇 _四
二 相模早生給與	六六〇	四三〇	五五三	五、〇	三、四九	二、四二	三、〇九	〇、七	〇、七	一、〇
三 多胡早生給與	六六〇	四八〇	五七二	五、一	三、五五	二、五〇	三、〇八	一、一	一、一	〇、八
四 四五八給與	六八五	四五〇	五六〇	四、八	三、七二	二、五九	三、一一	一、二	〇、七	〇、七
五 鶴田給與	八〇〇	五四五	六四八	五、一	三、一二	二、三七	二、八四	〇、八	〇、二	〇、二
六 小牧給與	六六五	三八〇	五四一	五、三	三、九五	二、五〇	三、〇一	〇、五	一、一	一、一
七 四方咲給與	六五〇	五一〇	五七八	五、二	三、三三	二、七一	三、〇八	〇、四	〇、一	〇、一
八 金芭蕉給與	六四五	四三五	五八六	五、四	三、六八	二、五八	三、〇九	〇、九	〇、四	〇、四
九 山中高助給與	五九五	四三五	五二三	五、四	三、六八	二、七一	三、二〇	一、二	一、六	一、六
一〇 鼠返給與	六七八	四二五	五五二	五、四	四、〇〇	二、六二	三、三一	〇、八	〇、五	〇、五
一一 四ッ目給與	六四〇	五一〇	五七三	五、四	三、四〇	二、五八	三、〇六	〇、六	〇、六	〇、六
一二 十文字給與	六四五	四三〇	五三〇	五、四	三、九五	二、九四	三、〇五	〇、五	〇、五	〇、五

備考

一、絲長ハ各區十顆ニ付キ調査ス

二、織度ハ四百回ニ付キ調査ス

三、類節ハ二百回目ニ付キ調査シ四百回ニ對スル數ヲ上ゲタリ以下諸試驗皆之ニ同シ

(乙) 一、繰絲成績

試驗別	顆數	重量	生絲量	蛹量	屑物量	繰絲時間	對繭一升	
							生絲量	屑物量
一 市平給與	二三六 _ヶ	三五、〇〇 _ゐ	一二、八〇 _ゐ	一八、二〇 _ゐ	二、六〇 _ゐ	一、四〇 _時 〇 _分	一二、五〇 _ゐ	二、五四 _ゐ
二 相模早生給與	二三六	三六、〇〇	一一、八五	一八、二〇	三、〇	一、五五	一一、七五	二、九八
三 多胡早生給與	二三六	三五、〇〇	一二、〇五	一八、七〇	二、五	一、四五	一一、九五	二、四八
四 四五八給與	二三六	三四、〇〇	一一、二〇	一八、〇〇	三、〇	一、五〇	一一、六三	三、一一
五 鶴田給與	二三六	三六、〇〇	一二、一〇	一八、二〇	二、五〇	一、五五	一二、〇五	二、四九
六 小牧給與	二三六	三五、〇〇	一二、五五	一九、〇〇	二、四〇	一、五五	一二、四四	二、三八
七 四方咲給與	二三六	三五、〇〇	一二、三五	一八、五〇	二、五〇	一、五〇	一二、二五	二、四八
八 金芭蕉給與	二三六	三五、五〇	一二、六三	一九、〇〇	二、五〇	一、四五	一二、二一	二、三二
九 山中高助給與	二三六	三五、五〇	一二、七〇	一九、〇〇	二、七〇	一、五〇	一二、三八	二、六三
一〇 鼠返給與	二三六	三六、〇〇	一二、七五	一八、〇〇	二、五〇	一、四五	一二、三二	二、四二
一一 四ツ目給與	二三六	三五、〇〇	一二、七五	一八、四〇	二、九〇	一、五〇	一二、四三	二、八三

一二 十文字給與 二三六 三六、五〇 一二、八三 一九、〇〇 二、八〇 一、五五 一二、四五 二、七二

(乙) 二、生絲調査

試 驗 別	織 度			類 節		強 力	伸 度		肉眼 査等位
	最太	最細	平均	大	小		延長	割合	
一 市平給與	一七、七五 _{デニール}	一二、五〇 _{デニール}	一五、〇五 _{デニール}	二 _ケ	九 _ケ	五三 _瓦	一一五 _{ミメ}	二、三〇 _割	一
二 相模早生給與	一六、七五	一四、二五	一五、八二	一	一八	五五	一〇七	二、一四	一
三 多胡早生給與	一七、二五	一四、〇〇	一五、八八	三	二五	五九	一一五	二、三〇	二
四 四五八給與	一九、〇〇	一四、〇〇	一五、五〇	一	一一	五八	一〇九	二、一八	二
五 鶴田給與	一八、二五	一三、七五	一五、五六	一	一九	六一	九七	一、九四	一
六 小牧給與	一五、二五	一三、七五	一四、三八	一	一三	六六	一一七	二、三四	三
七 四方咲給與	一七、二五	一五、二五	一五、〇〇	一	一一	六九	一二七	二、五四	一
八 金芭蕉給與	一八、〇〇	一四、〇〇	一五、五〇	一	二〇	五八	一〇六	二、一二	二
九 山中高助給與	一六、〇〇	一二、七五	一四、六九	一	一六	六六	一一三	二、二六	一
一〇 鼠返給與	一六、七五	一二、七五	一四、二五	二	一八	五一	一一〇	二、二〇	三
一一 四ツ目給與	一八、七五	一二、〇〇	一六、二五	一	一三	五六	八八	一、七六	二
一二 十文字給與	一五、七五	一四、七五	一五、六三	一	二四	七三	一一三	二、二六	一

備考

一、纖度ハ四百回ニ付キ調査ス

二、類節ハ二百回ニ付キ調査シ四百回ニ對スル數ヲ上ゲタリ

三、強力及ヒ伸度ハ各區纖度平均ニ近キモノヨリ之ヲ調査シタリ而シテ調査當時ノ室内

溫度ハ華氏六十三度ニシテ濕度ハ七十六度ナリキ

四、生絲ノ等位ハ色澤品位ニ付キ調査ス

以下諸試驗皆之ニ同シ

右成績ニ據リ各區給桑量十貫目ニ對スル收繭量ト繰絲量トヲ掲ケ之ニ等位ヲ附シ尙ホ早、中、晚種別ニ繭質、絲質ノ等位ヲ併記スルトキハ左ノ如シ

給桑量ニ對スル繭及生絲量

試驗別	繭		生	
	量	同上等位	糸量	同上等位
一 市平給與	六七八 _分	七	七〇、〇 _分	七
二 相模早生給與	七一九	二	六四、〇	一〇
三 多胡早生給與	六九八	六	六八、九	九
四 四五八給與	六四六	一〇	六二、二	一一
五 鶴田給與	七一一	四	七〇、七	四
六 小牧給與	六六三	九	七〇、四	五
				三
				一
				二
				二
				一
				一

七	四方咲給與	六六九	八	三	六九、三	八	一
八	金芭蕉給與	七一三	三	二	七〇、四	五	二
九	山中高助給與	六七八	七	二	七一、四	三	一
一〇	鼠返給與	七〇〇	五	三	七二、三	二	三
一一	四ツ目給與	六七八	七	四	七〇、三	六	二
一二	十文字給與	七三八	一	一	七三、一	一	一

以上本試験ノ成績ニ據リ葉質ノ良否ヲ評論スルトキハ左ノ如シ

一、早生桑ヲ給與シタルモノノ内結繭蠶數ノ最モ多カリシハ多胡早生ニシテ相模早生、四五八之ニ亞キ市平最モ少ナク繭一升ニ對スル絲量ハ市平最モ多ク之ニ亞クハ多胡早生相模早生ニシテ最モ少キハ四五八ナリキ繭質ハ多胡早生、相模早生、優良ニシテ市平之ニ亞キ四五八最モ劣リタリ但シ給桑量ニ對スル繭量ハ相模早生第一位ヲ占メ内生糸量ハ市平多キヲ占ム

一、中生桑ヲ給與シタルモノノ内結繭蠶數ノ最モ多キハ鶴田ニシテ四方咲、小牧之ニ亞キ金芭蕉最モ少ナシ繭一升ニ對スル絲量ハ小牧、四方咲、金芭蕉ノ順位ニシテ鶴田最モ少ナク繭質絲質ハ鶴田優良ニシテ金芭蕉、四方咲、相伯仲シ小牧最モ劣レリ但シ給桑量ニ對スル繭量金芭蕉第一位ニシテ鶴田之ニ亞キ同生糸量ハ鶴田第一位ヲ占ム

一、晩生桑ヲ給與シタルモノノ内結繭蠶數ハ十文字第一位ヲ占メ鼠返、山中高助之ニ亞キ四ツ目最モ少ナク繭一升ニ對スル絲量ハ十文字第一位、四ツ目第二位、山中高助第三位ニシテ鼠返最モ少ナシ繭質糸質ハ十文字、山中高助優良ニシテ鼠返四ツ目ハ相伯仲セリ又給桑量ニ對スル繭量及ヒ生糸量モ十文字第一位ヲ占メタリ
要スルニ各區一長一短アリテ未タ其ノ優劣ヲ判シ難キモノ有リ

第一 密植桑樹ノ葉質試驗

本試驗ノ目的ハ密植シタル左記八種類ノ桑葉ヲ用井テ蠶兒ヲ飼育シ其ノ發育、收繭量ト繭質トニ及ホス關係ヲ明ラカニシ葉質ノ良否ヲ知ラントスルニアリ

供試桑樹ハ栽桑部密植種類試驗各區ノモノニシテ其ノ試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	小牧給與
第二區	十文字給與
第三區	四方咲給與
第四區	魯桑實生給與
第五區	山中高助給與
第六區	九紋龍給與

第七區 鼠返給與
第八區 細江給與

本試驗ハ本年春蠶期ト秋蠶期トニ於テ施行シタリ而シテ各蠶期ニ於テ飼育シタル蠶ノ種類ト各區ノ頭數並ニ掃立月日ハ左ノ如シ

蠶 期	蠶 ノ 種 類	各 區 ノ 飼 育 頭 數	掃 立 月 日
春 蠶 期	一化性金城又昔	二、〇〇〇頭	五月十三日 午前十時
秋 蠶 期	二化性二化大白龍	一、〇〇〇	八月五日 午前十時

但シ春蠶期ニ於テハ各區共三齡就眠迄前區別ノ桑葉ヲ給與シ四齡ハ小牧五齡ハ鼠返ヲ以テ飼育シタリ

秋蠶期ハ始終前區別ノ桑葉ヲ以テ飼育セリ

各區ノ蠶兒ハ二期共何レモ良ク齊一ニ發育シタリ今其經過ヲ表示スレハ左ノ如シ

(甲) 春 蠶 ノ 經 過

蠶 齡	掃立月日	停食月日	終熟月日	食桑中絶食中合計
第一齡	午五前月十三日	午五後月二十日	午五後月二十二日	七日 五時間 一日十七時間 八日廿二時間
第二齡	午五前月二十二日	午五後月二十七日	午五後月二十八日	五日 九時間 一日六時間 六日十五時間
第三齡	午五後月二十八日	午六前月九日	午六後月十四日	五日 十時間 一日十時間 六日二十時間

合 計	第 四 齡	第 五 齡
午六 前月 五十三 時日	午六 後月 七十四 時日	午六 後月 七十四 時日
午六 前月 五十三 時日	午六 後月 十一 時日	午六 前月 五十三 時日
卅一日九時間	六日 四時間	六日 四時間
六日十五時間	二日 六時間	二日 六時間
三十八日	八日 十時間	八日 十時間

蠶 齡	第 一 齡	第 二 齡	第 三 齡	第 四 齡	第 五 齡	平 均	簇
最高	七四度	七八度	八二度	八二度	八六度	八〇度	七六度
最低	四〇度	四〇度	五四度	五四度	五九度	四九度	六〇度
平均	五九度	六三度	六七度	六八度	七二度	六六度	六七度
最高	一〇〇度	九三度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	九九度	一〇〇度
最低	三九度	三九度	三七度	四七度	五四度	四三度	五一度
平均	六七度	六五度	七〇度	六八度	七四度	六九度	八〇度
最高	七五度	七五度	七八度	七六度	八四度	七八度	八〇度
最低	六三度	六四度	六五度	六六度	六四度	六四度	六九度
平均	六九度	六九度	七〇度	七二度	七二度	七〇度	七四度
最高	七六度	七三度	七五度	七七度	八二度	七七度	七〇度
最低	四二度	三六度	四二度	四六度	五一度	四三度	五一度
平均	四九度	五五度	六〇度	六二度	六七度	五九度	六三度

同上給桑（對蟻量一夕）

蠶 齡	第 一 齡	第 二 齡
回 數	五六回	三九
量	四二一	九二九

葉質試驗 第二 密植桑樹ノ葉質試驗

百三十九

第 三 齡	第 四 齡	第 五 齡	合 計
三 三	三 八	三 七	二 〇 三
二、三 〇 七	七、四 二 八	三 四、〇 六 五	四 五、一 五 〇

同上蠶兒ノ体量(對百頭)

試 驗 別	第三齡 眠 蠶	第五齡 盛 蠶	熟 蠶
一 小 牧 給 與	四、三 _外	一〇〇、〇 _外	六〇、〇 _外
二 十 文 字 給 與	四、七	一〇六、〇	六二、〇
三 四 方 咲 給 與	四、四	九〇、〇	五四、〇
四 魯 桑 實 生 給 與	四、六	一〇二、〇	六〇、〇
五 山 中 高 助 給 與	四、七	一〇六、〇	五五、〇
六 九 紋 龍 給 與	四、四	一〇五、〇	五八、〇
七 鼠 返 給 與	四、二	九五、〇	五〇、〇
八 細 江 給 與	四、六	一〇五、〇	六〇、〇

(乙) 秋 蠶 第 一 齡 經 過

試 驗 別	掃 立 月 日	停 食 月 日	竣 蛻 月 日	食 中 日 數
				食 桑 中 一 絕 食 中 一 合 計

一	二	三	四	五	六	七	八
小牧給與	十文字給與	四方咲給與	魯桑實生給與	山中高助給與	九紋龍給與	鼠返給與	細江給與
午前八時五十分	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
午後八時九十分	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
午後八時二十分	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
四日四時間	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
一日間	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
五日四時間	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

同上第二齡經過

一	二	三	四	五	六
小牧給與	十文字給與	四方咲給與	魯桑實生給與	山中高助給與	九紋龍給與
午後八時二十分	同上	同上	同上	同上	同上
午前八時三十分	同上	同上	同上	同上	同上
午前八時四十分	同上	同上	同上	同上	同上
二日廿時間	同上	同上	同上	同上	同上
一日間	同上	同上	同上	同上	同上
三日廿時間	同上	同上	同上	同上	同上

葉質試驗 第二密植桑樹ノ葉質試驗

八	七
鼠返給與	鼠返給與
同	同
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上

同上第三齡經過

試	驗	別	飼食月日	停食月日	竣蛻月日	食桑中	齡中	絶食中	日合	數計
一	小牧給與	同	八月十四日午前十時	八月十七日午後二時	八月十九日午前六時	三日四時間	一日十六時間	四日二十時間		
二	十文字給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
三	四方咲給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
四	魯桑實生給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
五	山中高助給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
六	九紋龍給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
七	鼠返給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
八	細江給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		

同上第四齡經過

試	驗	別	飼食月日	停食月日	竣蛻月日	食桑中	齡中	絶食中	日合	數計
一	小牧給與	同	八月十九日午前九時	八月二十三日午後四時	八月二十五日午前十一時	四日十時間	一日十八時間	六日四時間		
二	十文字給與	同	同上	同上	同上	同上	同上	同上		

同上第五齡經過

八	七	六	五	四	三
細江給與	鼠返給與	九紋龍給與	山中高助給與	魯桑實生給與	四方咲給與
同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上
午前八時 八月二十三日 午前十一時	午後四時 八月二十三日 午前四時	午後四時 八月二十三日 午前四時	同	午前十一時 八月二十三日	同
午前四時 八月二十五日	午前十時 八月二十五日	午前十時 八月二十五日	同	午前四時 八月二十五日	同
四日	四日	四日	同	四日	同
五時間	十時間	八時間	上	五時間	上
一日十七時間	一日十八時間	同	同	一日十七時間	同
五日廿二時間	六日	上六日	上	五日廿二時間	上
	四時間	一時間	上		

試	驗	別	飼食月日	催熟月日	終熟月日	齡中日數
一	小牧	給與	八月廿五日午前十時	八月卅一日午後一時	九月二日午前九時	七日二十三時間
二	十文字	給與	八月廿五日午前七時	八月卅一日午前十時	九月一日午後一時	七日六時間
三	四方咲	給與	八月廿五日午前七時	八月卅一日午後一時	九月二日午前九時	八日二時間
四	魯桑實生	給與	八月廿五日午前四時	八月卅一日午前八時	九月一日午前十時	七日六時間
五	山中高助	給與	八月廿五日午前四時	八月卅一日午前七時	九月一日午前八時	七日四時間
六	九紋龍	給與	八月廿五日午前七時	八月卅一日午前十時	九月一日午前十時	七日三時間
七	鼠返	給與	八月廿五日午前十時	八月卅一日午後一時	九月二日午前九時	七日二十三時間
八	細江	給與	八月廿五日午前四時	八月卅一日午前七時	九月一日午前十時	七日六時間

同上飼育日數

試驗別	食桑中	絶食中	合計
一 小牧給與	二十一日十三時間	五日十時間	二十七日二十三時間
二 十文字給與	二十一日十八時間	五日九時間	二十七日三時間
三 四方咲給與	二十二日十四時間	五日九時間	二十七日二十三時間
四 魯桑實生給與	二十一日十五時間	五日九時間	二十七日日間
五 山中高助給與	二十一日十三時間	五日九時間	二十六日二十二時間
六 九紋龍給與	二十一日十五時間	五日九時間	二十七日日間
七 鼠返給與	二十二日十三時間	五日十時間	二十七日二十三時間
八 細江給與	二十一日十五時間	五日九時間	二十七日日間

同上各齡温湿度度

蠶齡	室外温度			室外湿度			室內温度			室內湿度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
第一齡	八七度	六四度	七六度	一〇〇度	四二度	八三度	八七度	七二度	七九度	一〇〇度	五三度	七一度
第二齡	九一	六五	八一	一〇〇	五二	七六	九一	七三	八一	九四	五五	七五
第三齡	九二	六八	七八	九四	四九	七一	八八	七〇	七九	九四	五二	七二
第四齡	八七	六八	七七	八八	五六	七二	八六	七一	七七	八一	六二	七三

第五平簇			平均齡		
八九	六六	七八	八八	四四	六六
八九	六七	七八	九四	七四	八九
八七	五八	七三	八八	七一	七九
八八	五一	八八	七〇	八八	八九
五九	五四	五九	七二	六八	四七
七二	七二	六八			

同上給桑 (對蟻量一匁)

試驗別	第一齡		第二齡		第三齡		第四齡		第五齡		合計
	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	回数	量	
一 小牧給與	四	三〇、五	三	七七、〇	三	三八六、〇	四	六、八四二、〇	六	六、八四二、〇	二〇九四六、三七九、五
二 十文字給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	三九	六、八六、〇	五九	四、二三四、〇	二〇四四三、九六三、五
三 四方咲給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	三九	六、八六、〇	六四	三七、二五、〇	二〇九四六、九六四、五
四 魯桑實生給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	三八	六、八六、〇	五九	三四、二五、〇	二〇三三三、九四四、五
五 山中高助給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	三八	六、八六、〇	五三	三、六五、〇	二〇三三三、三四四、五
六 九紋龍給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	三九	六、八四、〇	五三	三、六五、〇	二〇三三三、三六四、五
七 鼠返給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	四〇	六、八四二、〇	六三	六、六二五、〇	二〇九四六、三七九、五
八 細江給與	同上	同上	同上	同上	同上	同上	三八	六、八六、〇	五九	四、二三四、〇	二〇三三三、九四四、五

同上蠶兒体量 (對百頭)

試驗別	第三齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟蠶
一 小牧給與	四、〇	七〇、〇	五五、〇

二	三	四	五	六	七	八
十文字給與	四方咲給與	魯桑實生給與	山中高助給與	九紋龍給與	鼠返給與	細江給與
四、五	四、三	四、二	四、三	四、二	四、三	四、六
八三、〇	七〇、〇	九〇、〇	九三、〇	九五、〇	七八、〇	九〇、〇
六三、〇	五五、〇	六六、〇	六七、〇	七二、〇	六〇、〇	六五、〇

右ノ如ク春蠶ニ於テハ經過日數ト給桑量トハ何レモ同一ニシテ蠶兒ノ發育亦大差ナカリシ
 カ秋蠶ニ於テハ其ノ經過齊一ナラス從ツテ給桑量等ニ幾分ノ差異ヲ生セリ
 本試驗ニ於ケル收繭繰糸ノ成績ハ左ノ如シ

(其 一) 春 蠶 成 績

一、收 繭 成 績

試驗別	上繭	中繭	下繭	同功繭	合計	結繭對蟻一萬頭
一小收給與一、二四〇 _題 五、四 _合	四八九 _々	三四 _題 五、〇 _合	四 _々	六二 _題 四、四 _合	五〇一、三九六、三 _合	五九二、四〇三、〇一 _合 五二、九六〇 _々
二十文字給與一、二五三四、七 _{五、六三}	一三七 _{五、五}	五 _三	二三 _{〇、八}	八二 _{五、八}	六四一、四九三、六六、八 _{六八五、一、五七四、三四、〇三、四二五}	

二、繭 質 調 査

三	四方咲給與	一、三八八、〇	四九〇	一八三	七、五	七四	三	〇、五	五	九四	六、七	七二	四八六、七	六四二	一、五三三、三	五三、二〇五
四	魯桑實生給與	一、二五〇、五	五五五	一五	四、六	四六	九	〇、三	五	八五	六、〇	六八一	四九九六四、三	六七四	一、五四三、二	五三、三七〇
五	山中高助給與	一、二四〇、五	五五〇	八	三、五	三三	二〇	〇、七	八	一〇	一七、二	八五一	四四九六四、四	六六六	一、五五〇、三	〇三、三三〇
六	九紋龍給與	一、二六八、三	五三八	九	〇、三	三六	一六	〇、六	七	八二	五、九	六四一	四五三六四、四	六四五一	一、五五三、二	〇三、二五五
七	鼠返給與	一、二四九、〇	四八五	七	〇、二	三〇	二〇	〇、七	一〇	七五	五、四	七二	三九五七、九	五九六一	一、四〇四、九	五二、九八〇
八	細江給與	一、二九〇、四	五六六	二	六、四	四五	二八	一、〇	三	六四	四、六	五三一	四九八六四、六	六七七一	一、五六三、三	〇三、三八五

試 驗 別	一升ノ 額數	繭ノ長		大サ 巾	繭層量 (對乾繭百額)		對一升繭量 繭層及蛻皮	肉眼審 査等位		
		寸	サ		繭層	繭及蛻皮				
一	小牧給與	二三六	一一、四〇	五、一五	六、四	八、四	一四、八	一五、一	一九、八	五
二	十文字給與	二二九	一一、四五	五、二五	六、五	九、〇	一五、五	一四、九	二〇、六	一
三	四方咲給與	二三七	一一、四〇	五、一五	六、四	八、五	一四、九	一五、二	二〇、一	六
四	魯桑實生給與	二三四	一一、一五	五、二〇	六、四	九、二	一五、六	一五、〇	二一、五	四
五	山中高助給與	二三二	一一、四〇	五、二〇	六、七	八、七	一五、四	一五、五	二〇、二	三
六	九紋龍給與	二三三	一一、二三	五、二八	六、五	八、七	一五、二	一五、一	二〇、三	二
七	鼠返給與	二三八	一一、一三	五、一五	六、五	八、五	一五、〇	一五、五	二〇、二	七
八	細江給與	二三七	一一、四〇	五、一五	六、四	九、二	一五、六	一五、二	二一、八	二

模實式帳 第二 密請桑對ノ模實式帳

百四十七

三、糸 質 調 査

試 驗 別	一 顆ノ糸長(十顆平均)			一 顆ノ糸 量	織 度			類 節	切 斷
	最 長	最 短	平 均		最 太	最 細	平 均		
一 小 牧 給 與	七三〇 _四	五三〇 _四	六一九 _四	六、二 _四	三、五三 _{デニール}	二、四〇 _{デニール}	二、九九 _{デニール}	〇、二 _グ	〇六 _四
二 十 文 字 給 與	七〇〇	四九五	六二〇	六、二	三、四九	二、五九	三、〇〇	〇、二	〇、三
三 四 方 咲 給 與	七二〇	五三〇	六一〇	六、〇	三、四〇	二、四三	二、九三	〇、八	一、〇
四 魯 桑 實 生 給 與	六四〇	四九五	五六九	五、九	三、五六	二、八五	三、一〇	〇、八	一、〇
五 山 中 高 助 給 與	六九〇	五四〇	六一〇	六、一	三、三〇	二、五〇	二、九九	〇、二	一、〇
六 九 紋 龍 給 與	六六五	五一五	六二〇	六、一	三、四九	二、六四	二、九七	〇、六	〇、九
七 鼠 返 給 與	七〇五	四一二	五六二	五、九	三、六四	二、六九	三、一七	〇、八	〇、六
八 細 江 給 與	七六〇	五八〇	六三一	六、一	三、二八	二、二九	二、九二	〇、一	〇、八

(其 二) 秋 蠶 成 績

一、收 繭 成 績

試 驗 別	上 繭			中 繭			下 繭			同 功 繭			合 計			結 繭 對 蟻 一 万 頭
	顆 數	容 量	重 量	顆 數	容 量	重 量	顆 數	容 量	重 量	顆 數	容 量	重 量	顆 數	容 量	重 量	
一 小 牧 給 與	七〇三、六	三、三	一、三	九、二	二、八	一、四	三、四	〇、三	四、四	三、四	二、三	二、七	七、三	三、〇	二、七	八、六
二 十 文 字 給 與	七九三、〇	三、三	一、三	九、二	二、九	一、四	三、三	〇、三	四、三	三、六	二、四	二、七	七、三	三、六	二、八	八、七
三 四 方 咲 給 與	七五二、六	三、三	一、三	九、一	二、七	一、四	三、〇	〇、三	四、〇	三、二	二、二	二、七	七、〇	三、〇	二、八	八、六

四	魯桑實生給與	六八四三九、八	二三八	五〇	二、〇	一九	一八〇、六	九	四〇	二、八	二七	七九三三、五、二	二九三	八三三三、五、〇、二、九三〇
五	山中高助給與	六八〇三九、六	二四四	五四	二、五	二〇	一三〇、四	四	四〇	三、〇	三〇	七八七三、五、五	二九八	八七三三、五、〇、二、九八〇
六	九紋龍給與	七〇〇三〇、六	二五三	五六	二、〇	一七	一二〇、四	四	三六	二、六	二七	八〇四三、五、六	三〇一	八四〇三、五、六、〇、三、〇一〇
七	鼠返給與	六四三三、五、七	二二二	六五	二、四	三〇	一三〇、四	四	四〇	二、七	二五	七七一三、一、二	二七二	八〇三三、二、〇、二、七二〇
八	細江給與	七〇〇三九、七	二四六	六〇	二、三	二二	一〇〇、三	四	四〇	二、七	二五	八〇三三、五、〇	三〇六	八五〇三、五、〇、三、〇六〇

二、繭 質 調 査

試驗別	一升ノ類數		繭ノ大サ巾	繭層量(對乾繭百顆)			對繭層	一升ノ量	肉眼審査等位
	繭ノ長	繭層		繭及蛻皮	合計				
一 小牧給與	二五二 ^ケ	一〇、九〇 ^ナ	五、一五 ^ナ	四、六〇 ^ナ	七、四〇 ^ナ	一二、〇〇 ^ナ	一一、五九 ^ナ	一八、六五 ^ナ	六
二 十文字給與	二四三	一一、二五	五、二〇	四、九〇	八、〇〇	一二、九〇	一一、九一	一九、四四	三
三 四方咲給與	二四五	一一、一五	五、一〇	四、七〇	七、九〇	一二、六〇	一一、五二	一九、三六	五
四 魯桑實生給與	二三〇	一一、三三	五、三〇	五、二〇	七、五〇	一二、七〇	一一、九六	一七、二五	一
五 山中高助給與	二三〇	一一、三五	五、三五	五、二〇	七、八〇	一二、〇〇	一一、九六	一七、九四	一
六 九紋龍給與	二二九	一一、四五	五、三〇	五、〇〇	七、四〇	一二、四〇	一一、四五	一六、九五	二
七 鼠返給與	二五〇	一一、〇〇	五、一〇	四、五〇	七、一〇	一一、六〇	一一、二五	一七、七五	四
八 細江給與	二三六	一一、四〇	五、二〇	五、〇〇	七、七五	一二、七五	一一、八〇	一八、二九	一

三、糸 質 調 査

試 驗 別	一穎ノ糸長(十穎平均)			一穎ノ 織 度			類 節 切 斷
	最長	最短	平均	糸量	最太	最細	
一 小牧給與	六九〇 _原	四三〇 _原	五〇八 _原	三、八 _原	二、七二 _{デニール}	一、八二 _{デニール}	二、四 _ケ
二 十文字給與	六七五	四〇〇	五二二	四、二	二、八八	一、八八	一、六
三 四方咲給與	六一〇	四〇〇	五〇〇	四、〇	二、六九	一、八九	三、一
四 魯桑實生給與	六一五	五〇〇	五六五	四、二	二、四八	二、〇八	〇、七
五 山中高助給與	六九五	五〇〇	五九三	四、五	二、六四	一、八五	三、四
六 九紋龍給與	七四〇	五〇五	五六三	四、二	二、四一	一、七八	二、四
七 鼠返給與	六一〇	四一五	四九一	四、二	三、〇二	一、九七	三、二
八 細江給與	六〇〇	四三五	五五九	四、五	二、六四	二、一三	一、二

以上ノ成績ニ依リ各蠶期ニ於ケル給桑量十貫匁ニ對スル收繭量ヲ表示シ之ニ等位ヲ附シ繭質等位ヲ併記スレバ左ノ如シ

給桑量ニ對スル收繭量

試 驗 別	春		蠶	期		秋	蠶	期
	繭量	同上等位		繭質等位	繭量		同上等位	
一 小牧給與	六五六 _原	八	繭質等位	五	五八二 _原	八	繭質等位	六
二 十文字給與	七五九	一		一	六五三	五		三
三 四方咲給與	七一〇	六		六	六〇九	六		五

六	七	八
九紋龍給與	鼠返給與	細江給與
六四三	五五四	六九二
二	七	一
二七一〇	七六八一	一七二三
三	七	一
二七一四	七六六〇	一七五〇
五	七	二
二六三二	七六一八	二六三三
二	五	一
三六九四	六五八七	四六九六
二	七	一
二	四	一

以上ノ結果ニ據リ評論スルトキハ左ノ如シ

細江、九紋龍、十字字、山中高助ノ四種ハ比較的良好ナリト云フ可ク鼠返、小牧、四方咲ノ三種ハ之ヲ密植シ春秋兼用トナストキハ前記四種類ニ一步ヲ讓リ魯桑實生ハ之等ノ中間ニ位スルカ如シ

第三 仕立方ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

本試驗ノ目的ハ左記仕立方ニ依ル桑葉ヲ以テ蠶兒ヲ飼育シ其ノ發育、收繭量、繭質及產卵等ニ及ホス結果ヲ明ラカニシ葉質ノ良否ヲ知ラントスルニアリ

供試桑樹ハ伊達赤木ニシテ栽桑部仕立方試驗各區ノモノナリ其ノ試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	第二區	第三區
根	中	高
刈	刈	刈

蠶種ハ愛知縣中島郡金城蠶種改良組合ニ於テ採取シタル一化性金城又昔ニシテ五月十三日

午前十時ニ掃立ツ掃立後ハ良ク齊一ニ發育シ六月二十日午前十時全部上簇シタリ各區ノ飼育頭數ハ一千頭宛ニシテ其經過左ノ如シ

生育經過

蠶齡	飼食立月日	停食月日	終熟月日	食桑中絶食中合數
第一齡	午五前月十三時	午五後月二十時	午五前月二十二時	七日五時間
第二齡	午五前月二十二時	午五後月二十七時	午五後月二十八時	五日九時間
第三齡	午五後月二十八時	午六前月九時	午六後月十四時	五日十時間
第四齡	午六後月十四時	午六後月十一時	午六前月十三時	六日四時間
第五齡	午六前月十三時	午六前月十三時	午六前月十三時	七日五時間
合計	午六前月十三時	午六前月十三時	午六前月十三時	卅一日九時間
				六日十五時間
				二日六時間
				一日十時間
				一日六時間
				一日十七時間
				八日二十二時間
				六日十五時間
				六日二十時間
				八日十時間
				七日五時間
				三十八日

各齡溫濕度

蠶齡	室內溫濕度	室外溫濕度
第一齡	最高 七四度 最低 四〇度 平均 五九度	最高 七五度 最低 三九度 平均 六七度
第二齡	最高 七八度 最低 四〇度 平均 六三度	最高 七五度 最低 三九度 平均 六五度
第三齡	最高 八二度 最低 五四度 平均 六七度	最高 七八度 最低 六四度 平均 六九度
第四齡	最高 八二度 最低 五〇度 平均 六八度	最高 七六度 最低 六六度 平均 七二度
第五齡	最高 八二度 最低 五〇度 平均 六八度	最高 七六度 最低 六六度 平均 七二度
合計	最高 八二度 最低 五〇度 平均 六八度	最高 七六度 最低 六六度 平均 七二度

葉質試驗 第三 仕立方チ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

第	平	簇
五	均	中
齡	齡	齡
八六	八〇	七六
五九	四九	六〇
七二	六六	六七
一〇〇	九九	一〇〇
五四	四三	五一
七四	六九	八〇
八四	七八	八〇
六四	六四	六九
七二	七〇	七四
八二	七七	七〇
五一	四三	五一
六七	五九	六三

給桑 (對蟻量一匁)

第	第	第	第	第	合
一	二	三	四	五	計
齡	齡	齡	齡	齡	齡
五六	三九	三三	三八	三七	二〇三
四二一	九二九	二、三〇七	七、四二八	三四、〇六五	四五、一五〇

蠶兒ノ体量 (對百頭)

蠶	齡	第三齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟	蠶
根	刈	四、〇	九八、〇	六〇、〇	根
中	刈	四、〇	一〇〇、〇	六〇、〇	中
高	刈	四、一	九九、〇	六一、〇	高

(甲) 一、收購成績

(甲) 二、繭質調查

(甲) 三、絲質調查

第三 仕立方チ異ニシタル桑樹ノ葉質試験

三	高	刈	六〇〇	五〇〇	五四四	五、〇	三、四〇	二、六八	三、〇二	一、五	二、二
---	---	---	-----	-----	-----	-----	------	------	------	-----	-----

(乙) 一、繰絲成績

試驗別			繰絲成績			繰絲成績			繰絲成績		
一	二	三	根	中	高	顆數	重量	生糸量	蛹量	屑物量	繰絲時間
刈	刈	刈	二三三 ^ケ	二三三	二三三	三五、八 ^ダ	一一、五 ^ダ	一九、〇	二、五	一、四〇 ^分	生絲量
二	二	二	二三三	二三三	二三三	三五、〇	一一、二	一八、七	二、八	一、四五	屑物量
三	三	三	二三三	二三三	二三三	三五、五	一一、六	一八、九	二、五	一、四〇	二、六

(乙) 二、生絲調査

試驗別			繰絲成績			繰絲成績			繰絲成績		
一	二	三	根	中	高	最太	最細	平均	大	小	強力
刈	刈	刈	一五、五〇 ^{デニール}	一五、五〇	一五、五〇	一三、五〇 ^{デニール}	一四、七五 ^{デニール}	一四、五〇	一八 ^ケ	三二	六五
二	二	二	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一三、五〇	一四、五〇	一四、五〇	一八 ^ケ	三二	七四
三	三	三	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一三、五〇	一四、五〇	一四、五〇	一八 ^ケ	三二	六五

(丙) 蠶種成績

試驗別			製種蛾數			產卵數			微粒子檢査成績		
一	二	三	根	中	高	良	不良	對一蛾	良	不良	對一蛾
刈	刈	刈	一〇	一〇	一〇	五三五 ^粒	五五四	六一五	二一	八	一〇
二	二	二	一〇	一〇	一〇	五五四	五五四	六一五	二一	八	一〇
三	三	三	一〇	一〇	一〇	五五四	五五四	六一五	二一	八	一〇

(丙) 蠶種成績

試驗別			製種蛾數			產卵數			微粒子檢査成績		
一	二	三	根	中	高	良	不良	對一蛾	良	不良	對一蛾
刈	刈	刈	一〇	一〇	一〇	五三五 ^粒	五五四	六一五	二一	八	一〇
二	二	二	一〇	一〇	一〇	五五四	五五四	六一五	二一	八	一〇
三	三	三	一〇	一〇	一〇	五五四	五五四	六一五	二一	八	一〇

右成績ニ據リ給桑量十貫匁ニ對スル收繭量ト生絲量トヲ掲グ之ニ等位ヲ附シ且ツ繭質絲質ノ等位ヲ併記スレバ左ノ如シ

給桑量ニ對スル繭及生絲量

試驗別			繭		生絲	
			重量	同上等位—繭質等位	重量	同上等位—繭質等位
一	根刈	八〇九、〇	二	一	七六、三	二
二	中刈	八〇四、〇	三	一	七五、五	三
三	高刈	八一八、〇	一	一	七七、七	一
						二

以上本試驗ノ成績ニ據リ評論スルトキハ左ノ如シ

第三區高刈仕立ノ桑葉ヲ給シタルモノハ結繭蠶數最モ多ク第二區中刈仕立ノモノ最モ少ナク第一區ノ根刈仕立ハ中位ニアリ

繭一舁ニ對スル絲量ハ第三區高刈仕立最モ多ク第一區根刈仕立之ニ次ギ第二區中刈仕立最モ少ナシ而シテ絲質ハ第二區中刈仕立最良ニシテ第一區根刈仕立ト第三區ノ高刈仕立トハ相伯仲ス給桑量ニ對スル繭量ハ第三區ノ高刈仕立第一位ヲ占メ第一區根刈仕立之ニ亞ギ第二區ノ中刈仕立尤モ劣レリ同生絲量ハ亦第一區ノ高刈仕立第一位ヲ占メ根刈中刈遞次之ニ亞ク而シテ蠶種成績ハ各區共等差ナシ

要スルニ各區一長一短而モ差異頗ル僅少ニシテ其ノ優劣ヲ判定シ難シ

第四 植付株數ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

本試驗ノ目的ハ植付株數ヲ異ニシタル桑葉ヲ以テ蠶兒ヲ飼育セハ其ノ發育、收繭量及ヒ繭質等ニ如何ナル差異ヲ及ボスヤヲ明ラカニシ葉質ノ良否ヲ知ラントスルニアリ

供試桑葉ハ栽桑部植付株數試驗普通肥地ノモノニシテ其ノ試驗ノ區別ハ左ノ如シ

- 第一區 九百本植區桑葉給與
- 第二區 三千本植區桑葉給與

試驗ニ用ヒタル蠶種ハ本縣東筑摩郡本鄉村鳥羽久吾ノ採取シタルモノユシテ其ノ種類名稱飼育頭數並ニ掃立月日左ノ如シ

化性	化期	名	稱	各區ノ頭數	掃立月日
二化性	二化	大白	龍	一、〇〇〇頭	八月五日午前十時

蠶兒ノ發育ハ各區共何レモ優良ニシテ齊一ナリキ今其ノ經過ヲ示セハ左ノ如シ

生育經過

蠶齡	飼育月日	掃立月日	終熟月日	食桑中絶食中合計
第一齡	午前八時 八月十五日	午前八時 八月二十九日	午前八時 八月二十四日	四日四時間一
第二齡	午後八時 八月二十日	午前八時 八月十三日	午前八時 八月十四日	二日二十時間一
				日 間 三 日 二十時間

第三齡	第四齡	第五齡	合計
午前十四時	午前十九時	午後二十五時	午後二十五時
午後十七時	午後二十三時	午後二十三時	午後二十三時
午後十九時	午後二十五時	午後十一時	午後十一時
三日十三時	四日六時	六日廿一時	廿一日十六時
一日十六時	一日十七時	一日十七時	五日九時
五日五時	六日十一時	六日十一時	廿七日一時

各齡溫濕度

第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	平均	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	平均
八七	九一	九二	八七	八九	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七
六四	六五	六八	六八	六六	六六	五八	六六	六六	六六	六六	六六
七六	八一	七八	七八	七八	七八	七三	七八	七八	七八	七八	七八
一〇〇	一〇〇	九四	八八	八八	八八	八八	九四	八八	八八	八八	八八
四二	五二	四九	五八	四四	四四	五一	四九	四四	四四	四四	四四
八三	七六	七二	七二	六六	六六	七一	七四	六六	六六	六六	六六
八七	九一	八八	八九	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
七二	七三	七〇	七〇	六八	六八	七〇	七一	六八	六八	六八	六八
七九	八一	七九	七八	七九	七九	七六	七九	七九	七九	七九	七九
一〇〇	九四	九四	八五	八九	八九	八八	九二	八九	八九	八九	八九
五三	五五	五二	五四	五七	五七	五九	五四	五七	五七	五七	五七
七一	七五	七三	七三	六七	六七	七二	七二	六七	六七	六七	六七

給桑 (對蟻量一匁)

第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	合計
八七	九一	九二	八七	八九	八七
六四	六五	六八	六八	六六	六六
七六	八一	七八	七八	七八	七八
一〇〇	一〇〇	九四	八八	八八	八八
四二	五二	四九	五八	四四	四四
八三	七六	七二	七二	六六	六六
八七	九一	八八	八九	八八	八八
七二	七三	七〇	七〇	六八	六八
七九	八一	七九	七八	七九	七九
一〇〇	九四	九四	八五	八九	八九
五三	五五	五二	五四	五七	五七
七一	七五	七三	七三	六七	六七

葉質試驗 第四 植付株數ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

第 二 齡	第 三 齡	第 四 齡	第 五 齡	合 計
三 〇	三 五	三 七	五 六	二 〇 三
七〇七、〇	二、二〇四、〇	七、三三二、〇	三六、一二五、〇	四六、六九六、五

蠶 兒 ノ 体 量 (對百頭)

試 驗 別	第三齡眠蠶	第四齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟 蠶
一 九百本植區桑葉給與	三、六 _外	一六、〇 _外	八二、〇 _外	六八、〇 _外
二 三千本植區桑葉給與	三、六	一五、五	八二、〇	六八、〇

右ノ如ク經過日數給桑量、体量ニ於テハ何レモ同一ナリキ

本試驗ニ於ケル收繭量、繰絲ノ成績ハ左ノ如シ

(甲) 一、收繭成績

試 驗 別	上 繭	中 繭	下 繭	同 功 繭	合 計	結繭對蟻一萬頭
一 九百本植區桑葉給與	七五三、一 _合 七五三、一 _外	七五 _外 二、八 _合 二、五 _外	五〇、一 _合 六〇、一 _外	四〇〇、二 _合 四〇〇、二 _外	二、五 _外 二、六 _外	三三〇、七 _外 九二五、三 _外 七、〇三、一〇〇 _外
二 三千本植區桑葉給與	七五二、三、四 _{二五二}	五二、八 _{二五}	六〇、一 _四	四〇〇、二、六 _{二六}	八七三、六、九 _{三七}	三〇七 _{九二三、六、〇三、〇七〇}

(甲) 二、繭質調査

試 驗 別	一升ノ 類數		繭ノ大サ		繭層量(對乾繭百顆)		對繭一升ノ量		肉眼審 査位
	長	巾	繭層 繭及蛻皮合計	繭層 繭及蛻皮	繭層 繭及蛻皮	繭層 繭及蛻皮			
一九百本植區桑葉給與	二三七 _ケ	一一八 _寸	五 _寸 四	五 _タ 五	七 _タ 七	一三、二 _タ 三、〇 _タ	四一八、二五 _タ	一	
二三千本植區桑葉給與	二三八	一一、八	五、三	五、三	七、九	一三、二 _タ 二、六 _タ 一 _タ 八、八〇	一	一	

(甲) 三、絲質調査

試 驗 別	一顆ノ絲長			一顆ノ 絲量	最太一最細		度	類節	切斷
	最長	最短	平均		平均	平均			
一九百本植區桑葉給與	六一〇 ^回	四六〇 ^回	五三八 ^回	四、五 ^回	二、五八 ^{デニール}	二、二〇 ^{デニール}	二、四二 ^{デニール}	一、〇 ^ケ	〇、一 ^回
二三千本植區桑葉給與	五九〇	三九五	五二六	四、五	二、六六	二、〇七	二、三一	一、二	一

(乙) 一、繰絲成績

試 驗 別	顆數	重量	生絲量	蛹量	屑物量	繰絲時間	對生絲量	一 升 量
一九百本植區桑葉給與	一〇〇 ^ケ	一三、二〇 ^タ	四、五三 ^タ	六、七〇 ^タ	〇、九〇 ^タ	四五 ^分	一〇、七四 ^タ	一五、八八 ^タ
二三千本植區桑葉給與	一〇〇	一三、二〇	四、四九	六、七〇	〇、九〇	四五	一〇、六九 ^タ	一五、九五 ^タ

(乙) 二、生絲調査

試 驗 別	纖度			類大	小節	強力	伸長	割合	肉眼審 査位
	最太	最細	平均						
一九百本植區桑葉給與	一六、〇 ^{デニール}	一六、〇 ^{デニール}	一六、〇 ^{デニール}	一	一	七六 ^タ	一一六 ^タ	二、三三 ^割	一
二三千本植區桑葉給與	一六、五	一三、五	一四、七	一	一	六二	一二七	二、五四	一

右成績ニ據リ給桑量十貫匁ニ對スル收繭量生絲量ヲ掲ケ之ニ等位ヲ附シ尙繭質絲質ノ等位ヲ併記スレバ左ノ如シ

給桑量ニ對スル繭及生絲量

試 驗 別	繭 量		生 絲 量	
	重 量	同 上 等 位	繭 質 等 位	生 絲 質 等 位
一 九百本植區桑葉給與	六六四 _匁	一	一	一
二 三千本植區桑葉給與	六五七	二	一	一
			七三、二四 _匁	七二、二〇
			二	一

以上ノ成績ニヨリ評論スルトキハ左ノ如シ

第一區ノ九百本植區桑葉給與ノモノハ結繭蠶數ト一舛ニ對スル絲量ニ於テ第二區ノ三千本植桑葉給與モノヨリ稍優レルガ如キモ其差極メテ少ナク給桑量ニ對スル繭量ト生絲量トハ九百本植區ノ桑葉給與シタルモノ優レルモ絲質ニ付テハ一長一短アリテ軒輊ナキガ如シ

第五 施肥ノ時期ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

本試驗ノ目的ハ施肥ノ時期回數ヲ異ニシタル桑葉ヲ以テ蠶兒ヲ飼育セバ其ノ發育、收繭量ト繭質トニ如何ナル差異ヲ及ボスヤヲ明ラカニシ其ノ葉質ノ良否ヲ知ラントスルニアリ供試桑樹ハ栽桑部施肥ノ時期回數試驗各區ノモノニシテ其ノ試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區 春期一回施肥葉給與

第二區 春夏二回施肥葉給與

第三區 春冬二回施肥葉給與
第四區 春夏冬三回施肥葉給與

但シ伐採收葉若クハ摘葉時期回數ヲ異ニシタル桑葉ヲ用ヒテ試驗シ春期伐採收葉セルモノ
ニテハ春蠶夏期伐採收葉セルモノニテハ夏蠶春期伐採收葉秋期摘葉セルモノ及春期發芽前
伐採夏秋期摘葉セルモノニテハ秋蠶ヲ飼育シタリ

本試驗ニ於テ春夏秋蠶期ニ飼育シタル蠶兒ノ種類及ヒ各區ノ飼育頭數ト其掃立月日トハ左
ノ如シ

蠶	期	蠶	種	各區ノ頭數	掃立月日
春	蠶	一化性金城又昔		一、〇〇〇頭	五月十三日午前十一時
夏	蠶	二化性二化新屋		一、〇〇〇	七月十日午前十時
秋	蠶	二化性二化大白龍		一、〇〇〇	八月五日午前十時

春、夏、秋蠶期共各蠶兒ハ何等ノ障害ナク良ク齊ニ發育セリ今其ノ經過ヲ表示スレバ左ノ如シ

(甲) 春蠶ノ經過

蠶	齡	飼食立月日	停食月日	終熟月日	食	齡	中絶	食中	合	數
第一齡	五 前月十三日 午後十一時	五 後月二十日 午後十一時	五 前月二十二日 午後八時	五 前月二十九日 午後五時	七日十二時間	一日九時間	八日二十一時間	五日九時間	一日十二時間	六日二十一時間
第二齡	五 前月二十二日 午後五時	五 後月二十七日 午後五時	五 前月二十九日 午後五時	五 前月二十九日 午後五時	五日九時間	一日十二時間	六日二十一時間	五日九時間	一日十二時間	六日二十一時間

合 計	第 五 齡	第 四 齡	第 三 齡
午六 前月 五十三 時	午六 後月 七十四 時	午五 前月 五二十九 時	午五 前月 五二十九 時
1	午六 後月 三十三 時	午六 後月 三十三 時	午六 後月 三十三 時
1	1	1	1
午六 後月 六十二 時	午六 前月 五十三 時	午六 後月 七十四 時	午六 後月 七十四 時
1	1	1	1
卅一日十六時 間六日十五時 間卅八日七時 間	七日十三時 間	五日二十時 間二日十四時 間八日十時 間	五日十時 間一日四時 間六日十四時 間

同上各齡溫濕度

蠶 齡	第 一 齡	第 二 齡	第 三 齡	第 四 齡	第 五 齡	平 均	簇 中
最高	七四度	七八度	八二度	八二度	八六度	八〇度	七六度
最低	四〇度	四〇度	五四度	五四度	五九度	四九度	六〇度
平均	五九度	六三度	六七度	六七度	七一〇〇	六六九	六七二〇〇
最高	一〇〇度	九三度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	九九度	一〇〇度
最低	三九度	三七度	四七度	四七度	五四度	四三度	五一度
平均	六九度	六五度	七〇度	六八度	七四度	六九度	七七度
最高	七四度	七八度	七八度	七八度	八四度	七八度	八〇度
最低	五五度	六五度	六五度	六六度	六四度	六三度	六九度
平均	七二度	七二度	七〇度	七二度	七二度	七二度	七四度
最高	八五度	七〇度	七七度	七七度	八二度	七三度	七〇度
最低	三九度	三九度	四二度	四六度	五一度	四三度	五一度
平均	五四度	五三度	六二度	六二度	六七度	七〇度	六三度

同上給桑（對蟻量一匁）

蠶 齡	第 一 齡	回 數	量
第 一 齡	六 二	四	四六〇、五

合	第	第	第	第
	五	四	三	二
計	齡	齡	齡	齡
二	三	三	三	三
一	九	六	四	九
〇				
四七、九	三六、〇	八、〇	二、五〇	九二二、〇
八八、五	一五、〇	九〇、〇	一、〇	

同上蠶兒ノ体量(對百頭)

試	驗	別	第三齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟	蠶
甲 春期伐採 收葉スル モノ						
一	春施肥葉給與		四、四 ^外	一一五、〇 ^外		八六、三 ^外
二	春夏施肥葉給與		四、四	一二五、〇		八六、三
三	春冬施肥葉給與		四、四	一二七、〇		八七、八
四	春夏冬施肥葉給與		四、四	一二五、〇		八六、三

(乙) 夏蠶ノ經過

蠶	齡	飼食立	月	日	停食	月	日	終竣	月	日	食桑	中絶	食中	日合	數
第一	齡	午七	前	十	時	午七	後	十	三	時	三	日	十三時間	二十一時間	四日十時間
第二	齡	午七	後	八	時	午七	後	十	七	時	三	日	三時間	二十時間	四日廿三時間
第三	齡	午七	後	七	時	午七	後	十	一	時	三	日	四時間	二十四時間	四日四時間

葉質試驗 第五施肥ノ時期ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

合 計	第 五 齡	第 四 齡
午七 前月 五十八 時	午七 後月 十一時	午七 後月 二十二 時
1	1	1
午八 後月 三十一 時	午七 前月 五十八 時	午七 後月 二十六 時
1	1	1
二十日 十一時 間	六日 十八時 間	三日 廿一時 間
四日 二時 間	1	一日 九時 間
廿四日 十三時 間	六日 十八時 間	五日 六時 間

同上各齡溫濕度

蠶 齡	第 一 齡	第 二 齡	第 三 齡	第 四 齡	第 五 齡	平 均	簇
最高	九一	八九	八九	八七	八二	八八	八五
最低	六七	六五	六四	六〇	六二	六四	六三
平均	七八	七五	七八	七五	七二	七六	七二
最高	一〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九九	一〇〇
最低	四四	四六	四五	五一	六七	五一	五七
平均	七六	七八	七二	七六	八〇	七八	八五
最高	九〇	八七	八八	八五	八一	八六	八五
最低	七三	六七	七一	七二	六五	七〇	七〇
平均	八一	七七	八〇	七八	七五	七八	七七
最高	八〇	八四	八〇	八九	八四	八三	七九
最低	四三	五六	五〇	五九	五八	五三	五七
平均	六六	七五	七〇	七二	七三	七一	六六

同上給桑（對蟻量一匁）

蠶 齡	第 一 齡	第 二 齡
回 數	三 四	二 五
量	二七四、五	五八六、〇

合	第	第	第
	五	四	三
計	齡	齡	齡
一	四	二	二
六	九	八	六
四一、五七七、五	三三、一九〇、〇	五、九二五、〇	一、六〇二、〇

同上蠶兒ノ体量(對百頭)

試 驗 別		第 三 齡 眠 蠶	第 五 齡 盛 蠶	熟	蠶
(乙)夏期伐採收 葉スルモノ					
一	春施肥葉給與	三、三 ^々	七九、〇 ^々	七二、〇 ^々	
二	春夏施肥葉給與	三、四	六九、〇	五六、〇	
三	春冬施肥葉給與	三、四	七三、〇	六二、〇	
四	春夏冬施肥葉給與	三、四	七八、〇	七〇、〇	

(丙) 秋 蠶 經 過

蠶 齡	飼 掃 食 立	月 日	停 食 月 日	終 竣 熟 蛻	月 日	食 桑 中 絶 食 中 合 計	數
第 一 齡	午八時	前月十五日	午八時	後月二十九日	午八時	四日四時間	一 日 間 五 日 四 時間
第 二 齡	午八時	後月二十日	午八時	前月十三日	午八時	二日二十時間	一 日 間 三 日 二十 時間
第 三 齡	午八時	前月十四日	午八時	前月十九日	午八時	四日	一 日 三 時間 五 日 三 時間
第 四 齡	午八時	後月十九日	午八時	後月二十三日	午八時	四日十時間	一 日 十九 時間 六 日 五 時間

藥實試驗 第五 施肥ノ時期ヲ異ニシタル桑樹ノ藥實試驗

合 計	第 五 齡	葉質試驗 第五 施肥ノ時期ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗
	八 月 二 十 五 日 午 後 六 時	九 月 八 日 午 前 八 時
		六 日 十 四 時 間
		二 十 二 日 四 日 廿 二 時 間
		百 六 十 八
		六 日 十 四 時 間
		廿 六 日 廿 二 時 間

同上各齡溫濕度

蠶 齡	室 外 溫 度			室 外 濕 度			室 內 溫 度			室 內 濕 度		
	最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	平 均
第 一 齡	八 七 度	六 四 度	七 六 度	一 〇 〇 度	四 二 度	八 三 度	八 七 度	七 二 度	七 九 度	一 〇 〇 度	五 三 度	七 一 度
第 二 齡	九 一 度	六 五 度	八 一 度	一 〇 〇 度	五 二 度	七 六 度	九 一 度	七 三 度	八 一 度	九 四 度	五 五 度	七 五 度
第 三 齡	九 二 度	六 八 度	七 八 度	九 四 度	四 九 度	七 二 度	八 六 度	七 〇 度	七 九 度	九 四 度	五 二 度	七 三 度
第 四 齡	八 七 度	六 八 度	七 八 度	八 八 度	五 八 度	七 二 度	八 九 度	七 一 度	七 八 度	八 一 度	六 二 度	七 三 度
第 五 齡	八 九 度	六 六 度	七 八 度	八 〇 度	四 四 度	六 六 度	八 八 度	六 八 度	七 九 度	八 九 度	四 七 度	六 七 度
平 均	八 九 度	六 六 度	七 八 度	九 四 度	四 九 度	七 四 度	八 八 度	七 一 度	七 九 度	九 二 度	五 四 度	七 二 度
簇 中	八 七 度	五 八 度	七 三 度	八 八 度	五 一 度	七 二 度	八 八 度	七 〇 度	七 六 度	八 八 度	五 九 度	七 二 度

同上給桑（對蠶量一匁）

蠶 齡	回 數		量
	第 一 齡	第 二 齡	
第 一 齡	四 五	三 〇	二 三 八 匁
第 二 齡	三 〇	三 九	七 〇 七 匁
第 三 齡	三 九	三 〇	二 二 九 八 匁

合 計	第 五 齡	第 四 齡
二 〇 七	五 二	四 一
四三、二四八、五	三一、八七五、〇	八、一三〇、〇

同上蠶兒ノ体量（對百頭）

試		驗		別		第三齡眠蠶		第五齡盛蠶		熟蠶			
(丙) 春期伐採收葉 スルモノ		一	春施肥葉給與	三、七 ウツ	七四、〇 ウツ	五五、〇 ウツ	(丁) 春期發芽前伐採收葉 スルモノ		一	春施肥葉給與	三、五	六八、〇	五〇、〇
		二	春夏施肥葉給與	三、六	六七、〇	五二、〇			二	春夏施肥葉給與	三、五	六六、〇	五二、〇
		三	春冬施肥葉給與	三、六	七二、〇	五四、〇			三	春冬施肥葉給與	三、四	六五、〇	四八、〇
		四	春夏冬施肥葉給與	三、四	七六、〇	六〇、〇			四	春夏冬施肥葉給與	三、五	七三、〇	五〇、〇

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

一、收成繭績

春
𧈧

[illegible]

甲			
一春施肥葉給與	六五二七、五	二六六	五二二、二、五
二春夏施肥葉給與	六二二七、〇	二五六	五五二、二、四、五
三秋冬施肥葉給與	六四二七、五	二五八	五〇二、〇、三、五
四春夏冬施肥葉給與	六四二七、五	二七六	五二二、三、五
夏			
上	六四二七、五	二七六	五二二、三、五
中	五二二、二、五	二五八	五〇二、〇、三、五
下	二六六	二五八	五二二、三、五
同功	六五二七、五	二六六	五二二、二、五
合	六二二七、〇	二五六	五五二、二、四、五
計	六四二七、五	二五八	五〇二、〇、三、五
結繭對蟻一匁	八〇五三、六、〇、三、四、五	八〇五三、六、〇、三、四、五	八〇五三、六、〇、三、四、五

乙			
一春施肥葉給與	六四二七、五	二六六	五二二、二、五
二春夏施肥葉給與	六五二七、〇	二五六	五五二、二、四、五
三秋冬施肥葉給與	六六二八、五	二三四	五〇二、〇、三、五
四春夏冬施肥葉給與	六六二八、五	二三四	五二二、三、五
秋			
上	六四二七、五	二六六	五二二、二、五
中	六五二七、〇	二五六	五五二、二、四、五
下	六六二八、五	二三四	五〇二、〇、三、五
同功	六六二八、五	二三四	五二二、三、五
合	六四二七、〇	二五六	五五二、二、四、五
計	六六二八、五	二三四	五〇二、〇、三、五
結繭對蟻一匁	七四三三、〇、二、八、〇、〇	七四三三、〇、二、八、〇、〇	七四三三、〇、二、八、〇、〇

丙			
一春施肥葉給與	七六二六、〇	二〇八	四八二、一、六
二春夏施肥葉給與	七三三六、八	二〇六	五〇二、〇、三、五
三秋冬施肥葉給與	七三三六、二	二二二	五〇二、〇、三、五
四春夏冬施肥葉給與	七三三六、五	二二二	五〇二、〇、三、五
試 驗 別			
上	七六二六、〇	二〇八	四八二、一、六
中	七三三六、八	二〇六	五〇二、〇、三、五
下	七三三六、二	二二二	五〇二、〇、三、五
同功	七三三六、五	二二二	五〇二、〇、三、五
合	七六二六、〇	二〇八	四八二、一、六
計	七三三六、八	二〇六	五〇二、〇、三、五
結繭對蟻一匁	八四七三、〇、三、四、八、〇	八四七三、〇、三、四、八、〇	八四七三、〇、三、四、八、〇

秋 蠶

試驗別	上 繭				中 繭				下 繭				同功繭				合計			
	試驗別	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數
丁	一 春施肥葉給與	七三三	六八	三三	六五	二二	二二	二〇	〇三	五	三三	二〇	一九	八〇	三一	三	二六	五	八六	三三
	二 春夏施肥葉給與	七三三	六八	三三	六五	二二	二二	二〇	〇三	五	三三	二〇	一九	八〇	三一	三	二六	五	八六	三三
	三 春夏施肥葉給與	七三三	六八	三三	六五	二二	二二	二〇	〇三	五	三三	二〇	一九	八〇	三一	三	二六	五	八六	三三
	四 春夏施肥葉給與	七三三	六八	三三	六五	二二	二二	二〇	〇三	五	三三	二〇	一九	八〇	三一	三	二六	五	八六	三三

二、繭質調査

春 蠶

試驗別	上 繭				中 繭				下 繭				同功繭				合計			
	試驗別	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數
甲	一 春施肥葉給與	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二
	二 春夏施肥葉給與	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二
	三 春夏施肥葉給與	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二
	四 春夏施肥葉給與	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二	二一	四〇	五、二〇	六、七	八、六	一五、三	一五、四八	一九、八七	二二二

乙				蠶				繭層量(對乾繭百顆)				對繭一舛量			
試	驗	別	類數	繭ノ大サ(對十顆)	巾	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計
一	春施肥葉給與	二二一	一、四〇	五、三〇	五、〇	八、三	一三、三	一一、五	一九、一	七	二	一三、三	一一、五	一九、一	七
二	春夏施肥葉給與	二三四	一、一〇	五、四〇	四、六	六、七	一一、三	一〇、七	一五、六	八	三	一一、三	一〇、七	一五、六	八
三	春冬施肥葉給與	二三六	一、二〇	五、二〇	四、八	七、二	一二、〇	一一、三	一六、九	七	二	一二、〇	一一、三	一六、九	七
四	春夏冬施肥葉給與	二三二	一、四〇	五、二〇	五、〇	七、九	一二、九	一一、六	一八、三	七	二	一二、九	一一、六	一八、三	七

丙				蠶				繭層量(對乾繭百顆)				對繭一舛量			
試	驗	別	類數	繭ノ大サ(對十顆)	巾	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計
一	春施肥葉給與	二八〇	一、五〇	五、〇〇	四、二	六、七	一〇、九	一一、七	一八、七	二	八	一〇、九	一一、七	一八、七	二
二	春夏施肥葉給與	二八四	一、四〇	四、九五	四、三	六、四	一〇、七	一二、二	一八、一	二	八	一〇、七	一二、二	一八、一	二
三	春冬施肥葉給與	二七六	一、七〇	五、〇〇	四、三	六、六	一〇、九	一一、八	一七、二	二	八	一〇、九	一一、八	一七、二	二
四	春夏冬施肥葉給與	二七二	一、〇〇	五、〇〇	四、四	六、六	一一、〇	一一、九	一七、九	二	八	一一、〇	一一、九	一七、九	二

丁				蠶				繭層量(對乾繭百顆)				對繭一舛量			
試	驗	別	類數	繭ノ大サ(對十顆)	巾	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮合計
一	春施肥葉給與	二七〇	一、九〇	五、一〇	四、三	七、一	一一、四	一一、六	一九、一	七	二	一一、四	一一、六	一九、一	七
二	春夏施肥葉給與	二七三	一、九〇	四、九五	四、一	六、六	一〇、七	一一、九	一八、〇	二	八	一〇、七	一一、九	一八、〇	二
三	春冬施肥葉給與	二七七	一、七〇	五、〇〇	四、一	六、九	一一、〇	一一、三	一六、九	二	八	一一、〇	一一、三	一六、九	二
四	春夏冬施肥葉給與	二六七	一、〇〇	五、一五	四、四	六、七	一一、一	一一、七	一七、八	二	八	一一、一	一一、七	一七、八	二

三、糸質調査
春蠶

試 驗 別	甲				一 顆ノ 糸 長	一 顆ノ 糸 量	織		度	類 節	切 斷
	一	二	三	四			最 太	最 細			
春施肥葉給與	七三〇 _前	六八〇	六五〇	六五〇	五九三 _前	六、一 _前	三、二〇 _{デニール}	二、八八 _{デニール}	三、〇五 _{デニール}	〇、八 _ケ	〇、六 _前
春夏施肥葉給與	四〇〇	四〇〇	四八五	四四〇	五四三	六、一	三、七八	二、九三	三、三四	〇、四	〇、一
春冬施肥葉給與	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	五六四	五、七	三、三〇	二、六八	三、〇六	一、五	〇、七
春夏冬施肥葉給與	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	五四九	六、三	三、九八	三、〇〇	三、四七	〇、四	一、〇

夏

蠶

試 驗 別	乙				一 顆ノ 糸 長	一 顆ノ 糸 量	織		度	類 節	切 斷
	一	二	三	四			最 太	最 細			
春施肥葉給與	七〇五 _前	六〇〇	六一〇	六四〇	五六一 _前	四、四 _前	二、六九 _{デニール}	二、〇六 _{デニール}	二、三三 _{デニール}	五、二 _ケ	—
春夏施肥葉給與	五〇〇 _前	四八〇	四〇〇	四二〇	五二八	三、九	二、五五	一、九二	二、二〇	三、〇	—
春冬施肥葉給與	五〇〇	四〇〇	四〇〇	四二〇	五五四	四、三	二、六三	一、七二	二、三四	二、五	〇、四
春夏冬施肥葉給與	五〇〇	四〇〇	四〇〇	四二〇	五三三	四、五	二、九八	二、六八	二、五四	四、五	〇、四

秋

蠶

丙			
一	二	三	四
春施肥葉給與	春夏施肥葉給與	春冬施肥葉給與	春夏冬施肥葉給與
六〇〇 _同	五四〇	五五〇	五三〇
四五〇 _同	三六〇	四一五	三八〇
五一七 _同	四四三	四六四	四七〇
三、七 _{デニール}	三、二	三、五	三、七
二、五〇 _{デニール}	二、五三	二、七八	二、六五
一、八〇 _{デニール}	二、〇六	一、八一	二、〇八
二、二五 _{デニール}	二、二〇	二、二七	二、三四
六、〇 _ケ	六、一	五、四	三、八

秋

蠶

織

度

類

節

切

斷

丁			
一	二	三	四
春施肥葉給與	春夏施肥葉給與	春冬施肥葉給與	春夏冬施肥葉給與
五六五 _同	六五〇	五七五	五七〇
三八〇 _同	四五〇	四四〇	四〇〇
四九五 _同	五二一	五〇九	四八一
三、五 _{デニール}	三、七	三、七	三、八
二、五五 _{デニール}	二、六〇	二、四八	二、七二
一、七六 _{デニール}	一、七七	一、九一	二、〇五
二、一一 _{デニール}	二、一四	二、一八	二、三七
四、〇 _ケ	六、〇	八、一	四、四

右各蠶期ニ於ケル給桑量十貫匁ニ對スル收繭量ヲ掲ケ等位ヲ附スレバ左表ノ如シ

給桑量ニ對スル收繭量

試驗別		春		夏		秋		蠶	
一	二	重	量	重	量	重	量	重	量
春施肥葉給與	春夏施肥葉給與	對給桑十貫收繭	同上等位	對給桑十貫收繭	同上等位	對給桑十貫收繭	同上等位	對給桑十貫收繭	同上等位
七〇六 _ケ	六八〇	六五二 _ケ	六五〇	六二三 _ケ	六〇六	五六七 _ケ	五五七	五六七 _ケ	五五七
二	三	三	四	三	四	二	三	三	四

三	春冬施肥葉給與	六七六	四	六五七	二	六〇一	四	五八三	一
四	春夏冬施肥葉給與	七七八	一	六七三	一	六二七	一	五七三	二

第六 肥料ヲ異ニシタル桑樹ノ葉質試驗

本試驗ノ目的ハ異ナル肥料ヲ施シテ栽培シタル桑葉ヲ用井テ蠶兒ヲ飼育シ其ノ發育收繭ノ多寡ト品質並ニ糸質、産卵ニ及ホス關係ヲ知ランスルニアリ

供試桑樹ハ栽桑部肥料効驗試驗各區ノモノニシテ蠶種ハ愛知縣中島郡金城蠶種改良組合ニ於テ採種シタル一化性又昔トス各區ノ飼育頭數ハ一千頭宛ニシテ其ノ試驗ノ區別ハ左ノ如シ

- 第一區 人糞尿桑給與
- 第二區 鰻ノ粕桑給與
- 第三區 蠶蛹ノ粕桑給與
- 第四區 蠶糞桑給與
- 第五區 信濃肥料桑給與
- 第六區 大豆粕桑給與
- 第七區 藁藁粕桑給與
- 第八區 堆肥、人糞尿、大豆粕混合肥料桑給與
- 第九區 堆肥桑給與
- 第十區 綠肥桑給與

第十一區 無肥料桑給與

桑樹ハ晩生種ナルヲ以テ蠶兒ニハ一二齡間魯桑實生ヲ給與シ三齡ヨリ各區別ノ肥料ヲ施シタル桑葉ヲ給與シタリ

蠶兒ノ掃立ハ五月十三日午前十一時ニシテ爾後各區共良ク齊ニ發育シ六月二十日午後十一時全部終熟シタリ

今其ノ經過ヲ舉クレハ左ノ如シ

生育經過

蠶齡	飼食立月日	停食月日	終熟月日	食桑中絶食中合計	
第一齡	午五前月十三日	午五後月廿五日	午五前月廿二日	七日六時間	一日十八時間九日
第二齡	午五前月十一日	午五前月廿七日	午五後月十八日	五日	間一日十二時間六日十二時間
第三齡	午五後月十八日	午六後月三日	午六前月五日	五日十六時間	一日十四時間七日六時間
第四齡	午六前月五日	午六後月十一日	午六前月十三日	五日十八時間	二日六時間八日
第五齡	午六前月十三日	午六後月廿一日	午六後月廿一日	七日十八時間	一日十八時間
合計				卅一日十時間	七日二時間卅八日十二時間

各齡溫濕度

蠶齡	室外溫濕度			室內溫濕度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均

第	第	第	第	平	族
一	二	三	四	五	
齡	齡	齡	齡	均	中
七四 ^度	七八	八二	八二	八〇	七六
四〇 ^度	四〇	五四	五〇	四九	六〇
五九 ^度	六三	六七	六八	六六	六七
一〇〇 ^度	九三	一〇〇	一〇〇	九九	一〇〇
三九 ^度	三九	三七	四七	五四	五一
六九 ^度	六五	七〇	六八	七四	七七
七四 ^度	七八	七八	八四	七八	八〇
五五 ^度	六五	六五	六六	六三	六九
七一 ^度	七一	七〇	七三	七一	七四
六〇 ^度	七〇	七七	七七	七三	七〇
三九 ^度	三九	四二	四六	四三	五一
五四 ^度	五三	六二	六二	六〇	六三

給桑 (對蟻量一匁)

第	第	第	第	第	合
一	二	三	四	五	
齡	齡	齡	齡	齡	計
六〇 ^回	三七	三五	三六	四〇	二〇八
四四二、五 ^匁	八六四、〇	二、五九五、〇	八、二二八、〇	三六、一九〇、〇	四八、三一九、五

蠶兒ノ体量 (對百頭)

試 驗 別		第三齡眠蠶	第四齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟 蠶
一	人糞尿施與	四、七 ^々	二八、〇 ^々	一二〇、〇 ^々	八五、〇 ^々
二	鰯 ^ノ 粕施與	同	二八、〇	一二〇、〇	八五、〇
三	蠶 ^ノ 蛹 ^ノ 粕施與	同	三〇、〇	一二五、〇	九〇、〇
四	蠶糞施與	同	二八、〇	一二〇、〇	八五、〇
五	信濃肥料施與	同	三〇、〇	一二五、〇	九〇、〇
六	大豆粕施與	同	二六、〇	一二〇、〇	八八、〇
七	蠶 ^ノ 莖 ^ノ 粕施與	同	二五、〇	一二五、〇	八五、〇
八	堆肥人糞尿大豆粕混合肥料施與	同	三五、〇	一二五、〇	九〇、〇
九	堆肥施與	同	二四、〇	一二五、〇	八五、〇
一〇	綠肥施與	同	二六、〇	一二五、〇	八五、〇
一一	無肥料	同	二五、〇	一〇〇、〇	六五、〇

右ノ如ク經過日數ト給桑量トハ各區共何レモ同一ニシテ食桑ノ狀況蠶兒ノ發育共ニ大差ヲ認メザリシカ唯無肥料區ノ蠶兒ハ他區ニ比シテ体量常ニ輕キヲ見タリ

本試験ニ於ケル收繭、繰絲、蠶種製造ノ成績ハ左ノ如シ

(甲) 一、收 繭 成 績

試驗別	上 繭			中 繭			下 繭			同功繭			合 計			結繭對蟻一匁		
	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量	額數	容量	重量
一人糞尿施與	一、四〇六、〇	六七〇	九、八	一、三	二、九	五、四	一、二	一、八	七、五	六、二	一、六	二、七	八〇六、二	六、九	三、六	〇、四	〇、三〇	
二繭ノ粕施與	一、四二四、七	六八三	一〇、三	四、二	五、七	二、六	一、〇	一、四	六、八	五、〇	三、一	六、三	八七二、六	八、二	三、六	〇、四	〇、八五	
三蠶蛹ノ粕施與	一、四四六、〇	六八七	八、五	三、三	四、四	三、二	一、二	一、八	七、五	五、四	七、〇	六、六	八一九、二	六、九	三、六	〇、四	〇、九五	
四蠶糞施與	一、四三六、二	六八八	一〇、一	四、一	五、三	二、八	一、〇	一、七	七、一	五、一	六、七	六、四	八〇五、二	六、九	三、六	〇、四	〇、二五	
五信濃肥料施與	一、四六六、〇	六七六	八、〇	三、二	四、四	三、三	一、二	二、〇	八、〇	五、七	七、四	六、八	八二六、二	六、八	三、六	〇、五	〇、八〇	
六大豆粕施與	一、四七六、〇	六八〇	九、四	三、八	四、八	三、〇	一、一	一、八	八、三	五、九	七、五	六、四	八二二、七	六、七	三、六	〇、四	一、〇五	
七葦藁粕施與	一、四二六、〇	六七四	八、二	三、三	四、四	三、五	一、五	二、〇	八、五	六、二	八、二	六、三	八一九、六	六、八	三、七	〇、四	〇、九五	
八堆肥人糞尿大豆粕混 合肥料施與	一、四二六、一	六七〇	八、二	三、三	四、四	三、五	一、五	二、〇	八、五	六、一	七、六	六、三	八二〇、七	六、八	三、六	〇、四	〇、五〇	
九堆肥施與	一、四五六、〇	六五六	八、〇	三、一	四、〇	三、三	一、二	二、〇	八、三	六、〇	七、三	六、〇	七八九、六	六、九	三、五	〇、五	九、四五	
二綠肥施與	一、四〇六、〇	六七六	八、九	三、七	四、八	三、〇	一、一	一、八	七、六	五、四	七、二	六、五	八二三、六	六、九	三、六	〇、四	〇、六五	
二無肥料	一、四二五、七	六八四	一〇、四	四、〇	五、〇	三、〇	一、〇	一、三	六、一	四、〇	五、二	六、〇	七四八、二	六、七	三、〇	〇、三	七、四〇	

(甲) 二、繭質調査

試驗別	上繭一舁		繭ノ大サ(對十額)		繭層量(對乾繭百額)		對繭一舁量		肉眼審査位	
	額數	長	巾	繭層	繭及蛻皮合計	繭層	繭及蛻皮等	位		
一人糞尿施與	二二九、一	二、〇	五、三	七、七	九、七	一七、四	一七、六	二二、二	二	
二繭ノ粕施與	二二一、一	四、五	五、三	八、〇	一〇、七	一八、七	一六、九	二二、六	一	

三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
蠶蛹ノ粕施與	蠶糞施與	信濃肥料施與	大豆粕施與	蠶臺粕施與	堆肥人糞尿大豆粕混合肥料施與	堆肥施與	綠肥施與	無肥料
二二六 ^ケ 二一、三五 ^サ	二二八二一、三〇	二三〇二一、二五	二二五二一、三五	二二四二一、三三	二二二二一、二五	二二二二一、〇五	二二九二一、二〇	二四七二一、〇〇
五、二 ^サ	五、二	五、二	五、二	五、三	五、二	五、三	五、三	五、〇
七、九	七、九	七、二	七、三	七、七	八、〇	七、六	七、九	七、〇
九、二	九、三	九、九	一〇、四	九、八	一一、二	一〇、一	一〇、二	七、八
一七、一	一七、二	一七、一	一七、七	一七、五	一九、二	一七、七	一八、一	一四、八
一七、九	一八、〇	一六、六	一六、四	一七、二	一八、五	一七、六	一八、一	一七、三
二〇、八	二一、二	二二、八	二三、四	二二、〇	二五、九	二三、四	二三、四	一九、三
三	二	二	一	六	一	五	四	七

(甲) 三、糸 質 調 査

試 驗 別	最 長 一 顆 ノ 糸 長	最 短 一 顆 ノ 糸 長	一 顆 ノ 糸 量	最 太 一 顆 ノ 糸 徑	最 細 一 顆 ノ 糸 徑	平 均	類 節 切 斷
一 人糞尿施與	六五五 ^回	五〇〇 ^回	五、九 ^回	五、三 ^回	三、五〇 ^{デニール}	二、六三 ^{デニール}	〇、九 ^ケ
二 鯪ノ粕施與	七九五	四七五	六、一 ^回	六、〇	三、八〇	二、四七	一、八
三 蠶蛹ノ粕施與	八〇〇	三四五	六、〇 ^回	五、八	三、六八	二、二五	〇、二
四 蠶糞施與	八一〇	六二三	六、〇 ^回	六、〇	三、六三	二、四二	一、七
五 信濃肥料施與	七七五	六二〇	六、九 ^回	五、九	三、五三	二、五二	一、〇

六	大豆粕施與	七八〇	五五〇	六九八	六、一	三、五〇	二、六六	二、九五	〇、七	〇、五
七	蠶臺粕施與	七〇〇	四三〇	五九〇	五、六	三、七〇	二、九三	三、三〇	〇、六	〇、六
八	堆肥人糞尿大豆粕混合肥料施與	七二〇	五二五	六五〇	六、一	三、三四	二、九〇	三、一〇	〇、八	一、二
九	堆肥施與	八〇〇	五二五	六四三	五、七	三、七二	二、六三	三、二一	〇、三	一、一
一〇	綠肥施與	七〇〇	四九〇	六四二	五、九	三、八四	二、六四	三、二〇	〇、九	二、一
一二	無肥料	六六〇	四〇〇	五八二	五、一	三、八一	二、七一	三、三〇	〇、五	一、四

(乙) 一、線 糸 成 績

試	驗	別	類	數	重	量	生	糸	量	蛹	量	屑	物	量	線	糸	時	間	生	糸	量	屑	物	量	對	繭	一	鉢
一	人糞尿	施與	二三六 ^ケ	三七、五 ^ヌ	一二、四 ^ヌ	一九、三 ^ヌ	二、七 ^ヌ	一、五〇 ^分	一二、一 ^ヌ	二、六 ^ヌ									一二、一 ^ヌ					二、六 ^ヌ				
二	鯿ノ粕	施與	二三六	三九、〇	一四、二	一九、九	二、二	一、四五	一二、七	二、〇									一二、七					二、〇				
三	蠶蛹ノ粕	施與	二三六	三九、〇	一三、八	一八、九	三、〇	一、五〇	一三、二	二、九									一三、二					二、九				
四	蠶糞	施與	二三六	三八、五	一四、二	一九、二	三、三	一、五五	一三、七	三、二									一三、七					三、二				
五	信濃肥料	施與	二三六	三八、五	一三、九	一九、五	二、四	一、五〇	一三、六	二、三									一三、六					二、三				
六	大豆	粕施與	二三六	三八、五	一四、四	一九、四	二、六	一、五〇	一三、七	二、五									一三、七					二、五				
七	蠶臺	粕施與	二三六	三八、〇	一三、二	一九、三	三、四	一、五〇	一二、五	三、二									一二、五					三、二				
八	堆肥人糞尿大豆粕混合肥料	施與	二三六	三八、五	一四、三	一九、八	三、二	一、五五	一四、一	三、一									一四、一					三、一				

九	一〇	一一
堆肥施與	綠肥施與	無肥料
二三六	二三六	二三六
三七・五	三八・〇	三六・〇
一三・四	一三・八	一二・〇
一九・二	一九・二	一八・六
二・五	二・四	二・六
一・四〇	一・四五	一・四〇
一三・二	一三・五	一二・六
三・四	二・三	三・七

(乙) 二、生糸調査

試驗別		織度			類節		強力		伸長		割合		肉眼審査位	
		最太	最細	平均	大	小			延長	割合				
一	人糞尿施與	一五・五〇 ^{デニール}	一四・五〇 ^{デニール}	一五・〇五 ^{デニール}		一八 ^ケ	六五 ^瓦	一三七 ^ワ	二・七四	一				
二	鰯ノ粕施與	一七・〇〇	一四・〇〇	一五・一九		一八	六八	一二六	二・五二	二				
三	蠶蛹ノ粕施與	一七・〇〇	一三・二五	一四・六三		二三	七〇	一二九	二・五八	二				
四	蠶糞施與	一九・〇〇	一五・五〇	一七・六〇		二七	七八	一二四	二・四八	三				
五	信濃肥料施與	一六・〇〇	一四・七五	一五・五六		四四	六六	一〇二	二・〇四	三				
六	大豆粕施與	一六・二五	一三・五〇	一四・六三		二二	六三	九六	一・九二	二				
七	藝臺粕施與	一七・二五	一一・二五	一四・五六		二八	七五	九八	一・九六	四				
八	堆肥人糞尿大豆粕混合肥料施與	一五・二五	一四・五〇	一四・八八		一九	六三	一〇一	二・〇二	一				
九	堆肥施與	一六・七五	一四・五〇	一五・五六		一一	六二	一一三	二・二六	三				
一〇	綠肥施與	一七・二五	一四・〇〇	一五・五六		二六	六三	一〇五	二・一〇	二				
一一	無肥料	一九・五〇	一四・二五	一六・〇〇		六五	六〇	八八	一・七六	五				

(丙) 蠶種成績

試 驗 別	製種蛾數	產卵數 (對一蛾)		微粒子 檢查成績	肉眼審查等位
		良卵	不良卵		
一 人糞尿施與	二〇 ^粒	六〇一 ^粒	二 ^粒	無毒	二
二 鯪粕施與	二六	五九五	一一	同	一
三 蠶蛹粕施與	二九	六三三	一五	同	四
四 蠶糞施與	二六	六五三	八	同	四
五 信濃肥料施與	二〇	五八六	一二	同	五
六 大豆粕施與	二八	六〇三	一五	同	五
七 藝臺粕施與	三一	五七七	一二	同	五
八 堆肥人糞尿大豆粕混合肥料施與	二八	六六五	一四	同	二
九 堆肥施與	二二	五八四	二三	同	六
一〇 綠肥施與	三一	六〇六	二二	同	六
一一 無肥料	二五	五四七	二五	同	七

本試驗ノ成績ニヨリ給桑量十貫匁ニ對スル收繭量ト生糸量トヲ掲ケ之ニ等位ヲ附シ尙繭質等位ト糸質等位トヲ併記スルトキハ左ノ如シ

給桑量ニ對スル繭及生糸量

試 驗 別	繭 量		繭 質 量		繭 糸 量	
	量	同上等位	繭質等位	量	同上等位	繭質等位
一 人糞尿施與	八三四 ^々	七	五	七七、六 ^々	一〇	一
二 鰯 ^ノ 粕施與	八四五	三	一	八八、一	三	二
三 蠶 ^ノ 蛹 ^ノ 粕施與	八四八	二	三	八六、一	六	二
四 蠶糞施與	八三三	八	二	八八、五	二	三
五 信濃肥料施與	八四四	四	二	八七、三	四	三
六 大豆粕施與	八五〇	一	一	八一、〇	九	二
七 藝臺粕施與	八四八	二	六	八一、五	八	四
八 堆肥人糞尿大豆粕混合肥料施與	八三八	六	一	八九、九	一	一
九 堆肥施與	八一六	九	五	八三、四	七	三
一〇 綠肥施與	八四一	五	四	八六、六	五	二
一一 無肥料	七七〇	一〇	七	七四、三	一一	五

本試驗ノ成績ニ據リ肥料ヲ異ニシタル桑葉ヲ給與シタルモノ、養蠶、繰絲、及ヒ製種ニ及ボス結果ヲ概論スルトキハ左ノ如シ

人糞尿ヲ施シタル桑葉ヲ以テ飼育シタルモノハ結繭蠶數第五位給桑量對繭量ハ第七位ニシテ繭一舛ニ對スル絲量ト給桑量對絲量ハ下位ニアルモ強力ト伸度トハ多ク繭絲質、佳良ニシ

テ製造蠶種ノ品位ハ第二位ヲ占ム

蠶ノ粕ヲ肥料トシタルモノハ結繭蠶數第八位給桑量對繭量ハ第三位ニシテ繭一舛ニ對スル絲量ハ第六位給桑量對糸量ハ第三位ナルモ繭質、絲質、共ニ優良ニシテ製造蠶種ノ品位ハ第一位ヲ占ム

蠶蛹ノ粕ヲ肥料トシタルモノハ結繭蠶數第六位ニシテ繭一舛ニ對スル絲量ハ第五位ナルモ繭質不良ナラズ強伸力多ク製造蠶種ノ品位ハ中位ヲ占メ給桑量ニ對スル繭量ハ第二位ヲ占ム

蠶糞ヲ肥料トシタルモノハ結繭蠶數第四位ニシテ繭一舛ニ對スル絲量ハ第二位ナリ而シテ繭絲質共ニ不良ナラス製造蠶種ノ品位ハ中位ナリ但シ給桑量對繭量ハ多カラス

信濃肥料ヲ施シタルモノハ結繭蠶數ト繭一舛ニ對スル絲量ハ第三位ニシテ給桑量對繭量ト糸量ハ何レモ第四位ヲ占メ繭絲質ハ中位ナリ而シテ製造蠶種ノ品位ハ第五位ヲ占ム

大豆粕ヲ肥料トシタルモノハ給桑量對繭量ハ第一位ヲ占メ結繭蠶數ト繭一舛ニ對スル絲量ハ共ニ第二位ニシテ繭絲質ハ佳良ナルモ製造蠶種ノ品位ハ第五位給桑量對生糸量、第九位ヲ占ム

蠶糞粕ヲ肥料トシタルモノハ給桑量對繭量ハ第二位結繭蠶數ハ第三位ナレモ繭一舛ニ對スル絲量及繭絲質ハ何レモ下位ニシテ製造蠶種ノ品位亦第五位ヲ占ム

堆肥、人糞尿、大豆粕ノ混合肥料ヲ施シタルモノハ結繭蠶數ト繭一舛ニ對スル絲量及給桑量對糸量並ニ繭絲質共ニ優位ニシテ製造蠶種ノ品位ハ第二位ヲ占ムレモ給桑量對繭量ハ多カラス堆肥ヲ施シタルモノハ結繭蠶數ト繭一舛ニ對スル絲量ハ第五位ニシテ給桑量對繭量ト糸量ハ多カラス又繭絲質ハ中位ナリ而シテ製造蠶種ノ品位ハ第六位ヲ占ム

綠肥ヲ施シタルモノハ結繭蠶數第七位、繭一舛ニ對スル絲量ト繭質ハ第四位給桑量對繭量ト糸量ハ中位ニシテ絲質ハ第二位ナリ而シテ製造蠶種ノ品位ハ第六位ヲ占ム

無肥料ノ桑葉ヲ給與シタルモノハ結繭蠶數最モ少ナク繭一舛ニ對スル絲量ハ第七位ヲ占メ繭質佳良ナラス又強力伸度共ニ少ナク製造蠶種ノ品位ト給桑量對繭量ト絲量ハ下位ヲ占ム要スルニ各區一長一短アリ未ダ優劣ヲ判定シ難シ

第七

燒岳噴出灰ノ附着シタル桑葉給與試驗

本試驗ノ目的ハ燒岳ヨリ噴出セル灰ノ附着シタル桑葉ヲ給與スルトキハ蠶兒ノ發育收繭量繭質、絲質並ニ產卵ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ知り且ツ適當ナル除害法ヲ知ラントスルニアリ

本試驗ヲ施行シタル夏秋蠶期ノ試驗區別ハ左ノ如シ

夏

蠶

試驗別

方

法

秋

蠶

一	二	三	四	五	六	七	八
標準	每回給與	隔日給與	齡中一日給與	振落給與	洗滌給與	四齡中每回給與	五齡中每回給與
噴火灰ヲ給與セズ	第二齡二日目ヨリ五齡上簇迄每回給與	第二齡二日目ヨリ五齡上簇迄隔日ニ一日三回宛給與	第二齡二日目ヨリ五齡上簇迄各齡期間一日三回宛給與	第二齡二日目ヨリ四齡終リ迄各齡期間二日間一日三回宛給與	第二齡二日目ヨリ五齡上簇迄各齡期間一日三回宛給與	第四齡ヨリ齡中每回給與	第五齡ヨリ上簇迄每回給與

一	二	三	四	五
標準	三齡中每回給與	四齡中每回給與	四五齡中每回給與	五齡中每回給與
噴火灰ヲ給與セス	第三齡中每回給與	第四齡中每回給與	第四齡ヨリ第五齡上簇迄每回給與	第五齡ヨリ上簇迄每回給與

試驗別

方

法

供試ノ灰桑トシテハ給桑ノ度ヒ毎ニ噴霧器ニテ潤シタル桑葉面ニ噴火灰ヲ給桑量ノ五分宛

篩ヒ掛ケ其ノ水分ノ乾キタルモノヲ用ヒ尙振落區ハ更ニ之ヲ振落シ洗滌區ハ之ヲ洗滌シ乾シタルモノヲ用ヒタリ而シテ夏蠶期ニ於テハ本年七月十二日ニ噴出シタルモノ秋蠶期ニ於テハ數度ニ噴出シタルモノヲ用ヒタルモ其ノ灰ハ夏蠶期ノモノニ比シ常ニ幾分細微ナルモノナリキ

今各蠶期ニ飼育シタル蠶ノ種類ト各區ノ頭數及ヒ其掃立月日ヲ掲グレハ左ノ如シ

蠶 期		蠶 ノ 種 類	各 區 ノ 飼 育 頭 數		掃 立 月 日
夏 蠶 期	二 化 性 二 化 新 屋	二 化 性 二 化 大 白 龍	三〇〇 ^頭	七月十日	午前十時
秋 蠶 期	二 化 性 二 化 大 白 龍		三〇〇	八月五日	午前十時

各區ノ蠶兒ハ二期共掃立後何等ノ障害ナク齊一ニ發育シタルモノヲ供用シ夏蠶ニ於テハ第二區乃至第六區ハ第二齡五回目ノ給桑期ニ達シタルモノ第七區ハ第四齡第八區ハ第五齡各飼食ノモノ又秋蠶期ノ第二區ハ第三齡第三、第四區ハ第四齡第五區ハ第五齡各飼食ノモノヲ供用シタリ

今其ノ經過ヲ舉グレバ左ノ如シ

(甲) 夏 蠶

第一齡 經過

種 類	掃 立 月 日	停 食 月 日	竣 蛻 月 日	齡 中 日 數		給 桑
二 化 性 新 屋	七 月 十 日 午 前 十 時	七 月 十 三 日 午 後 十 一 時	七 月 十 四 日 午 後 八 時	食 桑 中 一 絕 食 中 一 計	三 日 十 三 時 間 二 十 一 時 間 四 日 十 時 間	回 數 一 量 三 四 二 七 四 五

第二齡 經過

試驗別	餉食月日	試驗着手日	停食月日	竣曉月日	齡中日數	給桑回数	給桑純桑合計	給桑純桑合計	給桑量
一標	準	七月十四日午後八時	七月十五日午前十一時	七月十七日午後十一時	七月十八日午後七時三十分	二十時間	二五	二五	五九六
二每回給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	十九時間	二四	二六	五九六
三隔日給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	三時間	二五	二五	五九六
四齡中一日給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	三時間	二五	二五	五九六
五振落給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	三時間	二五	二五	五九六
六洗滌給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	三時間	二五	二五	五九六
七四齡中每回給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	三時間	二五	二五	五九六
八五齡中每回給與	同	同	同	七月十八日午後十一時	七月十八日午後八時三十分	三時間	二五	二五	五九六

第三齡經過

試驗別	餉食月日	停食月日	竣曉月日	齡中日數	給桑回数	給桑純桑合計	給桑純桑合計	給桑量
一標	準	七月十八日午後七時	七月廿一日午前四時	七月廿三日四時	五時間	二六	二六	一、六三
二每回給與	與	七月十八日午後十一時	七月廿二日午後五時	七月廿三日四時	五時間	二六	二六	一、六三
三隔日給與	與	七月十八日午後十一時	七月廿二日午後五時	七月廿三日四時	五時間	二六	二六	一、六三
四齡中一日給與	同	同	同	同	同	二六	二六	一、六三
五振落給與	同	同	同	同	同	二六	二六	一、六三

養蠶試驗 第七 燒岳噴出灰ノ附着シタル桑樹給與試驗

六洗滌給與同	同	同	同	同	同	三	三	二天	九	百九十	一、五〇〇	一、六二
七四齡中每回給與同	同	同	同	同	同	三	三	二天	一	一、六三	一、六二	
八五齡中每回給與同	同	同	同	同	同	三	三	二天	一、六三	一、六三	一、六二	

第四齡經過

試驗別	飼食月日	停食月日	竣曉月日	齡中日數	給桑回数	給桑量
一標	準 七月廿三日 午前四時	七月廿六日 午後十一時	七月廿八日 午前八時	三 日 九時 四分	三	六、〇二天
二每回給與	七月廿三日 午後五時	七月廿七日 午前十一時	七月廿九日 午前十一時	四 日 十二時 四分	三	六、六三七
三隔日給與	七月廿三日 午前四時	七月廿六日 午後十一時	七月廿八日 午前八時	三 日 九時 四分	三	六、〇二天
四齡中一日給與同	同	同	同	同	三	六、〇二天
五振落給與同	同	同	同	同	三	六、〇二天
六洗滌給與同	同	同	同	同	三	六、〇二天
七四齡中每回給與	試驗着手 七月廿三日 午前四時	七月廿七日 午前四時	七月廿八日 午後一時	四 日 間 同	三	六、二七八
八五齡中每回給與	七月廿三日 午前四時	七月廿六日 午後十一時	七月廿八日 午前八時	三 日 九時 四分	三	六、〇二天

第五齡經過

試驗別	飼食月日	催熟月日	終熟月日	齡中日數	給桑回数	給桑量
一標	準 七月廿八日 午前八時	八月二日 午後十一時	八月三日 午後十一時	六 日 十五時 間	四	三、五五

二	每回給與	七月廿九日 午前十一時	八月四日 午後四時	八月五日 午前四時	八月六日 午後七時	間
三	隔日給與	七月廿八日 午前八時	八月二日 午後十一時	八月三日 午後十一時	八月六日 午後五時	間
四	齡中一日給與	同	同	同	同	同
五	振落給與	同	同	同	同	同
六	洗滌給與	同	同	同	同	同
七	四齡中每回給與	七月廿八日 午後一時	八月三日 午前四時	八月四日 午前四時	八月六日 午後六時	十五日 午前八時
八	五齡中每回給與	七月廿八日 午前八時	八月三日 午前八時	八月四日 午前八時	八月七日 午前八時	間

同上第一齡温濕度

吾	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三

種	類	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
二	化性新屋	九一度	六七度	七八一度	九一〇度	四四度	七三度	九〇度	七一度	八一度	八〇度	四三度	六六度

同上第二齡温濕度

試	驗	別	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一	標	準	八九度	六五度	七四度	一〇〇度	四六度	七九度	八七度	六七度	七七度	八四度	五六度	七六度
二	每回給與	與	八九度	六五度	七四度	一〇〇度	四六度	七九度	八七度	六七度	七七度	八四度	五六度	七六度
三	隔日給與	與	八九度	六五度	七四度	一〇〇度	四六度	七九度	八七度	六七度	七七度	八四度	五六度	七六度
四	齡中一日給與	與	八九度	六五度	七四度	一〇〇度	四六度	七九度	八七度	六七度	七七度	八四度	五六度	七六度

葉質試驗 第七 燒岳噴出灰ノ附着シタル桑樹給與試驗

五	六	七	八
振落給與	洗滌給與	四齡中每回給與	五齡中每回給與
八九	八九	八九	八九
六五	六五	六五	六五
七四	七四	七四	七四
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
四六	四六	四六	四六
七九	七九	七九	七九
八七	八七	八七	八七
六七	六七	六七	六七
七七	七七	七七	七七
八四	八四	八四	八四
五六	五六	五六	五六
七六	七六	七六	七六

同上第三齡溫濕度

一	二	三	四	五	六	七	八
標準	每回給與	隔日給與	齡中一日給與	振落給與	洗滌給與	四齡中每回給與	五齡中每回給與
八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九
六四	六四	六四	六四	六四	六四	六四	六四
七七	七六	七七	七七	七七	七七	七七	七七
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五
七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三
八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一
八〇	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
八三	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
七〇	七二	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

同上第四齡溫濕度

試驗別	室外溫度			室外濕度			室內溫度			室內濕度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均

同上第五齡溫濕度

一	二	三	四	五	六	七	八
標準	每回給與	隔日給與	齡中一日給與	振落給與	洗滌給與	四齡中每回給與	五齡中每回給與
八七度	八七度	八七度	八七度	八七度	八七度	八七度	八七度
六〇度	六〇度	六〇度	六〇度	六〇度	六〇度	六〇度	六〇度
七四度	七四度	七四度	七四度	七四度	七四度	七四度	七四度
一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度
五一度	五一度	五一度	五一度	五一度	五一度	五一度	五一度
七六度	七六度	七六度	七六度	七六度	七六度	七六度	七六度
八五度	八五度	八五度	八五度	八五度	八五度	八五度	八五度
七二度	七二度	七二度	七二度	七二度	七二度	七二度	七二度
七八度	七八度	七八度	七八度	七八度	七八度	七八度	七八度
八九度	八九度	八九度	八九度	八九度	八九度	八九度	八九度
五九度	五九度	五九度	五九度	五九度	五九度	五九度	五九度
七三度	七三度	七三度	七三度	七三度	七三度	七三度	七三度

一	二	三	四	五	六
標準	每回給與	隔日給與	齡中一日給與	振落給與	洗滌給與
八一度	八一度	八一度	八一度	八一度	八一度
六三度	六三度	六三度	六三度	六三度	六三度
七二度	七二度	七二度	七二度	七二度	七二度
一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度	一〇〇度
五二度	六五度	五二度	五二度	五二度	五二度
七九度	八六度	七九度	七九度	七九度	七九度
八一度	八一度	八一度	八一度	八一度	八一度
六一度	六九度	六一度	六一度	六一度	六八度
七五度	七五度	七五度	七五度	七五度	七五度
八三度	八八度	八八度	八八度	八八度	八八度
五九度	六〇度	五九度	五九度	五九度	五九度
七三度	七五度	七三度	七三度	七三度	七三度

葉質試驗 第七 燒岳噴出灰ノ附着セタル桑葉給與試驗

葉質試驗 第七 燒岳噴出灰ノ附着シタル桑葉給與試驗

七	八
四齡中每回給與	五齡中每回給與
八一	八一
六三	六三
七二	七二
〇〇	〇〇
五二	五二
七九	七九
八一	八一
六八	六八
七五	七五
八八	八八
五九	五九
七三	七三

百九十四

同上全齡經過

試驗別	掃立試驗着上簇	飼育日數	給桑回数	給桑量	平均溫濕度
一標	準七月十日午前十時 七月十五日午前十時	五日	同 同	同 同	同 同
二每回給與同	同	同	同	同	同
三隔日給與同	同	同	同	同	同
四齡中一日給與同	同	同	同	同	同
五振落給與同	同	同	同	同	同
六洗滌給與同	同	同	同	同	同
七四齡中每回給與同	同	同	同	同	同
八五齡中每回給與同	同	同	同	同	同

同上蠶兒ノ体量(對百頭)

試驗別	第三齡眠蠶	第四齡眠蠶	第五齡盛蠶	熟蠶
-----	-------	-------	-------	----

一	二	三	四	五	六	七	八
標準	每回給與	隔日給與	齡中一日給與	振落給與	洗滌給與	四齡中每回給與	五齡中每回給與
三、三 ^ヌ	二、八	三、二	三、二	三、二	三、二	三、三	三、三
一五、二 ^ヌ	九、四	一三、〇	一三、三	一五、二	一五、一	一三、〇	一五、二
八〇、〇 ^ヌ	五四、〇	七五、〇	七五、〇	七八、〇	七七、〇	七二、〇	六一、〇
七一、〇 ^ヌ	五〇、〇	六五、〇	六五、〇	六八、〇	六五、〇	六四、〇	五三、〇

右ノ如ク第一標準區ニ比シ第二每回給與區ハ發育遲緩日數一日五時間遲延シ且ツ不齊ナリ
 シヲ見シノミナラズ五齡ノ盛蠶体量ハ二匁六分輕ク病廢蠶ヲ出セシ數亦比較的最も多シ其
 ノ他ハ第一標準區ニ比シテ稍ヤ劣ルモ第七第八區ハ其ノ差稍ヤ多カリキ

(乙) 秋

自第一齡 至第二齡 經過

蠶齡	飼食月日	停食月日	竣蛻月日	食桑中絶食中合計	給回数	桑量
第一齡	八月十五日 午前十時	八月十九日 午後二時	八月二十日 午後二時	四日四時間 一日間	五日四時間 三日廿時間	四五 ^ヌ 三三八、五 ^ヌ
第二齡	八月二十日 午後二時	八月二十三日 午前十時	八月二十四日 午前十時	二日廿時間 一日間	三日廿時間	三〇 七〇七、〇

第三齡經過

試驗別	飼食及試驗着手月日	停食月日	竣蛻月日	齡中絶食中合計	給桑回数	給桑量
一標	準 八月十四日午前十一時	八月十八日午前八時	八月十九日午後五時	二日間九時五十分	四	二、五三
二三齡中每回給與	同 試驗着手 八月十六日午後六時	八月十八日午後十一時	八月十九日午後四時	二日間五時三十分	三	二、五三
三四齡中每回給與	八月十四日午前十一時	八月十八日午後五時	八月十九日午後三時	二日間九時五十分	四	二、五三
四翌齡中每回給與	同	同	同	同	同	同
五五齡中每回給與	同	同	同	同	同	同

第四齡經過

試驗別	飼食及試驗着手月日	停食月日	竣蛻月日	齡中絶食中合計	給桑回数	給桑量
一標	準 八月十九日午後五時	八月廿三日午後十一時	八月廿五日午後六時	六日間十六時四十分	四	七、七九〇
二三齡中每回給與(其二)	八月十九日午後十一時	八月廿五日午後十一時	八月廿六日午後五時	七日間	五	二、九九〇
二三齡中每回給與(其三)	同	同	同	同	三	五、〇〇〇
三四齡中每回給與	試驗着手 八月十九日午後五時	八月廿四日午前十一時	八月廿六日午後四時	七日間十七時四十分	四	九、〇五〇
四四、五齡中每回給與	同	同	同	同	四	九、〇五〇
五五齡中每回給與	八月十九日午後五時	八月廿三日午後十一時	八月廿五日午後六時	六日間十六時四十分	四	七、七九〇

備考

第二區三齡中毎回給與區ハ四日目ニ至リ催眠蠶兒多數ヲ出セシヲ以テ別箱ニ移シ(其二)ト名ケ又其ノ普通經過ノモノヲ(其一)ト名ケタリ

第五齡(其一)ノ經過

試 驗 別	餉食及試驗		催熟月日	終熟月日	齡中日數	給桑回数		給 桑 量
	着手月日	餉食月日				灰桑純桑合計	灰桑純桑合計	
一標	八月廿五日午後三時	八月廿五日午前十一時	八月廿一日午前十一時	九月一日午前十一時	六日廿時間	五	五	三、七五
二三齡中毎回給與(其二)	八月廿六日午後十一時	九月一日午後七時	九月一日午後四時	九月三日午後四時	七日五時間	五	五	三、四〇〇
三四齡中毎回給與(其一)	八月廿六日午前四時	九月一日午後二時	九月三日午前八時	九月三日午後四時	八日四時間	五	五	三、四〇〇
四五齡中毎回給與(其一)	同	九月一日午後六時	九月三日午後四時	九月三日午後四時	八日十二時間	六	六	三、六〇〇
五五齡中毎回給與	八月廿五日午後三時	八月廿一日午後二時	九月一日午後二時	九月三日午後二時	七日五時間	五	五	三、七五〇

備考

第三區四齡中毎回給與區ト第四區四五齡中毎回給與區トハ四日目ニ至リ就眠ノ狀ヲ呈セル蠶兒數頭ヲ出セルヲ以テ別箱ニ移シ其ノ經過ヲ調査スルコト、シ前區ニハ(第三區其二)後區ニハ(第四區其二)ト名ケ其ノ普通經過ノモノヲ(第三區其一)(第四區其一)トシ之ヲ區別スルコト、シタリ

第五齡(其二)ノ經過

試 驗 別	餉食月日		停食月日	竣蛻月日	齡中日數	給桑回数		給 桑 量
	着手月日	餉食月日				灰桑純桑合計	灰桑純桑合計	
二三齡中毎回給與(其二)	八月廿四日午後九時	八月廿八日午後四時	八月三十日午前十一時	九月一日午前十一時	五日五時間	三	三	三、二八〇

[illegible]

第三區(其二)第四區(其二)ハ眠中ニ於テ悉ク斃死セリ

第六齡經過

試	驗	別	飼食月日	催熟月日	終熟月日	齡中日數	給桑回數	給桑量
二三齡中每回給與(其二)	午前十一時	九月六時	九月七時	十七時間	五 _同	五 _同	三、五〇 _欠	三、三五 _欠

備考

第二區三齡中每回給與(其二)ハ五齡五日目ニ至リ三十五%七ノ五眠蠶ヲ生ジタルヲ以テ
茲ニ第六齡經過ヲ表スコト、シタリ

同上第一、第二齡溫濕度

蠶	齡	室外溫度				室外濕度				室內溫度				室內濕度			
		最高	最低	平均	度	最高	最低	平均	%	最高	最低	平均	度	最高	最低	平均	%
第一	齡	八七	六四	七六	度	一〇〇	五〇	七一	度	八七	七二	七七	度	一〇〇	五二	七八	度
		九一	六五	八一	度	一〇〇	五二	七六	度	九一	七三	八一	度	九四	五六	七五	度
第二	齡																

同上第三齡溫濕度															
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

試 驗 別	同上第四齡溫濕度				
	最高	最低	平均	最高	最低
一 標 準	九二度	六六度	七八度	九四度	四九度
二 三齡中每回給與	九二	六六	七八	九四	四九
三 四齡中每回給與	九二	六六	七八	九四	四九
四 四五齡中每回給與	九二	六六	七八	九四	四九
五 五齡中每回給與	九二	六六	七八	九四	四九

同上第四齡溫濕度

試 驗 別	同上第五齡溫濕度				
	最高	最低	平均	最高	最低
一 標 準	八八度	七〇度	七七度	八八度	五〇度
二 三齡中每回給與	八七	七〇	七七	八八	五三
二 三齡中每回給與 (其一)	八七	七〇	七七	八八	五三
三 三齡中每回給與 (其二)	八九	六六	七八	八八	五〇
四 四齡中每回給與	八九	七〇	七八	八八	五〇
五 四五齡中每回給與	八八	七〇	七八	八八	五〇

同上第五齡溫濕度

試 驗 別	室外溫 度			室內溫 度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一 標 準	八九度	六三度	七七度	八八度	四四度	六八度
二 三齡中每回給與	八九	六三	七七	八八	四四	六八
三 四齡中每回給與	八九	六三	七七	八八	四四	六八
四 四五齡中每回給與	八九	六三	七七	八八	四四	六八
五 五齡中每回給與	八九	六三	七七	八八	四四	六八

二	二	三	三	四	四	五
三齡中每回給與 (其二)	三齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	五齡中每回給與 (其二)
八九	八九	八八	八八	八八	八八	八九
六六	五八	五八	六六	六六	六六	六五
七九	七五	七五	七八	七五	七八	七七
八九	八八	八八	八八	八八	八八	八八
五〇	四二	四二	五一	四二	五一	四二
六七	七〇	七二	六七	七〇	六七	六八
八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
六八	六八	六八	七二	六八	七一	六八
八〇	七七	七七	七七	七七	七八	七八
八八	八九	八九	八九	八八	八九	八九
四七	四七	四七	五一	四七	五一	四七
六九	七一	七三	六九	七一	六九	七〇

同上第六齡溫濕度

二	三
三齡中每回給與 (其二)	三齡中每回給與 (其二)
八七	八七
五八	五八
七五	七五
八八	八八
四二	四二
六八	六八
八六	八六
六七	六七
七七	七七
八九	八九
四七	四七
七一	七一

同上全齡經過

試驗別	掃立 月日	試驗着 手月日	上簇 月日	飼育日數 自掃立至着手 至上簇	給桑回数 合計	給桑 純桑	桑量 合計	平均溫度 室外室內	平均濕度 室外室內
一標 準	八月五日 午前十時	八月廿四日 午前十時	九月一日 午前十一時	九日間 一時間	一 二〇九	一 四六、二五、五四、二五、五	一 六	六	六
二 三齡中每回給與 (其二)	同	同	九月三日 午前四時	九日間 六時間	四 二八三	二、九六、四七、四三、五五〇、三九三、五	二、九六、五三、六七五、五五、六三三、五	七	七
三 三齡中每回給與 (其二)	同	同	九月七日 午前四時	九日間 六時間	四 二九三	二、九六、五三、六七五、五五、六三三、五	七	七	七

三	三	四	四	五
四齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	四齡中每回給與 (其二)	五齡中每回給與 (其二)
同	同	同	同	同
八月廿九日 午後五時 午前八時	九月三日 午前八時	九月三日 午後四時	九月十四日 午後四時	八月廿九日 午後三時 九月一日 午後二時
十四日 七時間	十四日 七時間	十四日 七時間	十四日 七時間	廿七日 五時間
廿八日 七時間	廿九日 七時間	廿九日 六時間	廿九日 六時間	廿七日 五時間
四二七、三三三	四二七、三三三	四二七、三三三	四二七、三三三	四二七、三三三
九、〇五〇、三九、六六、五四八、七二、五	九、〇五〇、三九、六六、五四八、七二、五	九、〇五〇、三九、六六、五四八、七二、五	九、〇五〇、三九、六六、五四八、七二、五	九、〇五〇、三九、六六、五四八、七二、五
六	六	六	六	六
七	七	七	七	七
七	七	七	七	七
七	七	七	七	七

同上蠶兒ノ体量(對百頭)

試	驗	別	第三齡眠蠶	第四齡眠蠶	第五齡盛蠶	第六齡盛蠶	熟	蠶
一	標	準	三、七 ^ヌ	一九、七 ^ヌ	八一、〇 ^ヌ		六三、〇 ^ヌ	
二	三齡中每回給與 (其二)	二、五	一二、五	眠蠶 七二、〇			五五、〇	
二	三齡中每回給與 (其二)	二、五	六、五	眠蠶 二六、〇	八四、〇		七七、〇	
三	四齡中每回給與 (其二)	三、七	一四、〇	眠蠶 六五、〇			五〇、〇	
三	四齡中每回給與 (其二)	三、七	一四、〇	眠蠶 二五、〇				
四	四、五齡中每回給與 (其二)	三、七	一四、〇	眠蠶 四八、〇			三三、〇	
四	四、五齡中每回給與 (其二)	三、七	一四、〇	二三、〇				
五	五齡中每回給與 (其二)	三、七	一九、七	五七、〇			四四、〇	

右ノ如ク第一標準區ニ比シ各區共發育遲緩ニシテ第二三齡中每回給與區其(一)ハ一日十七時

間第三四齡中毎回給與區(其一)ハ二十一時間、第四、五齡中毎回給與區(其一)ハ二日七時間、第五區五齡中毎回給與區ハ九時間遅延セリ、体量ニ於テハ第四、四五齡中毎回給與區(其一)ノ如キハ蠶体最モ小サク病廢蠶ヲ出スコト又多カリキ、其他各區ノ發育ハ何レモ不齊ナルヲ免カレザリキ又五眠セシ蠶兒ハ概シテ蟲質虛弱ニシテ五眠若シクハ六齡中軟化病微粒子病ヲ續發シ斃蠶三割強ニ達セリ

本試驗ニ於ケル收繭ト繭質及ヒ製造蠶種ノ成績トハ左ノ如シ

(甲) 夏 蠶

一、收 繭 成 績

試驗別	上 繭		中 繭		下 繭		同 功 繭		合 計		結 繭 對 蠶 一 万 頭
	顆數	容量重量	顆數	容量重量	顆數	容量重量	顆數	容量重量	顆數	容量重量	
一 標 準	三三四	九、七九、五	六	二、五	一	一〇、九	一〇一	九、〇	二四〇	一〇、七九、〇	二五〇、三五七
二 每 回 給 與	一九六	四、九四、二	八	三、〇	一	五、〇	五	四、〇	二〇〇	五、四四、八	二二五、二八〇
三 隔 日 給 與	二〇四	八、五六、七	四	一、五	一	七、〇	七	四、〇	二二五	九、〇七、五	二二三、〇〇〇
四 齡 中 一 日 給 與	二〇六	八、八七、二	二	〇、六	二	八、〇	八	六、〇	二二八	九、三七、八	二三三、〇〇〇
五 振 落 給 與	二二四	九、二七、四	四	一、五	二	九、〇	九	六、〇	二二九	九、七八、九	二三八、三三三
六 洗 滌 給 與	二二〇	九、〇七、八	七	二、五	一	九、〇	九	五、〇	二二六	九、五八、三	二三五、三三七
七 四 齡 中 每 回 給 與	一八四	七、二五、〇	三	一、〇	一	三、一	三	〇、七	二〇〇	八、二六、七	二二二、七三三

八	五齡中毎回給與	二七六、四五、八	四	一、〇	一	一	一〇、〇、八	五、〇、三三	七、二六、八	二四、二四、〇、一、〇、二七
---	---------	----------	---	-----	---	---	--------	--------	--------	----------------

二、繭 質 調 査

試 驗 別	一升ノ 顆數	繭ノ大サ		繭層量(對乾繭百顆)		對繭一升量		肉眼審 査等位
		長	巾	繭層 繭及蛻皮	合 計	繭層 繭及蛻皮	合 計	
一 標 準	二三二	一一、九	五、一	八、〇	一三、一	一一、八	一八、六	三〇、四
二 每 回 給 與	三九六	九、九	四、五	三、〇	四、〇	七、〇	一一、九	一五、八
三 隔 日 給 與	二四〇	一一、一	四、九	四、五	六、七	一一、二	一〇、八	一六、一
四 齡 中 一 日 給 與	二三四	一一、四	五、一	四、九	七、四	一二、三	一一、五	一七、三
五 振 落 給 與	二三二	一一、七	五、三	五、〇	七、六	一二、六	一一、六	一七、六
六 洗 滌 給 與	二三四	一一、三	五、三	四、九	七、一	一二、〇	一一、五	一六、六
七 四 齡 中 每 回 給 與	二五六	一一、〇	五、〇	四、六	六、四	一一、四	一一、八	一六、四
八 五 齡 中 每 回 給 與	三四〇	一〇、〇	四、四	三、五	五、二	八、七	一一、九	一七、七
								二九、六
								四

三、絲 質 調 査

試 驗 別	一顆ノ糸長(十顆平均)		一顆ノ糸量		纖 度		類 節 切 斷
	最 長	最 短	最 長	最 短	最 太	最 細	
一 標 準	六七〇	五〇〇	五五五	四、三	二、六六	二、〇〇	三
二 每 回 給 與	四一〇	三〇〇	三五八	二、三	二、三四	一、六〇	八
三 隔 日 給 與	六〇〇	四四五	五三〇	四、〇	二、三四	一、九〇	三
							一、〇

葉質試驗 第七 燒岳噴出灰ノ附着シタル桑葉給與試驗

四	齡中一日給與	六一〇	四五〇	五〇一	四、〇	二、九六	二、一四	二、四二	三	〇、五
五	振落給與	五三〇	四五〇	四九九	四、〇	二、八二	二、〇八	二、三八	三	〇、五
六	洗滌給與	五八五	四三〇	五三六	四、三	二、九八	一、九三	二、四三	四	一、〇
七	四齡中每回給與	五四五	四一〇	四七九	四、〇	二、七五	二、一三	二、四〇	三	〇、五
八	五齡中每回給與	五五〇	三五〇	四三四	三、一	二、七〇	一、六六	二、一四	五	一、〇

(2)

蟹

一、收 繭 成 績

試驗別	上繭		中繭		下繭		同切繭		合計		結繭對蠶一萬頭	
	類數	容量重量	類數	容量重量	類數	容量重量	類數	容量重量	類數	容量重量		
一標	準	二三、九、五	類	六〇、二	類	三〇、一	類	七〇、三	類	三七二、一	類	二四四、三、七三
二三齡中每回給與	二三〇、五、〇	四一	五〇、二	二	三〇、二	一	五〇、二	三	一四三、五、六	四七	一四八、三九〇、二、四三五	
(其一二)												
二三齡中每回給與	四七、二、五	二〇	七〇、三	三	四〇、二	二	一	一	五九、三、〇	二五	六〇、三八〇、四二、三六	
(其一二)												
三四齡中每回給與	二〇四、七、〇	五八	八〇、三	三	六〇、二	二	一	一	二九、七、五	六三	二二〇、二五〇、〇二、一〇〇	
四四齡中每回給與	一六、四、〇	三	二七〇、六	六	一三〇、三	三	一	一	二〇八、四、九	四二	二〇九、一六三、三一、三六七	
五五齡中每回給與	二〇九、六、〇	五〇	九〇、二	二	七〇、二	二	一	一	二五、六、四	五四	二二五、二三、三一、八〇〇〇	

備考

第二三齡中毎回給與區ハ第五齡四日目ニ於テ頭數ヲ調査セシニ二百五十二頭アリ此ノ

内五眠セシモノ九十頭ヲ出セリ然ルニ本區ハ第三齡飼食ノ際三百頭ヲ試験ニ供セシモノナルカ故ニ一割六分ノ病癢遺失蠶ヲ出セシ割合トナル故ニ五眠セシ蠶兒ハ試験着手當時ヨリノモノト假定スルトキハ百七頭ニ當リ普通經過ノモノハ百九十三頭ニ相當スルヲ以テ對蠶一万頭ノ收繭量ヲ該數ニヨリテ算出シタリ

二、繭 質 調 査

試 驗 別	一 舛ノ繭ノ大サ(對十額)		繭層量(對乾繭百額)		對 繭 一 舛ノ量		肉 眼 審 査 等 位
	額 數	長	巾	繭層 繭及蛻皮合計	繭 層 繭及蛻皮合計	合 計	
一 標	準 二 三 九	一一、〇	五、一	八、〇	一三、五	一五、一	一
二 三 齡 中 每 回 給 與	二 六 〇	一一、〇	五、〇	七、二	一六、一	四四、一	二
(其 一)							
二 三 齡 中 每 回 給 與	一 八 〇	一二、八	六、一	一〇、五	一七、五	二一、六	一
(其 二)							
三 四 齡 中 每 回 給 與	二 八 八	一〇、六	四、八	六、〇	九、九	一四、三	三
四 四、五 齡 中 每 回 給 與	四 二 〇	九、九	四、二	四、〇	六、〇	八、四	五
五 五 齡 中 每 回 給 與	三 五 〇	一〇、〇	四、三	四、八	八、〇	一一、二	四

三、絲 質 調 査

試 驗 別	一 顆ノ糸長(十顆平均)			一 顆ノ 纖 度			類 節 切 斷
	最 長	最 短	平 均	最 太	最 細	平 均	
一 標	五 八 〇	四 〇 〇	五 一 四	四、二	三、〇	一、九	二
二 三 齡 中 每 回 給 與	五 六 五	四 三 〇	五 〇 〇	三、九	二、六	二、一	八
(其 一)							
二 三 齡 中 每 回 給 與	五 六 五	四 三 〇	五 〇 〇	三、九	二、六	二、一	八
(其 二)							

二	三齡中每回給與 (其二)	六一五	四四五	五二一	五、三	三、三四	二、七六	三、〇九	一四	〇、八
三	四齡中每回給與	五一五	三九九	四五三	三、二	二、五六	一、七六	二、一三	六	
四	四五齡中每回給與	三五〇	二六〇	三二三	二、三	三、二八	一、二二	二、一〇	三	
五	五齡中每回給與	四四五	二八五	三五四	二、五	二、二八	二、〇二	二、一五	三	一、二

又夏蠶ヲ以テ蠶種ヲ製造シタル成績ハ左ノ如シ

蠶種成績

試驗別	種繭顆數	發蛾月日	製種蛾數	產卵數 (對一蛾)	良卵—不良卵	合計	微粒子檢查成績 有—無	毒—無	肉眼審 查等位
一 標 準	七〇 _ク	自八月十六日 至同十八日	二三 _蛭	五二四 _ク	一 _ク	五二五 _ク	〇 _蛭	二三 _蛭	一
二 每回給與	七〇	自八月十七日 至同十八日	二八	三六〇	一	三六一	〇	二八	五
三 隔日給與	七〇	自八月十六日 至同十八日	三三	四九四	二	四九六	〇	三三	二
四 齡中一日給與	七〇	自八月十七日 至同十八日	一七	五〇一	四	五〇五	〇	一七	二
五 振落給與	七〇	自八月十六日 至同十八日	三〇	四一六	二	四一八	三	二七	二
六 洗滌給與	七〇	同	二四	四六四	一	四六四	〇	二四	三
七 四齡中每回給與	七〇	同	二七	四六一	一	四六二	一	二六	三
八 五齡中每回給與	七〇	自八月十五日 至同十七日	二八	三九一	一	三九一	一	二七	四

備考

試驗區ニヨリ製種蛾數ニ著シキ差異ヲ認メタルハ雌雄ノ發蛾歩合不均衡ナリシニヨル
今右成績ニツキ其概要ヲ摘記スレバ左ノ如シ

夏蠶ニ於テハ標準區ニ比シテ毎回給與區ノ飼育日數ハ永ク發育遲緩不齊ニシテ体量輕キヲ
見隔日給與、齡中一日給與、振落給與、洗滌給與ノ四區ハ經過日數、給桑量何レモ同一ニシテ其ノ
發育ノ狀況体量等モ相伯仲シ僅カニ標準區ニ劣リ四齡中毎回給與、五齡中毎回給與ノ二區ハ
經過稍ヤ永ク体量ハ何レモ幾分力輕キヲ見病癢蠶ハ各區共著シク發生セサリシカ只毎回給
與區ハ比較的多キヲ見タリ而シテ其ノ種類ハ稚蠶時代ニ於テハ遲レ蠶壯蠶時代ニ於テハ軟
化病ナリキ

又收繭量、繭形、繭質等ヲ標準區ニ比スルトキハ毎回給與區ハ繭形小サク收繭從ツテ尠ナク絲
縷又細ク短カク類節、切斷、共ニ多ク最モ不良ナルヲ見隔日給與、齡中一日給與、振落給與、洗滌給
與ノ四區ハ繭形、收繭、解舒類節、切斷、等相伯仲シテ稍ヤ劣ルヲ見タルモ其差大ナラス四齡中每
回給與、五齡中毎回給與ノ兩區ハ繭形小サク殊ニ五齡中毎回給與ノ繭ハ各齡毎回給與區ニ優
レドモ甚シク小サク且ツ不齊ニシテ絲縷又長カラス類節多シ(第二圖ヲ參照スヘシ)

製造蠶種ニ付テハ各區共發蛾ノ狀況佳良ニシテ甚シキ軒輊ヲ認メサリシモ毎回給與區ハ發
生蛾小ニシテ卵數最モ尠ナク且ツ卵粒小ニシテ產着宜シカラス品位最モ劣等ナルヲ覺ヘ五
齡中毎回給與區ハ其ノ成績各齡毎回給與ニ亞キ其他ノ各區ハ相伯仲シテ成績稍ヤ標準區ニ
劣レリ但シ病毒ハ振落區ハ一〇、〇四齡中毎回給與區ハ三、七、五齡中毎回給與區ハ三、六、六、七

ントヲ出セリ

秋蠶ニ於テハ標準區ニ比シテ四五齡中毎回給與區ハ發育甚ダ遲緩且ツ不齊ニシテ体量最モ輕キヲ見三齡中毎回給與(其一)四齡中毎回給與ノ兩區ハ發育ノ狀況ト体量等標準區ニ亞キ五齡中毎回給與區ハ經過稍ヤ永ク体量ニ於テハ四五量中毎回給與區ニ亞キテ輕キヲ見三齡毎回給與區(其二)五眠セシモノハ經過永ク從テ体量重カリシカ病癢蠶ヲ出セシ數ハ最モ多カリキ収繭量、繭形、絲質等ハ標準區ニ比シテ四、五齡中毎回給與區ハ繭形不齊且ツ著シク小サク從ツテ收繭量尠ナク糸縷又短カク品位最モ劣等ナルヲ見三齡中毎回給與區(其一)四齡中毎回給與區ハ繭形、收量、糸長等標準區ニ亞キ五齡中毎回給與區ノ繭形、收量、糸質等ハ四五齡中毎回給與區ニ優ルモ標準區ニ比ストキハ繭形遙カニ小サク糸縷又長カラス三齡中毎回給與區(其二)(五眠セシモノハ)繭形大キク糸縷長ク纖度太ク類節多カリキ

以上ノ全成績ヲ綜合シテ結論スルトキハ左ノ如シ

一、燒岳噴出灰ノ附着シタル桑葉ノ食入量少ナキトキハ蠶兒ハ著シキ害ヲ被ムルモノニ非ス然リト雖モ其ノ量多ク又ハ添食回數多キニ從ヒ發育遲緩且ツ不齊トナリ病癢蠶ヲ出スコト少ナシトセス其ノ營繭ハ著シク縮少シ從ツテ收繭量ヲ減シ、糸量少ナク、糸縷又短カク纖度ハ細小トナル而シテ稚蠶期ヨリハ壯蠶期ニ於テ之レカ影響ヲ及ホス一、大ナルモノ、如シ一、之カ除害方法トシテハ降灰ニ際シテハ風雨ノ爲メニ自然其灰ノ脫落スルヲ俟チテ給與スルカ然ラサレハ可成叮嚀ニ之ヲ振落シ或ハ洗滌シテ給與スルヲ可トス

病蟲害調査及試験

第一、桑樹芽枯病調査 (第二報)

本病ハ前年度ニ於テ「ヂベレラバカタサツク」即チ「フザリユームラテリテイユーム」ト稱スル菌ノ寄生ニヨリテ發病スルモノナルコトヲ確カメ其調査ノ梗概ヲ報シタリシカ當時之カ豫防ニ關スル圃場試験ハ成績調査ノ期ニ至ラサリシヲ以テ見合セ置キタリ然ルニ茲ニ其調査ヲ完了シタルト本年更ラニ發病狀態ニ就キ調査シタルモノアルヲ以テ左ニ之ヲ掲ケ本病ニ對スル豫防ノ方法ヲ記載セントス

一、本病發生ノ狀態

前年度ニ於テハ本病ハ密植桑園ト多量ニ肥料ヲ施シタル桑園ニ發生スルコト多ク又桑樹ノ種類トシテハ相模早生、小牧、四方咲、群馬赤木、山中高助ニ發病多キヲ認メタリ然ルニ本年更ラニ桑種トノ關係及ヒ三要素ノ多少仕立方ノ相違ニヨリ發病ノ多少ヲ調査シタルニ其結果ハ左ノ如シ

一、桑樹ノ種類ト發病トノ關係 (五月廿二日調査)

種	類	調		査		發		病		發		病		歩		合
		株	數	梢	數	株	數	梢	數	株	數	梢	數	株	數	
嘉	八		五		一二		四		四		八〇、〇		三三、六			

目	相	大	小	尾	加	道	菊	多	大	四	青	群	皇	太	小
模	模	縮						胡	畠	ツ		馬	國	大	笠
早	早							早	早			赤		和	原
生	生	緬	牧	網	納	元	葉	生	生	目	軸	木	桑		
七	九	五	一〇	一〇	一〇	八	一〇	七	八	一〇	八	六	一〇	七	一〇
三九	四七	二〇	八〇	八五	八九	八六	一〇六	二八	六三	六二	七〇	三六	一一八	四二	四六
六	四	一	四	五	四	四	二	一	二	一	二	一	二	一	一
一〇	六	二	七	七	六	四	四	一	二	二	二	一	三	一	一
八五、六	四四、四	二〇、〇	四〇、〇	五〇、〇	四〇、〇	五〇、〇	二〇、〇	一四、三	二五、〇	二〇、〇	二五、〇	一六、七	二〇、〇	一四、三	一〇、〇
二五、六	一二、八	一〇、〇	八、八	八、二	六、七	四、七	三、八	三、六	三、二	三、二	三、二	二、九	二、五	二、四	二、二

鼠	節	山	青	辰	岩	伊	奎	黑	魯
返	曲	中 高 助	木	郎	間	達 赤 木	早 生	木	桑 實 生
一〇	九	一〇	一〇	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二〇二	一七〇	一三三	七七	一四三	一四六	五五	一〇二	一五八	九七
一	一	一	一	二	二	一	一	三	二
一	一	一	一	二	二	一	二	三	二
一〇、〇	一一、一	一〇、〇	一〇、〇	二二、二	二〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	三三、三	二〇、〇
〇、五	〇、六	〇、七	一、三	一、四	一、四	一、八	一、八	一、九	二、一

其他魁布袋陣場金子長瀬、内田早生、砂川早生、四五八、白早生、市平、十文字、落井、太平洋神座國富直立
 千松、改良十文字、控葉魯桑嶋ノ内中葉、九紋龍、中澤、四方咲ニハ被害ナカリキ

二、仕立方ト發病トノ關係 (五月二十九日調査)

試驗別	株調		株發		株發	
	數	梢	數	梢	數	梢
根刈	三〇	一六八	一七	三五	五六、七	二〇、八
中刈	三〇	二〇八	一七	二七	五六、七	一二、九

高

刈

三〇

八四

六

八

二〇、〇

九、五

三、三要素ノ多少ト發病トノ關係 (五月二十九日調査)

加里			燐酸					窒素					試驗別	株調	數	梢	數	株發	數	病	梢	數	株發	數	病	梢	數	合	
ナ	一	二	ナ	一	二	三	四	ナ	一	二	三	四	五	ナ	二	三	四	五	ナ	二	三	四	五	ナ	二	三	四	五	合
貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目	貫目
一〇	一二	一〇	一二	一〇	一〇	九	一〇	一〇	一一	一〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一〇〇	九七	八二	一〇〇	八〇	九三	八六	一四一	一〇六	一〇五	一三五	五七	一〇六	一三四	一〇五	一三五	五七	一〇六	一三四	一〇五	一三五	五七	一〇六	一三四	一〇五	一三五	五七	一〇六	一三四	一〇五
一	三	二	二	二	四	四	二	二	三	四	四	五	一	三	四	四	五	一	三	四	四	五	一	三	四	四	五	一	三
一	五	二	二	四	四	五	二	二	三	五	四	九	一	三	五	四	九	一	三	五	四	九	一	三	五	四	九	一	三
一	二五、〇	二〇、〇	一六、七	二〇、〇	四〇、〇	四四、四	二〇、〇	一六、七	三〇、〇	三六、四	四〇、〇	四五、五	一	三〇、〇	三六、四	四〇、〇	四五、五	一	三〇、〇	三六、四	四〇、〇	四五、五	一	三〇、〇	三六、四	四〇、〇	四五、五	一	三〇、〇
一	五、二	二、四	一、四	四、五	四、三	六、三	一、九	一、四	二、九	三、七	七、〇	八、五	一	二、九	三、七	七、〇	八、五	一	二、九	三、七	七、〇	八、五	一	二、九	三、七	七、〇	八、五	一	二、九

三貫目	四貫目
一一	一一
一〇〇	八一
三	三
三	六
二七、三	二七、三
三、〇	七、四

但シ各區ノ施肥料ハ對一反歩量ナリ又窒素區ヘハ磷酸ト加里トヲ四貫目宛磷酸ノ各區ヘハ窒素五貫五百目ト加里四貫目宛加里ノ各區ヘハ窒素五貫五百目ト磷酸四貫目宛トヲ併セ施シタルモノナリ

即チ桑種ニ於テハ嘉八、目黒、相模早生、大縮緬、小牧、尾網ニ發病多クシテ其内相模早生ト小牧ノ發病多カリシコトハ前年ト同シ但シ四方咲、伊達赤木山中高助ハ本年度ニ於テハ少ナカリシ仕立方ニ於テハ根刈ニ多ク三要素ノ多少ニ就テハ尙判然セサルモノアレバ前記用量ノ範圍内ニ於テハ大差ナキモノノ如シ

豫 防 試 驗

二斗五升式ボルドー液ト木灰汁トヲ別々ニ左ノ區別ニヨリ撒布シ其効果ヲ試驗シタリ

但シ藥劑ヲ撒布スルニ當リテハ相隣接セル二株ノ枝條ヲ交叉結束シテ横ニ倒シ然ル後噴霧器ヲ用ヒテ滿面ニ撒布シタリ又撒布後ハ凡ソ半日斗リヲ經テ藥液ノ全ク乾燥スルヲ待チ結束ヲ解除シ枝條ヲ舊位置ニ復セシメタリ

本試驗ハ成績ノ平均ヲ得ン爲メ三ヶ所ニ於テ施行シタリ

落葉後直ニ一回

第一區 三回撒布 三月上旬一回 (四十四年三月三日)

三月下旬一回 (同年三月二十六日)

第二區 二回撒布 三月上旬一回 (四十四年三月三日)

三月下旬一回 (同 三月二十六日)

第三區 一回撒布 三月上旬一回 (四十四年三月二十六日)

第四區 無豫防

但シ落葉後ノ撒布ハ都合上稍ヤ遅レタリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

(甲) ボルドー液撒布試験成績

第壹號圃場試験成績 (五月十六日調査)

區 別	調 査			發 病			發 病		歩 歩	合 %
	株 數	梢 數	株 數	株 數	梢 數	株 數	株 數	梢 數		
三回撒布區	七〇	三四八	二九	四三	四一、四	一二、三				
二回撒布區	七〇	三一〇	四三	六三	六一、四	二〇、三				
一回撒布區	七〇	三二五	四五	七九	六四、三	二四、三				
無豫防區	七〇	三三五	五九	九三	七五、七	二七、七				

(五月四日調査)

區 別	調 査		發 病		發 病 步 合 %	
	株 數	一 梢	株 數	一 梢	株 數	一 梢
三 回 撒 布 區	一五	六四	四	五	二六、六	七、八
二 回 撒 布 區	一五	九九	一〇	一二	六六、六	一二、一
一 回 撒 布 區	一五	七三	一〇	一七	六六、六	二三、二
無 豫 防 區	一五	六五	一〇	一九	六六、六	二九、二

(五月四日調査)

區別	調査		發病		發病	
	株數	數	株數	數	株數	歩合%
三回撒布區	一五	一三〇	一	一	一	一〇、四
二回撒布區	一五	九六	六	一〇	四〇、〇	一二、三
一回撒布區	一五	八一	六	一〇	四〇、〇	一二、三
無豫防區	一五	一〇五	三	四	二〇、〇	三、八

(五月四日調査)

(三〇%液)

區別	株調査數		株發病數		株發病歩合%	
	株數	梢數	株數	梢數	株數	梢數
三回撒布區	一五	八七	九	一四	六〇、〇	一六、一

區別	調査		發病		發病	
	株數	梢數	株數	梢數	株數	梢數
二回撒布區	一五	七三	一四	二八	九三、三	三八、三
一回撒布區	一五	六五	一一	一四	七三、三	二一、五
無豫防區	一五	八	一〇	一六	六六、六	一九、〇

第貳號圃場試驗成績 (二%液)

區別	調査		發病		發病	
	株數	梢數	株數	梢數	株數	梢數
三回撒布區	一五	一〇八	六	八	四〇、〇	七、三
二回撒布區	一五	一一五	六	八	四〇、〇	七、〇
一回撒布區	一五	九二	一二	二一	八〇、〇	二三、六
無豫防區	一五	七八	六	一三	四〇、〇	一六、六

第參號圃場試驗成績 (二五%液)

區別	調査		發病		發病	
	株數	梢數	株數	梢數	株數	梢數
三回撒布區	一五	一一七	五	七	三三、三	五、九
二回撒布區	一五	一一一	七	一二	四六、六	一〇、〇
一回撒布區	一五	一二七	一〇	一五	六六、六	一二、三
無豫防區	一五	一二七	一〇	二一	六六、六	一五、七

右表ニヨレバ二斗五升式ボルドー液ハ木灰汁ニ優リ又撒布回数多キ程効果顯著ナル成績ヲ

示シ殊ニ落葉後撒布ノ有効ナルヲ證セリ木灰汁ハ効力遙ニ前者ニ劣リ殆ント回數ニ依テ甲乙ナキカ如シト雖モ落葉後撒布ノ効稍々多キ結果ヲ呈セリ

三 結 論

前年來調査ノ結果ニ據レバ本病ハ「ヂベレラバカタサック」即チ「フザリユームラテリテイユー」ト稱スル菌ノ寄生ニヨリテ發スル桑樹ノ病害ニシテ之カ豫防ノ方法ハ左ノ如シ

一、本病ノ發生多キ地ニハ相模早生、小牧等ノ害セラレ易キ種類ヲ避ケ四五八、鼠返等比較的抵抗力強キモノヲ栽植スヘシ

二、本病ノ發生多キ地ハ可成密植ヲ避クヘシ

三、本病ノ發生多キ地ハ可成根刈ヲ避ケ其仕立方ヲ中刈若クハ高刈トスヘシ

四、本病ノ發生多キ地ハ施肥ニ注意シ猥リニ多量ナラサルヲ可トス

五、本病ノ發生多キ地ハ秋期落葉後直チニ二斗五升式石灰ボルドー液ヲ(木灰汁ノ二〇ベルセント液ヲ用ユルモ之ニ次グノ効アリ)枝條ニ撒布スヘシ

第一、 苗木消毒試驗

本試驗ノ目的ハ紋羽菌ニ侵サレタル苗木ヲ各種ノ藥劑ニテ消毒シ其ノ效果ヲ知ラントスルニアリ

本試驗ヲ豫備試驗ト實地試驗トニ別チ豫備試驗ニ於テハ專ラ各種藥劑ノ苗木ニ及ホス影響ト其ノ藥劑ノ殺菌力トヲ驗シ實地試驗ニ於テハ豫備試驗ノ成績ニ基キ比較的殺菌力ニ富ミ且ツ苗木ヲ障害スルコトナキ藥劑ノ實効如何ヲ確カメンコトヲ期シタリ

今各試驗ノ目的方法ト其成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

(甲) 豫 備 試 驗

一、各種藥劑ノ苗木ニ及ホス影響試驗

本試驗ハ各種藥劑ノ苗木ニ及ホス影響ヲ知ラントスルヲ目的トシ四月八日ヨリ同十四日ニ亘リ各別ニ調製シタル藥劑中ヘ左記ノ區別ニヨリ魯桑實生苗ノ根ヲ水洗シタルモノヲ束ネテ浸漬シ後チ取出シテ洗滌スルコトナク直ニ病菌被害ノ恐レナキ畑地ニ栽植シ枯死如何ヲ調査シタルニ其ノ成績ハ左ノ如シ

藥 劑 名	浸 漬 時 間				
	三十分間	一時間	三時間	六時間	十二時間
石 灰 乳 (水一斗生石灰一貫匁)	○	○	○	○	○
同 上 (水一斗生石灰二貫匁)	○	○	○	○	一
同 上 (水一斗生石灰二貫匁)	○	○	○	○	○
石 油	○	一	二	三	四
石 灰 硫 黃 合 劑 原 液	○	○	一	○	○

不洗滌ノ儘直ニ栽植	○	○
不洗滌ノ儘三日ヲ經テ栽植	○	一

右ニ據レハ消毒後苗木ヲ洗滌スルト否トニヨリテ別ニ影響ヲ異ニセサレモ常ニ不洗滌ノ儘長ク之ヲ放置スルキハ多少ノ被害ハ免カレサルモノ、如シ

三、各種藥劑ノ効力試驗

本試驗ハ前記第一試驗ニ用ヒタル各種藥劑ノ効力ヲ驗シ其ノ最モ有効ナル種類ヲ知ラントスルヲ目的トシ五月七日ヨリ同十三日ニ亘リ紫紋羽菌ヲ病根ヨリ分離培養シ直ニ藥劑中ニ浸漬シ一定時間ヲ經タル後チ新鮮ナル寒天斜面培養基ニ移植シタルニ其成績ハ左ノ如シ

藥劑名	浸漬時間				
	三十分	一時間	三時間	六時間	十二時間
石灰乳(水一斗生石灰一貫匁)	生	生	生	生	死
同上(水一斗生石灰一貫五百匁)	生	生	生	生	死
同上(水一斗生石灰二貫匁)	生	生	死	死	死
石灰硫黃合劑原液	死	死	死	死	死
同上五倍液	生	生	死	死	死
同上十倍液	生	生	死	死	死

二斗式石灰ボルドウ液	生	生	生	生	死	死
二斗式同	生	生	生	生	生	死

右ニ據レハ各種藥劑共效果ナキニ非サレドモ石油ト石灰硫黃合劑原液トハ最モ殺菌力ニ富ミ水一斗ニ付キ生石灰二貫匁ヲ加ヘタル石灰乳及ヒ石灰硫黃合劑ノ五倍液十倍液ハ之ニ次キ効果多キヲ示セリ

以上豫備試驗ノ成績ニ據リ石油ハ消毒ノ力多キモ苗木ヲ損傷スルコト多ク石灰ボルドウ液ト水一斗ニ付キ生石灰一貫五百匁以內ヲ加ヘタル石灰乳ノ成績ハ之ニ反シ石灰硫黃合劑ト水一斗ニ付生石灰二貫匁ヲ加ヘタル石灰乳ハ消毒力少ナカラサルノミナラス苗木ヲ損傷スルコト亦甚シカラサルヲ知レリ

(乙) 實地消毒試驗

前記豫備試驗ニ於テ紋羽菌ノ消毒藥劑トシテ石灰硫黃合劑ト水一斗ニ付生石灰二貫匁ヲ加ヘタル石灰乳トハ何レモ効驗多ク其苗木ヲ損傷スルコト少ナキヲ知リ得タルヲ以テ本試驗ハ尙ホ之ヲ用ヒテ紫紋羽菌及ヒ白紋羽菌ニ侵サレタル桑苗ヲ消毒シ其ノ實効ヲ確カメンコトヲ目的トセリ

供試ノ紫紋羽菌ニ侵サレタルモノハ盛取苗ニシテ白紋羽病菌ニ侵サレタルモノハ適當ナル苗木ヲ得難カリシ爲メ栽植後二年ヲ經タル魯桑實生ヲ以テシ五月十七日左ノ區別ニ依リ試

驗シタリ其ノ區別ハ左ノ如シ

但シ苗木ハ不洗滌ノ儘藥劑中ニ浸シタリ

試 驗 別	紫紋羽被害苗			白紋羽被害苗		
	供試本數	枯死本數	枯死本數中病菌ノ 生活力アルモノ	供試本數	枯死本數	枯死本數中病菌ノ 生活力アルモノ
一、石灰硫黃合劑原液ニ一時間浸漬シ後直ニ栽植	八	五	一	五	一	一
二、水一斗ニ付生石灰二貫匁ヲ加ヘタル石灰乳ニ三時間浸漬シ後直ニ栽植	八	一	〇	五	〇	〇

但シ第一區紫紋羽病菌ノ枯死五本ヲ生ジタルハ苗木ノ不良ナルニ依リタルモノ、如ク紋羽菌ノ寄生ハ比較的少ナク且ツ其ノ紋羽菌モ一本ノ外他ハ盡ク調査當時死滅シ居タリ又他ノ供試本數中活着シタルモノハ何レモ被害菌ノ死滅シ居ルヲ確メタリ

右ハ九月五日苗木ヲ掘取リ調査シタルモノニ依ル

右ノ成績ニ據レハ石灰硫黃合劑原液ハ供試本數中紫紋羽菌モ白紋羽菌モ共ニ一本宛消毒効果ナキヲ見豫備試驗成績ト稍一致セサルノ感アルモ生石灰二貫匁ヲ水一斗ニ溶解セシメタル石灰乳ハ其ノ効力多キヲ見タリ

以上本試驗ノ成績ニ據リ苗木ノ消毒法ニ就キ概論スルトキハ左ノ如シ

紫紋羽菌又ハ白紋羽菌ニ侵サレタル桑苗ハ生石灰二貫匁ヲ水一斗ニ溶解シタル石灰乳ニ三時間以上六時間以内浸漬シ直ニ栽植スルハ活着力ニ異狀ナク其ノ病菌ヲ滅殺スルコトヲ得ベシ

但シ石灰硫黃合劑ニ一時間浸シタルモノモ効力尠ナシトセサルカ如シ

第三、桑樹ノ線蟲調査

和名 桑樹ノ線蟲

學名 *Heterodera radicicola*, Greeff.

種族 蠕形動物門圓蟲綱線蟲目小鰻鱺蟲族

一、緒言

明治四十三年十月富川當分塲技手ハ諏訪郡宮川村ヨリ蟲癭ヲ結成シタル桑根ヲ持チ來リ後チ同年十一月木村技手亦之ヲ同所ニ得タリ然ルニ本年七月他ノ用務ヲ帶ヒ同郡ニ出張シタル水見技手ハ之ト同様ノ桑根ヲ携ヘ歸リ且ツ原村字上新田小林杉太郎ナルモノ、約二反歩ノ桑園中三分ノ一本害ニ罹レルヲ報セリ元來桑樹ノ根ニ蟲癭ヲ結成スルト其蟲癭ハ線蟲ノ加害ニ依ルコトハ既知ノ事ナリト雖モ桑園ノ被害如斯ク大ナルモノアルハ未タ見聞セサル所ナルノミナラス桑樹ノ害蟲トシテ本線蟲ノ形態習性及ヒ之カ驅除豫防ニ關スル研究ノ公ニセラレタルモノナキカ如キヲ以テ爾來之カ調査ニ從事シタリ依テ今茲ニ其概要ヲ報セントス但シ不備ノ点ハ後日期ヲ得テ訂正スル所アルヘシ

二、線蟲ノ形態

諏訪郡ニ發生シタル線蟲ノ老熟シタルモノハ雌雄異態ニシテ雄(第四圖a)ハ體長一、五〇乃至

二、四〇「ミリ」體巾〇、〇二七乃至〇、〇三六「ミリ」アリ全體紐狀ヲナシ頭部ニ至ルニ從ヒ稍ヤ細ク且ツ其先端乳頭狀ヲナシ尾端ハ稍ヤ膨大ス皮膚ハクタクヲ以テ被ハレ透明ニシテ輪狀ノ横線ヲ現ハス又筋肉ハ縱走ス内臟器官ノ分明ナルモノハ消食管ト排泄管トニシテ其消食管ノ前端ナル口ハ乳頭部ノ内下方ニ開キ内部ニ一本ノ針ヲ藏ス又口ヨリ胃ニ通スル細長キ食道ニハ一個ノ食道球ト辨ヲ具ヘ尾端ノ稍ヤ上方ニ肛門ヲ開ク肛門ノ内部ノ上方ニハキチン質ヨリナル長キ彎曲シタル二本ノ交尾棘(第四圖f)ヲ存ス排泄管ハ体側ニ位シ其他辨ノ下方部ニ神經アリ

雌(第四圖b)ハ體長〇、六六乃至〇、九五「ミリ」體巾〇、四一乃至〇、五〇「ミリ」内外アリ洋梨若シクハ德利狀ニ膨大シ其前端ハ頓ニ細マリテ鼈頭ニ似タル狀ヲナス又体ノ膨大セル部ノ末端ニハ生殖器ヲ存シ肛門ハ退化ス皮膚ハ無數ノ細皺ヲ有シ雄ト同シク食道ニハ食道球ト辨トヲ見ル又腹内ニハ無數ノ卵ヲ藏セリ

幼蟲(第四圖c)ノ最小ナルモノハ約體長〇、一五「ミリ」體巾〇、〇〇九「ミリ」内外アリ其形チ長クシテ兩端少シク尖リ體ノ中央部ハ稍ヤ廣ク頭尾兩端ニ至ルニ從ヒ前記ノ如ク次第ニ細マル而シテ尾端ノ稍ヤ上方ニハ一二ノ小絞レアリ皮膚ハ透明ニシテ細横皺アリ又口針ト食道、食道球ヲ認ムルノ外肛門ノ所在及ヒ他ノ内臟器官ハ分明ナラス然ルニ此ノ幼蟲ハ漸次生成スルニ從ヒテ長サト巾トヲ増シ各部ノ器官亦判明トナル雄幼蟲ノ體長ハ五一・三「ミリ」體巾〇、〇二七「ミリ」内外ニ達シタルモノニハ肛門ノ内部上方ニ雄器ヲ見雌幼蟲ノ體長〇、七五「ミリ」體巾〇

○二七「ミリ」内外ニ達シタルモノニハ其體長ノ約三分ノ二ノ腹面ニ於テ一個ノ雌器(第四圖e)ヲ認メ得ラル而シテ此時以後雄ノ幼蟲ハ體形次第ニ短縮シ且ツ其ノ體ノ前端三分ノ部分ヨリ彎曲シテ釣狀ヲナシ次第ニ變形シ腹部膨大シテ終ニ體長〇、四二、體巾〇、〇九内外(第四圖y)ノ鵲豆若クハ蒂部ニ花痕ヲ止メタル扁蒲ノ如キ狀ニ變ス之レ彼レノ卵殼ニシテ其内ニ二三回彎曲シテ雄ノ幼蟲蟠居スルヲ認ム然レモ雌幼蟲ハ後如何ニシテ老熟シ德利狀ニ變スルカハ未タ明カナラス卵殼内ニテ幼蟲ノ生長極度ニ達シタル時ハ頭尾兩端ヨリ次第ニ縮少シ釣狀ニ彎曲スルヲ雄ト異ナラザルモノアルカ如シ

卵(第四圖d)ハ粘液ヲ以テ縱ニ一列ニ連ナリ長橢圓若クハ曲玉狀ヲナシ長徑〇、〇九九乃至〇、一一七「ミリ」短徑〇、〇三六乃至〇、〇四五「ミリ」アリ顆粒体ト油球トヲ以テ充タサル然レモ胚子ノ發育ヲ始メタルモノハ其内容物次第ニ中央ニ集マリ終ニ縱ニ長キ(コ)字形ヲナシ後チ卵子ヲ形成ス卵ノ日ヲ經タルモノニハ卵被内ニ羅馬字ノS同數字ノ86又ハ平仮名ノのつ字等ノ狀ヲナシテ蟠居スル卵子ヲ認メ此期ニ至レハ卵ハ兩端膨大シ梢ヤ繭形ヲナスモノ多シ

三、線蟲ノ經過ト習性

此線蟲卵ハ雌ノ生殖孔ヨリ產出セラレ初メハ母虫ノ營ミタル蟲癭内ニアリテ生育スレモ其蟲癭腐朽スルニ及ヘハ土中ニ出テ更ラニ細根ヲ索メ口針ヲ突き出シテ根皮ヲ破リ再タヒ蠶入シテ新タニ蟲癭ヲ營ミ頭部ヲ深ク根ノ組織内ニ挿入シテ養液ヲ吸收シ生育ス然レモ其一

世代間ノ日數ト一ケ年間ニ於ケル世代交替數及ヒ一世代中ノ脫皮回數ト時期トニ就テハ未タ明カニセス但シ八月上旬以後落葉期間ニ於テ一回土中ニ散在シ居レル幼蟲カ細根内ニ蠶入シ成熟スルヲ認メ又幼蟲ハ孵化後若干ナラサルキト其生長極度ニ達スル稍ヤ前トニ於テハ少ナクモ脫皮スルモノ、如キヲ覺ヘタリ猶後日之等ヲ確カメントス

雌ノ成蟲ハ運動セサレテ幼蟲ト雄ノ成蟲トハ舉動活潑ニシテ能ク蠕動シ又雄ノ成蟲ハ屢々體ノ前半部ヲ上下左右ニ振り動カシ且ツ頭尾ヲ鉤狀ニ曲ケ或ハ卷曲スルノ性アリ幼蟲ハ水中ニアリテハ能ク波行游泳シ又頭尾若クハ體ノ全部ヲ屢々卷曲ス何レモ性強健ニシテ濕潤ナル所ニ永ク生存シ檢鏡裝置ヲナシタル普通ノブレバート上ニ於テモ絶ヘス水濕ヲ補ナヒ乾燥セシメサレハ七八日以上時ニ十二日以上生存スルヲアルヲ見ル然レモ酒精ヲオルマリシ石灰水又ハ木灰汁等ニ對スル抵抗力ハ薄弱ニシテ普通ノ燃燒用酒精又ハ一ベルセントノフオルマリシ液中ニ在ツテハ三四分間石灰一〇ベルセント以内液又ハ二倍水量ノ木灰汁中ニ在ツテハ一二時間以内ニシテ斃ル何レノ藥液中ニ於テモ其斃ル、ニ先タチテハ屢々體ヲ卷曲シ皮膚ト皮膚トヲ摩擦シ刺撃ニ堪ヘサルモノ、如ク苦悶スルヲ常トス

此線蟲ハ粘土又ハ腐植質ノ地ニ於テハ能ク繁殖シ特ニ有機質ニ富ミ輕鬆ニシテ且ツ濕潤ナル土地ニ蔓延スルヲ速カナルモノアリ現ニ原村ニ於ケル被害地ノ如キハ發生後七八年ニシテ四方ニ蔓延スルヲ約貳百歩ニ及ヘリ又此線蟲ハ地中ニ在ツテハ表土内ニ棲息シ深キ下層ニ

達スルヲナク又冬期ハ根中ニ蟄伏シ寒氣ニ耐ユルノ性強ク恰カモ石ノ如ク凍結シタル表土中桑ノ根内ニ在リテ能ク生活力ヲ保持スルヲ見タリ

又僅カニ一回ノ實驗ニ止マレテ此線蟲ハ大麥小麥蕎麥菠薐草葱萊菔赤クロバー菜豆豌豆ニハ寄生セサルモノ、如ク其他尙ホ被害桑園ニ於テ小豆ノ生育ヲ完フスルヲ見タリ

四、本線蟲ノ名稱

本線蟲ハ蠕形動物門圓蟲綱線蟲目小鰻鱺蟲族中ノヘテロデラ種ニ屬シ其ノ種名ヲヘテロデラ、ラデイシコラ、グリーフ (*Heterodera radicola* Greeff.) ト稱ス)

五、桑樹ノ被害狀態

桑樹本線蟲ノ害ヲ被リタルモノハ根ニ蟲癭ヲ生ス(第三圖)此蟲癭ハ根細胞ノ異常ナル發育増加ニヨリ組織ノ腫起シタルモノニシテ大小一ナラス其大ナルモノニハ指頭大ニ及フモノアレテ小ナルモノニ在ツテハ罌粟粒大ニ過キササルモノアリ概シテ太根ニ存スルモノハ大キク鬚根ニ生シタルモノハ小ナリ形チハ略ホ一定シ短紡錘狀若クハ球狀ヲナセテ或ハ二球以上連續シテ瓢狀甘露兒狀ニ變スルモノアリ又或ハ無數相連結シテ念珠狀ヲナスモノアリ多クハ其表面ニ一二ノ腐朽シタル凹陷部ヲ存ス今若シ此蟲癭ヲ橫斷シ薄キ切片トナシ其内部ヲ檢センカ根組織ハ著シク攪乱セラレ其間囊狀ヲナシ濃黃褐色ヲ帶ヒ多ク内壁ノ腐朽シタル彼レノ蟄伏所ヲ散見シ得ヘシ(第四圖H)

而シテ此線蟲ハ地中ニ在ツテハ表土内ニ棲息シ深キ下層ニハ達セサルヲ前述ノ如シ從ツテ桑根ノ加害セラル、モノハ地表ニ近ク蔓延シ養液攝取ノ用ヲナスモノヲ主トシ其被害ノ甚タシキモノニアリテハ全ク根毛ノ發生力ヲ失フテ腐朽シ皮層ト材質トハ容易ニ分離スルニ至ルヲ尙紋羽病菌ノ被害ニ似タルモノアリ

桑樹ハ本線蟲ノ爲メニ獨リ蟲癭内ニ於テ養分ヲ奪取セラル、ノミナラス如斯ク根ヲ害セラル、ヲ甚タシキカ爲メ樹勢漸ヲ遂フテ衰弱シ新梢ヲ生スルヲ少ナク僅カニ發生シタル枝條モ亦細ク短矮ニシテ葉ハ小サク薄ク且ツ卷縮シ先端稍ヤ下垂シ葉脈ヲ遠サカルニ從ヒ綠色ヲ失ナヒ手ヲ觸ルレハ脆ク脫離シ易キニ至リ終ニ全株ノ枯死ヲ見ルニ至ルヲ常トス但シ其病勢ハ甚タシク急激ナルモノニ非スシテ栽植後四五年ヲ經タルモノニアリテハ被害後全ク枯死スルニ至ルマテニハ少ナクモ三五年ヲ經過スルモノ、如シ

六、驅除豫防法

本年八月四日豫テ被害地ヨリ採集シ來レル土壤ヲ六個ノ容器ニ盛リ一ツハ其儘(無豫防區)トシ他ハ各別ニ硫黃華(反當五ℓ)フアルマリン(坪當一封)石灰窒素(反當十七ℓ)木灰汁(反當二十五ℓ)ヲ水二百五十ℓニ加ヘタルモノ(石灰乳反當石灰五十ℓ)ヲ水二百五十ℓニ加ヘタルモノ(加ヘ置キ別ニ六個ノ亞鉛製植木鉢ニ燃燒土ヲ入レ前ノ無豫防區ハ同日石灰乳ト木灰汁トハ同月七日硫黃華トフアルマリントハ其翌八日石灰窒素區ハ同月十七日ニ至リ細根ヲ叢生シ

居ル同様ノ魯桑實生苗一木宛ヲ栽植シ其ノ根元ヘハ試驗區別ニヨリ前記ノ藥劑ヲ加ヘタル被害地ノ土壤(但シ無豫防區ニハ藥劑ヲ加ヘザルモノ)一握ツ、ヲ加ヘ更ラニ燃燒土ヲ以テ被ヒ驅除ノ效果如何ヲ試ミ十一月六日其ノ苗木ヲ掘リ取り調査シタルニ無豫防區ト硫黃華木灰汁石灰乳ヲ施シタルモノハ其ノ効ナク根ニ蟲癭ヲ結成シタレドモ石灰窒素トフアルマリ_ン液ヲ施シタル兩區ハ何レモ蟲癭ヲ結成セズ(第五、六圖)驅除ノ効アルヲ知り得タリ依テ今之等試驗ノ成績ト被害地ノ實況等ニヨリ本害蟲ニ對スル驅除豫防ノ方法ヲ述フレハ左ノ如シ

一、桑園ニ線蟲ノ發生シタル時ハ速ニ被害ノ恐レナキ區域ニ於テ深サ二三尺ノ溝ヲ掘リ廻シ其蔓延ヲ防遏スヘシ

二、被害地ノ耕耘等ニ使用シタル農具ハ濃度ノ石灰乳木灰汁若クハフオルマリ_ン液中ニ浸シタル後チニ非サレハ他ノ園圃ニ使用スヘカラス但シフオルマリ_ンハ高價ナルヲ以テ之レニ代フルニ熱湯ヲ以テスルモ可ナルヘシ

三、被害桑樹ハ直チニ掘取リ丁寧ニ被害根ヲ採集シ之ヲ燒棄スヘシ

四、被害地ノ面積狹隘ナル_ルハ其表土ヲ完全ニ燃燒セバ驅除シ得ベシ

五、被害桑樹ヲ掘リタル跡地ニハ一反歩ニ付キ石灰窒素十七_ル若クハ一坪ニ付フオルマリ_ン

ン一封ヲ二ベルセントニ稀釋シテ撒布シ土壤ヲ攪拌スルモ効亦多シ

尙ホ驅除試驗ニ於テハ效果ヲ見サリシト雖モ本線蟲ハ石灰若クハ木灰ニ對スル抵抗力

強カラサルヲ以テ之等ヲ多量ニ施スモ亦効アルヘシ

六、被害桑樹ヲ掘取リタル跡地ニハ小豆又ハ其ノ他該虫ノ寄生セサル作物ヲ栽培シ其死滅ヲ計ルモ一法ナルヘシ

(附 言)

本調査ヲナスニ當リ理學博士佐々木忠次郎氏農學士理學士堀正太郎氏理學士三宅恒方氏ノ示教ヲ得タルヲ多シ依テ茲ニ之ヲ感謝ス

第四、 枝尺蠖ノ斃死ニ關スル調査

枝尺蠖ハ体ノ大小ニ依リ冬期ノ死亡率ヲ異ニスルノミナラス越冬前既ニカモドキ蜂ノ寄生ヲ受クル歩合ニ差アリ依テ本調査ハ之等ノ差ト斃死ノ時期ヲ知リ以テ驅除ノ參考ニ資セントスルヲ目的トセリ

調査ノ方法トシテハ明治四十三年十一月廿二日八個ノ養蟲箱(カモドキ蜂ノ成蟲カ飛ビ込ミ得サル丈ケノ金網ヲ張りタル)ヲ二個宛四類ニ別チ第一類ハ其儘トシ第二類ニハ箱内二寸ノ深サニ乾キタル土壤ヲ盛り第三類ハ第二類ト同シク土壤ヲ盛りタル外尙ホ桑樹ノ枯葉五六枚ヲ入レ第四類ニハ箱内ニ粃糠二寸ヲ敷込ミ更ラニ之ヲ一類毎ニ二分シ其一分ノ養蟲箱ニハ体長約一寸他ノ一分ノ養蟲箱ニハ体長約六分ノ枝尺蠖各二十五頭宛ヲ入レ之ヲ屋外ニ置

キ可成自然ノ状態ニ近カラシメタリ但シ直上ヨリ降下スル雨雪ヲ避ケン爲メ養蟲箱ノ上ニハ板ヲ置キタリ而シテカモドキ蜂寄生ノ有無ハ枝尺蠖ノ斃死シタルモノハ其都度否ラサルモノハ其寄主ノ營繭化蜂スルマテノ状態ニ就キテ調査シタリ

今其調査ノ結果ヲ掲クレハ左ノ如シ

一、枝尺蠖ノ冬期死亡率ノ調査

區 別	調査頭數	斃 死		合 計	死亡率
		四十四年一月廿二日調査	三月三十一日調査		
(甲) 体長約一寸ノモノ	一〇〇	九	八四	九三	九三、%
(乙) 体長約六分ノモノ	一〇〇	一一	六〇	七一	七一、

二、枝尺蠖ノカモドキ蜂寄生ノ歩合調査

區 別	調査頭數	カモドキ蜂ノ寄生シタル枝尺蠖ノ頭數	寄 生 百 分 率
(甲) 体長約一寸ノモノ	一〇〇	三五	三五%
(乙) 体長約六分ノモノ	一〇〇	〇	〇

右ノ如ク枝尺蠖ハ冬間死亡スルヲ尠ナカラサルノミナラス其体長ノ大ナルモノハ死亡率多ク寒氣ニ耐ユル力弱ク又越冬前既ニカモドキ蜂ノ寄生ヲ受クルヲモ多キカ如シ而シテ其斃死ノ時期ハ初冬以後小寒ノ節ニ至ルマテヨリモ其後彼岸前後ニ至ルマテノ間特ニ漸ク春暖ナラントスルハ多シトス從ツテ枝尺蠖ヲ驅除スルニハ初冬落葉當時ニ於テスルヨリモ春

期發芽前ニ於テスル片ハ徒勞ヲ避ケ得ヘク又之ヲ捕殺スルニハ丁寧ニ搜索シ其小ナルモノヲ見逃スナキニ努ムヘシ若シ單ニ見出シ易キ大ナルモノ、ミヲ捕殺スルニ止マンカ或ハ却テ天然驅除ノ効果アルカモドキ蜂ヲ殺滅スルノ恐レナキニアラストセス

第五、寒枯病ニ對スル藥劑注射豫防試験

本試験ハ時期ヲ異ニシテ二斗五升貳石灰ボルドウ液ヲ桑樹ニ注射シ寒枯病ニ對スル豫防効果ヲ知ラントスルヲ目的トセリ

本試験ハ縣下下高井郡平穩村字上條區關角治ニ囑托シ同地ニ於テ施行シタリ
 試験桑園ハ明治二十九年畦間三尺株間二尺ノ割合ニ元右工門種ヲ栽植シ爾後春蠶專用ノ根刈仕立トシタルモノニシテ春蠶用桑刈取後直チニ一畦四十株宛ヲ供試株數トシ試験ニ着手シタリ其試験ノ區別左ノ如シ

但シ藥劑ヲ實際ニ注射シタル時期ハ天氣模様等ニ依リ左ノ如ク變更シタリ

區 別	藥 劑 注 射 豫 定 期	同 上 實 際 注 射 期
第一區	六月中旬七月上旬七月下旬注射	六月二十九日七月九日八月十八日
第二區	八月上旬同月下旬九月中旬同月下旬注射	八月十八日九月五日九月二十日十月十六日
第三區	十月上旬同月下旬注射	十月十六日 十月二十六日
第四區	六月中旬七月中旬八月中旬九月中旬注射	六月廿九日七月九日八月十八日九月二十日

第五區無

豫

防

藥劑ハ唧筒ヲ用ヒ樹幹ノ三分ノ二以下ニ注射シ其量ハ一株毎ニ滿面ニ行キ渡ルヲ度トシ
若シ注射後三日以内ニ強雨アリタルキハ再タヒ前同量ヲ注射シタリ
本試験ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別	株數		梢數		梢數對 豫防等位	調 查 月 日
	調查株	發病株	調查全梢	發病梢		
一 六月中旬七月上旬七月下旬注射	四〇	一八	七四五	三一	一	四十四年四月二十日
二 八月上旬同下旬九月中旬同下旬注射	四〇	一五	八二六	六二	二	
三 十月上旬同 下旬注射	四〇	三二	七三八	九三	四	
四 六月中旬七月中旬八月中旬九月中旬注射	四〇	二三	七五一	六五	三	
五 無 豫 防	四〇	三八	八四五	三〇五	五	

本試験ノ成績ニ據レハ二斗五升貳石灰ボルドウ液ヲ桑樹ニ注射スルキハ寒枯病ヲ豫防シ得
ヘク而シテ其注射ハ春蠶用桑刈取後六月中下旬ヨリ八月中旬ニ至ル間ニ於テ三回内外ニ行
フヲ効多シトスルカ如シ

第六、寒枯病豫防試験

本試験ハ前年ヨリ繼續シ縣下水内郡飯山町清水民藏ニ囑托シ同地ニ於テ施行セシメタリ
其試験ノ種類成績等左ノ如シ

一、種 類 試 験

本試験ハ寒枯病ニ堪ヘ得ル良種ヲ知ラントスルニアリ其試験ノ區別ハ左ノ如シ

但シ寒枯病トハ本縣ニ於テ春期發芽前ニ當リ根際若クハ夫レ以上ニ於テ枝條ノ枯損スル桑樹ノ病ヲ總稱シタリ

第一區	市 平
第二區	多 胡 早 生
第三區	大 和
第四區	落 井
第五區	魯 桑 實 生
第六區	皇 國 桑
第七區	鶴 田
第八區	金 子
第九區	長 瀨
第十區	九 紋 龍
第十一區	魯 桑
第十二區	伊 達 赤 木
第十三區	山 中 高 助

第十四區 元右衛門
第十五區 鼠返

各區ニ於ケル春期融雪後枝條ノ狀態ト破苞期開葉期トハ左ノ如シ
但シ發育中庸ノ三株ニツキ調査平均ス以下諸試驗皆ナ之ニ同シ

試驗別	條數	條ノ長サ	條ノ太サ	節間ノ巨離	破苞期	開葉期
一市平	五 _本	五三 _寸	一、五 _寸	二、一 _寸	四月廿三日	五月一日
二多胡早生	六	五六	一、九	一、九	同 廿四日	同 二日
三大和	七	五二	一、九	二、一	同 廿八日	同 六日
四落井	八	四〇	一、六	一、四	同 廿六日	同 四日
五魯桑實生	八	五四	二、〇	一、五	同 廿四日	同 二日
六皇國桑	七	五二	一、九	二、一	同 廿八日	同 六日
七鶴田	八	五六	二、〇	二、一	同	同
八金子	七	五六	一、七	二、〇	同 廿九日	同 七日
九長瀬	五	五〇	一、六	二、二	同 廿八日	同 六日
一〇九紋龍	九	四九	一、五	一、五	同 廿六日	同 四日
一一魯桑	五	四九	一、七	二、五	同	同

一五 鼠返	一四 元右衛門	一三 山中高助	一二 伊達赤木
一〇	九	六	五
三九	四四	四八	五四
一、一	一、二	一、三	二、〇
〇、九	一、〇	一、三	二、〇
同	同	同	同
同	同	廿九日	廿八日
十日	九日	九日	七日

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、寒枯ノ多寡調査

試驗別		栽植株數	健全株數	罹病株數		罹病歩合(百分率)		調査月日
				輕キモノ	重キモノ	輕キモノ	重キモノ	
一市平	二多胡早生	二〇	一八	二	〇	一〇	〇	四月廿一日
三大和	四落井	二〇	〇	一四	六	七〇	三〇	
五魯桑實生	六皇國桑	一九	〇	一四	五	七四	二六	
六皇國桑	七鶴田	二〇	〇	二〇	〇	一〇〇	〇	
七鶴田	八金子	一四	五	六	三	四三	二一	
八金子	九長瀬	二〇	二	一七	一	八五	五	
九長瀬		一三	一	二二	〇	九二	〇	
		一六	〇	一三	三	八一	一九	

一〇	九	紋	龍	一七	一	一四	二	一六	八二	一二	九四同
一一	魯		桑	二〇	四	一六	〇	一六	八〇	〇	八〇同
一二	伊達赤木			二〇	一四	六	〇	一六	三〇	〇	三〇同
一三	山中高助			一九	二	一七	〇	一七	九〇	〇	九〇同
一四	元右衛門			一八	九	九	〇	九	五〇	〇	五〇同
一五	鼠返			二〇	二	一八	〇	一八	九〇	〇	九〇同

備考

罹病輕キモノトハ枝條ノ一部被害セルモノ罹病重キモノトハ殆ント全枝條ノ被害セルモノヲ云フ以下諸試驗之ニ同シ

右各種中伊達赤木、市平、元右衛門、山中高助ノ四種ハ病兆ヲ現ハスコト最モ輕少ナリキ

二、收穫調查

試驗別		總量				春期收穫量		秋期摘葉量		收穫量合計	
一市平	二多胡早生	三大和	四落井	葉量	梢量	條量	消耗量	量	量	量	量
四三、四〇〇 _原	八四、〇〇〇	四三、九〇〇	八五、八〇〇	二二〇、五〇〇 _原	四九、五〇〇 _原	一五、二四〇〇 _原	—	一六四、七〇〇 _原	三八五、二〇〇〇 _原		
	六四、五〇〇	二三、八〇〇	五五、五〇〇	一九、五〇〇	一九、八〇〇	—	—	一七一、〇〇〇	二三五、五〇〇		
		</									

病蟲害調及試驗 第六 寒枯病豫防試驗

五	魯桑實生	一二四、〇〇〇	五八、五〇〇	四三、五〇〇	一二、七〇〇	三〇〇	九八、〇〇〇	一五七、五〇〇
六	皇國桑	二三七、〇〇〇	一三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	七、〇〇〇	—	一〇三、五〇〇	二三五、五〇〇
七	鶴田	一九八、〇〇〇	九三、〇〇〇	六三、〇〇〇	二四、〇〇〇	一八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	二〇一、〇〇〇
八	金子	一六五、〇〇〇	九三、〇〇〇	四四、〇〇〇	二七、〇〇〇	—	八三、七〇〇	一七六、七〇〇
九	長瀬	一〇二、〇〇〇	六三、〇〇〇	二四、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	六五、七〇〇	二八、七〇〇
一〇	九紋龍	二八二、〇〇〇	一五三、〇〇〇	六六、〇〇〇	六三、〇〇〇	—	一六四、七〇〇	三二七、七〇〇
一一	魯桑	七二、〇〇〇	五一、〇〇〇	三三、五〇〇	七、五〇〇	—	九五、四〇〇	一四六、四〇〇
一二	伊達赤木	四五〇、〇〇〇	二七三、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	七、〇〇〇	—	一四四、七〇〇	四三七、七〇〇
一三	山中高助	一八、五〇〇	四、〇〇〇	一八、〇〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇	七四、七〇〇	一一八、七〇〇
一四	元右衛門	二五八、〇〇〇	一三九、二〇〇	三四、八〇〇	七、〇〇〇	三、〇〇〇	七六、五〇〇	二二四、七〇〇
一五	鼠返	七三、五〇〇	四五、〇〇〇	二八、五〇〇	—	—	五九、四〇〇	一〇四、四〇〇

備考

收穫期ハ早生桑(第一區ヨリ第五區迄)ニアリテハ春蠶二齡(六月八日)中生桑(第六區ヨリ第十二區迄)ニアリテハ同三齡(六月十四日)晩生桑(第十三區ヨリ第十五區迄)ニアリテハ同五齡(六月廿四日)ノ各盛食期トシ秋期ハ九月四日トス

但シ蠶齡ハ試験地地方ノモノニ據ル以下諸試験之ニ同シ

右表中春期收穫ニ條量ナキモノアルハ寒枯甚タシキ爲メ發芽前枝條ノ伐採ヲナシ後伸長シタル新梢ニ付キ收穫ヲナシ其量ヲ調査シタルニ依ル

本試驗ノ成績ニ據レバ寒枯ニ罹ル事少ナク且收穫量ノ多キモノヲ市平伊達赤木トシ元右衛門、皇國桑之ニ次グ大和、落井、魯桑實生、長瀬、鼠返等ハ罹病多クシテ收穫少ナシ尙ホ昨今兩年度ニ於ケル成績ヲ平均シ之ニ等位ヲ附スレバ左ノ如シ

試驗別		罹病歩合(百分率)	同上等位	收穫量	同上等位
一	市平	二〇、〇	一	二九六、六二五 _原	三
二	多胡早生	七二、五	八	二九六、四七五	四
三	大和	九五、〇	一一	一七七、八三八	一三
四	落井	七〇、〇	七	二一三、八〇〇	八
五	魯桑實生	八〇、〇	九	一八五、七三八	一一
六	皇國桑	三七、〇	二	二八三、五〇〇	五
七	鶴田	六〇、〇	五	二五六、七〇〇	六
八	金子	五六、〇	四	二一五、四七五	七
九	長瀬	七〇、〇	七	一九〇、五〇〇	一〇
一〇	九紋龍	六四、五	六	三二六、八五〇	二

一 魯 桑	五二、五	三	一八四、二〇〇	一二
二 伊 達 赤 木	二〇、〇	一	四一六、一〇〇	一
三 山 中 高 助	六〇、〇	五	二〇九、五五〇	九
四 元 右 衛 門	五二、五	三	一六一、九五〇	一四
五 鼠 返	八二、五	一〇	一二四、〇五〇	一五

備考

罹病ノ等位ハ其歩合少ナキモノヨリシタリ以下諸試驗皆ナ之ニ同シ

二、仕立方ト寒枯病トノ關係試驗（繼續二年目）

寒枯病ハ根刈ニ多ク中刈以上ノ仕立方ニ少シトハ從來當業者ノ唱フル所ナリ本試驗ハ之ヲ確メンコトヲ目的トシ左ノ區別ニヨリ試驗セリ

第一區	根	刈
第二區	中	刈

桑種ハ伊達赤木、山中高助、九紋龍ノ三種トシ根刈ハ種類試驗ノモノヲ對照セル事前年ニ同シ破苞期開葉期ハ第一種類試驗ノモノト同シクシテ順當ニ生育セリ
本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、寒枯ノ多寡調査

二、收穫調查

試驗別		栽植株數		健全株數		罹病株數		罹病歩合(百分率)		調查月日	
試驗	別	栽植株數	健全株數	罹病株數	合 計	罹病歩合(百分率)	合 計	調查月日			
(甲)伊達赤木	根刈	二〇	一四	六	六	三〇	〇	三〇	四月廿一日		
	中刈	三〇	二五	四	五	一三	三	一六	同		
(乙)九紋龍	根刈	一七	一	二	二	八二	一二	九四	同		
	中刈	二六	二	一五	二四	五七	三五	九二	同		
(丙)山中高助	根刈	一九	二	一七	一七	九〇	〇	九〇	同		
	中刈	二九	一〇	一四	一九	四八	一七	六五	同		
三種平均	根刈	一九	六	一	一三	六三	五	六八	同		
	中刈	二八	一二	五	一六	三九	一八	五八	同		

試驗別		春期		收穫量		秋期摘葉量		收穫量合計	
試驗	別	總量	葉量	梢量	條量	消耗量	秋期摘葉量	收穫量合計	
(甲)伊達赤木	根刈	四五、〇〇〇	二七、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	七、〇〇〇		一六四、七〇〇	四七、七〇〇	
	中刈	二五、〇〇〇	一四、〇〇〇	四〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇		九五、六〇〇	二九〇、四〇〇	
(乙)九紋龍	根刈	二八、〇〇〇	一五、〇〇〇	六六、〇〇〇	六三、〇〇〇		一六四、七〇〇	三二七、七〇〇	
	中刈	一〇四、〇〇〇	五、〇〇〇	一八、〇〇〇	三〇、〇〇〇		一五〇、四〇〇	一五、六〇〇	

(丙) 山中高助									
一	根刈	108、500	4、000	18、000	5、500	1、000 ^計	4、700	18、700	
二	中刈	302、000	15、000	38、000	11、000	2、000	8、000	33、000	

備考

收穫期ハ種類試験ニ同シ

本試験ノ成績ニ據レハ中刈ハ根刈ニ比シ寒枯病ニ罹ルコト少ナシ

尙ホ昨今兩年度ニ於ケル成績ノ平均ヲ舉クレバ左ノ如シ

試 験	別	罹 病 歩 合 (百分率)	収 葉 量
(甲) 伊達赤木	中 根 刈	二〇、〇	四一六、一〇〇 ^計
	中 根 刈	八、〇	二五六、七〇〇
(乙) 九紋龍	中 根 刈	六四、五	三二六、八五〇
	中 根 刈	五九、五	一八三、二〇〇
(丙) 山中高助	中 根 刈	六〇、〇	二〇九、五五〇
	中 根 刈	三七、五	一八四、九五〇
三種 平均	中 根 刈	四六、五	三二七、五〇〇
	中 根 刈	三五、〇	二〇八、二八三

三、 燐肥ノ寒枯病ニ對スル効力試験 (繼續二年目)

本試驗ノ目的ハ磷酸肥料ノ寒枯病ニ對スル効力ヲ知ラントスルニアリ供試桑種ハ元右衛門ニシテ肥料ハ第一區ハ一反歩ニ對シ窒素四貫匁磷酸三貫匁ノ割合ヲ以テ大豆粕ト過磷酸石灰トヲ施シ第二區ハ第一區ト同量ノ大豆粕ノミ窒素四貫匁磷酸五百七拾四匁ヲ施シタルコト前年ニ同シ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區 大豆粕過磷酸石灰施與
第二區 大豆粕施與

各區一反歩ニ對スル肥料ノ用量ハ左ノ如シ

試驗別	肥料名	用 量	施 肥 期 別	
			春	夏
第一區	大豆粕 過磷酸石灰	五二 ^匁 、一五〇 ^匁 一六、一七三	二六 ^匁 、〇七五 ^匁 一	二六 ^匁 、〇七五 ^匁 一六、一七三
第二區	大豆粕	五二、一五〇	二六、〇七五	二六、〇七五

各區共四月二十九日破苞シ五月九日開葉シ爾後順當ニ生育セリ

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、寒枯ノ多寡調査

試驗別	栽植株數	健全株數	罹 病 株 數		罹 病 歩 合 (百分率)		調査月日
			輕キモノ	重キモノ	輕キモノ	重キモノ	
大豆粕過磷酸石灰	二九	一〇	一九	一	一九	六六	六六四月廿二日

二大	豆	粕	四六	九	三七	一	三七	八〇	一	八〇	同
----	---	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

二、收穫調査

試驗別		總量		春期		收穫		消耗量		秋期摘葉量		收穫量合計	
		量		葉量		梢量		條量		量		量	
一	大豆粕過磷酸石灰	二四,〇〇〇	量	一〇八,〇〇〇	量	二七,〇〇〇	量	空,四〇〇	量	三,六〇〇	量	二〇三,八〇〇	量
二	大豆粕	三〇六,〇〇〇	量	一五二,一〇〇	量	三七,八〇〇	量	一〇五,〇〇〇	量	三三,〇〇〇	量	九〇,〇〇〇	量

備考

收穫期ハ春期六月廿三日(春蠶五齡盛食期)ト秋期九月三日トス

第二區ノ第一區ヨリ收穫量多キハ幾分地味ノ優リタルニヨル

右成績ニ據レハ第一區ノ過磷酸石灰ヲ補給シ磷酸分ヲ多量ニ施シタルモノハ寒枯病ヲ生スルコト少ナシ

尙ホ昨今兩年度ニ於ケル本試験ノ成績ヲ平均スルトキハ左ノ如シ

試驗別		罹病歩合(百分率)		收穫葉量	
一	大豆粕過磷酸石灰	四一、〇	量	一七九、〇五〇	量
二	大豆粕	六二、五	量	二〇二、八〇〇	量

四、寒枯病豫防試験(繼續二年目)

本試験ノ目的ハ冬間桑樹ニ對シ左ノ手入ヲ施サハ寒枯病豫防上幾許ノ効果アルヤヲ知ラン

トスルニアリ供試桑種ハ元右衛門ニシテ其試験區別ハ左ノ如シ

- | | |
|-----|------|
| 第一區 | 穿孔 |
| 第二區 | 覆土 |
| 第三區 | 披土 |
| 第四區 | 包被直立 |
| 第五區 | 橫伏 |
| 第六區 | 冬間除雪 |

各區ノ手入方法ハ前年ノ成績ニ記載シタルモノト同シ

各區共四月二十九日破苞シ五月九日開葉シ爾後順當ニ生育セリ

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

一、寒枯ノ多寡調査

試 驗 別	栽植株數		罹病株數		罹病歩合(百分率)		調 查 月 日		
	健全株數	輕キモノノ重キモノノ合計	輕キモノノ重キモノノ合計	輕キモノノ重キモノノ合計	輕キモノノ重キモノノ合計				
一 穿 孔	六〇	三六	一九	五	二四	三二	一	三三	四 月 廿 二 日
二 覆 土	五八	二六	二九	三	三二	五〇	五	五五	
三 披 土	六〇	一三	三七	一〇	四七	六二	一七	七九	
四 包 被 直 立	六〇	二二	三六	二	三八	六〇	三	六三	

五 横 伏	五 七	七	三 九	一 一	五 〇	六 八	一 九	八 七 同
六 冬 間 除 雪	五 九	一 二	三 三	一 四	四 七	五 六	二 四	八 〇 同

二、收穫調査

試 驗 別	春 期				秋 期			
	總 量	一 葉	量	消 耗	總 量	一 葉	量	消 耗
一 穿 孔	三三〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	一〇六,六〇〇	二五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二 覆 土	四〇〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一六二,五〇〇	九,〇〇〇	三七八,五〇〇	三七八,五〇〇
三 披 土	三六〇,〇〇〇	二八〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	一三三,八〇〇	二七〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇
四 包 被 直 立	三二五,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	二六四,〇〇〇	二六四,〇〇〇	二六四,〇〇〇
五 横 伏	四〇五,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一〇一,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一三三,八〇〇	二八二,八〇〇	二八二,八〇〇	二八二,八〇〇
六 冬 間 除 雪	三七五,〇〇〇	一六二,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一三三,八〇〇	二九四,八〇〇	二九四,八〇〇	二九四,八〇〇

備 考

收穫期ハ春期ハ六月二十三日秋期ハ九月三日トス

第二區ノ收葉量他區ニ比シ多カリシハ地味ノ優リタルモノアルニヨル

本試験ノ成績ニヨレハ罹病數ハ穿孔區最モ少ナク横伏區最モ多シ

尙ホ昨今兩年度ニ於ケル成績ヲ平均シ之ニ等位ヲ附スレバ左ノ如シ

試 驗 別	罹病歩合(百分率)	同 上 等 位	収 葉 量	同 上 等 位
-------------	-----------	---------	-------	---------

一 穿 孔	四二、五	一	二五四、九〇 ⁷	二
二 覆 土	六一、〇	三	三二一、四八〇	一
三 披 土	五三、五	二	二一六、一〇〇	五
四 包 被 直 立	七二、五	四	一九七、五五〇	六
五 橫 伏	八七、〇	五	二二八、四〇〇	三
六 冬 間 除 雪	七二、五	四	二二六、九五〇	四

五、採葉回數ト寒枯病トノ關係試驗

本試驗ノ目的ハ採葉回數ト寒枯病トノ關係ヲ知ラントスルニアリ試驗園ハ步數五十三步ヲ二等分シ其一分ヲ一區ノ面積ト定メ之ニ畦巾四尺株間三尺(一反步九百株ノ割合)ニ元右衛門種ヲ栽植シ根刈仕立トシタリ其試驗ノ區別ハ左ノ如シ

第一區 春期伐採收葉

第二區 春期伐採收葉

各區共四月二十九日破苞シ五月九日開葉シ爾後順當ニ生育セリ

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

一、寒枯ノ多寡調査

試 驗 別		栽植株數	健全株數	罹 病 株 數	罹病歩合(百分率)	調査月日	
		輕キモノ	重キモノ	合 計	輕キモノ	重キモノ	合 計

一 春期伐採收穫葉	八〇	一五	五〇	一五	六五	六二	一九	八一	四月
二 春期伐採收穫葉秋期摘葉	七九	一七	五〇	一二	六二	六三	一五	七八	同
									廿三日

二、收穫調查

試驗別	春期收穫量					秋期摘葉量	收穫量合計
	總量	葉量	梢量	一條量	消耗量		
一 春期伐採收穫葉	二一、〇〇〇 ^計	一七、二〇〇 ^計	三、八〇〇 ^計	九〇、〇〇〇 ^計	二、〇〇〇 ^計	—	二七、二〇〇 ^計
二 春期伐採收穫葉秋期摘葉	三〇六、〇〇〇	一四、〇〇〇	三六、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一八、〇〇〇	二五、二〇〇 ^計	二九、二〇〇 ^計

備考

收穫期ハ春期六月廿四日(春蠶五齡盛食期)ト秋期九月三日トス

本試験ノ成績ニ據レハ第一區第二區共罹病歩合畧ホ等シク未タ其關係ヲ明カニシ難シ

六、施肥ト寒枯病トノ關係試験

本試験ノ目的ハ肥料ノ種類及ヒ施肥ノ方法ト寒枯病トノ關係ヲ知ラントスルニ在リ試験園ハ各區一畝歩宛トシ一反歩九百本ノ割合ニ元右衛門種ヲ植付ケ根刈仕立トス施肥ノ分量ハ一反歩ニ對シ窒素三貫五百匁磷酸二貫五百匁加里三貫百六十三匁(加里ノ量ハ各區肥料中ノ最多量)トシ之ニ充タサル成分ハ過磷酸石灰ト木灰トヲ以テ補ヒタリ其試験ノ區別ハ左ノ如シ

第一區 堆肥春一回施肥

第二區 人糞尿春一回施肥

大豆粕春一回施肥

堆肥春夏二回施肥

人糞尿春夏二回施肥

大豆粕春夏二回施肥

但シ春期一回施肥區ハ四月十九日全量ヲ春夏二回施肥區ハ四月十九日ト八月三日トニ其全量ノ半ツツヲ施シタリ

右試驗ハ甲乙兩地ニ於テ行ヒタリ但シ甲地ノモノハ樹齡四年乙地ノモノハ同三年ナリトス
甲乙兩地共各區四月二十九日破苞シ次テ五月九日開葉シ爾後順當ニ生育セリ
本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

甲地ノ成績

試驗別	栽植株數		健全株數		罹病株數	罹病歩合(百分率)		調査月日
	輕キモノ	重キモノ	輕キモノ	重キモノ		輕キモノ	重キモノ	
一 堆肥春一回	三九	八	二五	六	三二	六四	一五	四月廿二日
二 人糞尿春一回	三九	一七	一九	三	二三	四九	七	
三 大豆粕春一回	四〇	一九	一八	三	二二	四五	八	
四 堆肥春夏二回	三九	二一	一七	一	一八	四四	二	
五 人糞尿春夏二回	三九	一七	一九	三	二二	四九	七	
病蟲害調査及試驗 第六 寒枯病癰防試驗 二百四十九								

六	大豆粕春夏二回	四〇	一二	二三	五	二八	五八	一二	七〇 同
---	---------	----	----	----	---	----	----	----	------

乙 地ノ成績

試 驗 別	栽植株數	健全株數	罹病株數		罹病歩合(百分率)		調査月日	
			輕キモノ	重キモノ	合 計	輕キモノ	重キモノ	合 計
一 堆肥春一回	三九	一	二二	一六	三八	五六	四一	九七
二 人糞尿春一回	四〇	一	二二	一七	三九	五五	四三	九八
三 大豆粕春一回	三八	〇	一七	二一	三八	四五	五五	一〇〇
四 堆肥春夏二回	四〇	〇	二六	一四	四〇	六五	三五	一〇〇
五 人糞尿春夏二回	四〇	九	一八	一三	三一	四五	三三	七八
六 大豆粕春夏二回	四〇	一	一七	二二	三九	四三	五五	九八
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同
								同

左ニ甲乙兩地平均ノ罹病歩合ヲ掲グ之ニ等位ヲ附スレバ左ノ如シ

試驗別		輕キモノノ重キモノノ		合(百分率)		罹病等位
				合計		
一	堆肥春一回	六〇、〇	二八、〇	八八、〇	六	
二	人糞尿春一回	五二、〇	二五、〇	七七、〇	四	
三	大豆粕春一回	四五、〇	三一、五	七六、五	三	
四	堆肥春夏二回	五四、五	一八、五	七三、〇	二	
五	人糞尿春夏二回	四七、〇	二〇、〇	六七、〇	一	

大豆粕春夏二回

五〇、五

三、五

八四〇

五

尚ホ施肥一回ト二回トヲ通シ平均シタル肥料別罹病歩合並ニ各肥料ヲ通シ平均シタル施肥方法別罹病歩合ヲ舉グレバ左ノ如シ

肥料方法別		肥料別		重キモノノ輕キモノノ合		計
春夏二回	春一回	大豆粕	人糞尿	堆肥		
五〇、七	五二、三	四七、八	四九、五	五七、三	二三、二	八〇、五
二四、〇	二八、二	三二、五	二二、五		七二、〇	八〇、三
七四、七	八〇、五					

二、收穫調查

甲地ノ成績

試驗別	春期收穫量				秋期摘葉量	收穫量合計
	總量	葉量	梢量	條量		
一 堆肥春一回	三八、〇〇〇 _{實効}	一八、〇〇〇 _{實効}	四〇、〇〇〇 _{實効}	一四、〇〇〇 _{實効}	一三、八〇〇 _{實効}	二八、八〇〇 _{實効}
二 人糞尿春一回	三六、〇〇〇	一八、四〇〇	四〇、六〇〇	一三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二八、四〇〇
三 大豆粕春一回	二九、五〇〇	一四、四〇〇	三六、六〇〇	九、六〇〇	一五、八〇〇	二六、二〇〇
四 堆肥春夏二回	三六、〇〇〇	一五、二〇〇	三七、八〇〇	二一、〇〇〇	六、〇〇〇	二四、二〇〇

病蟲害調查及試驗 第六 寒枯病豫防試驗

二百五十一

五	人糞尿春夏二回	三〇、〇〇〇	一七、〇〇〇	四三、八〇〇	一一四、〇〇〇	二七、〇〇〇	一五、九〇〇	二六、九〇〇
六	大豆粕春夏二回	四四、〇〇〇	一八、〇〇〇	四五、六〇〇	一五六、〇〇〇	二〇、四〇〇	一〇〇、二〇〇	二八、二〇〇

備考

收穫期ハ春期六月二十四日(春蠶五齡盛食期)ト秋期九月三日トス乙地ノ收穫期モ之ニ同シ

乙 地 ノ 成 績

試 驗 別	春 期				秋 期			
	總 量	葉 量	梢 量	一條 量	總 量	葉 量	梢 量	一條 量
一 堆肥春一回	三五、〇〇〇	一八、〇〇〇	四、〇〇〇	二七、五〇〇	四、五〇〇	六、〇〇〇	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇
二 人糞尿春一回	二六、〇〇〇	二四、八〇〇	三、二〇〇	五、四〇〇	九、六〇〇	九、八〇〇	二六、六〇〇	二六、六〇〇
三 大豆粕春一回	二九、〇〇〇	二九、二〇〇	三、四〇〇	九六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二九、二〇〇	二九、二〇〇
四 堆肥春夏二回	二五、〇〇〇	三六、八〇〇	三、四〇〇	一〇五、〇〇〇	九、〇〇〇	八、七〇〇	二四、七〇〇	二四、七〇〇
五 人糞尿春夏二回	二七、〇〇〇	一四、二〇〇	三、一〇〇	九四、五〇〇	一五、〇〇〇	一三、八〇〇	二六、一〇〇	二六、一〇〇
六 大豆粕春夏二回	二九、〇〇〇	二七、六〇〇	二、九〇〇	二三、〇〇〇	九、〇〇〇	一五、一五〇	二三、七五〇	二三、七五〇

左ニ甲乙兩地平均ノ收葉量ヲ掲ケ之ニ等位ヲ附スレバ次ノ如シ

試 驗 別	收 葉 量	同 上	等 位
一 堆肥春一回	二七〇、九〇〇	二	二
二 人糞尿春一回	二五〇、五〇〇	四	四

三	大豆粕春一回	二四五、七〇〇	五
四	堆肥春夏二回	二三三、九一〇	六
五	人糞尿春夏二回	二八一、四五〇	一
六	大豆粕春夏二回	二五二、四七五	三

本本試験ノ成績ニ據レバ樹齡ヲ異ニセル甲乙兩地ニ於ケル罹病ノ歩合收葉量ニハ著シク差アリ幼齡ノモノハ發病多ク收葉量少キヲ見ルモ各區別ノ成績ニ至リテハ一樣ナラサルモノ未タ其優劣ヲ判定シ難シ

第七、凍害善後策試験

本試験ハ縣下埴科郡屋代町字上河原桑園ニ於テ明治四十一年ヨリ全四十二年迄繼續施行シ來リタルモノナリシカ本年度ニ於テハ試験地ノ都合ニ依リ小縣郡城下村字諏訪形ニ於テ施行シ同村小林林太ヲシテ調査セシメタリ

試験桑園ハ明治三十八年四月鼠返種ヲ畦巾三尺五寸株間二尺五寸ノ距離ニ栽植シ根刈仕立トシタルモノニシテ四月二十六日地區ヲ定メ試験ノ準備ヲナセリ然ルニ五月二十六日結霜被害アリタルヲ以テ直ニ試験ニ着手シタリ
供試桑園發芽ノ狀況及ヒ被害程度ハ左ノ如シ

全園ノ幼芽ハ五月二日脱苞シ同四日燕口状態ニ達シ同十日ニ至リ全ク開葉セリ被害當時ニアリテハ新梢既ニ三四寸ニ及ヒ五六葉ヲ附着シ葉ハ幾分硬化ニ近ツキ居リシヲ以テ被害程度ハ左程激烈ナラス即チ僅カニ枝條ノ約三分二以上ニアル嫩葉ノ全部及葉縁ノ黒變シタルモノ或ハ新梢ノ頂端梢損シタルニ止マレリ今其當時ニ於ケル無被害葉ト損傷葉量ノ割合ヲ掲クレバ左ノ如シ

全葉量ニ對スル歩合	無被害葉		被害葉	
	無被害葉		被害葉	
	七二%		二九%	

一、凍害後ニ於ケル施肥ト生育トノ關係試験

本試験ノ目的ハ凍害ニ罹リタル桑樹ニ對シ肥料ヲ施スキハ其生育ニ如何ナル差ヲ及ボスモノナルヤヲ知ラントスルニアリ

本試験ノ區別ハ左ノ如シ

第一區	無肥料
第二區	人糞尿
第三區	信濃肥料第三號

肥料ハ第二區第三區共一反歩ニツキ窒素施用量一貫匁宛トシ人糞尿ハ百七十五貫匁信濃肥料第三號ハ十貫匁ヲ施シタリ

各區收穫當時ニ於ケル發育狀態ハ左ノ如シ

試 驗 別		平均一株ノ枝條		平均一株新梢ノ長サ		新梢平均葉數	
一	無肥料	本數	長	サ	サ	サ	枚
	二						
	三						
一	無肥料	二三八	三六、六	四六五	六、七		
二	人糞尿	二二、六	三四、四	四、一七	七、二		
三	信濃肥料第三號	一一、〇	三四、二	四、六三	七、〇		

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別		總 量	葉 量	梢 量	條 量	消耗量	收量等位	葉梢條ノ割合(千分率)		
一	無肥料	四二、八八〇	二二、一〇	七〇、七五〇	一五、三七〇	八、六四〇	三	五〇〇	一五九	三四二
	二									
	三									
一	無肥料	四二、八八〇	二二、一〇	七〇、七五〇	一五、三七〇	八、六四〇	三	五〇〇	一五九	三四二
二	人糞尿	五〇、三四〇	二七、四八〇	六九、九三〇	一七、七六〇	六、一七〇	一	五八	一三六	三三六
三	信濃肥料第三號	五五、六八〇	二五、二八〇	一〇五、三〇〇	一七、二一〇	六、九九〇	二	四三	二〇三	三四四

備考

收穫時期ハ春蠶五齡半(六月十四日)トス

本試驗ノ成績ニ據レバ收葉量及ヒ葉量歩合共ニ最モ多キハ人糞尿區ニシテ信濃肥料第三號區ハ總量ニ於テハ第一位ヲ占ムルモ梢量歩合特ニ多キ爲メ收葉量ハ却テ第二位ニアリ而シテ無肥料區ハ最モ劣レリ

尙ホ前年來ノ收葉量ヲ掲ケテ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 験 別	既往二ケ年間		同 上 平 均		同位		三ケ年間ノ收		同 上 平 均	
	ノ收葉量合對		等位		度收葉量		葉量合計		等位	
一 無 料 肥	三一五、三八九	一五七、六九四	二	二二二、一二〇	五三七、五〇九	一七九、一七〇	三			
二 人 糞 尿	三三三、一七三	一六六、五八六	一	二七一、四八〇	六〇四、六五三	二〇一、五五一	一			
三 信濃肥料第三號	三〇九、四六一	一五四、七三〇	三	二三五、二八〇	五四四、七四一	一八一、五八〇	二			

以上ノ成績ニ據リ凍害後ニ於ケル施肥ト生育トノ關係ニツキ結論スルハ左ノ如シ
 桑樹凍害ヲ被リタル時ハ直ニ追肥ヲ施スヲ可トシ其肥料ハ人糞尿ノ如キ速効アル液肥ヲ用
 ユルヲ以テ最モ有利ナリトス

二、凍害後耕耘ノ得失試験

本試験ノ目的ハ凍害後桑園ノ耕耘ヲ可トスルヤ否ヤ若シ可ナリトセバ其淺キト深キトハ何
 レニ利多キヤヲ知ラントスルニアリ

供試桑園ハ第一試験ト同様ノモノニシテ其試験ノ準備着手ノ期日等亦同一ナリ以下皆之ニ
 同シ

本試験ノ區別ハ左ノ如シ

第 一 區	無 耕
第 二 區	淺 耕

第三區 普通耕
第四區 深耕

各區ノ耕耘ノ深サ及其方法ハ左ノ如シ

第二區淺耕ハ二寸第三區普通耕ハ五寸第四區深耕ハ八寸ニシテ其方法ハ地方慣行ニ從ヒ
畦間ト株間ヲ打起シ後圃面ヲ平カニス

本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

試驗別	總	量	葉	量	梢	量	條	量	消耗量	收量		
										等位	葉	梢
一無	耕	四五六、五八〇 ^四	二二八、八三〇 ^四	六五、八一〇 ^四	一六二、四八〇 ^四	九、四六〇 ^四	三	四八九	一四七	三六四		
二淺	耕	四五五、三五〇	二二二、二五〇	七五、六九〇	一五七、一三〇	一〇、二八〇	四	四七七	一七〇	三五三		
三普通	耕	四九六、〇七〇	二三六、九三〇	七四、〇四〇	一八〇、九九〇	四、一一〇	一	四八二	一五〇	三六八		
四深	耕	四九二、三七〇	二二二、一二〇	八五、五六〇	一七七、七〇〇	六、九九〇	二	四五八	一七六	三六六		

備考 收穫期日ハ第一試驗ニ同ジ

尙ホ前年來ノ収葉量ヲ掲ケテ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試驗別		既往二ヶ年間ノ収葉量合計	同上平均	同位	四十四年度収葉量合計	三ヶ年間收葉量合計	同上平均	同位
一無	耕	三〇九、四三二	一五四、七一五	二	二二八、八三〇	五二八、二六一	一七六、〇八七	二
二淺	耕	三〇八、三〇四	一五四、一五二	三	二二二、二五〇	五二〇、五五四	一七三、五一八	三

三 普通 耕	三三〇、六七五	一六五、三三七	一	二二六、九三〇	五六七、六〇五	一八九、二〇二	一
四 深 耕	二九〇、五五三	一四五、二七六	四	二二二、一二〇	五一二、六七三	一七〇、八九一	四

前表ニ據レバ普通耕ノ最モ優位ナルコト各年試験ノ成績ヲ通シ相等シク其他ノ各區ニ於テハ三ケ年ノ平均等位ハ既往二ケ年平均等位ト一致スト雖モ本年ノ成績ハ深耕區第二位ヲ占メタルヲ以テ未ダ俄カニ之レカ得失ヲ判シ難キモノアリトス

三、凍害後被害芽除去得失試験

本試験ノ目的ハ凍害後被害芽ヲ除去スルノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ是亦前年ヨリ繼續セルモノナリ

本試験ノ區別ハ左ノ如シ

第一 區

被害芽ヲ除去セザルモノ

第二 區

被害芽ヲ除去セルモノ

第二區ノ被害芽ハ五月廿六日ノ凍害當日指頭ヲ以テ摘去セリ

收穫當時ニ於ケル兩區ノ發育狀態ハ左ノ如シ

試 驗 別	株ノ枝條			新梢		
	平均本數	平均長サ	平均葉數	平均長サ	平均葉數	平均葉數
一 被害芽ヲ除去セザルモノ	二三・八 ^本	三六・六 ^寸		五・五 ^寸	八・〇 ^枚	
二 被害芽ヲ除去セルモノ	二七・〇	三五・一		六・六七	七・八	

本試験ノ成績ハ左ノ如シ

試験別	總	量	葉	量	梢	量	條	量	消耗量	收量	葉梢條ノ割合(千率)
一 被害芽ヲ除去セサルモノ	五九四	七九〇	二七四	七七〇	一一〇	二四〇	二〇一	九六〇	七、八二〇	二四六八	一八八三四四
二 被害芽ヲ除去セルモノ	五五四	八九〇	二七八	〇六〇	六九	一〇〇	一九九	〇九〇	八、六四〇	一五〇九	一二七三六四

備考

收穫期日ハ第一試験ニ同シ

尙ホ前年來ノ收葉量ヲ掲ケテ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試験別	既往二ケ年間ノ收葉量合計	同上平均	同上四位收葉量ノ三ケ年間收葉計	同上平均	同上
一 被害芽ヲ除去セサルモノ	四一八、五九〇	二〇九、二九五	二二七四、七七〇	六九三、三六〇	二二一、一二〇
二 被害芽ヲ除去セルモノ	四五六、六〇〇	二二八、三〇〇	一二七八、〇六〇	七三四、六六〇	二四四、八八七

以上ノ成績ニ據リ凍害後被害芽ヲ除去スルノ得失ニツキ結論スルハ左ノ如シ
凍害後直チニ被害芽ヲ除去スルハ收葉量ヲ増加ス

四、梢頭剪除得失試験

本試験ノ目的ハ凍害後被害桑樹ノ梢頭ヲ剪除スルト否トハ桑樹ノ再發芽並ニ收葉量ニ幾許ノ差異アルヤヲ知ラントスルモノニシテ是亦前年ヨリ繼續セルモノナリ
本試験ノ區別ハ左ノ如シ

第一區 梢頭ヲ剪除セサルモノ

第二區 梢頭ヲ剪除セルモノ

第二區ハ五月廿六日ノ凍害當時ニ於テ枝條ノ梢頭約四分ノ一ヲ剪除セリ

兩區ニ於ケル收穫當時ノ發育狀態ハ左ノ如シ

試 驗 別	本 株 平 均 枝 條			新	
	本 數	長	サ	平均長サ	平均葉數
一 梢頭ヲ剪除セサルモノ	二九、八		三四、六 _サ	五、二〇 _サ	六、三 _サ
二 梢頭ヲ剪除セルモノ	二九、四		三〇、九	六、三三	八、八

本年度ノ被害ハ平年ニ比シ著シク晩カリシ爲メ被害當日剪條ヲ行ヒタレ_レ爾後再發芽ヲ見ルコト極メテ稀レナリキ
本試験ノ成績ハ左ノ如シ

試 驗 別	總 量					收 穫		
	葉 量	梢 量	條 量	消耗量	等位	葉梢條ノ割合(千分率)	梢	條
一 梢頭ヲ剪除セサルモノ	五五、二四〇 _サ	二七、四八〇 _サ	八三、二七〇 _サ	一五、三三〇 _サ	六、二六〇 _サ	一	四九六	一五〇
二 梢頭ヲ剪除セルモノ	三五九、九二〇	一五、六〇〇	六〇、八八〇	三一、三〇〇	七、八〇〇	二	四五三	一七三
							三七四	三七四

備考

收穫期日ハ第一試験ニ同シ

右ノ成績ニ據レバ梢頭ヲ剪除セルモノハ之レヲ其剪除セサルモノニ比シ葉量ニ於テ百拾壹貫

收葉シ後秋蠶用ノ葉ヲ摘採シ又第二區ハ被害當日枝條ヲ刈取り夏秋兩期ニ於テ摘葉シタ
リ

收穫當時ニ於ケル發育狀況左ノ如シ

試 驗 別	調查月日	枝			新			梢
		一株平均本數	平均長サ	一技平均數	平均長	一平均葉數	平均葉數	
一	甲	無	刈	六月十四日	二九、四 _本	三四、四 _サ	三八、五 _本	六、三 _サ
乙	無	刈	七月二十八日	二八、二	三五、八	三六、四	八、五	九、二
二	凍害當日刈取	七月廿八日	二八、八	三四、七	三〇、二	二八、一	二七、五	

備考

枝條ノ調査ハ凍害當日ニ於テシ新梢ノ調査ハ各區共第一回ノ收穫當日ニ於テ行ヘリ
本試驗ノ成績ハ左ノ如シ

(其二) 伐採收葉量

試驗別		收穫期	總量	葉量	梢量	條量	消耗量
一	無刈	六月十四日	四五六、五八〇 ^サ	二二八、八三〇 ^サ	六五、八一〇 ^サ	一六二、四八〇 ^サ	九、四六〇 ^サ
	無刈	七月廿八日	八三一、七二〇	四一七、〇九〇	一二〇、九三〇	二六六、五四〇	二七、一六〇
二	凍害當日刈取	五月廿六日	三五五、五二〇	一三三、七六五	三八、〇〇七	一六二、八八八	一〇、八五九

備考

凍害當日刈取區中ノ葉量中ニハ凍害ノ爲メ損傷セル葉量三十八貫九百九十四匁ヲ含ム
(其二) 摘 葉 量

試 驗 別		夏 期	秋 期	合 計
一	甲 無 刈	二九、二〇五 ^匁	七一、九八三 ^匁	一〇一、一八八 ^匁
	乙 無 刈			
二	凍害當日刈取	三一、〇九七	五五、〇三六	八六、一三三

右ノ各區ニ於ケル收葉量ヲ計上シ之ニ等位ヲ附スレハ左ノ如シ

試 驗 別		春 期	夏 期	秋 期	合 計	等 位
一	甲 無 刈	二二八、八三〇 ^匁	二九、二〇五 ^匁	七一、九八三 ^匁	三二〇、〇一八 ^匁	二
	乙 無 刈					
二	凍害當日刈取	九四、七七二	三一、〇九七	五五、〇三六	一八〇、九〇三	三

備 考

收穫期ハ春期六月十四日夏期ハ七月廿八日秋期ハ八月三十日トス

第二區ノ春期收葉量ハ刈取當時ノ葉量ニシテ被害葉ヲ含マズ

又第一區ノ伐採收葉ノ際ニ於ケル葉梢條ノ割合(千分率)ハ左ノ如シ

試 驗 別	葉 梢 條
-------	-------

甲		乙	
刈	無	刈	無
四八九	一四七	五二八	一五〇
三六四	三三二		

本試験ノ成績ニ據レハ第一區ノ(乙)無刈ハ收量最モ多ク同區(甲)無刈之ニ次キ第二區最モ少ナシ之レ第四試験ノ結果ト同シク本年度ノ被害期ハ平年ニ比シ著シク晩カリシヲ以テ刈取區ニ於ケル新梢ノ成育期間短カク充分ノ發育ヲ遂クル能ハサリシニモヨルナラン然レモ其葉質ハ他區ニ優リテ最モ佳良ニシテ第一區(乙)無刈ハ最モ劣等ナリキ
尙ホ前年度ニ於ケル收葉量ヲ掲ケテ其平均結果ヲ示セバ左ノ如シ

試 驗 別	四十三年度		二ヶ年間収 葉量合計		同 上 平 均	同 上 等 位
	収 葉 量 合 計	等 位	葉 量 合 計			
一	甲 無 刈	一五〇、〇〇〇 [㍿]	三	四七〇、〇一八 [㍿]	二三五、〇〇九 [㍿]	三
	乙 無 刈	二六五、二〇〇	二	七一四、八六八	三五七、四三四	一
二	凍害當日刈取	三五〇、四〇〇	一	五三一、三〇四	二六五、六五二	二

前表ニ據レハ二ヶ年間平均ニ於テハ第二區ハ第二位トナリ第一區ノ(甲)ハ第三位ニ下リ本年度ノ成績ト一致セサルヲ見ル之レ昨年度ノ凍害期ハ五月一日ニシテ本年度ヨリ二十六日間早カリシ爲メ第二區刈取後ノ繁茂佳良ナリシニモヨルナランカ

附錄

一、肥料價格及成分表

肥料名稱	十、夕購入價格	窒素	假定	三	成分	量	加	(百分中)
鯧 粕	五、二五〇	九、七〇	四、〇〇	〇、五〇				
蘘 莖 粕	三、〇〇〇	五、〇五	二、〇〇	一、三〇				
信濃肥料第三號	五、〇〇〇	一〇、〇〇	七、〇〇	〇、二七				
人 糞 尿	三、五七七	〇、五七	〇、一三	〇、二七				
野 草 (生 草)	一、五七七	〇、五四	〇、一五	〇、四六				
蠶 蛹 粕	三、一〇〇	九、九五	一、三七	〇、四七				
大 豆 粕	二、一五四	七、六七	一、一〇	一、五八				
過 磷 酸 石 灰	一、三六九		一五、〇〇					
蠶 糞 灰	五、〇〇〇	一、四四	〇、二五	〇、一一				
木 灰	三、〇〇〇		三、九〇	一一、七〇				
硫 酸 安 母 尼 亞	六、〇〇〇	二〇、〇〇						
磷 酸 曹 達	一磅二付、四八〇		二〇、二八					
硫 酸 加 里	同、三五〇			四八、〇〇				

病蟲害調及試驗 附錄

一肥料及價格成分表

堆肥

人糞 馬糞 野馬糞 草糞 尿

二、二七二

〇、五七

〇、一六

〇、五一

二、明治四十四年度氣象表

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高氣度	九、一	一九、〇	二三、〇	三二、五	三〇、五	三四、五	三九、五	三四、五	三四、七	二五、七	二三、五	一四、一
最低氣度	(一) 一四、三	(一) 九、五	(一) 八、二	(一) 二、〇	(一) 二、五	九、六	一一、五	一四、九	五、五	一、〇	(一) 三、五	(一) 八、五
溫差	二三、四	二八、五	三一、二	三四、五	三三、〇	二四、九	二八、〇	一九、六	二九、二	二六、七	二七、〇	二二、六
平均氣度	(一) 二、三	三、三	七、二	一三、〇	一九、〇	二一、二	二三、二	二五、七	二一、九	一一、〇	一〇、四	二、八
午前十時平均濕度	六八	五四	五二	六五	四二	五二	六二	六二	六五	六八	六四	七八
晴天數	一八	二〇	一五	一四	一八	九	一五	二二	一二	一三	一八	一六
曇天氣數	八	五	一一	一一	一一	一八	一一	三	三	一四	九	一二
雨日數	雪雨	雪雨	雪	雨	同	同	同	同	同	同	同	雪雨
雪日數	四一	二一	四	五	二	三	五	六	五	四	三	一二

明治四十五年三月五日印刷

明治四十五年三月十日發行

長野縣立農事試驗場松本分場

長野縣長野市西長野町二百三十八番地内二番

印刷者

堀

賢

吉

長野市旭町廿七番地

印刷所

信濃新聞株式會社

植物防疫資料館

C-520-5015

農業技術研究所

寄 贈

D

2-1

422